



日本血管外科学会

50周年記念誌

日本血管外科学会50周年記念誌

目次

●巻頭言

五代目理事長：古森公浩 先生 1

●第6代理事長挨拶

六代目理事長：東信良 先生 3

●50周年記念誌発刊にあたって

第50回会長：明石英俊 先生 5

●血管外科の歴史

..... 7

●歴代理事長

初代理事長：中島伸之 先生 15

二代目理事長：安田慶秀 先生 16

三代目理事長：重松宏 先生 17

四代目理事長：宮田哲郎 先生 19

●歴代会長

第1回会長：三島好雄 先生 / 上野明 先生 23

第2回会長：三島好雄 先生 29

第3回会長：勝村達喜 先生 31

第4回会長：阪口周吉 先生 33

第5回会長：丸山雄二 先生 35

第6回会長：草場昭 先生 37

第7回会長：田邊達三 先生 41

第8回会長：大内博 先生 45

第9回会長：多田祐輔 先生 49

第10回会長：宮内好正 先生 51

第11回会長：大城孟 先生 53

第12回会長：熊田馨 先生 57

第13回会長：星野俊一 先生 61

第14回会長：櫻井健司 先生 65

第15回会長：川田光三 先生 69

第16回会長：江口昭治 先生 73

第17回会長：古川欽一 先生 77

第18回会長：吉崎聰 先生 81

第19回会長：久保良彦 先生 83

第20回会長：田邊達三 先生 87

第21回会長：古川欽一 先生 91

第22回会長：大石喜六 先生 95

第23回会長：宮内好正 先生 97

第24回会長：久保良彦 先生 99

第25回会長：星野俊一 先生 103

第26回会長：熊田馨 先生 107

第27回会長：田中勸 先生 111

第28回会長：高場利博 先生 115

第29回会長：杉町圭蔵 先生 117

第30回会長：古謝景春 先生 121

第31回会長：松原純一 先生 125

第32回会長：岩井武尚 先生 129

第33回会長：笹嶋唯博 先生 133

第34回会長：重松宏 先生 137

第35回会長：安藤太三 先生 141

第36回会長：根岸七雄 先生 145

第37回会長：太田敬 先生 149

第38回会長：安達秀雄 先生 155

第39回会長：國吉幸男 先生 159

第40回会長：天野純 先生 165

第41回会長：宮本裕治 先生 169

第42回会長：福田幾夫 先生 175

第43回会長：井元清隆 先生 183

第44回会長：佐藤紀 先生 187

第45回会長：末田泰二郎 先生 191

第46回会長：貞弘光章 先生 197

第47回会長：古森公浩 先生 203

第48回会長：荻野均 先生 207

第49回会長：石橋宏之 先生 213

●第50回日本血管外科学会学術総会

第50回会長：明石英俊 先生 219

編集後記 229



KOMORI KIMIHIRO

古森 公浩 先生

(第5代日本血管外科学会理事長)

この度は、明石英俊(共愛会戸畑共立病院)会長の元に、第50回日本血管外科学会学術総会が北九州、小倉の地で開催されること心よりお慶申し上げます。また日本血管外科学会学術総会、第50回を記念して50周年記念誌を発行して頂いたことに心より御礼申し上げます。

日本血管外科学会のoriginは日本外科学会総会の際に開催していた血管外科研究会です。1960年代、外科学会や脈管学会などを通して親交を深めた若手の血管外科医が、血管外科の研究について本音を忌憚なく語り合える場として血管外科研究会が発足しました。毎年1回外科学会総会の夜に治療困難な症例や合併症などをテーマとして討論集会を計画し、1973年4月に京都で『Angiodysplasia』の主題で第1回の血管外科研究会が開催されました。この形態で1989年の第17回まで運営されてきましたが、この間に血管外科研究者の数も著しく増加し、1990年から血管外科フォーラムとしてオープンとし、広く演題を一般から公募することとなりました。その後、『血管外科学会』へと発展的解消を遂げ、血管外科研究会として数えて第20回から新しい血管外科の総合学会として1992年に新たなスタートを切って現在に至っており、第50回をめでたく迎えるこ

とができました。

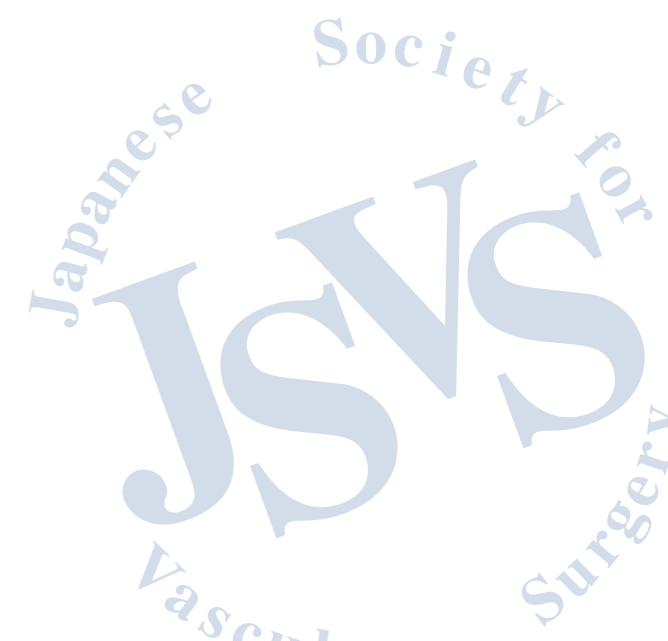
この50年の間に“末梢動脈疾患(peripheral arterial disease: PAD)”や“動脈瘤”は食生活の欧米化、高齢社会の出現により日本でも非常に増加しました。またその間、動脈瘤に対するステントグラフトの導入、末梢動脈疾患に対する血管内治療の応用、distal bypassの適応の拡大など、我々血管外科領域ほど治療のパラダイムシフトが起こった領域はありません。それと同時に血管外科学会も著しい発展を遂げ、毎年の総会参加者も2000名を越えるようになり、2021年3月の時点で血管外科会員数は3775人と増加し、学会は大きく発展しています。

また、アメリカ血管外科学会やヨーロッパ血管外科学会などとの国際的な交流も盛んになっており、全世界的なガイドラインであるTASC II やGlobal Vascular Guidelineなどにも日本血管外科学会がガイドラインのメンバーに参画するまでに発展してきました。

また、日本では2010年、手術症例データベースとして外科系臨床学会が一般社団法人National Clinical Data-base (NCD)を設立し、本年2022年で12年を迎えています。日本血管外科学会では、新たなエビデンスを構築し、会員に有益な

情報を広く共有することを目的として、このNCDデータを活用した血管外科領域の研究を推進しており、すでにこのデータを活用した論文が欧文紙に掲載されており、世界へ発信しています。

日本血管外科学会が、そのアイデンティティを確立し、日本から世界へ新しいエビデンスを発信できる学会へと、ますます発展することを祈念して止まない。



第6代理事長挨拶

— 次の50年の扉を開くにあたって —



AZUMA NOBUYOSHI

東 信良 先生

(第6代日本血管外科学会理事長)

2022年5月に第6代理事長を拝命いたしました。丁度、第50回学術総会で、50回記念行事や展示がある中での拝命であり、次の50年の最初のスタートを切る重責を感じております。

血管病は、国民の高齢化や生活習慣病の増加にともなって増加の一途であり、そうした中であって、本学会は事業内容や会員数の点で大いに発展してまいりました。

第4代宮田哲郎理事長のもと、データベース事業の基盤が確立し、毎年血管外科手術症例についてのアニュアルレポートが出版されるようになり、手術数の増加と手術内容の変遷(open surgeryからendovascular surgeryへのパラダイムシフト)が進んでいることも明らかになっております。血管外科医が行う治療の3大疾患である動脈瘤・末梢動脈閉塞症・静脈瘤いずれの治療においてもendovascular treatmentが確立されて普及しており、openとendoの両者を適確に選択し、巧みに操ることができる血管外科医の役割が増しております。第4代理事長時代から始まった、3大ワークショップ(血管内治療ワークショップ、ステントグラフトワークショップ、Distal bypass workshop)は、学会としてopenとendoの両方のスキル向上の重要性をアピールしており、それを受けて、毎回どのワークショップも定員を超えた応募があって抽選で受講者を選んでいる人気ぶりです。

国際活動活性化、国際発信は、第5代古森公浩理事長が就任時に掲げられた大きなテーマであり、以降、当学会の最優秀演題の米国血管外科学会(SVS)や欧州血管外科学会(ESVS)

での発表機会の獲得、世界血管外科学会連合(WFVS)への積極的な参加、当学会学術総会におけるSVS会長・ESVS会長のご招待、Japan Chapterなどの合同セッションの開催などが実施されて、若手の国際舞台での活躍の道が拓かれてまいりました。また、血管外科のデータベースを用いたデータベース委員会発案の臨床研究や、NCDデータを用いた公募研究も進捗してきております。そうした研究成果や学会としての国際活動推進、あるいはワークショップなどがSVSやESVSからも高い評価を受けており、国際ガイドライン執筆や講演・執筆依頼が来るようになっております。上記以外の多くの事柄を含め、これまで本学会の発展にご貢献されていた諸兄に学会員を代表して心からの敬意を表します。

こうして、これまでの理事長が脈々と築いてこられた日本血管外科学会のこれからについて、第6代理事長として今後50年を見据えて何を行うべきか、重要などころであります。新体制の理事会としては、以下の2つについて特に注力してゆきたいと考えております。

- 1) 若手が活躍できる若手に魅力ある学会
- 2) 国民に血管外科あるいは血管外科疾患を知っていただく、国民にもわかりやすい学会

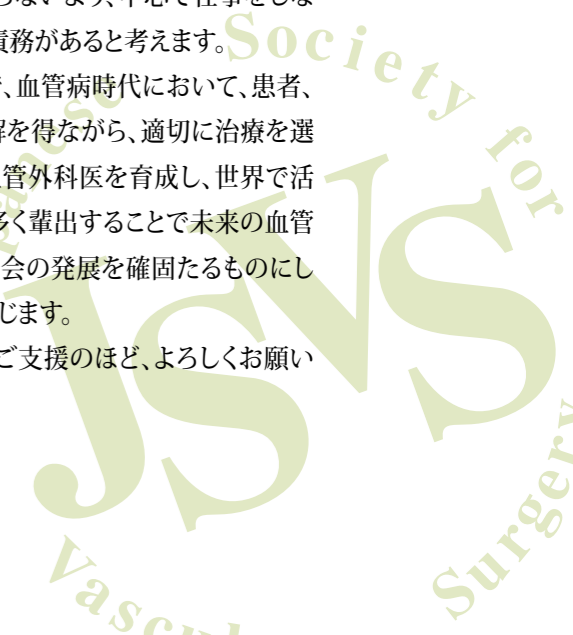
学会の会員数は右肩上がりでも推移し、現在3,800名を超えておりますが、それでも、患者数の増加やそれに伴うニーズの増加に応えることが難しい状況で、血管外科を志す若者はまだまだ不足しているといえます。また、女性の血管外

科医も希少であり、まだ理事は全員男性です。若手や女性にも魅力ある学会として、特に国際交流やアカデミックな部分で活躍する仲間を増やし、頑張っている血管外科医に光があたるような学会になることを目指します。具体的には、JSVS-Youth(仮称)のような委員会を立ち上げて、若手が直接意見を理事会に発信できる仕組みをつくってゆきたいと考え、準備にとりかかっております。

「血管病とは何か?」「至適治療法は?」「日本血管外科学会は何をやっている学会なのか?」などについて、国民への啓発については、遺憾ながら遅れているように思います。当学会の理念には「**血管外科領域における安全で良質な医療の提供を通じて人々の健康と福利の増進を目指す**」とありますので、国民への啓発はまさに学会理念そのものです。折しも、循環器病対策基本法が制定され、その法のもとで循環器病対策基本計画が策定されていますが、末梢動脈疾患についてはほとんど言及されていません。我々の学会は、循環器病の国家プロジェクトの蚊帳の外にならないよう、中心で仕事をしなければならぬ責務があると考えます。

このような形で、血管病時代において、患者、国民、行政の理解を得ながら、適切に治療を選択・提供できる血管外科医を育成し、世界で活躍できる若手を多く輩出することで未来の血管外科、そして当学会の発展を確固たるものにしてまいりたいと存じます。

何卒、ご助言、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。





AKASHI HIDE TOSHI

明石 英俊

(50周年記念事業計画委員会 委員長
第50回日本血管外科学会学術総会 会長)

日本血管外科学会学術総会が第50回を迎えるにあたり、第50回の学術総会の会長をさせていただくことで、50周年記念事業計画委員会の委員長をご指名いただき大変光栄に思っております。

記念事業を計画する際に、まず、①「50周年記念誌の発行」を予定しました。次に学術総会での②「記念展示」であります。これについては学術総会会場に展示スペースを設けて、1回から50回までの歴史と血管外科の歴史を展示いたします。3番目は③「特別企画:これまでの血管外科、そして、これからの血管外科」を、学術総会での講演と座談会という形式で開催させていただきます。記念事業は以上であります。最も重要視いたしましたのが、記念誌の発行です。日本血管外科学会は当初、血管外科研究会として1973年に始まりました。最初が研究会でしたので、学会雑誌というものがなく、日本脈管学会の学会機関誌である「脈管学」のsupplementに主な発表とプログラムが掲載されるようになったようです。しかしながら、その「脈管学」も、特にsupplementについては欠落していることが多く、脈管学会の事務局、OBの先生方へのお手紙、国立国会図書館、そ

して、理事会の先生を中心とした学会員の先生方にご協力をいただき、資料を集めることができました。特に、名誉会員の田邊達三先生、久保良彦先生には多数の資料を提供していただきました。本当にありがとうございます。国立図書館でも欠落していた「脈管学」を、久保良彦先生がご所有されており、最後の最後に全てが揃いました。感嘆すべきことでした。

記念誌は歴代の会長とその学会の主な内容、そして会長本人または会長やその時の学会をよく知る方の寄稿文、当時の写真や歴代理事長の紹介などとなっております。

今回、50周年記念誌を発行いたしますが、これまでの50年間に歴史を記載した資料は日本血管外科学会のホームページに三島好雄先生が投稿されている沿革の項しか見当たりません。50周年にあたり、記念誌を発行し、後に残る資料として有用に用いられることを期待します。

今回の資料を集める際に、まだお元気でられる名誉会員や特別会員の先生方のご協力が大きかったことを考えると、この時期に記念誌を発行できたこと

に意義を感じ、また、大きな喜びとして終えられることを、協力していただいた全ての方に感謝するものであります。

ありがとう御座いました。

- 1902 ● Dr.Carrel A 血管吻合 1912年ノーベル賞
- 1905 ● 静脈瘤に対するストリッピング
- 1929 ● Dr.Dos Santos.R 経腰的大動脈造影
- 1946 ● Dr.Dos Santos.R 血栓内膜摘除術
- 1948 ● 大腿動脈の自家静脈での再建
- 1951 ● Dr.Dubost C 同種大動脈で腹部大動脈再建
- 1952 ● 木本誠二先生 アルコール保存同種大動脈で腹部大動脈置換
- 1953 ● Seldinger法(動脈造影)開始
- 1954 ● Dr.DeBakey ME 自作人工血管(Dacron)で腹部大動脈置換
- 1955 ● Dr.DeBakey ME と Dr.Cooley DA 胸部大動脈置換術(同種大動脈)
- 1956 ● 木本誠二先生 ダクロン製人工血管で腹部大動脈置換術
- 1960 ● Dr.Dubost C 超低体温循環停止法
- 1968 ● 本邦で人工血管保険承認
- 1973 ● 血管外科研究会発足
- 第1回血管外科研究会
- 1974 ● 第2回血管外科研究会
- Dr.Gruntzig AR 腸骨動脈PTA
- 1975 ● 第3回血管外科研究会
- 1976 ● 第4回血管外科研究会
- Dr.Gianturco C 塞栓用コイルスプリング
- 1977 ● 第5回血管外科研究会

- 1978 ● 第6回血管外科研究会
- ePTFE人工血管国内発売
- 1979 ● 第7回血管外科研究会
- DSA始まる
- 1980 ● 第8回血管外科研究会
- 1981 ● 第9回血管外科研究会
- 1982 ● 第10回血管外科研究会
- 1983 ● 第11回血管外科研究会
- 1984 ● 第12回血管外科研究会
- Dr.Gianturco C 下大静脈フィルター使用
- 1985 ● 第13回血管外科研究会
- Dr.Palmaz JC バルーン拡張型ステント
- Dr.Gianturco C のZステント
- 1986 ● 第14回血管外科研究会
- シールド人工血管(コラーゲン・アルブミン)
- 1987 ● 第15回血管外科研究会
- Wall ステント 報告
- 1988 ● 第16回血管外科研究会
- 1989 ● 第17回血管外科研究会
- 1990 ● 血管外科フォーラムに名称変更
- 第18回血管外科研究会(血管外科フォーラム)
- 1991 ● 第19回血管外科フォーラム
- Dr.Parodi JC が腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療を報告

- 1992 ● 日本血管外科学会発足
- 第20回日本血管外科学会総会
- 1993 ● 第21回日本血管外科学会総会
- 1994 ● 第22回日本血管外科学会総会
- アジア血管外科学会発足
- 1995 ● 第23回日本血管外科学会総会
- 1996 ● 第24回日本血管外科学会総会
- 1997 ● 第25回日本血管外科学会学術総会
- 1998 ● 第26回日本血管外科学会学術総会
- 1999 ● 第27回日本血管外科学会学術総会
- USAでステントグラフト承認
- 2000 ● 第28回日本血管外科学会学術総会
- 2001 ● 第29回日本血管外科学会学術総会
- 2002 ● 第30回日本血管外科学会学術総会
- 2003 ● 第31回日本血管外科学会学術総会
- 2004 ● 第32回日本血管外科学会学術総会
- 薬剤溶出性ステント報告(冠動脈)
- 2005 ● 第33回日本血管外科学会学術総会
- 2006 ● 第34回日本血管外科学会学術総会
- ステントグラフト国内保険適用
- 2007 ● 第35回日本血管外科学会学術総会
- 2008 ● 第36回日本血管外科学会学術総会
- 2009 ● 第37回日本血管外科学会学術総会
- 2010 ● 第38回日本血管外科学会学術総会
- 2011 ● 第39回日本血管外科学会学術総会
- 静脈瘤に対するレーザー焼灼術 保険適用

- 2012 ● 第40回日本血管外科学会学術総会
- 下肢動脈への薬剤溶出性ステント 保険適用
- 2013 ● 第41回日本血管外科学会学術総会
- 2014 ● 第42回日本血管外科学会学術総会
- 2015 ● 第43回日本血管外科学会学術総会
- 2016 ● 第44回日本血管外科学会学術総会
- 2017 ● 第45回日本血管外科学会学術総会
- 2018 ● 第46回日本血管外科学会学術総会
- 2019 ● 第47回日本血管外科学会学術総会
- 2020 ● 第48回日本血管外科学会学術総会
- 2021 ● 第49回日本血管外科学会学術総会
- 2022 ● 第50回日本血管外科学会学術総会

資料

●第1回血管外科研究会御案内●

血管外科研究会開催について

ここ十数年来、血管外科手術手技の進歩に伴ってこの方面の外科治療成績は著しく向上いたしました。なお治療困難な症例に遭遇することは必ずしも稀ではありません。このような症例について discussion を中心にした会をもつことは従来の学会とは異なっており有意義なことと考えて血管外科研究会を開催したいと存じます。とりあえず年に1回日本外科学会総会のさいに開くことにしたいと考えておりますが、御趣旨に御賛同いただいた方々が多数お集り下さいますよう御案内いたします。

昭和48年1月20日

石川 浩一
福田 潔
井口 潔
杉江 三郎
砂田 輝武
和田 達雄

第1回血管外科研究会御案内

前略

別紙のような趣旨で下記のように第1回研究会を開催したいと存じますので、御参加下さいますよう御案内申し上げます。

なおお方で血管外科を扱っておられる施設を広く探してみましたが、洩れているところも少なくないと存じますので、関連の方々もお誘い合せの上御参加いただければ幸甚と存じます。

記

会期 昭和48年4月1～3日のいずれか1日の午後または夜
会場 京都市

演題募集 1) Angiodysplasia
2) 自由テーマ(症例提示、不成功例も可)

ただし、治療困難な症例を提示していただき、それについての discussion を主とします。演題名とともに10分程度の演説内容をお送り下さい。

〆切 昭和48年2月28日

宛先 〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東大医学部第1外科 三島 好雄

会費 研究会の内容を Proceedings として残したいと存じますので、1施設5,000円を年度会費として当日受付にお納め下さい。

昭和48年1月20日
第1回血管外科研究会世話人
東大外科 上野 明
三島好雄

血管外科研究会規約

第1章 総則

第1条 本会は血管外科研究会と称する。
第2条 本会の事務局を東京医科歯科大学第二外科学教室内に置く
〒113 東京都文京区湯島1-5-45
TEL 03-813-6111 内3270

第2章 目的及び事業

第3条 本会は外科的見地から血管疾患に関する研究をすすめるこの方面に関する新しい知見の普及、並びに会員相互の理解を深めることを目的とする。
第4条 本会は次の事業を行なう。
1. 学術集会の開催
本会は年1～2回の研究集会を開く。原則として1回は日本外科学会総会開催中にその開催地で行なう。
2. 会誌の発行。
3. その他本会の目的達成に必要な事業。

第3章 会員

第5条 本会は第3条の趣旨に賛同するものをもって構成する。
1. 施設会員
大学教室、研究機関または診療機関およびこれに準ずるものとし、正式の施設名を登録し、代表者、連絡者各1名を定める。
2. 個人会員
医師、研究者、医療関係者とする。
第6条 本会に入会を希望するものは、氏名、住所、連絡先を添えて本会事務局に申込みものとする。
第7条 会員は年額 施設会員10,000円、個人会員1,500円とし、年度内に納入しなければならない。
第8条 退会を希望するものはその旨を届出なければならない。但し、連続2年間会費を納入しないものは退会とみなす。

第4章 役員

第9条 本会に次の役員を置く。
1. 代表世話人 1名
2. 常任世話人 若干名
3. 世話人 若干名
4. 監事 1名
5. 当番世話人 1名
第10条 代表世話人、常任世話人は世話人の中から選ばれ、会務を総括する。
第11条 世話人は施設会員の中から代表世話人が委嘱する。
第12条 当番世話人は常任世話人会の議によって選ばれ、当該研究会を主催する。当番世話人は当番幹事を置くことができる。
第13条 監事は代表世話人が委嘱し、会計の監査に当たる。
第14条 当番世話人以外の役員の任期は2年とする。但し、再任を妨げない。
第15条 常任世話人会は、本会に特に貢献した人の中から顧問を推挙することができる。

第5章 総会

第16条 総会は毎年1回これを開く。
第17条 本会の規約は世話人2/3以上の同意をもって変更することができる。

第6章 会計

第18条 本会の事業年度は毎年4月1日より翌年3月31日までとする。
第19条 本会の経費は会費および寄付金をもって当てる。
付則 本規約は昭和48年4月1日より実施。
昭和59年3月29日より一部改正。

血管外科研究会メンバー

| | | | |
|-------|---------------|------|------------|
| 西村昭男 | 日鋼病院長 | 勝村達喜 | 川崎医大 外科 |
| 田辺達三 | 北大 第二外科 | 古元嘉昭 | 岡大三朝分院 外科 |
| 久保良彦 | 旭川医大第一外科 | 星野俊一 | 福島医大 第一外科 |
| 大原 到 | | 上山武史 | 富山医大 第一外科 |
| 大内 博 | 仙台鉄道病院長 | 井口 深 | |
| 石川浩一 | | 草場 昭 | 琉球大 第二外科 |
| 杉江三郎 | | 宮内好正 | 熊大 第一外科 |
| 森岡恭彦 | 東大 第一外科 | 三島好雄 | 東医歯大 第二外科 |
| 上野 明 | 山梨医大 第二外科 | 鯉江久昭 | 弘前大学 第一外科 |
| 丸山雄二 | 聖マリアンナ医大 第一外科 | 江口昭治 | 新潟大学 第二外科 |
| 和田達雄 | | 中村和夫 | 神戸大学 第二外科 |
| 高橋雅俊 | 東京医大外科 | 宮本 巍 | 兵庫医大 胸部外科 |
| 古川欽一 | 東京医大外科 | 森 透 | 鳥取大学 第二外科 |
| 松本昭彦 | 横浜市 第一外科 | 平 明 | 鹿児島大学 第二外科 |
| 阪口周吉 | 浜松医大 第二外科 | 釘宮敏定 | 長崎大学 胸部外科 |
| 塩野谷恵彦 | 名大 第一外科 | 吉崎 聡 | 藤田学園保衛大 外科 |
| 稲田 潔 | 岐大 第一外科 | 熊田 馨 | 京都大学 第二外科 |
| 恒川謙吾 | 愛媛大 第一外科 | 江里健輔 | 山口大学 第一外科 |
| 寺本 滋 | 岡山大学 第二外科 | | |

●日本血管外科学会発会趣旨●

中秋の候

先生方にはご健勝の事とお慶び申し上げます。

さて標記の件につきましては以前から血管外科独自の学会が要望されておりましたが、名古屋における第18回血管外科フォーラムで討議され、本年旭川における第19回血管外科フォーラムの総会で皆様の御賛同をいただき、明年より旧血管外科研究会、血管外科フォーラムを血管外科学会として継承し、一層発展させることになりました。

本日、これまで世話人会で審議されました規則案ならびに名誉会員、理事、監事、評議員候補者のリストを同封いたしますのでお目通しいただければ幸甚であります。本会の新たな出発にあたり御賛同、御参加のお願いいたします。

なお明年の第20回日本血管外科学会総会(日本血管外科学会と改称して第1回)は北大第二外科田辺達三教授のお世話で

平成4年7月1日(水)～3日(金) 札幌市

において開催の予定であります。

また会誌につきましては脈管学サブメントを本年限りで廃刊とし、新たに独自の会誌を学会として発行することとなり、吉崎・久保・星野・江里・安田の各教授を編集小委員に選任し、業務をマイライフ社に委託することになりました。

規則案にありますように会員として従来の施設会員はなくなり、個人会員のみとなります。本会則は正式には明年の総会で承認されてから施行の予定です。

以上の件に関して御異議、御質問があれば当方までお申出いただきたく存じます。なお御連絡がなければ甚だ勝手ですが、御承認いただいたものとさせていただきます。

平成3年10月

旧血管外科研究会 代表世話人 三島好雄
旧血管外科フォーラム 世話人 吉崎 聡
久保良彦
星野俊一
江里健輔

日本血管外科学会規則(案)

【第1章 総則】

第1条 (名称) 本会は日本血管外科学会(The Japanese Society for Vascular Surgery)という。
第2条 (事務所) 本会の事務所は当分の間、東京都新宿区西新宿6-7-1 東京医科大学第二外科教室内におく。

【第2章 目的及び事業】

第3条 (目的) 本会は血管外科に関する研究の進歩および普及をはかり、これを通じて学術文化の発展に寄与することを目的とする。
第4条 (事業) 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行なう。
(1) 研究発表会、学術講演会などの開催。
(2) 機関誌、論文図書などの刊行。
(3) 血管外科に関する研究および調査。
(4) 国内外の関係学術諸団体との連絡および提携。
(5) その他、前条の目的を達成するために必要な事業。

【第3章 会員】

第5条 (会員) 本会の会員は次のとおりとする。
(1) 一般会員 医師ならびに医学研究者であって、本会の目的に賛同協力する者。
(2) 特別会員 本会に対して特別の功労のあった者のなかから、会長が理事会および評議員会の議を経て推薦する者。
(3) 名誉会員 血管外科学の進歩発展に多大の寄与した者のなかから、会長が理事会および評議員会の議を経て推薦する者。
第6条 (入会) 本会の会員になろうとする者は、当該年度の会費をそえて所定の入会申込書を提出し、理事会の承認を受けなければならない。

第7条 (会費)
 (1) 本会の会員は年額10,000円を納入しなければならない。
 (2) 既納の会費は返付しない。
 (3) 特別会員および名誉会員は、会費の納入を必要としない。

第8条 (退会)
 (1) 退会を希望する会員は、理由を付して理事会に届け出なければならない。
 (2) 第5条 第1項の資格喪失者および第7条の会費滞納者は退会とみなす。

【第4章 役員、評議員、幹事および名誉会長】

第9条 (役員) 本会には次の役員をおく。
 (1) 会長 1名
 (2) 理事 若干名
 (3) 監事 若干名

第10条 (会長)
 (1) 会長は評議員の中から理事会および評議員会の推薦によりこれを選任し、会務総会の承認をうける。
 (2) 会長は会務を総理し、本会を代表する。
 (3) 会長は学術総会を主催し、評議員会および会務総会の議長となる。
 (4) 会長はその任期の間理事を兼ねる。

第11条 (理事) 本会には次の規定にしたがって理事をおく。
 (1) 理事は、評議員のなかから理事会および評議員会の議を経て会長が委嘱する。理事は理事会を組織し会務を執行する。

第12条 (監事) 監事は評議員のなかから理事会および評議員会の議を経て会長が委嘱する。監事は本会の会計および理事の業務執行の状況を監査する。

第13条 (役員) 本会の役員は次のとおりとする。
 (1) 会長の任期は学術総会終了時より次期学術総会までとする。
 (2) 理事および監事の任期は3年とし、再任を妨げない。
 (3) 補欠または増員によって選任された役員は、前任者または現任者の残任期間とする。
 (4) 役員は、その任期満了後も、後任者が就任するまではその職務を行わねばならない。
 (5) 役員は、本会の役員としてふさわしくない行為があったとき、または特別の事情があったときは、その任期中であっても、理事会および評議員会の議決により、会長がこれを解任することができる。

第14条 (評議員) 本会には次の規定にしたがって評議員をおく。
 (1) 評議員は、会員のなかから理事会の議を経て会長が委嘱する。
 (2) 満65才をこえた者は評議員となることできない。
 (3) 評議員は評議員会を組織し、理事会の諮問に応じ重要会務について審議する。
 (4) 評議員の任期は3年とし、再任を妨げない。
 (5) 評議員には前条第3項以下の規定を準用する。この場合同条中の「役員」をそれぞれ「評議員」と読

み替えるものとする。

第15条 (幹事) 理事会は幹事(総務幹事、会計幹事、庶務幹事など)若干名を委嘱し会務を分掌させることができる。幹事は理事会および評議員会に出席する。

第16条 (名誉会長) 理事会は名誉会員のなかで、本会に対し特に顕著な功績のあった者について、理事会および評議員会の議を経て名誉会長に推薦することができる。

【第5章 会議および学術総会】

第17条 (理事会) 理事会は次の規定によって行なう。
 (1) 理事会は会長がこれを召集する。ただし理事現在数の3分の1もしくは監事から会議の目的を示して請求があったときは、会長は直ちに召集しなければならない。
 (2) 理事会の議長は会長とする。
 (3) 理事会は理事現在数の3分の2以上出席しなければ審議し議決することはできない。ただし当該議事についてあらかじめ文書によって意志を表示した者はこれを出席とみなす。
 (4) 理事会における議事は出席者の過半数をもって決し、可否問数のときは議長の決するところによる。

第18条 (評議員会) 評議員会は、次の規定によって行なう。
 (1) 定期評議員会は、毎年1回会務総会の前に会長が召集する。ただし、会長、理事長あるいは評議員会が必要と認めるときは臨時に召集することができる。
 (2) 評議員会の議長は会長とする。
 (3) 評議員会は、評議員現在数の過半数が出席しなければ審議し議決することができない。ただし、当該議事についてあらかじめ文書によって意思を表示した者は、これを出席とみなす。
 (4) 評議員における議事は出席者の過半数をもって決し、可否問数のときは議長の決するところによる。
 (5) 名誉会員、特別会員は評議員会に出席して意見を述べることができる。

第19条 (総会) 総会は会務総会および学術総会とする。

第20条 (会務総会) 会務総会は次の規定によって行なう。
 (1) 会務総会は、一般会員、特別会員および名誉会員をもって構成する。
 (2) 定期会務総会は、毎年1回会長が召集する。ただし、会長、理事会あるいは評議員会が必要と認めるとき臨時に召集することができる。
 (3) 会務総会の議長は会長とする。
 (4) 会務総会には評議員会で審議決定した事項を提出する。

2. 次の事項についてはその承認を受けなければならない。
 (1) 次期会長、次期定期総会の開催地および開催時期
 (2) 事業報告および会計報告
 (3) その他、理事会が必要と認められた事項

第21条 (学術総会) 学術総会は次の規定によって行なう。
 (1) 学術総会は、会務総会と同時に開催する。
 (2) 開催地および開催時期については、理事会および評議員会の議を経て会務総会の承認を受ける。

【第6章 会計】

第22条 (経費) 本会の経費は、会費、補助金および寄付金をもって支弁する。

第23条 (会計年度) 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

【第7章 規則の変更および解散】

第24条 (規則の変更) 本会の規則は、理事会および評議員会の議決を経たのち、会務総会の承認を受けなければ変更することはできない。

第25条 (解散) 本会は、理事会および評議員会の議決を経たのち、会務総会の承認を受けなければ解散することはできない。

附則

1.この規則は平成 年 月 日から施行する。

日本血管外科学会名誉会員候補者(案)

| | | | |
|------|--------|-------|--------|
| 新津勝宏 | 岩手医科大学 | 田宮達男 | 高知医科大学 |
| 上野 明 | 山梨医科大学 | 塩野谷恵彦 | 名古屋大学 |
| 阪口周吉 | 浜松医科大学 | 稲田 潔 | 岐阜大学 |
| 中村和夫 | 神戸大学 | 恒川謙吾 | |

日本血管外科学会評議員候補者(案)

| | | | |
|----------|-----------|----------|------------|
| (理) 久保良彦 | 旭川医科大学 | 長谷川嗣夫 | 自治医大 |
| 小松作蔵 | 札幌医科大学 | 堀 原一 | 筑波大学 |
| (理) 田辺達三 | 北海道大学 | 宮沢幸久 | 帝京大学 |
| (理) 安田慶秀 | 北海道大学 | 小松 寿 | 東邦大学 |
| (理) 鯉江久昭 | 弘前大学 | 片山憲特 | 聖マリアンナ大学 |
| 毛利 平 | 東北大学 | 柿田 章 | 北里大学 |
| 阿部忠昭 | 秋田大学 | 幕内雅敏 | 信州大学 |
| 鷲尾正彦 | 山形大学 | 村岡隆介 | 福井医科大学 |
| (理) 星野俊一 | 福島県立医大 | 阿部稔雄 | 名古屋大学 |
| 尾本良三 | 埼玉医科大学 | 土岡弘通 | 愛知医科大学 |
| 田中 勸 | 防衛医科大学 | (理) 吉崎 聡 | 藤田学園保健衛生大学 |
| 川田志明 | 慶應義塾大学 | 広瀬 一 | 岐阜大学 |
| 松本昭彦 | 横浜市立大学 | 草川 実 | 三重大学 |
| (監) 三島好雄 | 東京医科歯科大学 | 北村惣一郎 | 奈良県立医科大学 |
| 桜井健司 | 東京慈恵会医科大学 | 伴 敏彦 | 京都大学 |
| 庄司 佑 | 日本医科大学 | 森 渥視 | 滋賀医科大学 |
| 小柳 仁 | 東京女子医大 | 宮本 巍 | 兵庫医科大学 |
| (理) 古川欽一 | 東京医科大学 | 武内敦郎 | 大阪医科大学 |
| 瀬在幸安 | 日本大学 | 木下博明 | 大阪市立大学 |
| 熊田 馨 | 昭和大学藤が丘病院 | 内藤泰顕 | 和歌山県立医科大学 |
| 高場利博 | 昭和大学 | (監) 勝村達喜 | 川崎医科大学 |
| 橋本明政 | 東京女子医大 | 寺本 滋 | 岡山大学 |
| 森下靖雄 | 群馬大学 | 古元嘉昭 | 岡山大学 |
| 江口昭治 | 新潟大学 | (理) 江里健輔 | 山口大学 |
| 正津 晃 | 東海大学 | 土肥雪彦 | 広島大学 |

| | | | |
|----------|-----------|------|------------|
| 松浦雄一郎 | 広島大学 | 白方秀二 | 京都府立医科大学 |
| 森 透 | 鳥取大学 | 永末直文 | 島根医科大学 |
| 加藤逸夫 | 徳島大学 | 矢野 孝 | 名古屋大学 |
| 小林展章 | 愛媛医科大学 | 多田祐輔 | 東京大学 |
| (理) 大石喜六 | 久留米大学 | 中川康次 | 千葉大学 |
| 徳永皓一 | 九州大学 | 中島伸之 | 国立循環器病センター |
| 白日高歩 | 産業医科大学 | 葉玉哲生 | 大分大学 |
| 釘宮敏定 | 長崎大学 | 前田 肇 | 香川医科大学 |
| (理) 宮内好正 | 熊本大学 | 松原純一 | 金沢医科大学 |
| (理) 草場 昭 | 琉球大学 | 岩井武尚 | 東京医科歯科大学 |
| 古賀保範 | 宮崎医科大学 | 重松 宏 | 東京大学 |
| 平 明 | 鹿児島大学 | 堀 豪一 | 昭和大学藤が丘病院 |
| 伊藤 翼 | 佐賀医科大学 | 山岡義生 | 京都大学 |
| 井島 宏 | 佐賀県立病院好生館 | 松田 暉 | 大阪大学 |
| 石丸 新 | 東京医科大学 | 北島政樹 | 慶應義塾大学 |
| 石飛幸三 | 済生会中央病院 | 森岡恭彦 | 関東労災病院長 |
| 伊藤勝朗 | 松江市立病院 | 鰐淵康彦 | 三井記念病院 |
| 内田癸三 | 岡山大学 | 大橋重信 | 聖母病院 |
| 上山武史 | 国立金沢病院 | | |
| 大内 博 | 仙台鉄道病院 | | |
| 大城 孟 | 大阪市阪和病院 | | |
| 岡田昌義 | 神戸大学 | | |
| 岡留健一郎 | 九州大学 | | |
| 数井暉久 | 札幌医科大学 | | |
| 古謝景春 | 琉球大学 | | |
| 笹島唯博 | 旭川医科大学 | | |

歷代理事長

歴代理事長



初代理事長
1999.5.20～2004.5.13

中島 伸之 先生



二代目理事長
2004.5.14～2006.5.12

安田 慶秀 先生

三代目理事長

2006.5.13～2012.5.25

重松 宏 先生

(都庁前血管外科・循環器内科)

日本血管外科学会50周年:血管外科の確立を求めて

日本血管外科学会が50周年を迎えることになりました。1973年に陣内傳之助教授が会長を務められた第73回日本外科学会総会時に、京都市国際会議場で4月1日夜に第1回血管外科研究会が開催されました(脈管学13巻、Supplement、1973年)。日本血管外科学会の沿革に書かれていますように、1965年にフンボルト財団留学生としてドイツに留学されていた三島好雄先生や同時期にドイツに留学されていた阪口周吉先生、1967年にフランス政府給費留学生としてフランスに留学されていた森岡恭彦先生などの若手血管外科医が相次いで帰国して、血管外科症例検討会を開催されたのが始まりでした。発足して20年後の1992年に日本血管外科学会として発展的に解消し今日に至っています。この間に、学会として外形基準を有する組織体となるために2003年に特定非営利活動法人格を取得し、2004年からは日本胸部外科学会や日本心臓血管外科学会とともに3学会構成心臓血管外科専門医認定機構の一翼を担ってきました。

「血管外科」が一分野と認められるためには日本医学会分科会として加盟承認を受けることが重要でした。血管疾患を扱う既存の学会が多く存在する中で、血管外科の独自性、必要性を明らかにすることが求められました。「血管疾患に対する診断治療のみではなく、血管外科を共通項として各種臓器や異なる疾患について領域を越えた視点から問題提起し検討できる学術団体」という独自性を持ち、「血管は単なる血液の導管ではなく、あらゆる臓器を結ぶ器官であり、血管外科を共通項として取り扱うことにより、全ての疾病に関する医学医療進歩発展に寄与する学会である」という日本医学会における必要性を提示して、2008年に第105番目の分科会として承認を得ることが出来ました。承認には学術集会の開催のみではなく、機関誌としての英文誌や和文誌の発行、国際性なども求められ、Annals of Vascular Disease の発刊も大きな一助とな



りました。

「血管外科」の独立性を確立するのが容易で無い状況は、我が国のみではなく欧米においても同様で、移植医療の一端であった血管外科が独立して Society for Vascular Surgeryとして発足したのが1947年であり、ヨーロッパ血管外科学会が発足したのは1980年代に入ってからでしたし、英国の血管外科医も「血管外科はperiphery」だと自嘲していました。血管外科学会が確立したのはアジアでは我が国が初めてであり、第1回のアジア血管(外科)学会が我が国で開催されたのが1994年でした。血管外科が盛んな国や地域が緩やかな連合を組み、World Federation of Vascular Societies が発足したのは直近の2007年でした。時に戦争が血管外科の進歩を促し、第2次世界大戦後の世界的な糖尿病や脂質異常症、高血圧の増加に加えて高齢化社会の出現により血管疾患が増加し、血管外科の広まりを後押ししています。これまでの50年は血管外科の確立を推し進めて来ましたが、これからは血管外科を益々深化させ普遍化していくターニングポイントでしょう。日本血管外科学会会員諸氏の益々の御活躍と学会の発展を祈念してやみません。

(日本血管外科学会の法人化や医学会加盟申請には、出月康夫先生や中島伸之先生の御指導、事務局の虻川さゆり氏の多大な御協力を頂きましたことに、深謝致します。)

四代目理事長

2012.5.26～2018.5.10

宮田 哲郎 先生

(国際医療福祉大学医学部医学教育統括センター)

日本血管外科学会の更なる発展に向けて

日本血管外科学会設立50周年お祝い申し上げます。日本血管外科学会は、若手血管外科医が本音を忌憚なく語り合える場として、外科学会総会の夜に開催された血管外科研究会に始まります。第1回研究会は1973年に京都市国際会議場で開催され、三島好雄先生が司会する「Angiodysplasia」と、上野明先生が司会する「治療困難であった症例の検討」の2つの主題で、14演題が発表されました。当初はセミクローズドの会だったのが1990年から血管外科フォーラムとしてオープンとなり、1992年の第20回から日本血管外科学会となり現在に到っています。米国血管外科学会が1947年、欧州血管外科学会が1987年、アジア血管外科学会が1994年からそれぞれ始まっており、血管外科に対するニーズの高まりと共に日本血管外科学会は成長してきたと思います。

私は2012年から2018年までの6年間理事長を拝命しました。日本血管外科学会は、当初は血管疾患のみならず、血管外科手技を扱う移植外科、脳神経外科、消化器外科、形成外科といった診療科も含めた包括的な総合学会を目指していました。しかし、2012年頃には会員数も3000人を超え大きく成長し、血管疾患患者の増加と治療手段の多様化に伴い、演題は血管疾患を中心とした原点に戻っていました。人体最大の臓器である血管を扱う血管外科はダイナミックで無限の魅力をもった診療科です。血管外科診療に従事していた医療者は、血管外科に深い愛情と揺るぎない誇りを抱き続けていました。私は理事長に就任後「血管外科のidentityをより確実なものとする」ことを目標として活動しました。

学会の役割は、安全で良質な医療を目指す会員の先生方に「場」と「機会」を提供することだと思います。それを実現するために、まず学会の理念の明文化を行いました。理念は①血管外科医育成、②研究の推進、③幅広い社会活動の3点に集約されました。血管外科医育成のため



に、見直し作業が行われていた心臓血管外科専門医制度で、多様性のある血管外科手術をカテゴリー別に分け、血管外科修練施設の定義を行い、修練カリキュラムを作成しました。教育セミナーに加え、2014年からdistal bypass、2015年から血管内治療、2017年からステントグラフトの各ワークショップを開始しました。エキスパートと若い血管外科医が交流する機会を提供できたと思っています。

更に、NCDやJCLIMB登録データを用いた臨床研究推進プロジェクトを開始しました。モデル研究として感染性腹部大動脈瘤研究やCLTIの予後予測研究がまとまり、その他、破裂性動脈瘤の研究、稀少血管疾患の研究、会員から公募した研究も進行中です。「計測できるものは改善できる」といわれているように、血管外科診療の評価指標が開発され、更なる質の改善に繋がることを期待しています。

幅広い社会活動としては、チーム医療推進、女性医師支援、医療事故調査制度支援、禁煙推進といった活動を通じて、特定非営利活動法人としての社会的役割を果たすことを目指しました。

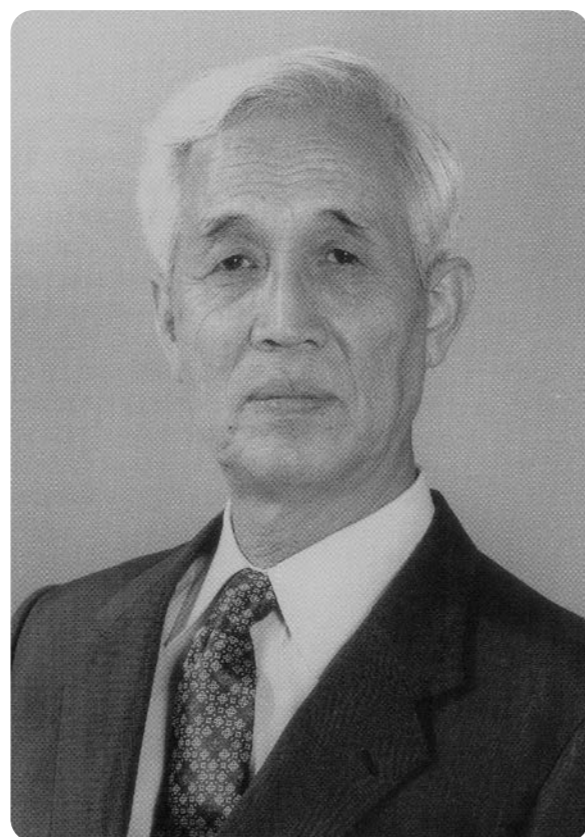
6年間の活動を通じて、会員諸氏の血管外科に対する愛情と誇りを再確認し、Identityは自ら作り上げるものであることを実感した次第です。今後血管外科は益々社会から求められていくことは間違いありません。これまでの50年間の土台の上に、更なる発展を遂げられることを祈念しております。

歴代会長

第1回
会長



三島 好雄 先生
〈所属医局〉東京大学 外科



上野 明 先生
〈所属医局〉東京大学 外科

第1回血管外科研究会の概要

〈会期〉1973年4月1日
 〈会場〉京都市 京都国際会議場
 〈主題〉Angiodysplasia (三島先生)
 治療困難であった症例の検討 (上野先生)

〈プログラム〉

■主題1「Angiodysplasia」 司会：三島好雄

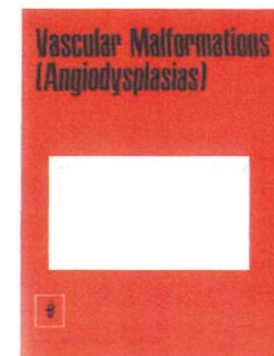
- 1) Klippel-Trenaunay-Weber 症候群
 岡山大 : 戸田完治 ほか
 熊本大 : 早川宏 ほか
 東京医科大: 小池荘介 ほか
 大阪市立大: 山田正 ほか
 追加発言/国立福岡中央病院 田代豊一
- 2) 右側腸腰筋内に発生したAngioleiomyomaの1例
 大阪大: 杉立彰夫 ほか
- 3) 頭部、顔部の動静脈瘻
 神戸大 : 寺師弘泰 ほか
 北海道大: 池田浩之 ほか
- 4) Arterial dysplasia その閉塞と再建について
 慶應大: 阪口周吉 ほか
 追加発言/済生会中央病院 石飛幸三

■主題2「治療困難であった症例の検討」 司会：上野明

- 1) 手術失敗例の検討 大動脈閉塞症
 岩手県立中央病院: 小山田恵 ほか
- 2) きわめて複雑な経過をたどった上腹部大動脈瘤の1例
 横浜市立大: 杉政征夫 ほか
 追加発言/山口大 兼行俊博
- 3) Vasculo-Behcet's syndromeの経験例
 徳島大: 近藤肇彦 ほか
- 4) 両側上下肢に難治性虚血病変を呈するBuerger病の1例
 中央鉄道病院: 松川哲之助 ほか
- 5) Amputationを免れた
 Anterior compartment necrosis
 聖路加病院: 三重野寛治 ほか
- 6) 膝窩動脈に移植された自家静脈片の
 動脈瘤様拡張をきたした2例
 大阪医大: 枅岡進 ほか

●第1回血管外科研究会の開催

第1回研究会は1973年4月の第73回日本外科学会の折に京都国際会議場において三島、上野を幹事役として開催された。主題として治療困難例や合併症をテーマを取り上げることが決まり、当時学会や講演で注目されたイタリアのMalan教授に因んで選んだAngiodysplasiaのテーマを三島が、また治療困難例を上野が取り上げ、オープン形式で活発な討論が行われた。主題とされた血管奇形のAngiodysplasiaではKlippel Trenaunay症候群、Klippel Weber症群、Parkes Weber症候群や出血して治療の困難な頭部、顔部の動静脈瘻などの興味深い症例が開示され、治療困難例では経過が複雑な手術失敗例などが取り上げられた。この会の詳細は長老による開会の辞、閉会の辞とともに雑誌「血管学」に掲載された。



話題を呼んだMalan教授の著書

| 1973 VOL. 13 Supplement 日本脈管学会機関誌 | |
|-----------------------------------|--|
| 福田 潤 | 開会の挨拶……………(2) |
| 木本 誠二 | 挨拶……………(2) |
| 主題 1. Angiodysplasia 司会 三島好雄 | |
| 1) 戸田 完治 | Klippel-Trenaunay-Weber 症候群……………(3) |
| 早川 宏 | Klippel-Trenaunay-Weber 症候群……………(5) |
| 小池 荘介 | Klippel-Trenaunay-Weber 症候群……………(7) |
| 山田 正 | Klippel-Trenaunay-Weber 症候群……………(8) |
| 田代 豊一 | 追加発言……………(10) |
| 2) 杉立 彰夫 | 右側腸腰筋内に発生した Angioleiomyoma の1例……………(13) |
| 3) 寺師 弘泰 | 頭部、顔部の動静脈瘻……………(16) |
| 池田 浩之 | 頭部、顔部の動静脈瘻……………(17) |
| 4) 阪口 周吉 | Arterial dysplasia その閉塞と再建について……………(21) |
| 石飛 幸三 | 追加発言……………(22) |
| 主題 2. 治療困難であった症例の検討 司会 上野明 | |
| 1) 小山田 恵 | 手術失敗例の検討 大動脈閉塞症……………(25) |
| 2) 杉政 征夫 | きわめて複雑な経過をたどった上腹部大動脈瘤の1例……………(26) |
| 兼行 俊博 | 追加発言……………(28) |
| 3) 近藤 肇彦 | Vasculo-Behcet's syndromeの経験例……………(30) |
| 4) 松川 哲之助 | 両側上下肢に難治性虚血病変を呈する Buerger 病の1例……………(32) |
| 5) 三重野 寛治 | Amputation を免れた Anterior compartment necrosis……………(35) |
| 6) 枅岡 進 | 膝窩動脈に移植された自家静脈片の動脈瘤様拡張をきたした2例……………(37) |
| 杉江 三郎 | 閉会の挨拶……………(39) |



三島教授と最後となった研究会



上野明 先生について

上野先生のお人柄

高木淳彦(元:東京大学第二外科)

日本血管外科学会の前身である第1回血管外科研究会は1973年4月1日に京都において開催されました。詳細な記録は「脈管学」第13巻Supplement Page1~40、1973年にあります。岐阜大学第1外科:稲田潔教授の開会のお言葉につづいて木本誠二東大名誉教授のご挨拶がありました。演題としては、主題1:Angiodysplasia 4題(司会:東大外科三島好雄先生)、主題2:治療困難であった症例の検討 6題(司会:上野明先生)の発表がありました。発表に続いて活発な討論が展開されました。閉会のご挨拶で北大第2外科:杉江三郎教授は、内容が盛り沢山だったのでと討論時間が欲しかったとの感想を述べられました。午後6時から9時すぎまで血管外科臨床に直接携わっておられた先生方の熱気あふれる研究会となり、この先生方がその後本邦の血管外科の中心として活躍され、まさに今日の発展の礎となったものでした。

上野明先生は昭和26年東京大学を卒業され、木本外科に入局されて血管外科グループに所属されました。翌昭和27年には、木本先生が腹部大動脈瘤切除、アルコール保存homograft移植手術をされました。即ち、上野先生は我国の血管外科発展の初期から身をもって体験され、貢献されたこととなります。血管外科研究会の頃には東大胸部外科講師として臨床、教育、研究に携わっておられました。厚生省特定疾患の中では、大動脈炎症候群(高安病)やバージャー病の研究班員として精力的に活躍されました。実際の手術にあたっては常に冷静沈着でありました。大動脈の手術では長い腕をのばして深部操作を適確にされ、腎動脈バイパス手術や下肢動脈バイパス手術ではスマートな

長身をかかめて丁寧な血管剥離、繊細な血管吻合をゆったりした動きで遂行されました。手術記事は当時すべて手書きでしたが、先生は動脈病変の輪切りのシェーマを描かれ、あたかも今日のCT像をみるような要点をとらえた記載でした。学生実習では、視診、触診、聴診の基本を指導され、全身を診ることの大切さを強調されました。学術総会では、長期遠隔成績に重きを置きながら、病理組織所見を大切に、ユーモアをまじえながら核心をついた発言をされました。先生は世界的な血管外科医からも一目おかれた存在で、日本で開催された学会に高名な血管外科医を多く招待されました。

私ども門下生には歴史的事実を大切に、先人の苦勞を正しく伝える一方、常に新しい視点をもって探求心を忘れない姿勢をお示しになりました。鶴寿になられた頃いただいたお便りに「なんとかこの身体をあやつって生きていきます」とあり、先生らしいご表現に思わず頬がゆるみました。先生のお好きな言葉は「真善美」で、これを追求することが人生の目的であると仰っておられました。

第2回
会長



三島 好雄 先生

〈所属医局〉東京大学第一外科

第2回血管外科研究会の概要

〈会期〉1974年3月25日

〈会場〉東京都 国立教育会館

〈主題〉新鮮外傷/後遺症/再植/医原性

〈プログラム〉

■「新鮮外傷」

- 1) 知覚・運動麻痺を残した上肢血管外傷の1例
大阪医大2外 下村忠朗 ほか
- 2) このような四肢血管損症例に対して血行再建を行うべきか
高津病院 柿木英祐 ほか
- 3) 2度の血行再建術にもかかわらず
股関節離断にいたった症例
名大分院外科 松原純一 ほか
- 4) 静脈還流悪化および感染により右大腿部切断を行った症例
札幌医大胸外 浅井康文 ほか
- 5) 追加発言
1: 広大1外 望月高明 ほか
2: 松山日赤外科 藤永裕
3: 昭和大外科 堀豪一 ほか

■「後遺症」

- 1) 血管損傷の臨床 一とくに動静脈瘻を中心として—
東京医大外科 工藤武彦 ほか
- 2) Acute traumatic arteriovenous fistulaの
手術時期について困惑した症例
熊大2外 早川宏 ほか
- 3) 追加発言
1: 旭川病院外科 村上忠司
2: 長大1外 釘宮敏定

■「再建」

- 1) 切断前腕の再移植手術失敗例の検討
東北大2外 佐々木久雄 ほか
- 2) 前腕完全切断肢の再植不成功例
山口労災整外 黒瀬真之輔 ほか
- 3) 追加発言
1: 中京病院外科 加藤信夫
2: 川崎医大外科 井上喬之

■「医原性」

- 1) 連続して発生した
開心術後の大腿動脈仮性動脈瘤の破裂3例について
長大1外 釘宮敏定 ほか

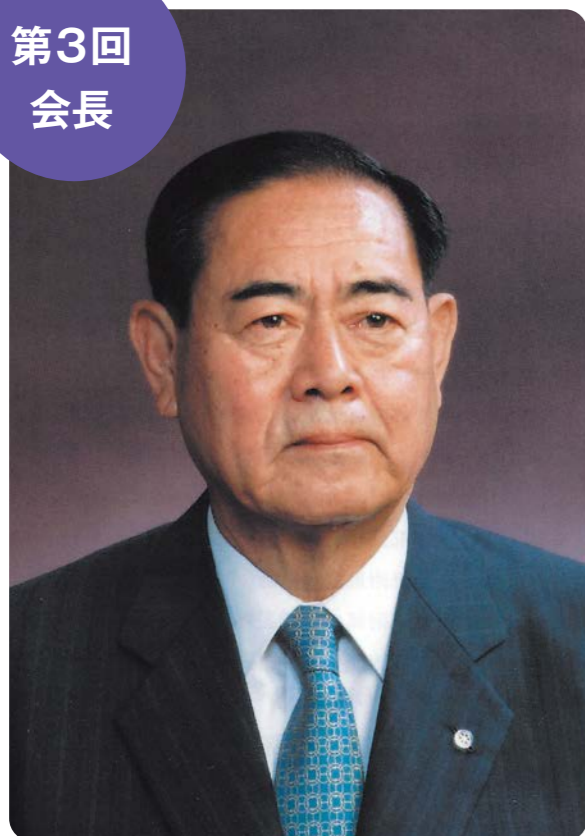


第1回血管外科合同研究会（関東・中四国・浜松） 昭和56年6月27日



第2回 MMC研究会代表者会議懇親会 東京湾クルージング
（平成6年5月21日 レインボーブリッジ下棧橋にて）

第3回
会長



勝村 達喜 先生

(所属医局) 川崎医科大学
胸部心臓血管外科学教室

第3回血管外科研究会の概要

〈会期〉1975年4月2日
 〈会場〉岡山市 岡山衛生会館
 〈主題〉治療困難な末梢動脈瘤

〈プログラム〉

■「感染(炎症)性動脈瘤」

- 1) 治療困難な末梢動脈瘤の2例
北大第一外科 佐野文男 ほか
- 2) 治療に困惑した炎症性末梢動脈瘤の2例
岡大第二外科 内田発三 ほか
- 3) 十二指腸に破裂した腹部大動脈瘤
—感染性吻合部破裂の例について—
九大第二外科 森山正明 ほか
追加発言 中京病院外科 柴原弘道
- 4) 治療困難な末梢動脈瘤の2例について
北大第二外科 本間仗介 ほか

■「特殊な原因による動脈瘤」

- 1) 多発性末梢動脈瘤を合併した
—Ehlers-Danlos-Syndrome— とされる1例
千葉大第一外科 尾崎弘記 ほか
- 2) Behcet病に合併せる多発性動脈瘤
東北大第二外科 佐々木久雄 ほか
- 3) 追加発言 北大第二外科 本間仗介 ほか

■「その他」

- 1) 治療に難渋した両側大腿動脈瘤、膝窩動脈瘤の1症例
熊大第二外科 早川宏 ほか
- 2) 逆行性左心カテーテル法に合併した大腿仮性動脈瘤の2例
東京女子医大心研外科 川副浩平 ほか
- 3) 移植片に問題があったと思われる膝窩動脈瘤の1例
大阪医大第二外科 下村忠朗 ほか
- 4) 末梢動脈瘤治療上苦慮した二、三の問題
東北大第二外科 大原到

勝村達喜先生の思い出と伝説

川崎医科大学 心臓血管外科学 種本和雄

日本血管外科学会の第3回総会(昭和50年)を、勝村先生を会長として川崎医科大学胸部心臓血管外科学(当時の名称)が主催させて頂いたとの記録がありますが、残念ながら教室に資料が残っておりません。その代わりとっては変ですが、勝村先生についてご紹介させていただくことでその責を果たしたいと思います。

勝村達喜先生は日本の血管外科の黎明期を支えられたジャイアントのおひとりで、当時血管外科に力を入れていた教室の横のつながりも大変強固なものがありました。今に至るまで多くの教室と親しくお付き合いいただいておりますのはそのお蔭と感謝しております。当時、心臓血管外科の中では新井達太先生(東京慈恵会医科大学名誉教授)、田邊達三先生(北海道大学名誉教授)と並んで「三達」と称されるほどに存在感の大きな方でした。私が2000年に教授として赴任した時には、既に心臓血管外科の現場からは卒業されて学長職に専念しておられました。当時のご苦勞を拝見し、「あの歳になってあの苦勞はしたくないなあ」と正直感じるぐらいのハードな学長職をお勤めでしたが、大学を引っ張るリーダーぶりは素晴らしく、本当に親分だなあと感じました。

心臓血管外科医としての現役時代を知っている同門の先生方にお尋ねすると、「怒り勝」と言われるほどに手術室では恐ろしい方だったと聞いています。その一方ではお酒をこよなく愛し、医局員と飲みに出かけるのを何よりも楽しみにされていたそうです。学会出張時などに早々に部屋に帰って寝ていると、勝村先生が部屋のドアを叩いて起こしに来られた話などを何度も聞きました。

また勝村先生は海軍兵学校のご出身という軍人として一本筋の通った方で、「抜け駆け」というのを一番嫌っておられました。大事にされていた大日本

帝国海軍の五省の言葉を最後に記し、勝村先生に感謝の念を持ちつつ稿を閉じたいと思います。

海軍の五省

- 一 至誠に悖(もと)るなかりしか
- 二 言行に恥づるなかりしか
- 三 氣力に欠くるなかりしか
- 四 努力に憾(うら)みなかりしか
- 五 不精に亘(わた)るなかりしか

第4回 会長



阪口 周吉 先生

〈所属医局〉慶應義塾大学医学部外科
浜松医科大学第二外科

第4回血管外科研究会の概要

〈会期〉1976年4月5日

〈会場〉東京都 教育会館大会議室

〈主題〉治療困難な腹部および
四肢動脈の血栓・塞栓

〈プログラム〉

- 1) 発症11日目の急性動脈塞栓症手術例について
横浜市第一外科 松村弘人 ほか
- 2) 大腿切断に至った動脈硬化性急性血栓症の1例
東北大第二外科 佐々木久雄 ほか
- 3) 腹部大動脈分岐部における血栓・塞栓症
金大第一外科 上山武史 ほか
- 4) 糖尿病と腸骨動脈閉塞があり、ガス壊疽を疑われた1例
名大第一外科 小野木宏 ほか
- 5) 四肢動脈血栓塞栓症の治療の限界と問題点
名大分院外科 伴一郎 ほか
- 6) 急性動脈閉塞症における再発例の検討
大阪医大第二外科 榎岡進 ほか
- 7) 腸間膜血管閉塞症 一症例ならびにその発生要因について—
尼ヶ崎病院外科 池田正尚 ほか

阪口周吉先生を偲んで

岡野医院 松本賢治

阪口周吉先生と関わりのあった人は多岐に及ぶが、何故か本原稿のお鉢が私に廻って来てしまった。

彼は1951年に慶應義塾大学を卒業しているが、奇しくもこの年に私は誕生している。つまり、彼と私はいわば親子関係みたいなものである。従って、仕事上も私生活上も彼とは殆どすれ違いであった。それでも彼が慶應義塾大学血管班初代班長で、私が1996年から（2009年まで）第四代班長に就任した関係から彼との接点は何度か垣間見られる。基礎研究や臨床研究で彼から時折りヒントを頂いたり、何かに付けてアドバイスを賜った。

なお彼は知る人ぞ知るゴルフ狂であり車狂でもあったが（ラウンドスコアはシングル、車はポルシェやボルボ）、ここではそれらについては一先ず措くこととしたい。

仕事面では、押しも押されぬ静脈学のパイオニアであった。彼の著した「臨床静脈学」はいまだに色褪せない名著だし、彼の考案した上行性下肢静脈造影検査は当時としては独創的で画期的でもあった。さらに論文執筆では当初から英文誌投稿を第一選択としており、その点でも私は彼から大いに刺激を受けた（当時は、英文誌投稿の習慣はなかった）。

概して血管外科医は恐ろしく気が長いとか酷く短気だと言われているが、彼の場合は両刀使いだったような気がする。つまり、助手の不手際に怒って手術台を蹴り倒そうとしたような逸話も残されている。全体に古武士然とした彼が、殆ど酒が飲めなかったことは何とも意外であるが（頑張っても、ビールをせいぜいコップ一杯程度だった）……。

閑話休題。そもそもこの血管外科学会を立ち上げたのは三島好雄先生（東京医科歯科大）を初めとして、古川欽一先生（東京医大）や江里健輔先生（山口大）らに加えて阪口周吉先生も中心的存在であった（血管外科医は、昔から皆仲良しこよしである）。但し一部方面からは血管外科学会など必要ないとする反対意見もあったため、当初は三島好雄先生の発案で消化器外科医も巻き込むという作戦が立てられた（そのため、初期には消化器外科医が総会会長を務めている）。結局、言葉は悪いが三島好雄先生の腕力で抵抗勢力を無理やりねじ伏せたような格好となった次第である。ただ阪口周吉先生は、この手法にはやや消極的だったように見受けられた。

そんな中で彼は第4回血管外科研究会（1976年）を主催したのだが、残念乍ら詳細な具体的内容は現在では詳らかではない……。

一方で今日の血管外科学会の安定した隆盛を見れば、鬼籍に入られた諸先輩たちも草葉の陰で留飲を下げているものと思われる。

最後になったが、陰になり陽になりお力添えを頂いた阪口周吉先生に衷心より感謝申し上げて擲筆としたい。



第5回 会長



丸山 雄二 先生

〈所属医局〉東京大学第二外科

第5回血管外科研究会の概要

〈会期〉1977年3月30日

〈会場〉東京都港区 教育会館大会議室

〈主題〉血管吻合の手技上の工夫

〈プログラム〉

- 1) 病変高度な場合の大動脈・合成血管吻合の手技ならびに末梢動脈再建における端側吻合の手技
九州血管外科懇話会 代表者 九大第二外科 草場昭
- 2) AortofemoralおよびFemoropopliteal bypassについて
岡大 温泉研究所 古元嘉昭
- 3) 大動脈・大腿動脈の血管移植における吻合口の作り方
岡大第二外科 内田發三 ほか
- 4) 腹部大動脈瘤に対する人工血管移植法—中枢端吻合法について—
山口大第一外科 安武俊輔 ほか
- 5) 動脈瘤内人工血管埋没吻合法について
兵庫医大第一外科 宮本巍 ほか
- 6) 大動脈人工血管吻合部補強法
北大第二外科 川上敏晃 ほか
- 7) 大動脈・人工血管吻合部補強のための新しい試み
東医歯大第一外科 山本紀章 ほか
- 8) 深大腿動脈形成術における血管吻合手技について
東医歯大第一外科 岩井武尚 ほか
- 9) 浅大腿動脈および深大腿動脈開口部の同時再建術式の工夫
東大第二外科 梶浦直章 ほか
- 10) 保存ヒト臍帯静脈の血管吻合手技について
北大第一外科 中西昌美 ほか
- 11) 血管吻合における支持法の検討
東大第一外科 太田郁朗 ほか
- 12) 下腿血行再建術における末梢側吻合の工夫—Sanoudos吻合法の改良—
鳥大第二外科 伊藤勝朗 ほか
- 13) 大網移植における血管吻合術式
北大第一外科 佐野文男 ほか
- 14) PEG2000を埋没支柱とし、接着剤を用いた無縫合吻合法
阪大第一外科 大西健二 ほか

- 15) 静脈内動脈挿入法による小血管の無縫合吻合
慈大第一外科 赤羽紀武 ほか
- 16) 血液透析用の簡便な動静脈吻合
聖路加国際病院外科 桜井健司 ほか
- 17) 人工補綴材の切断端の熱処置方法について
札幌医大胸部外科 数井暉久 ほか
- 18) 血管穿孔器を用いた吻合術
旭川医大第一外科 池田浩之 ほか
- 19) ウロキナーゼ固定化ナイロン製血管縫合糸による血管縫合
阪大第二外科 大城孟 ほか
- 20) 上腸間膜静脈・下大静脈吻合 (Hシャント)
東医歯大第一外科 畑野良侍 ほか
- 21) Y型人工血管移植後、一側大腿部人工血管吻合部感染症に対する大腿～大腿動脈短絡手術
東北大第二外科 佐々木久雄 ほか
- 22) 動脈硬化に基づく腎血管性高血圧症に対する血栓内膜摘除術
金沢大第一外科 富川正樹 ほか

丸山雄二先生のお人柄

高木淳彦(元:東京大学第二外科)

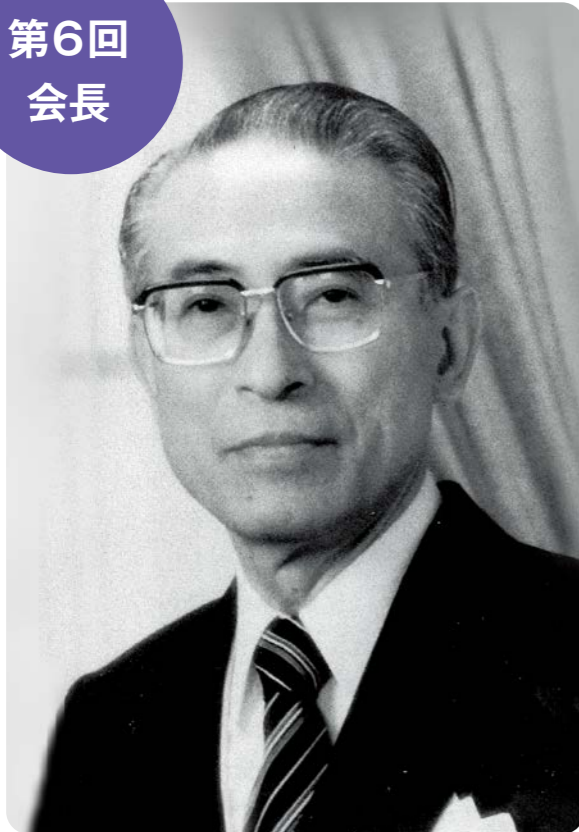
第5回血管外科研究会を主宰された丸山雄二先生は1956年東京大学を卒業され木本外科に入局されて血管外科グループに所属されました。御父上は長野県湯田中で内科を開業されていて、少年期には夏は北アルプス登山、冬はスキーと自然を満喫して活発な日々を過ごされました。外科医として大学病院での専門診療のほか虎の門病院や国立小児病院に勤務され、臨床経験を積まれました。研究生のときに、解剖学教室の中井準之助先生(神経細胞の組織培養研究者)の指導のもと、臍帯血管内皮細胞培養を手がけられました。その研究論文「Maruyama Y. The human endothelial cell in tissue culture. Z.Zellforsch Mikrosk.Anat. 60:69,1963」は後年に血管内皮細胞培養研究で有名なハーバード大学医学部病理学のGimbrone教授からも先駆的な研究として評価されています。

1964年から2年間、フルブライト交換研究員として米国ボストンに留学されハーバード大学医学部外科の血管外科研究員となりました。このとき懇意になったJ.A.Mannick先生(自家静脈バイパスの先駆者の一人、のちハーバード大学医学部ブリガム・アンド・ウィメンズ病院外科主任教授)とは永年にわたり親交をもたれました。留学中に見聞された米国の血管外科の最先端の知識は、発展期にあった本邦の血管外科の隆盛に大いに役立ちました。学位論文は「ゼラチン処理した合成代用血管の研究」であり、当時広く用いられるようになってきた人工血管の普及の一助となりました。血管外科に関する基礎的な研究から臨床に及ぶ広い領域に常に新しい視点でとり組まれ業績をあげられました。

先生は周りの人々への気配りや思いやりにあふれていましたので、患者さんからの信頼も厚く、長年にわたって外来通院された方も多くおられました。ご家庭では「何事にも楽しく取り組むように」とお子様方によく話されていて、この姿勢は臨床、研究、教育に貫かれていました。外国での国際学会やマイクロ・サージャリーの研修コースに同行させていただいたときなど、先生の多方面にわたる博識に驚かされたことは枚挙にいとまがありません。学会発表の座長をつとめられたときには品位あふれた司会進行をされ、発表者の労を讃え、症例の意義を高める発言をされていました。

東京大学第二外科助教授から聖マリアンナ医科大学教授、三井記念病院副院長を歴任され、血管外科を基本として広く外科全般を教授指導され、多くの優秀な門下生を育てられました。先生は常に全身を診る大切さを説かれ、卓越した手術手技により臨床成績の向上に努められましたので、まさに「血管外科の醍醐味」を後世に伝え実践された先達のお一人でありました。

第6回 会長



草場 昭 先生

〈所属医局〉九州大学医学部第二外科

第6回血管外科研究会の概要

〈会期〉1978年4月3日

〈会場〉福岡市 西鉄グランドホテル2階
鳳凰の間

〈主題〉下肢の一次性静脈瘤

(手術手技、内科的治療、再発例および潰瘍例に対する治療)

〈プログラム〉

- 1) 一次性静脈瘤に対する手術および局注併用療法
名大分院外科 松原純一 ほか
- 2) 下肢静脈瘤に対する合成吸収性縫合糸による皮下埋没結紮法
神奈川県立総合リハビリテーション病院外科 赤羽紀武 ほか
- 3) 大伏在静脈除去時の伏在神経損傷について
大阪市立大第二外科 大野耕一 ほか
- 4) 下肢静脈瘤に対する術前診断と手術手技
金沢大第一外科 富川正樹 ほか
- 5) Doppler血流計による静脈瘤切除範囲の決定について
慶大外科 小谷野憲一 ほか
- 6) 下肢の一次性静脈瘤に対する外科治療の検討
札幌医大胸部外科 大野猛三 ほか
- 7) 下肢静脈瘤の外科的治療に関する検討
—特に手術手技と予後の検討—
千葉大第一外科 斎藤滉 ほか
- 8) 下肢一次性静脈瘤に対する手術手技について
東京医科歯科大第一外科 岩井武尚 ほか
- 9) 皮下硬結および下腿潰瘍を伴う下肢静脈瘤治療の検討
川崎医大胸心血管外科 元広勝美 ほか
- 10) 下腿潰瘍に対する下腿後方正中切開筋膜下不全交通枝遮断術 (Lim)
鳥取大第二外科 伊藤勝朗 ほか
- 11) 下肢一次性静脈瘤、再発例、潰瘍例における治療
京都府立医大第二外科 池田識道 ほか
- 12) Insulin局所投与による下腿潰瘍の1治療例
国立大阪病院外科 杉立彰夫 ほか

草場昭先輩追悼文

九州大学第二外科 現血管グループチーフ 古山正 (平成9年入局)

草場昭先輩は1959年(昭和34年)第4代教授友田正信先生時代に九州大学第二外科に入局されました。当時の医局長は大脇義人先輩(昭和25年入局)、同期として阿部和哲先輩、小野維一郎先輩、草場昭先輩、三戸康郎先輩、土器国光先輩、友田秀教先輩がおられます。その2年後の1961年(昭和36年)に当時助教授の第5代教授井口潔先生(昭和20年入局)により日本外科学会総会において「血管吻合器の外科的意義」が報告されており、九州大学第二外科 血管グループの黎明期に入局されたこととなります。九州大学第二外科の血管グループの歴史は1955年(昭和30年)井口潔名誉教授の御帰学とともに始まり、1958年(昭和33年)井口式血管吻合器の発表でその基礎が確立しました。血管グループの研究は、八木博司先輩、中村輝久先輩、坂口正昭先輩、小林迪夫先輩の4名による血小板と栓球の研究に始まり、小西哲郎先輩、山田孟先輩、中村望先輩、斉木秀彦先輩、藤本要先輩、黒木重三郎先輩、そして草場昭先輩らによる血管吻合器の手縫法との差異と一般外科への応用へと移行しました。1968年(昭和43年)頃から、中村輝久先輩らは食道癌の研究に、小林迪夫先輩らは門脈外科の研究に専従することとなり、血管外科分野の研究は草場昭先輩を中心として行われることとなりました。

井口潔名誉教授、草場昭先輩は、末梢血行障害の下肢に対する血行再建術の予後をいかにして向上させるかを研究のテーマとされました。まず、一心拍からなされる流量波形が術後の早期予後と関連していることを示されました。血行再建直後の波形が0型をとるものは予後が極めて良好、I型はやや良好、II型は晩期閉塞の可能性が大きく、III、IV型は術後早期に閉塞することを清瀬隆先輩(昭和39年入局)らを中心に報告されました。次に、種々

の波形を自由に再現するシュミレーションポンプを工学部の協力の下に作成し、家守光雄先輩(昭和50年入局)らと共に管内流速プロファイルを観察されました。予後良好とされる0、I型は管壁に接した部位の血流変動が激しく、予後不良とされるIII型、IV型では、その部位の血流が停滞していたことより、run-offが良好な肢においては心拡張期に十分なback flowが血管壁に沿って逆流してくるために、激しい血流の動揺を生じ、その結果として血液凝固が阻止されること、run-offが不良な肢においてはback flowが貧弱なために、血流が停滞し凝固が引き起こされることを報告しました。この研究から、術後早期閉塞を予期することが可能となりました。さらには、術後のフォローアップでドップラー血流計を用いることで、閉塞の危険性を早期に察知し、閉塞前に修復手術を行う事が可能となりました。最終的にはこの血流波形から壁面せん断応力の変化(τ -variation)を導き出して血行再建術成功のための術中モニタリングを報告されました。この研究の結果として、井口 潔名誉教授はアメリカ血管外科学会の名誉会員に推薦されました。

草場昭先輩は1983年(昭和58年)に琉球大学第二外科初代教授にご就任された後も1997年(平成9年)のご退官まで精力的に血行動態からみた下肢血行再建術の成績向上のための臨床的研究を行われました。

草場昭先輩が九州大学第二外科、琉球大学第二外科を通して血管外科の研究、臨床に多大な業績を残されたことは前述の通りです。一方で草場昭先輩は書道では准師範の腕前、イラストもプロ級の腕前でした。草場昭先輩が書かれた手術のイラストは血管外科医のエキスパートである草場昭先輩にしか描けないような正確で実践的な描画で、出版された「血管外科に必要な血管露出法と局所解剖」「図説 血管外科の臨床」は血管外科医を志した我々後輩の手術の参考書となりました。

草場昭先輩はプライベートではスキーに大変堪

能で、4月の立山での山スキーのご経験もお持ちだったそうです。第二外科の血管グループチーフ時代には、鳥取県の大山で毎年恒例のスキー旅行があり、草場 昭先輩ご一家を初めとして約20名の参加者を得て、夜の宴会は大変盛況であったそうです。その頃の研究棟には、ウエーデルン（両足を揃えての連続小回り）の練習台が2台置かれ、昼休みなどに医局員が練習していたそうです。今年で第35回を数えることとなるスキー場で開催される心臓血管外科ウインターセミナーの創設者の一人でもあ

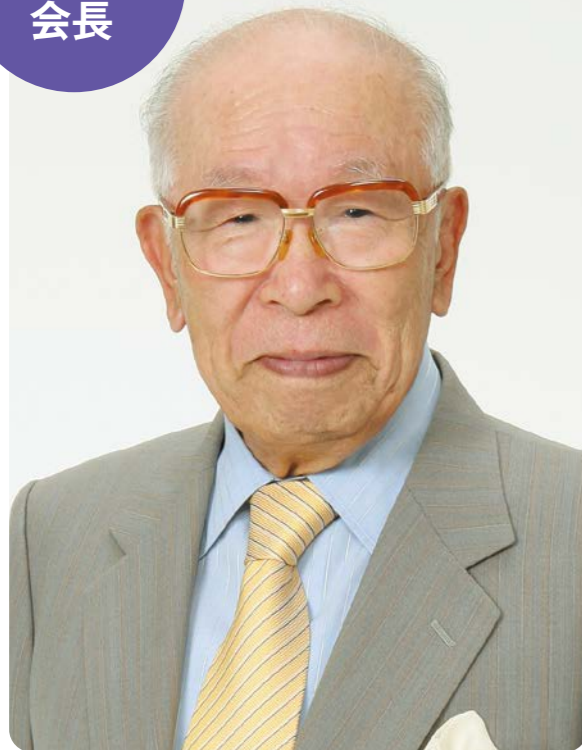
り、よく奥様と一緒にご参加されていたそうです。また、囲碁もご趣味で、亡くなられた浜松医大の阪口周吉教授とは、学会など折に触れての対局を楽しみにされていたとの話もあります。

皆から愛され、素晴らしい業績を残された草場昭先輩ですが、残念ながら1998年（平成10年）6月4日ご逝去されております。九州大学第二外科血管グループ一同より草場昭先輩のご冥福をお祈り申し上げます。



第36回日本脈管学会主催時（1995年10.31～11.2）、ゴルフコンペにて。北大教授の田邊教授と。

第7回
会長



田邊 達三 先生

(所属医局) 北海道大学第二外科

第7回血管外科研究会の概要

〈会期〉1979年5月30日

〈会場〉札幌市 教育文化会館

〈主題〉I) Leriche症候群の定義について
II) 大動脈腸骨動脈閉塞に対する
血行再建 —とくに手術困難例、特殊例、
合併症を中心として

〈プログラム〉

座長 北大 田邊達三

I: Leriche症候群の定義について

横市大第一外科 松本昭彦

特別発言 Leriche症候群

東大第一外科 三島好雄

II: 大動脈腸骨動脈閉塞に対する血行再建

—とくに手術困難例、特殊例、合併症を中心として

1) 手術困難例、特殊例

座長 東大:丸山雄二、北大:田邊達三

1: 冠動脈疾患を合併する大動脈腸骨動脈閉塞症の外科

千大第一外科:上村重明 ほか

2: 閉塞型特発性心筋症に合併した腸骨動脈閉塞の1例

京府医大第二外科:白方秀二 ほか

3: 大動脈炎による腎上部腹部大動脈完全閉塞症に対する
血行再建

鳥大第二外科:伊藤勝朗 ほか

4: 両側外腸骨動脈狭窄、両側内腸骨動脈閉塞
をきたした1例

岩手医大第三外科:阪内正純 ほか

5: 大動脈腸骨動脈閉塞症例に対する血行再建術の問題点

—とくに他部位血行再建を合併施行した症例の検討—

新大第二外科:寺島雅範 ほか

6: 7才女子、右腸骨動脈閉塞に対する血行再建の1例

慶大外科:亀田正 ほか

2) 合併症

座長 旭川医大:久保良彦、北大:田邊達三

7: 総腸骨大腿動脈血行再建後、開存にもかかわらず

第4趾壊死から大腿切断に至った1症例について

慈恵医大第一外科:赤羽紀武 ほか

8: Extraanatomical bypass operationの2例

岡大温研外科:古元嘉昭 ほか

9: 大動脈腸骨動脈閉塞に対する

血行再建術後の合併症で難渋した1例

札幌医大胸部外科:数井暉久 ほか

10: 種々の合併症をおこした人工血管移植の1例

岐大第一外科:松本興治 ほか

11: 両側大動脈腸骨動脈血行再建後の合併症
—とくに腸管虚血について—

山口大第一外科:森文樹 ほか

12: Aorto-iliac動脈閉塞に対する

血行再建に伴った対麻痺発生患者の経過

慶大外科:奈良貞博 ほか

13: 大動脈腸骨動脈閉塞例の性機能障害

阪大第二外科:大城孟 ほか

14: 大動脈腸骨動脈閉塞に対する血行再建術と

その合併症の総括的検討

血管外科症例検討会 岩井武尚 ほか

深夜に及ぶ白熱した研究会の思い出

第7回血管外科研究会世話人 田邊達三

1979年北大の杉江三郎教授が日本外科学会を主宰され、その会期中に私が血管外科研究会を世話人として札幌パークホテルで開催した。主題として血管外科を学び始めた頃から興味深かったルリィシュ症候群を取り上げた。ルリィシュ(1879~1955年)は、当時作成したスライドに示すように(図)、偉大な血管外科医として早くから解剖学、

病理学とともに生理学の重要性を説き、とくに特異な腹部大動脈分岐部閉塞症を見出し、両側下肢の虚血症状と勃起障害に注目してルリィシュ症候群と呼ばれる病態を報告した。リヨンでは1889年にジャボレーが下腿の潰瘍に動脈周囲交感神経切除を行ったが、1913年に彼に学んだルリィシュは血管閉塞例にこの手術を広く応用した。さらに腰部交感神経節切除の有効性を門下のフォンテーンとともに主張した。また側副血行の発達を目的にした動脈切除術も編み出し、1939年にはルリィシュ症候群に対する血栓摘除術に成功し、1951年には欧州初の血管銀行を設立して組織血管の保存を実施した。彼はその後、末梢四肢血管の虚血症状の分類でも有名なルネ・フォンテーン教授とともに「閉塞した血管から交感神経反射で側副血行路が収縮する」と主張し、閉塞動脈の切除術を主張した。この考えは必ずしも全面的には正しくはないが、副血行形成を目指した多くの研究はその後の血管外科の発展に大きく貢献した。

血管外科の近代化を推進したパイオニア

Rene Leriche

(1879-1955)

特異な血管閉塞病態の解明



1913年 動脈周囲交感神経剝離術

1917年 閉塞動脈節術

腰部交感神経節切除術

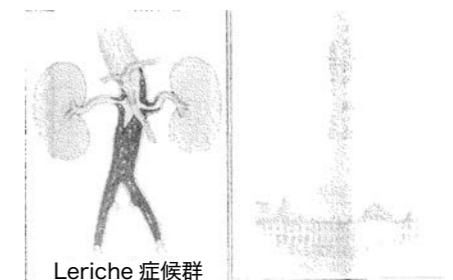
1940年 腹部大動脈終末閉塞症などの病態検索

Leriche syndromeの報告

■人類愛に基づく外科の哲学

術者はタクシーの運転者のごときで、早く走るのではなく、人通りの少ない道を選び、行きたい場所に安全に運ぶのが良い運転手であると同じである。貴賤を問わない人間愛を抱き、良心的で最善を尽くして常に進歩を求める外科医の育成を目指す。

ストラスブルグ大学外科学教授として交感神経切除などの機能外科を開拓した。若い頃にリヨン大学で Carrel と寮生活を共にして臨床研修の指導を受け、血管外科に興味を持つに至った。米国視察で Halsted の細心で慎重な手術に共鳴し、基礎医学に立脚した新しい外科、機能を重視した手術を推進した。門下から Dubost Fontaine, Kunlin などの逸材が輩出した。名著、「Philosophy of Surgery」は近代外科の鏡といわれる。



Leriche 症候群

第7回研究会は欧米で血管外科を学び、ルリィシュについても学んだ留学帰りの若手と称する第2世代が活躍し、座長の私が困惑するほどの議論が続き、まさに深夜にまで会は及んだ。白熱の会が終わり恩師の杉江教授から司会は討論を纏めて時間内に終わることが大事と注意され、さらに長老のM教授が大声で二次会は何処かと叫ばれ、慌ててスキノ高級クラブへ案内したことも忘れ難い思い出である。多くの血管外科医の参加で時間を忘れるほどの盛況な状況から、独自の血管外科学会の必要性を若手と称する仲間と共有して語り合ったのもこの時であった。

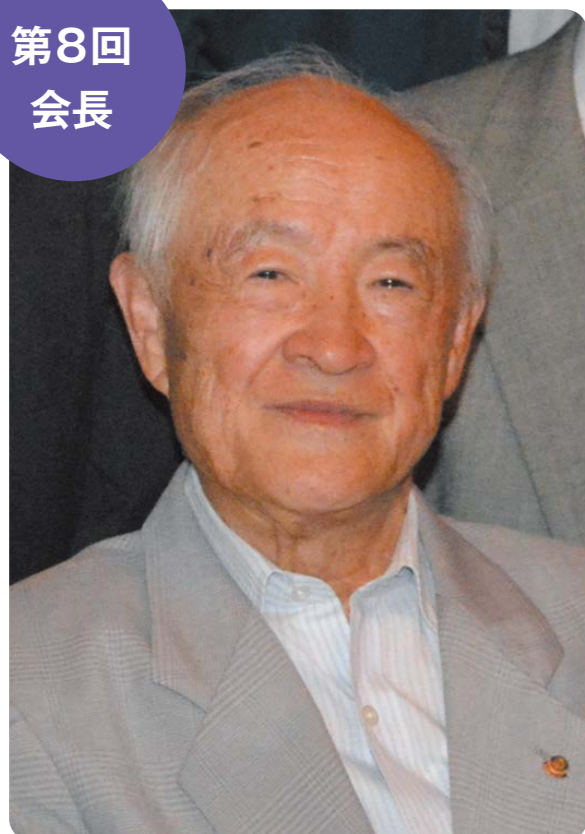
国際心臓血管学会では彼の業績を記念して、ルリィシュ記念講演が毎回高名な学者が行っており、木本教授、三島教授、岩教授などもここで講演している。彼の「外科学序説」のなかで、「長年にわたる前時代的教育によって、手先の技術が型にはめられ、円熟した手を動かすことだけが外科医の到達目標になっている」、また「外科学が人間そのものに関することを教えず、倫理的な面が等閑視されたまま教育されている」など、外科医に求められるヒューマンズムを説いている。新たな手技を導入し病態を解明して血管外科をリードしたフランスの巨星が、揃って実用的な技術以上に形而上的教育を説いているのが特記される点である。

一般に外科医の一生が話題となって注目されているが、外科医の生涯が起伏に富んでいることは、カレルやルリィシュの生涯からもうかがわれる。ルリィシュは外科の長所として「外科は人類愛に満ちたものである、良心的で最善を尽くすべく努めている」などを、また短所として「手先の技術にとどまりすぎ、生物学的でなさすぎる、考え方が封建主義的でありすぎる」などを挙げている。経験豊富な大外科医としての強い信念と、変わりつつある外科に適應できない者がいることに批判と警告を告げる心情がうかがわれる。フランスのオリビエ教授はルリィシュの指導法として弟子に問題を提起し、熟慮

させて研究に誘い込んだと述べ、また不朽の偉人というのは、多くの業績を残したことではなく、その人の行動によって他の人を新たな行動へ導いたことにあるとし、この意味でルリィシュは偉大な外科医、偉大な人間であったとしている。

ルリィシュはその後、下肢の虚血性障害に腰部交感神経節切除術を推奨したが、彼の門下から欧米の有名な血管外科医が多く育ち、副血行形成を目指したこの手術は広く応用され、その後の血管外科の発展に大きく貢献した。彼は新しい外科を目指して最小の侵襲で最大の効果をあげるphysiological surgeryを考案して閉塞性動脈疾患の治療体系を組み立てようとしたが、その歩みのなかには失敗や誤解もみられる。彼に学んだDos Santosはルリィシュ記念会長講演において血管の開存に内膜の存在を必須としたルリィシュの主張に反して血栓内膜摘除術を開発したが、この研究の進展をthe fall of myth (神話の失脚) として回顧している。彼の名声に惹かれて集まったFontaine, Kunlin, DeBakeyの大家たちは生涯においていずれも先人の通念を乗り越え、旺盛な探求心と斬新な発想を發揮し、それぞれ血管外科の画期的発展に貢献したことは周知の事実である。

第8回 会長



大内博先生

〈所属医局〉東北大学医学部第二外科

第8回血管外科研究会の概要

〈会期〉1980年4月3日

〈会場〉仙台市 斎藤報恩館

〈主題〉腎血管性高血圧症の外科治療
—とくに合併症について—

〈プログラム〉

- 座長 国立仙台病院 佐治公明
- 1) 腎動脈再建後に不幸な転帰をとった2例
愛知医大第二外科 矢野孝 ほか
 - 2) 血行再建術後に片側性腎皮質壊死をきたした
腎血管性高血圧の1例
兵庫県立尼崎病院心臓センター外科 辰見義男 ほか
 - 3) 腎血管性高血圧症の外科治療
—とくに両側性腎動脈病変に対する外科治療と
その合併症について—
札幌医大胸部外科 数井暉久 ほか
 - 4) 外傷による腎血管性高血圧症の1治験例
神戸大第二外科 久野克也 ほか
 - 5) 腎血管性高血圧症の外科治療
新潟大第二外科 丸山行夫 ほか
 - 6) 腎血管性高血圧症の外科治療
—とくに外科治療に難渋した症例—
山口大第一外科 小田悦郎 ほか
 - 7) 大動脈炎症候群による腎血管性高血圧症に対する
バイパス設置術
東女医大日本心臓血圧研究所外科 島津和彦 ほか
 - 8) 腎血管性高血圧症に対する外科治療
—とくに若年性高血圧症について—
北大第一外科 佐野文男 ほか
- 座長 東北大 大内博
- 9) 腎血管性高血圧症に対する非定型的手術の2症例
国立循環器病センター心臓血管外科 中島伸之 ほか
 - 10) 腎血管性高血圧症の外科治療
—とくに術後合併症の検討—
岡山大第二外科 内田發三 ほか
 - 11) 動脈硬化性腎血管性高血圧症に対する血行再建術中に
腹部大動脈に急性血栓症を発生した1例
横浜市大第一外科 近藤治郎 ほか
 - 12) 腎動脈進行性病変の反省と1治験例
川崎医大胸部心臓血管外科 元廣勝美 ほか
 - 13) 小児腎血行再建術後の成長期における
グラフトの閉塞と再手術術式
熊本大第二外科 早川宏 ほか
 - 14) 腎動脈完全閉塞例に対する血行再建術後合併症について
東大第二外科 神谷喜八郎 ほか
 - 15) 術後、重篤な肺水腫を起こした腎血管性高血圧の1例
名大分院外科 平井正文 ほか

第8回血管外科研究会について

瓢木会会報第十三号(東北大学医学部第二外科教室
同門会誌:昭和56年)より

第8回会長 大内博

第80回日本外科学会総会は、葛西森夫教授の下に盛大且つ成功裡に終了することが出来、本邦外科の発展のためにも誠に御同慶のいたりである。

1980年4月3日、第80回日本外科学会の第1日目の夜、葛西会長のお許しを得て、第8回血管外科研究会を開催することが出来た。会場は、仙台市斎藤報恩館の国際会議場であったが、この研究会の世話人として、会の内容を報告する。

腎動脈狭窄によって高血圧が齎され、これが腎血管性高血圧として脚光をあびていることは周知の事実である。本邦においても、腎血管性高血圧症に対する手術が各地で行われるようになって来たが、本症の外科手術は、血管外科手術の中でも、もっともむずかしいものの中に入っており、手術術式、合併症について一堂に会して討論することは意義のある事と考え「腎血管性高血圧症の外科治療—とくに合併症について—」のテーマで演題を募集した。今回は、全国主要施設より15題の発表が行われた。発表および討論の内容は、きわめて多岐にわたっているので、すべてを論じるのは多少無理かと思われるが、その概要について報告する次第である。

腎動脈狭窄に基づく腎血管性高血圧症の成因としては、まず動脈硬化性のもものがあげられる。次いで、線維筋性形成異常、大動脈炎症候群、先天性腹部大動脈縮窄症に合併するものなどがあげられる。一般に欧米においては、動脈硬化症の症例が圧倒的に多く本邦においては、大動脈炎症候群、線維筋性形成異常によるものが多く、それに

比較して動脈硬化性の症例が少ないということがいえる。この傾向は、今回の15題の症例の中にもうかがうことができる。しかし、近年、老年人口の増加と食生活の欧米化などの要因によって、動脈硬化性の症例も漸時増加することが予想される。

大動脈炎症候群に関しては、(1)活動期に手術をすべきではなく(2)大動脈弓部および分枝に病変がある場合には、血行再建後の降圧とともに脳血流障害が起こる可能性があるので注意を要する。(3)本症では、腹腔動脈にも病変の認められることがあるので、脾腎動脈吻合は行わないほうが良い、(4)大動脈炎症候群の高血圧の原因が、必ずしもレニン・アンギオテンシン系の機構によるものではなく、大動脈弁閉鎖不全、大動脈壁弾性低下による高血圧、あるいは大動脈縮窄などの種々の因子が関与してくる可能性がある。(5)腎動脈以外の部位に用いられた人工血管吻合部の破綻例が報告された。

動脈硬化性のもに関しては、(1)血行再建術中に腹部大動脈に急性血栓症を発生した例が報告された。(2)両側腎に狭窄性病変があり、高度な一側のみ手術した場合、経過観察中に他側に狭窄性病変が進行した例が報告された。両側同時再建も必要な場合があり、再建方法に関しても慎重な配慮が望まれる。(3)大動脈病変が高度で、腎動脈直下にまで及んでいるような症例がある。このような症例に対しては、腎動脈中枢の大動脈に血管鉗子をかけ、腎下部大動脈を完全に横断し、腎動脈起始部まで十分に血栓を摘除してから、鉗子を腎下部大動脈にかけ直し(十分以内に行う)、腎血流を再開、末梢の再建は時間をかけて行うのがよい。

小児腎血管性高血圧症に関しては、成長とともに再建部位が変化してくるので、代用血管の選択

が非常にむずかしい。人工血管を用いた場合、大動脈を含めて成長、伸展するために吻合部閉塞をきたすことがあると指摘された。小児の場合、再建方法に関しては解決すべき問題が少くない。

腎動脈完全閉塞例に対する血行再建術が報告された。従来、腎動脈が完全に閉塞している場合には、腎摘出術が行われた。腎萎縮が強く、腎が小さくかつ機能が廃絶している場合にのみ腎摘出を行い、他は腎動脈再建術を試みるべきであるとしている。血行再建術の問題点として、腎の阻血性変化は、手術施行前すでに不可逆性の変化を起こしている場合と、腎血流を急速に増加させることによって、かえって腎組織を破壊してしまう場合が考えられる。腎萎縮を除いて、一応腎動脈の血行再建を行い、だめなら腎摘出を行う。急速に閉塞がきたのか、側副血行の発達を促しながら、徐々に閉塞したものか、閉塞機転の発展様式が問題となる。側副血行路が太く、閉塞末梢の血流が比較的良好な場合に成績が良好なのは理解出来るが、術前に手術効果を予測する判定方法が将来の問題としてあげられよう。

再建方法に関するものとしては、(1) 腹部大動脈腎動脈バイパスが比較的容易であるが、人工血管がよいか、自家静脈がよいか、症例により選択することが望ましい。末梢吻合は、血流の関係から端々吻合がよい。(2) 右腎動脈の再建方法として、上腸間膜動脈・腎動脈間自家静脈バイパス術がある。上腸間膜動脈起始部の剥離は慎重な操作をすべきで、破綻例が報告された。(3) 自家静脈移植術。

in situ における腎動脈再建が困難な場合には腎を摘出し、灌流後、腸骨窩に異所性自家腎移植を行う方法である。筆者も経験があるが、2、3の施設から報告された。このさい、尿管の膀胱内埋め込み術も同時に行ったほうがよい。腎摘出後に

腎血管を吻合容易なように修復してから再吻合することも可能で応用範囲が広い。従来、腎血管の吻合不適の理由で腎摘出に終わったような症例に対しても施行することができ、今後大いに本術式が応用されよう。

腎血管性高血圧症の手術に関連した合併症としては、(1) 早期血栓形成、(2) 出血、(3) 術後動脈瘤形成がある。動脈瘤に関しては討議されなかったが、高血圧が持続して低下しない場合、とくに自家静脈使用例では吻合部動脈瘤の発生が憂慮される。欧米では、術時血管造影による観察の重要性を指摘するものも多いが、現実的には、全例に定期的に行うのは困難なことが多く、その発生には十分注意する必要がある。(4) 致死的な合併症としては、心筋梗塞、脳軟化などの発生は動脈硬化例で認められ、術前検査を十分に行って無理な手術は避けるべきである。

腎動脈狭窄が高血圧の原因であるとする確証は、腎動脈血行再建術により高血圧が治癒することである。術前に治療効果を予測することはある程度可能であるが、困難を伴うことが少なくない。自験例を含めたretrospectiveに手術適応を検討した成績では、狭窄前後の圧差の存在を示す副血行路の確認が最も有用であり、つづいて血漿レニン活性の測定成績や左右別腎機能成績が有用であった。この他にAngiotensin II拮抗剤による手術適応の判定も開発されている。

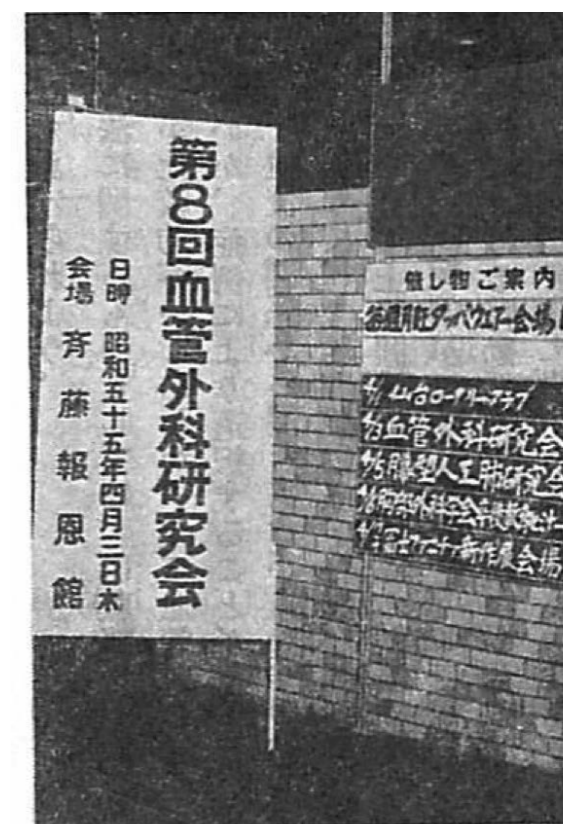
Solitary Kidneyあるいは一側腎機能廃絶他側腎動脈狭窄例では、血行再建による降圧効果は大である。

近年、Angiotensin II拮抗剤をはじめとして、種々の薬剤が開発され、内科的にも種々の薬剤を併用することによって、血圧をある程度コントロー

ル可能な症例も認められる。腎血管性高血圧症は、外科、内科共同の管理が必要な疾患であり、両者の密接な協力体制がもっとも望まれるところである。

第8回血管外科研究会は、約400名の熱心な参会者を得て成功裡に終わることができた。本研究会は、会を重ねるごとに会員数をふやし、血管外科に興味を持つ同学の志がふえているのは、誠に同慶のいたりである。

最後に第8回血管外科研究会の開催にあたり、多大のご協力をいただいた葛西森夫教授をはじめ、第二外科医局の諸兄に深甚なる謝意を表する次第である。



第9回 会長



多田 祐輔 先生

〈所属医局〉東京大学第二外科

第9回血管外科研究会の概要

〈会期〉1981年4月8日

〈会場〉東京プリンスホテル
プロビデンスホール

〈主題〉動静脈瘻の外科療法(先天性を除く)

—とくに治療に難渋した症例、特異な合併症をきたした症例を中心に—

〈プログラム〉

はじめに 東大第二外科 多田祐輔

- 1) 外傷に続発した大動脈弓部
—左腕頭静脈動静脈瘻の1治験例
神戸大第二外科 生田博 ほか
- 2) 動脈瘤自然破裂による大動脈
—大静脈瘻の外科治療
札幌医大第二外科 山口保 ほか
- 3) 外傷後に発生した動静脈瘻に対する外科治療
日大第二外科 新野晃敏 ほか
- 4) 腎保存手術を行った腎内動静脈瘻の1治験例
金沢大第一外科 市橋匠 ほか
- 5) 動静脈瘻の2治験例
日本医大胸部外科 松島伸治 ほか
- 6) 椎間板ヘルニア術後の右総腸骨動脈
—下大静脈瘻の1治験例
京府医大第二外科 佐藤伸一 ほか
- 7) 総腸骨動静脈瘻の4例
東大第二外科 秋元滋夫 ほか
- 8) 後天性動静脈瘻の手術経験
熊本大第二外科 早川宏 ほか
- 9) 後天性動静脈瘻の2手術例
福島医大第一外科 猪狩次雄 ほか
- 10) 外傷性動静脈瘻11例の経験
岡山大第二外科 白川和豊 ほか
- 11) 心不全をきたした外傷性大腿動静脈瘻の1例
山口大第一外科 小田悦郎 ほか
- 12) 長期間経過した外傷性動静脈瘻の外科治療
東医歯大第一外科 佐藤彰治 ほか
- 13) 後天性動静脈瘻3例の経験
北大第一外科 北野明宣 ほか
- 14) 外傷性動静脈瘻を利用した
下肢静脈血行再建の1例
旭川医大第一外科 和泉裕一 ほか
- 15) 医原性動静脈瘻
—下肢静脈血栓症に行われた
大腿部A-Vシャント療法の経過
慈恵医大第一外科 赤羽紀武 ほか

- 16) Compartment Syndromeを併発した
右外傷性大腿動静脈瘻の1例
厚生会高津病院外科 上道哲 ほか
- 17) 動静脈瘻による難治性下腿潰瘍の2治験例
福岡八木厚生会病院外科 八木博司 ほか
- 18) 完全離断手再接着後の医原性動静脈瘻
名大分院外科 松原純一 ほか
- 19) 透析用内シャントの特異な合併症
富山医大第一外科 富川正樹 ほか
- 20) 腎悪性腫瘍(Grawitz)の
踵骨転移巣に生じた動静脈瘻の1例
鳥取大第二外科 伊藤勝朗 ほか
- 21) 外傷に起因する動静脈瘻の手術16症例の検討
国立福岡中央病院心血管外科 田代豊一 ほか

多田祐輔先生のこと

東京医科大学八王子医療センター 心臓血管外科
山梨厚生病院 予防医学センター 進藤俊哉

多田祐輔先生は昭和37年3月に東京大学医学部医学科を卒業され、1年間のインターンを経て昭和38年6月に当時の木本外科(第2外科)に入局されました。その後血管外科を専門とされ、私が卒業した昭和55年当時は第2外科の腹部・末梢血管外科のチーフが多田祐輔先生、胸部外科の胸部大血管のチーフが故上野明先生だったと記憶しています。私自身が血管外科チームに所属したのが昭和59年からですので、昭和56年(1981年)に多田先生が主催された第9回血管外科研究会(のちの血管外科学会)については残念ながら詳細は知りません。多田先生はその後平成4年6月に山梨医科大学(現:山梨大学)第2外科の第2代教授に就任され、それについていく形で私も同じ年の10月から山梨に赴任しました。それから多田先生が退官される平成15年までその下で一緒に働かせてもらいました。

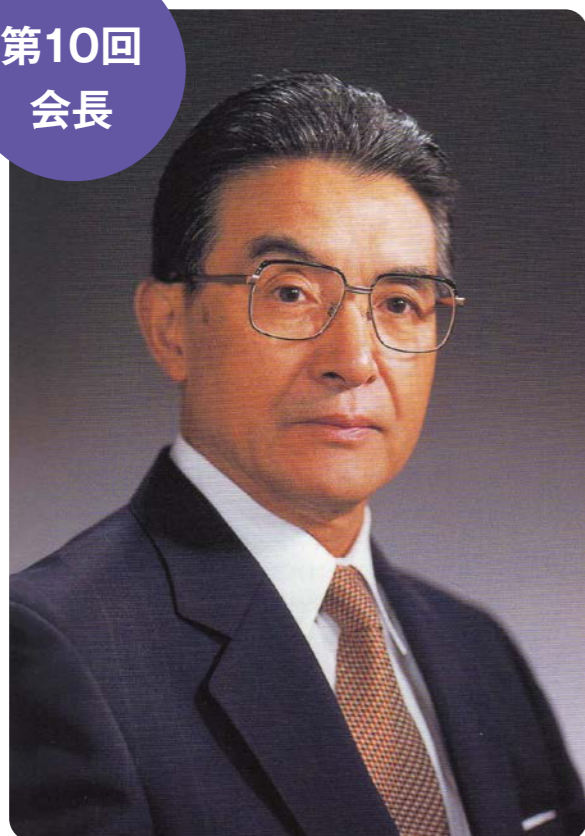
多田先生の手術は一言で言うなら「大胆にして細心」、実に「恰好がいい」もので術式も独創性が際立っていました。今はあまり用いられませんが一時バイパスによる胸部大動脈瘤手術、そして今や標準的手法ともいえるエスマルヒ駆血帯を用いた「Non-

dissection Method」などは実によく考えられて手技として完成させていかれました。とくに後者はBernhardに「Pneumatic Tourniquet」と先んじて発表され悔しい思いをしたことを覚えています。教室員が手術で困っていると多田先生が登場し何事もないように修正していく、といった風情でした。個人的な話になりますが、私の手術の結果が期待通りにいかない時に「血管外科の負の歴史を経験してるねえ、勉強しなさい」と言われ、「個体発生は系統発生を繰り返しますから」と生意気にも反論したところ、「愚者は経験に学び賢者は歴史に学ぶ」と叱られたのが懐かしい思い出です。

このように私にとっては「上司」というより「師匠(メンター)」というイメージの方が強いのですが、教室主任としては「清廉にして剛毅」といった印象でした。退官にあたって医局員の総意で作成しようとした多田教室の業績集も固辞され、結局「山梨医科大学第2外科20周年開講記念誌」としてまとめることでようやく許していただきました。また、退官された後は一切学会に参加されず「後進に任せる」と言われていたのを思い出します。「Negative Dataを伝えるのが先人の使命だ」とも仰っていました。これは出身地である「土佐のいごっそう」の体現である、と私はひそかに思っています。

今はシングルプレーヤーだったゴルフよりもサイクルツーリングにはまっておられるようで、毎年いろいろな場所で撮られた多くの花の写真をレイアウトした年賀状をいただきます。私を含め多田先生にあこがれて血管外科を目指した先輩後輩も多く、その後進たちが今や血管外科の最前線で活躍しているのを見ると、先生の功績の大きさにいまさらながら感じ入ります。ご本人は潔しとされないかもしれませんが、今後も先生から大先輩としての発信を期待しているところです。

第10回
会長



宮内 好正 先生

〈所属医局〉熊本大学医学部第一外科

第10回血管外科研究会の概要

〈会期〉1982年4月2日

〈会場〉千葉県教育会館

〈主題〉腹部大動脈・腸骨動脈閉塞に対する
extra-anatomical bypassの功罪

〈プログラム〉

- 1) Aortoiliac occlusive diseaseに対する
extra-anatomical bypassの経験
川崎医大胸部心血管外科 土光荘六 ほか
- 2) 腹部大動脈・腸骨動脈閉塞に対する
extra-anatomical bypassの功罪
北大第一外科 沢田康夫 ほか
- 3) Extra-anatomical bypass 12例の検討
川崎医大附属川崎病院外科 福富経昌 ほか
- 4) Aortoiliac obstructionに対する
extra-anatomical bypass術の成績
～とくに直達術式との比較検討～
千葉大第一外科 安野憲一 ほか
- 5) AIODに対する非解剖学的血行再建の適応
富山医大第一外科 富川正樹 ほか
- 6) 腹部大動脈・腸骨動脈閉塞に対する
extra-anatomical bypass 18例の検討
大阪大第一外科 安達盛次 ほか
- 7) Axillo-femoral bypass術症例の検討
都立広尾病院心血管外科 前村大成 ほか
- 8) Extra-anatomical bypass例の検討
東大第一外科 大橋重信 ほか
- 9) 大動脈・腸骨動脈閉塞に対する
extra-anatomical bypass
～poor risk症例の適応について～
旭川医大第一外科 笹嶋唯博 ほか
- 10) 四肢閉塞性動脈疾患に対する
extra-anatomical bypass 術の検討
北大第二外科 安田慶秀 ほか
- 11) 腹部大動脈・腸骨動脈閉塞に対する
extra-anatomical bypass の適応について
金沢大第一外科 吉田千尋 ほか
- 12) 腹部大動脈・腸骨動脈閉塞に対する
extra-anatomical bypass 手術例の検討
長崎大第一外科 福島建一 ほか
- 13) Extra-anatomical bypass 14例の検討
千葉市立病院外科 村上和 ほか
- 14) 腹部大動脈・腸骨動脈閉塞に対する
axillo-femoral bypass5例の検討
東北大第二外科 前山俊秀 ほか
- 15) Extra-anatomical bypassの適応について
京大第二外科 森敬一郎 ほか

- 16) Extra-anatomical bypass 15例の経験
京府医大第二外科 佐藤伸一 ほか
- 17) Axillo-femoral bypass術および
femoro-femoral bypass術後閉塞例の検討
筑波大外科 福田幾夫 ほか
- 18) Axillo-femoral bypass手術の適応について
岡山大三朝分院外科 河本知二 ほか
- 19) 腹部大動脈・腸骨動脈閉塞手術 (ASO)最近3年間の検討
国立福岡中央病院心血管外科 田代豊一 ほか
- 20) 腹部大動脈・腸骨動脈閉塞に対する
extra-anatomical bypass術の適応
山口大第一外科 倉田悟 ほか
- 21) Axillo-femoral bypassの功罪
兵庫県立尼崎病院外科 池田正尚 ほか
- 22) Extra-anatomical bypass (下肢)の成績と合併症
九大第二外科 岡留健一郎 ほか
- 23) 腹部大動脈・腸骨動脈閉塞に対する
extra-anatomical bypass 25例の検討
東京医大外科 小西正樹 ほか
- 24) Axillo-femoral bypassの検討、とくに合併症について
久留米大第二外科 中山陽城 ほか
- 25) 腹部大動脈・腸骨動脈閉塞に対する
extra-anatomical bypass手術
名大第一外科 長嶋孝昌 ほか
- 26) Femoro-femoral bypassにまつわる術後の諸問題
熊大第二外科 早川宏 ほか
- 27) 間歇性跛行肢に対するF-Fバイパス
名大分院外科 松原純一 ほか
- 28) 術後、steal現象を起こした
cross-over femoro-femoral bypassの2例
大阪市大第二外科 塚本泰彦 ほか
- 29) 大腿・大腿動脈バイパス10例の検討
昭和大大外科 吉沢綱人 他
- 30) Extra-anatomic大腿・大腿バイパス手術経験と問題点
横浜市大第一外科 相馬民太郎 ほか
- 31) 再手術を重ねたF-Fバイパスの1例
東医歯大第一外科 山田武男 ほか
- 32) Axillo-femoral bypassおよび
femoro-femoral bypassの経験
新生会第一病院外科 細井正晴 ほか
- 33) 大動脈炎に伴った腸骨動脈尿管瘻に対する
femoro-femoral bypass
慈恵医大第一外科 赤羽紀武 ほか
- 34) Axillo-femoral bypass閉塞例の臨床的検討
大阪大第二外科 大城孟ほか

統括発言 前千葉大第一外科教授 伊藤健次郎

第11回
会長



大城 孟 先生

(所属医局) 大阪大学医学部 第二外科学教室

第11回血管外科研究会の概要

〈会期〉1983年4月5日
 〈会場〉大阪市 大阪フェスティバルホール
 (毎日国際サロン)
 〈主題〉人工血管移植後合併症に
 対する対策

〈プログラム〉

I 各種合併症とその対策

- 1) 人工血管移植後合併症の対策
 東京医歯大第一外科 村岡幸彦 ほか
- 2) 人工血管移植後合併症とその対策
 岐阜大第一外科 松本興治 ほか
 追加発言①人工血管移植後の合併症例の検討
 神戸大第二外科 向原伸彦 ほか
 追加発言②人工血管移植術と術後合併症
 京都府立医大第二外科 佐藤伸一 ほか

II 感染とその対策 (その1)

- 3) 人工血管移植後感染症に対する予防と対策
 岡山大第二外科 清水康廣 ほか
- 4) 教室における血行再建術後感染とその対策
 浜松医大第二外科 神谷隆 ほか
- 5) 合成血管グラフト感染予防上の一対策
 ~Heyer-Schulte Flat Suction Drainの使用経験~
 新日鉄八幡製鉄所病院外科 森彬 ほか
 追加発言③移植代用血管の感染に対する治療経験
 山口大第一外科 倉田悟 ほか
 追加発言④治療困難な末梢動脈瘤の一経験例
 北海道大第一外科 真鍋邦彦 ほか

III 感染とその対策 (その2)

- 6) 人工血管の感染とその対策
 横浜市立大第一外科 蔵田英志 ほか
- 7) 鼠径部人工血管感染に対する非解剖学的側方経路
 による腸骨~浅大腿動脈バイパス術
 鳥取大第二外科 伊藤勝朗 ほか
- 8) 人工血管移植後の吻合部動脈瘤および
 グラフト感染とその対策
 九州大第二外科 岡留健一郎 ほか
- 9) Sartorius muscle flap法による
 露出人工血管創の閉鎖手術について
 国立循環器病センター血管外科 中島伸之 ほか

- 追加発言⑤感染を伴った破裂性左総腸骨動脈瘤の治療
 ~Femoro-Femoral crossover bypass,
 Axillo-Femoral bypass 閉塞後の Ascending
 aorta-bilateral femoral bypassの経験~
 弘前大第一外科 高谷俊一 ほか
 追加発言⑥感染部グラフトとしての
 自家大伏在静脈の使用経験
 富山医薬大第一外科 永井晃 ほか
 誌上発表 (i) 上行大動脈~両側総大腿動脈バイパス術
 に合併した縦隔炎の一治験例
 兵庫県立姫路循環器病センター
 心臓血管外科 鶴田宏明 ほか
 誌上発表 (ii) 腹部大動脈瘤術後の熱発について
 京都大第二外科 森敬一郎 ほか

IV 縫合不全とその対策

- 10) 吻合部破裂防止のための縫合法
 岡山大三朝分院外科 古元嘉昭 ほか
- 11) 吻合部動脈瘤の予防と対策
 ~腹部大動脈瘤手術例について~
 北海道大第二外科 佐久間まこと ほか
- 12) 解離性大動脈瘤人工血管置換術後の
 吻合部縫合不全と教室における対策
 大阪大第一外科 安達盛次 ほか
- 13) 解離性大動脈瘤における
 術後合併症に対する手術手技上の対策
 札幌医大胸部外科 佐々木孝 ほか
- 14) 大動脈における人工血管置換または
 バイパス手術後の合併症と対策
 筑波大臨床医学系外科 井島宏 ほか

V 狭窄・閉塞とその対策

- 15) 人工血管移植早期及び中期閉塞の予防
 群馬大第二外科 安斉徹男 ほか
- 16) 人工血管移植後晩期吻合部狭窄の検討
 旭川医大第一外科 稲葉雅史 ほか
- 17) 人工血管吻合部狭窄に対するバルーン拡張法の有用性
 富山医薬大第一外科 富川正樹 ほか
 追加発言⑦大動脈腸骨、動脈閉塞症術後の晩期閉塞に対し
 その都度3回再血行再建を施行した2症例
 東京大第二外科 秋元滋夫 ほか
 追加発言⑧人工血管閉塞の予防
 ~抗血小板療法の見直し~
 大阪大第二外科 大城孟 ほか

VI 内臓合併症とその対策

- 18) 腹部大動脈瘤術後腸管虚血予防のための
 術中下腸間膜動脈断端血圧測定について
 兵庫医大胸部外科 岡良積 ほか
- 19) 血行再建後の腸管虚血について
 ~病態生理、虚血の判定と対策~
 東京大第一外科 重松宏 ほか
 追加発言⑨腹部大動脈人工血管移植における
 術後腸閉塞の特殊性と対策
 金沢大第一外科 浦山博 ほか
 追加発言⑩腸骨動脈再建に起因した
 尿管通過障害について
 慈恵医大第一外科 氏家久 ほか
 誌上発表 (iii) 吻合部動脈瘤の消化管穿通例
 福島医大第一外科 猪狩次雄ほか
 誌上発表 (iv) 腹部大動脈瘤切除後の
 感染グラフトの1例
 千葉大第一外科 安野憲一 ほか

第11回血管外科研究会

第11回会長 大城孟 (おおしろクリニック)

第11回血管外科研究会は昭和58年(1983年)4月5日(18:15~20:00)大阪フェスティバルホールE会場で施行しました。講演発表は90分とし、1演題4~5分(討論を含む)で、18~22題を予定(一部不明)、応募件数は30題近くもあり選択に難渋しましたが、教室研究医の意見を入れ若手発表者を優先しました。司会は失礼ながら助手の身分に過ぎない私が行い、進行も私が行いました。講演の20時終了が厳しい約束であったからです。研究会とは話しやすく聞きやすく実のある勉強会であることが必須なのですが、身内から「まあまあでしたね」と言われ「サンキュー、サンキュー、おおきに・・・」と小声で返礼したことを覚えています。

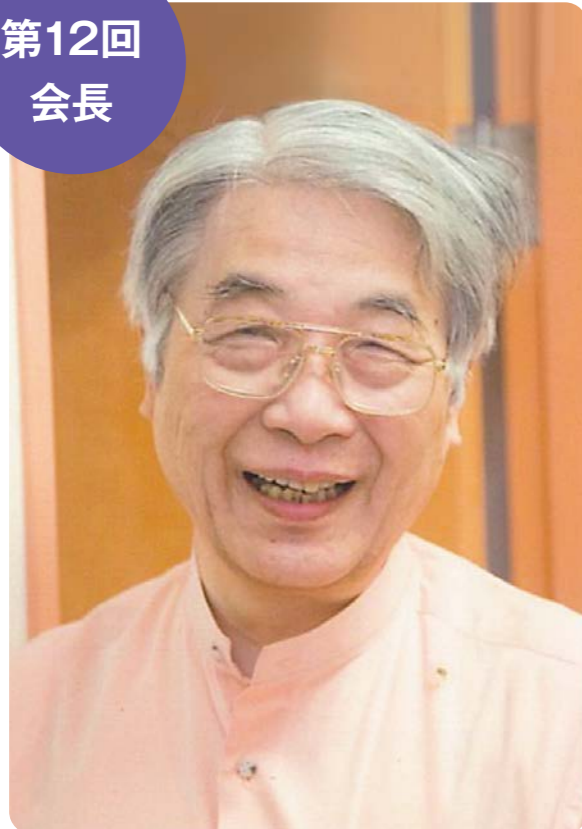
以下はお粗末な研究会運営の言訳です。

私の血管外科スタートは母校第二外科(消化器)に入局、久留勝教授後の陣内伝之助教授提案の肝移植研究室へいの一入入室です。実験途中、微小血管外科技術修得目的で米国留学、帰国後、血管疾患外来新設に伴い同担当、肝移植研の村上文夫助教授の指導を受け、昭和47年デュルガー病研究班に同時参加したことで始まります。当時第二外科は、胃・大腸・食道等癌グループが主体で別に甲状腺・乳腺各癌グループがあり、血管グループは異質の型で誕生したのです。次いで神前五郎教授時代になりますと、教室は更に癌疾患一色となり入局者で血管疾患を希望する人は皆無(第一外科は心臓血管外科)、そこに村上助教授の突然のご逝去が重なり私としては失望極まりました。しかし、ここは旧移植研若手面々の手助けがあり何とか腹部大動脈瘤手術等も行えたのですが症例は少なく、学会発表は当時では希少な膠原病や血管腫瘍など織り交ぜての対処でした。そこで已むなく毛色の違う分野の研究を始めたのです。その一つがウロキナーゼ固定化静脈内留置カテーテル、もう一つが溶血性

腎障害防止ハプトグロビン療法でいずれも血管外科の臨床経験を糧に誕生した研究成果の賜物なのですが、同研究会(学会)のテーマではなく発表の機会がなかったのが残念です。こうした時期に研究会開催を仰せ付かったのですが、この一週間は第83回日本外科学会(4月5日~7日)が阪大第二外科主催(会長:神前教授)で、また第21回日本医学会総会(4月8日~10日)が阪大医学部主催で行われ、当教室医局員は多忙を極め私も借りだされる始末でした。ですから予定の挨拶依頼先生も神前会長(3月で停年退職)の立場を考慮し付き切り、多数の教授が出席する血管外科の研究会は私の全責任で行う羽目になったのです。実はこの研究会は教室の外科学会実行委員会では日本外科学会の行事とは別の勉強学会という立場と決まっていたので已むを得なかったのです。

言訳は無意味と知りつつ長く私の胸中に漂う血管外科研究会への失礼をこの機会に深謝し併せて第11回同研究会の報告と致します。

第12回 会長



熊田 馨 先生

〈所属医局〉京都大学第二外科

第12回血管外科研究会の概要

〈会期〉1984年3月29日

〈会場〉京都ホテル

〈主題〉他領域における医原性血管損傷
—その機転と血管外科的処置—

〈プログラム〉

序文とまとめ 京都大第二外科 熊田馨

- 1) 医原性血管損傷
愛知県立尾張病院外科 池澤輝男 ほか
- 2) 術中血管損傷に対する血管外科的処置の経験と結果
富山医科薬科大第一外科 上山武史 ほか
- 3) 他領域における医原性血管損傷に対する止血および
血行再建術の検討
札幌医科大第二外科 数井暉久 ほか
- 4) 医原性血管損傷の治療経験
東海大第一外科 金淵一雄 ほか
- 5) 整形外科手術と腸骨静脈損傷
旭川医科大第一外科 小窪正樹 ほか
- 6) 椎間板ヘルニア髄核摘出術と大動脈下大静脈瘻
東京慈恵会医科大第一外科 赤羽紀武 ほか
- 7) 頸椎腫瘍摘出と右鎖骨下動脈損傷
兵庫医科大第胸部外科 青木啓一 ほか
- 8) Plastic cementの重合熱による大腿深動脈瘻
厚生会高津病院外科 柿木英佑 ほか
- 9) スピードトラックの牽引療法により生じた
下肢動脈閉塞症の1症例
洛和会丸太町病院外科 佐藤伸一 ほか
- 10) 創外固定用スタインマンピンと浅大腿動脈損傷
横浜市立大第一外科 蔵田英志 ほか
- 11) 非血管外科領域における医原性血管損傷に対する
わが国の治療経験
神戸大第二外科 太田稔明 ほか
- 12) 小児の動脈カテーテル法と急性動脈閉塞症
東北大第二外科 佐々木久雄 ほか
- 13) 小児大腿穿刺と大腿動脈瘻
済生会八幡病院外科 森山正明 ほか
- 14) 心血管造影後の仮性動脈瘤
—大動脈炎と大腿動脈穿刺後仮性動脈瘤
熊本大第二外科 土井口幸 ほか
- 15) 第VIII因子阻害物質非血友病と大腿動脈穿刺
旭川医科大第一外科 小窪正樹 ほか
- 16) 血液透析と上腕動脈仮性動脈瘤
日本大第二外科 根岸七雄 ほか
- 17) 右大腿動脈セルジンガー法と肺塞栓症
山口県立中央病院外科 倉田悟 ほか

- 18) 心臓カテーテル施行後上腕動脈閉塞と血行再建
山口大第一外科 善甫宣哉 ほか
- 19) 内頸静脈穿刺により発生した右鎖骨下動脈仮性動脈瘤と
大動脈弁閉鎖不全症の一治験例
天理よろづ相談所病院心臓血管外科 米田正始 ほか
- 20) 動脈カテーテル法と大動脈壁損傷
昭和大外科 道端哲郎 ほか
- 21) 胃癌手術と肝動脈損傷
東京医科歯科大第一外科 村岡幸彦 ほか
- 22) 臍頭十二指腸切除と総肝動脈壁の変性壊死
日鋼記念病院外科 辻寧重 ほか
- 23) 総肝管空腸吻合と右肝動脈損傷
滋賀医科大第二外科 平野正満 ほか
- 24) 胆膵系手術と血管損傷
福岡八木厚生会病院外科 八木博司 ほか
- 25) 肝切除時の肝静脈損傷に対する血管外科的対策について
名古屋保健衛生大第二病院外科 坂野哲哉 ほか
- 26) 腎動静脈瘻と上腸間膜動静脈瘻
金沢大第一外科 浦山博 ほか
- 27) 悪性睾丸腫瘍根治手術と腹部大動脈感染、破裂
北海道大第二外科 安田慶秀 ほか
- 28) 移植腎感染と右総腸骨動脈感染性動脈瘤
昭和大外科 道端哲郎 ほか
- 29) 胸部腫瘍切除と動脈損傷
筑波大付属病院呼吸器外科 鬼塚正孝 ほか
- 30) 動脈カテーテル法と胸部大動脈解離
いわき市立総合磐城共立病院心臓血管外科
井口篤志 ほか
- 31) カテーテルガイドワイヤーによる
下行大動脈急性解離の1例
福岡大心臓外科 滝沢佐武郎 ほか
- 32) 気縦隔造影と無名静脈大動脈穿通
大分県立病院胸部血管外科 山内秀人 ほか
- 33) 胸膜外充填術後に起こった
胸部下行大動脈穿孔に対する動脈空置術の1例
熊本大第一外科 金子泰史 ほか
- 34) 放射線潰瘍と血管破綻
岡山大第二外科 白井由行 ほか
- 35) 放射線潰瘍による右大腿動脈破綻
名古屋大第一外科 伊佐治彰之 ほか
- 36) 持続動注に起因した感染性動脈瘤の1例
京都府立医科大第二外科 白方秀二 ほか
- 37) 体外循環合併症としての前脛骨区画症候群
鳥取大第二外科 伊藤勝朗 ほか

第12回血管外科研究会

第12回会長 熊田馨

私はインターン後昭和35年入局で、血管外科を習ったのは木村忠司教授(バッドキアリ症候群膜様閉鎖用指裂開術)の命令で昭和44年政府交換留学生として、Fontaine教授を訪ねてからです。46年に教室へ帰ってから12年ばかり症例集めに努めていましたが、他大学・他病院に並ぶことは到底及ばなかったと記憶しております。日笠頼則教授の指導に応えられなかったのは悔いるばかり。そんな血管外科については殆ど新人の私が昭和59年に本研究会の担当を命じられたのは、日笠頼則教授が同年3月29～31日に日本外科学会を担当された地縁によるものと心得ております。

主題は「他領域における医原性血管損傷—その機転と血管外科的処置—」で、応募は37題。損傷件数は、手術その他の治療と合併したもの72、穿刺カテーテル法など検査に合併したもの70、計142件でした。

さて当時は診療に伴う血管損傷と云えば一般的な注意義務に違反した過失と取られかねないこともありましたが、このようなものは診療過誤であって合併症ではありません。今回集め得た損傷は診断治療の容易ならざる経過中、高度の診療手技に伴う合併症であって、その回避の可能性はcontroversyの対象になるものでした。

「脈管学1984, vol 24 Supplement」に在る演者や見知った氏名をみると懐かしさに胸が熱くなります。そんなことで、演者と、知る限りの先生方の氏名を余白の許す限り挙げさせていただきます。

池澤輝男、長谷川洋、前田正司、中神一人、仲田幸文。上山武史、富川正樹、永井晃、横川雅康、橋本英樹、明元克司。数井暉久、渡辺視安、佐々木孝、上田睦、小松作蔵。金淵一雄、小出司郎策、小川純一、井上宏司、川田志明、正津晃。小窪正樹、久保良彦、笹嶋唯博、和泉裕一、稲葉雅史、佐藤綾子、森本典

雄、鮫島夏樹。赤羽紀武、氏家久、梅沢和正、三浦金次、巷野道雄、山本敬雄、櫻井健司。青木啓一、田中誠、村田紘崇、川原勝彦、大橋博和、岡良積、山下克彦、吉田哲人、北井公二、村田透、寺井浩、宋秀男、小浜正博、八百英樹、安岡高志、宮本巍、牧浦正之、円尾宗司。柿木英祐、上道哲。佐藤伸一、白方秀二、中路進、岡隆宏。蔵田英志、近藤治郎、相馬民太郎、井元清隆、戸部道雄、星野和実、尾崎直、松本昭彦、佐藤順、河野光紀、安達隆二、梶原博一。太田稔明、岡田昌義、西脇正美、向原伸彦、兼清照久、安岡俊介、小沢修一、松田昌三、中村和夫、橋本行。佐々木久雄、前山俊秀、大熊恒郎、市来正隆、大原到、葛西森夫。森山正明、福田篤志、福田幹、井上文夫、千葉武彦、綾部欣司。土井口幸、早川宏、竹口東一郎、山下裕也、藤野昇、幸村克典、赤木正信。小窪正樹、久保良彦、笹嶋唯博、和泉裕一、稲葉雅史、佐藤綾子、森本典雄、鮫島夏樹。根岸七雄、奈良田光男、山口哲生、大森一光、萩原秀男、尾崎俊造、中岡泰、岡本育生、中村士郎、村松高、畑博明、前田英明、瀬在幸安。倉田悟、本郷碩、永島浩、藤井政昭、篠崎卓雄、中安清、近藤直嗣、大藤芳。善甫宣哉、江里健輔、大原正己、兼定博彦、野間史仁、西山利弘、野村真一、毛利平。米田正始、三木成仁、楠原健嗣、松本雅彦、上田裕一、大北裕、田畑隆文。道端哲郎、高場利博、山本登、舟波誠、山田真、堀豪一、石井淳一。村岡幸彦、寺本研一、山田武男、佐藤彰治、岩井武尚、星和夫。辻寧重、西村昭男、安田隆義、山下邦泰。平野正満、山本明、田中久富、佐藤功、肥後昌五郎、森渥視、岡田慶夫。八木博司、隅田幸男、瀬尾洋介。坂野哲哉、木村忠広、水野照久、北山太郎、瀬戸明、松本純夫、野本信之助、吉崎聰。浦山博、船木芳則、酒徳光明、森善裕、飯田茂穂、渡辺洋宇、岩喬、瀬川安雄。安田慶秀、佐久間まこと、合田俊宏、枝沢寛、松波己、高橋基夫、早坂真一、酒井圭輔、田邊達三。道端哲郎、高場利博、山本登、舟波誠、井上恒一、堀豪一、石井淳一。鬼塚正孝、村山史雄、中川晴夫、遠藤

勝幸、赤萩栄一、井島宏、三井清文、堀原一。井口篤志、開沼康博、李好七、石井正三、府川修、相原坦道。滝沢佐武郎、穴井賢能、助広俊吾、渋谷尚郎、浅尾学。山内秀人、内山貴亮、南寛行、山岡憲夫、本田裕崇。金子泰史、後藤平明、多田隈和雄、川口英敏、宮内好正。白井由行、今脇節郎、松前大、今吉英介、白川和豊、清水泰廣、内田發三、寺本滋。伊佐治彰之、長嶋孝昌、市川敏男、彦坂行男、池沢輝男、名和久、桂川兼行、伊藤博文、田中正鐸、松崎安孝、弥政洋太郎、鳥居修平。白方秀二、橋本宇史、村山祐一郎、北浦一弘、中路進、佐藤伸一。伊藤勝郎、田中孝一、小川正男、黒田弘明、岡野一廣、荒木威。原宏、森透。(敬称略)

会の後にはお世話になった同門の方々にお礼を申し上げるのが通例ですが、現在まで余り感謝を表明した実感がありません。50周年にいただいた此の機会に、同門の先輩 故 松田晉先生、また、故竹中正文、故 武内勝美、町塚昭、片岡三朗、藤井一寿、森川茂廣、福井潔、賀集一平、村澤賢一、松田香苗(敬称略)ら諸兄には、遅ればせながら改めてお礼申し上げます。

いま思い出しましたが、三島先生から、来日中のPeiper先生のお相手をするよう耳打ちされていたので、即席に参加して貰い最後にコメントを乞いました。とても愛想よく、的を射たコメントだったと、感心したおぼえがあります。

第13回 会長



星野 俊一 先生

〈所属局〉福島県立医科大学第一外科

第13回血管外科研究会の概要

〈会期〉1985年4月3日

〈会場〉仙台市 仙台東急ホテル

〈主題〉吻合部動脈瘤

〈プログラム〉

I) 吻合部動脈瘤の発生頻度、成因および診断 —発生頻度、成因および診断について—

- 1: 吻合部動脈瘤の検討
北海道大第二外科 佐久間まこと ほか
- 2: 吻合部動脈瘤の原因についての検索
東京医科歯科大第一外科 佐藤彰治 ほか
- 3: 大動脈吻合部動脈瘤症例の検討
岡山大第二外科 清水康廣 ほか
- 4: 吻合部仮性動脈瘤発症に関する一考察
富山医科薬科大第一外科 富川正樹 ほか
- 5: 吻合部動脈瘤の2例
北海道大第一外科 川向裕司 ほか
- 6: ドップラ断層による吻合部動脈瘤の診断
—特に吻合破綻部位同定に関して—
埼玉医科大学第一外科 高本眞一 ほか

II) 代用血管、縫合糸との関連

- 1: 吻合部動脈瘤の発生と人工材料
東北大第二外科 佐々木久雄 ほか
- 2: 吻合部動脈瘤(代用血管、縫合糸との関連)
横浜市立大第一外科 熊本吉一 ほか
- 3: 吻合部仮性動脈瘤の検討
—特に胸部仮性大動脈瘤症例を中心に—
札幌医科大学胸部外科 山田修 ほか
- 4: Dacron-Biograft吻合部仮性動脈瘤形成の1例
国立循環器病センター心臓血管外科 上村重明 ほか

III) 吻合部動脈瘤の手術—術式および手技—

- 1: 吻合部動脈瘤10例の検討
東海大第一外科 金淵一雄 ほか
- 2: 過去5年間に経験した吻合部動脈瘤7例の検討
東京大第一外科 大橋重信 ほか
- 3: 非解剖学的バイパス術後の吻合部動脈瘤の検討
熊本大第二外科 山下裕也 ほか
- 4: 吻合部仮性動脈瘤の5例
大阪大第二外科 大城孟 ほか
- 5: 吻合部動脈瘤
名古屋大第一外科 向山博夫 ほか

- 6: 末梢側吻合部に感染を伴った
胸部下行大動脈吻合部動脈瘤の1例 経験
—大動脈炎症候群に対する
下行大動脈左内頸動脈バイパス手術後—
東京大第二外科 進藤俊哉 ほか
- 7: 左総腸骨動脈吻合部に発生した
仮性動脈瘤切迫破裂の1例
兵庫医科大学胸部外科 村田紘崇 ほか
- 8: 吻合部動脈瘤手術の工夫
福島県立医科大学第一外科 猪狩次雄 ほか
- 9: 吻合部仮性動脈瘤7例の検討
名古屋大分院外科 山田育男 ほか
- 10: 膝窩動脈瘤切除・人工血管置換術後
約7ヶ月目に発症した吻合部動脈瘤の一若年男子例
筑波大附属病院外科 寺田康 ほか
- 11: Extra-anatomic bypassにより救命しえた
吻合部動脈瘤の1例
神戸大第二外科 西脇正美 ほか
- 12: 大腿動脈吻合部動脈瘤に対する閉鎖孔バイパスの経験
都立広尾病院心臓血管外科 永瀬裕三 ほか
- 13: 鼠径部吻合部感染性仮性動脈瘤の2例
—下肢保存のための血行再建の方法—
慈恵医科大学第一外科 氏家久 ほか

IV) 吻合部動脈瘤予防のための工夫

- 1: 吻合部動脈瘤
—その予防法としての
吻合部Dacron felt wrappingの有用性—
九州大第二外科 岡留健一郎 ほか
- 2: Bentall手術後の吻合部動脈瘤の予防対策
東京女子医科大学心臓血管研究所循環器外科
清野隆吉 ほか
- 3: 末梢動脈再建における吻合部動脈瘤の検討
旭川医科大学第一外科 笹嶋唯博 ほか
- 4: 吻合部動脈瘤の検討
久留米大第二外科 中山陽城 ほか
- 5: 大動脈疾患に対する人工血管移植後
遠隔期吻合部仮性動脈瘤発生防止のための工夫
いわき市立総合磐城共立病院心臓血管外科
開沼康博 ほか
- 6: 吻合部動脈瘤発生予防法—中樞側吻合法について—
山口大第一外科 中野秀磨 ほか
- 7: 当科における吻合部動脈瘤の経験と対策
千葉大第一外科 山本和夫 ほか

第13回血管外科研究会

福島県立医科大学心臓血管外科同窓会会員 岩谷文夫

第13回血管外科研究会は昭和60年(1985年)4月3日(第85回日本外科学会1日目)、午後6時より、仙台市、仙台東急ホテルにて開催されました。

世話人は、故星野俊一先生(当時福島県立医科大学第一外科助教授)(平成30年(2018年)3月11日死去)でした。

この会はセミクロズドで、外科学会開催地の若手研究者が当番として、会の世話をすることになっていました。

主題は「吻合部動脈瘤」でした。発表者を列挙しますと、

Iの「吻合部動脈瘤の発生頻度、成因および診断」では

北海道大学第二外科 佐久間まこと 先生
東京医科歯科大学第一外科 佐藤彰治 先生
岡山大学第二外科 清水康廣 先生
富山医科薬科大学第一外科 富川正樹 先生
北海道大学第一外科 川向裕司 先生
埼玉医科大学第一外科 高本眞一 先生

IIの「代用血管、縫合糸との関連」では

東北大学第二外科 佐々木久雄 先生
横浜市立大学第一外科 熊本吉一 先生
札幌医科大学胸部外科 山田修 先生
国立循環器病センター心臓血管外科
上村重明 先生

IIIの「吻合部動脈瘤の手術—術式及び手技」では

東海大学第一外科 金淵一雄 先生
東京大学第一外科 大橋重信 先生
熊本大学第二外科 山下裕也 先生
大阪大学第二外科 大城孟 先生
名古屋大学第一外科 向山博夫 先生

東京大学第二外科 進藤俊哉 先生
 兵庫医科大学胸部外科 村田紘崇 先生
 福島県立医科大学第一外科 猪狩次雄 先生
 名古屋大学分院外科 山田育男 先生
 筑波大学付属病院外科 寺田康 先生
 神戸大学第二外科 西脇正美 先生
 都立広尾病院心臓血管外科 永瀬裕三 先生
 慈恵医科大学第一外科 氏家久 先生

IVの「吻合部動脈瘤予防の為の工夫」では
 九州大学第二外科 岡留健一郎 先生
 東京女子医科大学心臓血管研究所
 循環器外科 清野隆吉 先生
 旭川医科大学第一外科 笹嶋唯博 先生
 久留米大学第二外科 中山陽城 先生
 いわき市立総合磐城共立病院心臓血管外科
 開沼康博 先生
 山口大学第一外科 中野秀磨 先生
 千葉大学第一外科 山本和夫 先生

このように主題の吻合部動脈瘤を4つのセクションに分け、発表者数は総勢30名でした。今見てもそうそうたるメンバーが名を連ねています。この7年後に血管外科研究会は日本血管外科学会としてスタートすることになりますが、発表者を見ただけでも、すでに当時の血管外科医の意気込みと熱気が伝わってくる感じがします。世話人を務められた星野俊一先生は会に於ける『序文とまとめ』の中で、「演題発表時間が1～5分ときびしい制約となったが——」と述べられ、30題の演題を午後6時開始の会でどうしたら発表、討論できるかで頭を悩まされたと思います。1分の発表になった先生のビックリした顔が目につきます。

星野俊一先生はこの4年後の平成元年4月に福島県立医科大学心臓血管外科学の初代教授に就任されました。教授になられてからも心臓血管外科領域において、多くの業績を残され、平成9年

(1997年)には第25回日本血管外科学会総会を福島市にて主催されました(別記)。

ここでは「先生とゴルフ」について少しエピソードなども織り交ぜながらご紹介いたします。

星野先生のゴルフ好きは心臓血管外科仲間の間でも有名でしたが、若いころは情熱に加えて体力もありましたから、周りは大変でした。土曜日の夜に臨時手術が入り、徹夜での手術が終わると、疲れも見せずに「さあ、これから行くぞ」とゴルフに誘われます。この頃の先生は自他ともに許す「飛ばし屋」でその力感あふれるフォーム(写真1)は世界的なプロゴルファー、米国のリー・トレビノ(メジャー優勝6回)に似ているので、私たちは『トレビノおじさん』と呼んでいました。私は大学の準硬式野球部で先生の10年後輩にあたりますが、「野球では負けるけど、ゴルフは俺のほうが飛ばすな」と威張られたものでした(写真2)。



(写真1)星野俊一先生の豪快なショット。(トレビノおじさん)



(写真2)星野俊一先生と筆者(永久スクラッチの約束でした。)



(写真3)前列中央に阪口周吉先生。右隣りに星野俊一先生。左隣りに「O」さん。

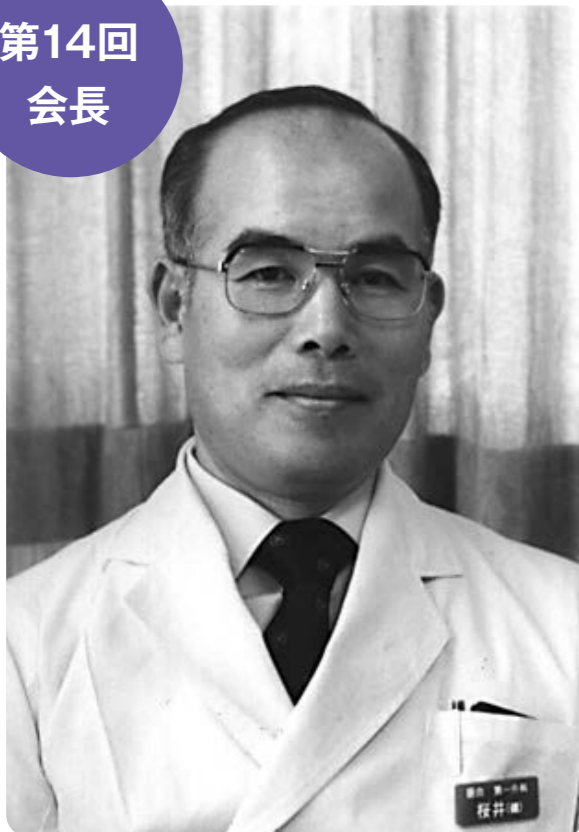
教授になられてからは、新人医局員が入ると「ゴルフは年をとっても楽しめるスポーツだからすぐ始めなさい」とゴルフセットをプレゼントするほどでした。年末は忘年ゴルフと称し、2日間にわたって順位を競う星野杯があり(奥様達には一寸不評でしたが——)、医局員にとっては、ゴルフもさることながら、1年の仕事を終え、温泉につかり、ゆっくり手足を伸ばせる、ぜいたくな至福のひと時でした。

また研究会や講演会などで講師の先生をお招きした時は、その後ゴルフをされる先生も多く、私もご一緒させていただきました。私にとってはゴルフを通じて先生方のお人柄に触れる良い機会でもありました。たくさん先生のゴルフが思い浮かびますが、星野先生に負けず劣らずのゴルフ好きは当時浜松医科大学の副学長をされていた、故阪口周吉先生でした。星野先生も阪口先生とのプレーを楽しみにされ、何度も福島にお招きしました(写真3)。その際には同伴競技者として福島では有名なアマ

チュアゴルファーの『Oさん』もお呼びすることが多く、阪口先生もまた、『Oさん』に教を乞うのを楽しみにされていました。そばで聞いているとその質問は微に入り細にわたり、ラウンド中も尽きることはありませんでした。今でもその光景が目につかなくもありません。星野先生、阪口先生そしてOさんもすでに故人とされましたが、多くの血管外科医の先生方とのゴルフを通しての交流は私にとりまして大きな財産となっています。今回、日本血管外科学会の学会記を書かせていただく貴重な機会をいただきましたが、この場をお借りして、星野先生をはじめ亡くなられた血管外科の礎を築いてこられた諸先生に感謝と哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈りしこの稿を閉じることにいたします。

(令和3年7月25日)

第14回
会長



櫻井 健司 先生

(所属医局) 東京慈恵会医科大学第一外科

第14回血管外科研究会の概要

〈会期〉1986年4月2日

〈会場〉東京都 郵便貯金会館

〈主題〉血管外科における
消化器合併症とその対策

〈プログラム〉

I) 血管・消化管瘻

- 1: 術後下行大動脈
一食道瘻を起こした解離性大動脈瘤 (IIa) の1例
筑波大附属病院外科 渡邊泰徳 ほか
- 2: 大動脈・消化管瘻の経験
川崎医大胸部心臓血管外科 金沢成雄 ほか
- 3: 腹部大動脈人工血管置換後の
腹部大動脈十二指腸瘻に関する検討
富山医科薬科大第一外科 富川正樹 ほか
- 4: 人工血管一十二指腸瘻形成の1治験例
札幌医大胸部外科 原田英之 ほか

II) 下腸間膜動脈 (IMA)、内腸骨動脈 (IIA) の再建、温存

- 1: 腹部大動脈瘤術後の消化管症状
京都府立医大第二外科 佐藤伸一 ほか
- 2: 腹部大動脈瘤手術の消化器合併症
一特に腸管虚血とIMA, IIAの再建を中心に
北海道大第二外科 佐久間まこと ほか
- 3: 腎動脈下腹部大動脈瘤に対する
人工血管置換術に際しての下腸間膜動脈再建の意義
鳥取大第二外科 應儀成二 ほか
- 4: 腹部大動脈再建における腸管阻血の予防
浜松医大第二外科 瀧原道東 ほか
- 5: 大腸虚血を考慮した
腹部大動脈瘤切除再建法について
東京大第一外科 重松宏 ほか
- 6: 腹部大動脈再建術後の消化器合併症防止対策
久留米大第二外科 今村明 ほか
- 7: 腹部大動脈瘤切除後の結腸虚血の発生要因について
東京大第二外科 佐藤紀 ほか
- 8: 腹部大動脈瘤手術における術後消化管合併症について
日鋼記念病院心臓血管外科 山田修 ほか
- 9: 腹部大動脈人工血管移植に伴う下部大腸阻血の検討
旭川医大第一外科 笹嶋唯博 ほか
- 10: 腹部大動脈瘤手術における消化器合併症とその対策
神戸大第二外科 山下長司郎 ほか
- 11: Aorto-bifemoral synthetic bypass (ASO) に
続発した重症下痢
琉球大第二外科 喜名盛夫 ほか
- 12: 腹部大動脈瘤切除後の結腸阻血
熊本大第一外科 古庄伸行 ほか

III. 血管外科と消化性潰瘍、出血

- 1: 腹部大動脈瘤および閉塞性動脈硬化症に対する
血行再建術 (経開腹) 後の上部消化管出血に関する
検討—H2blockerおよび制酸剤投与の効果と
術前胃液検査の意義
兵庫医大胸部外科 前田信証 ほか
- 2: 大血管手術患者における術後消化管出血の検討
国立循環器病センター心臓血管外科
安藤太三 ほか
- 3: 腹部大動脈瘤切除術後の
上部消化管出血合併例の検討
横浜市立大第一外科 梶原博一 ほか
- 4: 消化性潰瘍を合併する腹部大動脈瘤と
その対策について
北里大外科 根本晴 ほか
- 5: 血管外科術前胃内視鏡検査所見と消化器合併症
東京医歯大第一外科 山田武男 ほか
- 6: 末梢動脈疾患手術における消化器合併症と対策
兵庫県立尼崎病院外科 水野恵文 ほか
- 7: 血管外科手術後の
胃十二指腸潰瘍出血・穿孔について
岐阜大第一外科 松本興治 ほか
- 8: 腹部大動脈・腸骨動脈再建術後の
消化器合併症例の検討
山口大第一外科 大原正己 ほか
- 9: 腹部大動脈瘤術後、
ストレス潰瘍にMOFを併発した1例
日本大第二外科 根岸七雄 ほか
- 10: 血管手術後のストレス潰瘍の検討
岡山大第二外科 今脇節朗 ほか
- 11: 下肢血行再建術後虚血性腸炎および
十二指腸潰瘍出血を呈した1例
松戸市立病院循環器科 宇津見和郎 ほか
- 12: 血便のため手術時期を逸した
I型解離性大動脈瘤の1剖検例
福島県立医大第一外科 猪狩次雄 ほか

IV. 消化器疾患のある患者の管理と血管手術のタイミング

- 1: 動脈手術と消化器合併症
藤田保健衛生大第二病院外科 水野照久 ほか
- 2: 腹部大動脈瘤と消化器疾患同時手術の経験
昭和大藤が丘病院心臓血管外科 堀豪一 ほか
- 3: 胃癌を合併した腹部大動脈瘤の手術
山口県立中央病院外科 倉田悟 ほか
- 4: 肝硬変症、胆石症を伴った腹部大動脈瘤の1例
信州大第一外科 橋倉泰彦 ほか

V. その他

- 1: 腹部大動脈外科手術後の消化器合併症とその対策
特にBifurcated Graft術後
の麻痺性イレウスの原因と対策
山形大第二外科 倉岡節夫 ほか
- 2: 血管外科における術後肝機能異常の検討
金沢大第一外科 浦山博 ほか

- 3: 大動脈・腸骨動脈疾患と排便障害—Ogilvie症候群か
大阪大第二外科 大城孟 ほか
- 4: 腹部血管外科手術後の消化器合併症と対策
京都第一赤十字病院心臓血管外科
岩本恒典 ほか
- 5: 腹部大動脈瘤手術後の消化器合併症予防対策
大分医大第二外科 葉玉哲生 ほか
- 6: 腹部大動脈瘤根治術後の消化器合併症
一特に下痢の発現について
群馬大第二外科 飯島哲夫 ほか
- 7: 血管病変に併発した消化器合併症
青森労災病院外科 高橋賢二 ほか
- 8: 高位大動脈閉塞症手術後に
上腸間膜動脈性十二指腸閉塞症をきたした1例
愛媛大第一外科 平谷勝彦 ほか
- 9: 破裂性腹部大動脈瘤術後に発症した術後肺炎の1例
防衛医大第二外科 大塚八左右 ほか
- 10: 閉塞性黄疸を呈した腹部大動脈瘤の1治験例
広島大外科第二 福田康彦 ほか
- 11: 血管外科手術後にみられた術後胆嚢炎の2例
慈恵医大第一外科 氏家久 ほか

第14回血管外科学会について

慈恵医大昭和37年卒・当時慈大第1外科講師 赤羽紀武

1986年の血管外科学会の第14回とカウントされる会はまだ「血管外科学会」の時代でした。石川浩一、三島好雄先生などが始められ、東京近郊の大学の若手が多く参加する時代を先取りした会でした。血管外科症例検討会、limb Salvage研究会などの会がいろいろ行われ面白くなった時期でした。

第14回の血管外科学会は1986年4月2日に故・櫻井健司第一外科教授が世話人として東京の芝の郵便貯金会館で開催されました。研究会のテーマは消化器外科医でもあった櫻井健司先生らしく「血管外科における消化器合併症とその対策」でした。残念ながらプログラム、会場の写真は残っておりません。本学からは氏家久らが演題「血管外科手術後にみられた術後胆嚢炎の2例」を発表しております。

櫻井健司教授は第1外科に着任からまだ日が浅く、やや不慣れでしたが血管外科スタッフが鋭意サポートしました。会場は一つ、参加人数も約40名でした。スライドプロジェクターが1台しか用意がなく、ダウンして会場の係が慌てたエピソードがあったのを憶えています。



写真は櫻井健司先生が第40回日本消化器外科学会総会を開催された時のものです(1992年7月、於横浜市)

第15回
会長



川田 光三 先生

(所属医局) 慶應義塾大学医学部外科

第15回血管外科研究会の概要

〈会期〉1987年4月1日

〈会場〉東京都 ホテルニューオータニ・きり

〈主題〉吻合部合併症の反省と対策

—症例を中心に—

〈プログラム〉

- I 1) 著しい大動脈石灰化を伴うA-Cバイパス術時のグラフト
—大動脈吻合の一工夫について
川崎医科大学胸部心臓血管外科 佐藤正隆 ほか
- 2) Bentall手術後、
右冠動脈吻合部離開に対する再手術の1例
岩手医科大学第三外科 伊藤伊一郎 ほか
- 3) リング付きグラフトの
リング装着部位より出血死したTAA例
福島県立医科大学第一外科 猪狩次雄 ほか
- 4) 動脈硬化性胸部大動脈瘤手術中の急性大動脈解離の1例
都立広尾病院心臓血管外科 笹栗志郎 ほか
- 5) 縦隔炎に続発した吻合部動脈瘤の1例
青森労災病院外科 高橋賢二 ほか
- 6) 中枢側吻合部仮性動脈瘤
—食道瘻を形成した解離性大動脈瘤 (III b型) の1例
札幌医科大学胸部外科 泉山修 ほか
- 7) 解離性大動脈瘤の外科治療症例における
吻合部合併症と対策
東京女子医科大学心研循環器外科 土田弘毅 ほか
- 8) 解離性大動脈瘤 (Stanford A type) に対する
リング付きグラフト内没法の問題点
兵庫県立姫路循環器病センター心臓血管外科
中尾守次 ほか
- 9) 血管吻合部合併症の予防対策
神戸大学第二外科 辻義彦 ほか
- 10) 異型大動脈狭窄症 (Aortitis syndrome) に対する
胸腹部バイパス術後4年8か月の吻合部離開例について
済生会宇都宮病院心臓血管外科 木曾一誠 ほか
- 11) 大動脈瘤手術後の吻合部動脈瘤の手術経験
国立循環器病センター心臓血管外科 安藤太三 ほか
- II 1) 大動脈病変術後、吻合部合併症を生じた3例の経験
大阪大学第一外科 大久保修和 ほか
- 2) 中枢側吻合部破裂を繰り返した腹部大動脈瘤の1例
岡山大学第二外科 諸國眞太郎 ほか
- 3) ベーチェット病に合併した腹部大動脈瘤再建後の
大動脈十二指腸瘻の1例
岐阜大学第一外科 小池茂文 ほか

- 4) リング付きY字型人工血管による
腹部大動脈瘤の手術 (内没法)
山口県立中央病院外科 倉田悟 ほか
- 5) 吻合部合併症の反省と対策
北里大学外科 金城正佳 ほか
- 6) 大動脈血行再建術後の吻合部動脈瘤発生防止対策
久留米大学第二外科 浦口憲一郎 ほか
- 7) Intraluminal anastomosisによる
腹部大動脈再建の吻合部合併症防止効果
長崎大学心臓血管外科 黒岩正行 ほか
- 8) 腹部大動脈瘤手術時の
中枢側吻合部動脈瘤発生予防に関する工夫
富山医科薬科大学第一外科 横川雅康 ほか
- 9) 炎症性腹部大動脈瘤の術後吻合部動脈瘤に対する対策
北海道大学第二外科 菱山真 ほか
- 10) 余剰人工血管による吻合部wrappingについて
昭和大学外科 門倉光隆 ほか
- 3) 感染による吻合部破裂後Limb salvageした1症例
東京慈恵会医科大学第一外科 巷野道雄 ほか
- 4) 当科10年におけるグラフト吻合部合併症の検討
山形大学第二外科 西村和典 ほか
- 5) 吻合部動脈瘤の検討
東海大学第一外科 小出司郎策 ほか
- 6) 吻合部動脈瘤の2手術例
名古屋大学第一外科 岩塚靖 ほか
- 7) 非特異性炎症性疾患にみられた吻合部動脈瘤
旭川医科大学第一外科 和泉裕一 ほか
- 8) 拍動を触知しなかった鼠径部吻合部動脈瘤の1例
石川県立中央病院胸部心臓血管外科
遠藤将光 ほか
- 9) 大動脈パッチ形成術後に発生した仮性動脈瘤の1例
日本医科大学胸部外科 師田哲郎 ほか
- 10) 鼠径部に発生した吻合部動脈瘤の検討
山口大学第一外科 秋本文一 ほか

- III 1) 血行再建術後早期閉塞例からみた吻合部の諸問題
鹿児島大学第一外科 小代正隆 ほか
- 2) 吻合部狭窄による
Expanded polytetrafluoroethylene
人工血管晩期閉塞例の検討
京都府立医科大学第二外科 佐藤伸一 ほか
- 3) Axillo-femoral bypass 術後吻合部仮性内膜肥厚
による晩期閉塞をきたした2症例
兵庫医科大学胸部外科 前田信証 ほか
- 4) Ilio-femoral bypass graft 術後吻合部狭窄を
合併した閉塞性動脈硬化症例の問題点
大阪大学第二外科 上林純一 ほか
- 5) EPTFEグラフト吻合部静脈パッチの1症例
金沢大学第一外科 浦山博 ほか
- 6) Femoro-femoral bypass術後の吻合部動脈瘤
—その反省と対策
熊本大学第二外科 山下裕也 ほか
- 7) 閉塞したFemoro-femoral crossover bypass
吻合部位よりカテーテルが穿通した1例
東京医科大学外科 長江恒幸 ほか
- 8) 後腹膜Desmoid切除・外腸骨動脈再建術後吻合部狭窄
に対しバルーンによる拡張術を行った1例
防衛医科大学第二外科 志水正史 ほか
- 9) 大腿一膝窩動脈バイパスグラフト末梢側吻合部閉塞防止
策としての8mm knitted Dacronの試用と短期開存成績
筑波大学臨床医学系外科 井島宏 ほか
- 10) F-Pバイパス末梢側端々吻合の1例
東京医科歯科大学第一外科 佐藤彰治 ほか
- IV 1) 2度の吻合部動脈瘤をきたした人工血管感染の1例
佐賀医科大学胸部心臓血管外科 堀田圭一 ほか
- 2) 人工血管に感染を併発した3症例
群馬大学第二外科 飯島哲夫 ほか

第15回血管外科研究会と 川田光三先生の思い出

慶應義塾大学 外科学教室(心臓血管) 志水秀行

教室の先輩である川田光三先生が世話人として、日本血管外科学会の源流である血管外科研究会の第15回研究会を主催されたことは、私たち後輩にとって非常に誇らしく、大変有難く思っております。

当時の記録を見ると、研究会が開催された昭和62年4月1日(水)は第87回日本外科学会定期学術集会(慶應義塾大学 阿部令彦会長)の初日にあたり、当時は外科学会総会の夕方に併催される研究会という立ち位置だったことが分かります。今日の血管外科学会の隆盛を思うと、川田先生をはじめとする多くの先輩方の情熱と努力に改めて敬服する次第です。

さて、第15回研究会は、「血管外科における吻合部合併症の反省と対策—症例を中心に」を主題に掲げ、吻合部狭窄、閉塞、吻合部動脈瘤、吻合部感染に関して、宿主血管、代用血管、縫合材料、手術適応、手技、感染などさまざまな観点から発表・議論がなされました。正直なところ、私はまだ医師になりたての時期で、会に参加した記憶すらおぼつかないところですが、「41演題という予想以上の演題応募のために開始時刻を30分繰り上げ、熱い議論が交わされ、2時間半の活気溢れる研究会になった」と川田先生ご自身が総括しています。

川田光三先生は、井上正教授(当時)と共に慶應の大動脈外科を支え、大いに発展させた立役者であり、昭和56年に俳優 石原裕次郎氏の急性大動脈解離の手術を見事に成功させたことは有名です。当時の大動脈手術は今とは比べ物にならないほどハイリスクな手術でしたが、どんな状況でも沈着冷静に手術を進める姿は本当にカッコ良く、私を含め、後輩全員の憧れの的でした。卓越した手術

手技は学外にも広く知られ、他施設からの招聘もしばしばありました。私もカバン持ちとして何度か同行させて頂きましたが、手術後、夜遅くまで現地スタッフと反省会を行い、すっかりご機嫌になった川田先生とともにTAXIで1時間以上かけて東京に戻る車中でいろいろなお話を伺いました。プライベートではお酒と釣りが大好きで、アユ釣りのために伊豆半島の狩野川に良く出かけられていましたが、携帯電話もない時代ですから、慶應病院に急性大動脈解離の患者さんが運ばれてくると、釣り宿のご主人が川まで呼びに来るんだといった話をして下さいました。私はアユ釣りにお供させて頂く機会はありませんでしたが、同門の蜂谷貴先生とともに何度か海釣りにご一緒させて頂きました。

人格的にも非常に優れた先生で、医局長を5年間、同門会(刀林会)理事長を3年間務められ、1200名の同門会員を見事に束ねて下さいました。

慶應の大動脈外科は、川田先生から上田敏彦先生に引き継がれ、私は川田先生の孫弟子にあたります。川田先生は平成21年に他界されてしまいましたが、川田先生のお人柄、外科医としての姿勢、技術は、外科医の理想像として、今でもずっと私の心の中にあります。



宴会にて



浜名湖にて

第16回
会長



江口 昭治 先生

〈所属医局〉新潟大学医学部第二外科

第16回血管外科研究会の概要

〈会期〉1988年4月20日

〈会場〉新潟 有壬(ゆうじん)記念館

〈主題〉いわゆる治療困難疾患について

- ①リンパ浮腫
- ②先天性動静脈瘻

〈プログラム〉

- I 1) 下肢リンパ浮腫に対するkinmonth手術の経験
日鋼記念病院外科 辻寧重 ほか
- 2) Enteromesenteric bridge法の長期有効例
旭川医科大学第一外科 森本典雄 ほか
- 3) 上肢リンパ浮腫に対するMedgyesi手術の評価
大阪大学第二外科 上林純一 ほか
- 4) 左下肢続発性リンパ浮腫に対し
リンパ管静脈吻合術を行った1例
岐阜大学第一外科 小池茂文 ほか
- 5) 二次性リンパ浮腫に対する
リンパ節-静脈吻合術、リンパ節間静脈移植術
琉球大学第二外科 城間寛 ほか
- 6) 下肢リンパ浮腫に対するKondoleon-Sistrunk手術
岡山大学第二外科 武部晃司 ほか
- II 7) 一次性上肢リンパ浮腫に対する
Thompson手術後の皮弁辺縁部治癒不全について
山梨医科大学第二外科 秋元滋夫 ほか
- 8) Thompson手術に対する被術者の評価
京都第一赤十字病院心臓血管外科 岩本恒典 ほか
- 9) Thompson手術の病理学的検討
金沢大学第一外科 浦山博 ほか
- 10) リンパ浮腫に対するリポサクソン療法の経験
藤田学園保健衛生大学第二病院外科 山口仁 ほか
- 11) 治療に難渋した鼠径部リンパ瘻の1症例
浜松医科大学第二外科 藤田信 ほか
- 12) 鍼治療が有効であった外傷性右前腕リンパ浮腫の1例
筑波大学臨床医学系外科 井島宏 ほか
- 13) 二次性リンパ浮腫を伴った
腸骨動脈閉塞に対する血行再建の1例
東京医科大学外科 首藤裕 ほか
- III 14) 四肢・軀幹の先天性動静脈瘻の治験
鹿児島大学第一外科 小代正隆 ほか
- 15) Embolizationと切除の併用療法
愛知医科大学第二外科 数井秀器 ほか

- 16) 動脈閉塞術後10年経過した難治性先天性動静脈瘻の1例
山口大学第一外科 久我貴之 ほか
- 17) Klippel-Weber症候群の1治験例
北海道大学第二外科 成田吉明 ほか
- 18) 血管内塞栓療法による骨盤内巨大動静脈瘻の1治験例
千葉大学第一外科 鶴田好孝 ほか
- 19) 先天性動静脈瘻の2手術例
北里大学外科 金城正佳 ほか
- 20) 先天性動静脈瘻の2例
名古屋大学第一外科 錦見尚道 ほか
- 21) 先天性動静脈瘻に対する
塞栓術の効果と血管造影時のpitfall
名古屋第一赤十字病院外科 城所仁 ほか
- 22) 治療困難な先天性下肢動静脈瘻の1例
社会保険中京病院外科 近松英二 ほか
- 23) 治療に難渋した左上肢先天性動静脈瘻の1例
濁協医科大学第二外科 佐藤直毅 ほか

- IV 24) 生下時より23年間にわたり各種の治療に反応せず
再発憎悪を繰り返した骨盤・下肢巨大血管腫の1症例
京都大学第二外科 福井潔 ほか
- 25) 先天性動静脈瘻の1症例
岡山大学附属病院三朝分院外科 中尾俊彦 ほか
- 26) 20年の経過中に再発進展を繰り返した
難治性肩・上腕部先天性動静脈瘻の1例
神戸大学第二外科 千原久幸 ほか
- 27) 再々発をきたした三角筋内血管腫の1例
鳥取大学第二外科 伊藤勝朗 ほか
- 28) 四肢末梢の先天性動静脈瘻の2例
山形大学第二外科 阿部和男 ほか
- 29) Klippel-Trenaunay-Weber syndromeの44歳男性
に対し右深大腿動脈離断および右内腸骨動脈結紮術を
行った1症例
兵庫医科大学胸部外科 上田哲也 ほか
- 30) 難治性潰瘍を伴ったKlippel-Weber病の2例
藤田学園保健衛生大学第二病院外科 直江和彦 ほか
- 31) 潰瘍を有する足部先天性動静脈瘻例の検討
東京大学第一外科 重松宏 ほか
- 32) 先天性動静脈瘻-治療困難例の検討
長崎大学心臓血管外科 黒岩正行 ほか

- V 33) Klippel-Trenaunay-Weber 症候群2例の経験
—最適治療は?
川崎医科大学胸部心臓血管外科 近藤潤次 ほか
- 34) 心不全を伴うmicrofistulous typeの
Klippel-Trenaunay症候群に対する
flow reduction手術の経験
国立循環器病センター心臓血管外科 安藤太三 ほか
- 35) 股関節離断により完治した下肢先天性動静脈瘻の1例
国立福岡中央病院外科 古山正人 ほか
- 36) 先天性動静脈瘻の治療経験
富山医科薬科大学第一外科 横川雅康 ほか

- 37) 両側肺動静脈瘻の1例
兵庫県姫路循環器病センター心臓血管外科
向原伸彦 ほか
- 38) 先天性動静脈瘻手術例
福島県立医科大学第一外科 猪狩次雄 ほか
- 39) 冠動脈3枝-肺動脈異常交通症の1例
京都第一赤十字病院心臓血管外科 河合隆寛 ほか
- 40) Rendu-Osler-Weber病による肝内および
肺内動静脈瘻を合併した悪性甲状腺腫瘍の1例
弘前大学第一外科 公平一彦 ほか
- 41) 難治性皮膚潰瘍を伴った下肢動静脈瘻の1例
岡山大学第二外科 三井秀也 ほか

第16回血管外科研究会について

新潟大学大学院医歯学総合研究科 呼吸循環外科学分野
土田正則

昭和63年に新潟市で武藤輝一会長（第一外科教授）が開催しました第88回日本外科学会のサテライト研究会として、第16回血管外科研究会と第12回日本心筋保護研究会を新潟大学江口昭治名誉教授（開催当時は第二外科教授）が開催いたしました。

血管外科研究会のテーマは「いわゆる治療困難疾患について」で、リンパ浮腫と先天性動静脈瘻が取り上げられていました。

残念ながら、研究会の抄録やプログラムを見つけることができませんでしたが、写真をご提供します。



研究会会場の有任記念館玄関前の研究会立て看板



ロビーでの受付の様子



江口昭治先生の挨拶



会場の様子(前席のお二人の先生:
右は古川欽一先生(東京医科大学)、
左は三島好雄先生(東京医科歯科大学))



宴会で浅野献一先生が
お話しされている場面

第17回 会長



古川 欽一 先生

(所属医局) 東京医科大学第二外科

第17回血管外科研究会の概要

〈会期〉1989年3月29日

〈会場〉東京医科大学病院 6F臨床講堂

〈主題〉ASOに対する血行再建術の
適応決定因子

〈プログラム〉

序文とまとめ 東京医科大学第二外科 古川欽一

- I 1) 運動負荷ankle pressure indexによる
下肢動脈閉塞性疾患に対する手術適応の決定
兵庫医科大学胸部外科 村田紘崇 ほか
- 2) ASOにおける末梢run offの評価
東京慈恵会医科大学第一外科 氏家久 ほか
- 3) 末梢run off不良症例に対する血行再建について
岩手医科大学第三外科 吉田弘之 ほか
- 4) ASOの手術適応決定における血管エコーの応用
昭和大学外科 森保幸治 ほか
- 5) ASOに対する血管形成術における
血管内視鏡による開存性の検討
奈良県立医科大学第三外科 井上毅 ほか
- 6) Coxの比例ハザードモデルによる
大腿・膝窩動脈バイパスの予後因子の検討
九州大学第二外科 福田篤志 ほか
- II 7) 腸骨動脈病変に対する血行再建術式の選択について
大阪市立大学第二外科 西沢慶二郎 ほか
- 8) 開存率および手術予後よりみた下肢ASOに対する
血行再建の適応
富山医科薬科大学第一外科 明元克司 ほか
- 9) 脛骨動脈または腓骨動脈領域への
バイパス術症例の検討
兵庫県立姫路循環器病センター心臓血管外科
知花幹雄 ほか
- 10) ASOに対する血行再建術の適応決定因子
京都府立与謝の海病院外科 佐藤伸一 ほか
- 11) 当科におけるASO血行再建術の適応決定因子
金沢医科大学胸部心臓血管外科 長末正己 ほか
- III 12) ASOに対する血行再建術の適応と成績
獨協医科大学第二外科 佐藤直毅 ほか
- 13) 腸骨動脈領域の閉塞性動脈硬化症に対する
手術適応と術式の選択
神戸大学第二外科 太田稔明 ほか
- 14) ASOに対する血行再建術の
適応決定因子一年齢、重症度、開存率から—
山口大学第一外科 大原正己 ほか
- 15) ASOに対する手術適応についての再検討
国立呉病院心臓血管外科 谷口英治 ほか

- 16) 下肢閉塞性動脈硬化症に対する血行再建術の
適応決定因子の変遷をめぐって
東京大学第一外科 重松宏 ほか
- 17) 広汎な下肢ASO症例に対する
手術範囲の適応決定に関する考察
国立循環器病センター心臓血管外科
安達盛次 ほか

- IV 18) ASOに対する血行再建術の適応決定因子
—特にnatural historyの検討から—
京都大学第二外科 寺崎充洋 ほか
- 19) ASOに対する血行再建術の適応決定因子
北里大学外科 今井潔 ほか
- 20) 最近5年間のASO症例 (特にpoor risk症例) の検討
久留米大学第二外科 明石英俊 ほか
- 21) ASOに対する治療法決定因子の検討
京都第一赤十字病院心臓血管外科 岩本恒典 ほか
- 22) 生命予後からみた血行再建術の適応決定
愛知医科大学第二外科 太田敬 ほか

- V 23) 冠動脈疾患の疑われるASO症例の
術前検査と手術適応について
広島大学第二外科 春日直樹 ほか
- 24) ASOに対する血行再建術の適応と問題点
—冠動脈病変よりみた術式の選択と手術成績—
札幌医科大学第二外科 山口保 ほか
- 25) 冠病変からみたASOの手術適応について
広島大学第一外科 林載鳳 ほか
- 26) 危険指標からみた閉塞性動脈硬化症の手術適応
北海道大学第二外科 佐久間まこと ほか
- 27) 当科におけるASOに対する血行再建術の適応基準
弘前大学第一外科 田中正彦 ほか
- 28) ASO症例に対する下肢血行再建術の適応
—心、腎、肺、局所症状の面から—
琉球大学第二外科 大田守雄 ほか

- VI 29) ASOに対する血行再建術の
適応決定因子としての簡易知能検査について
東京医科大学第二外科 清水剛 ほか
- 30) 高齢者閉塞性動脈硬化症に対する
血行再建術の適応決定因子
杏林大学胸部外科 林信成 ほか
- 31) 教室におけるASO血行再建術における手術適応
鹿児島大学第一外科 山角健介 ほか
- 32) 高齢者下肢閉塞性動脈硬化症に対する
血行再建術のdecision makingについて
大阪大学第二外科 王子佳宣 ほか
- 33) ASOに対する血行再建術の適応
浜松医科大学第二外科 小谷野憲一 ほか
- 34) 腹部大動脈瘤手術時の血行動態
—70歳以上と未満例の比較—
福島県立医科大学第一外科 猪狩次雄 ほか

- VII 35) ASOにおける手術適応について
遠州総合病院外科 長嶋孝昌 ほか
- 36) ASOに対するわれわれの血行再建術の適応決定因子
藤田学園保健衛生大学第二病院外科
木村忠広 ほか
- 37) 閉塞性動脈硬化症の治療
山口県立中央病院外科 倉田悟 ほか
- 38) ASOに対する血行再建術の適応因子について
東京医科歯科大学第二外科 清松瑤一郎 ほか
- 39) ASOに対する血行再建術の適応と問題点
埼玉医科大学第一外科 安達秀雄 ほか
- 40) ASOに対する血行再建術の適応
阪和住吉病院外科 石川恵一郎 ほか
- 41) 若年者 (49歳以下) ASOと血行再建
東京医科歯科大学第一外科 岩井武尚 ほか

■パネルディスカッション

- 1) 複合性病変を有するASO患者の
血行再建術式決定における足関節血圧測定の意義
名古屋大学第一外科 黒柳裕 ほか
- 2) 下肢ASOに対する血行再建術の適応決定因子
—決定因子の手術成績、予後に対する関連度について—
岡山大学第二外科 内田發三 ほか
- 3) 閉塞性動脈硬化症の手術適応—間歇性跛行について—
国立福岡中央病院外科 古山正人 ほか
- 4) ASOに対する血行再建術の適応基準
筑波大学臨床医学系外科 井島宏 ほか
- 5) ASOに対する血行再建術の適応決定因子
—自覚症状特に関歇性跛行に対する
血行再建術の評価 (アンケート調査からみた検討)—
京都府立医科大学第二外科 白方秀二 ほか
- 6) ASOに対する血行再建術の適応決定因子
—下肢血行再建の検討—
横浜市立大学第一外科 近藤治郎 ほか
- 7) 下肢閉塞性動脈硬化症に対する
bypass手術適応を決定する因子
旭川医科大学第一外科 笹嶋唯博 ほか

第17回血管外科研究会と古川欽一先生

戸田中央総合病院 特任顧問 石丸新

1989年3月29日、第17回血管外科研究会は東京医科大学外科学第二講座（心臓血管外科）の古川欽一教授が世話人となり、新築開院して間もない大学病院の臨床講堂を使用しての開催となりました。当時としては高層といえる18階建の病院建物といえども、超高層ビルが立ち並ぶ新宿副都心の一角にあって殆ど目立たない存在でしたが、隣接する地上48階建てで日本一の高さとなる東京都本庁舎の着工1年目にあたる建設現場を見下ろすことができる無二の場所でもありました。新病院6階フロアには300人収容の講堂があり、教室員は大型スクリーンに画像を投影するための映写室に籠って午後から始まる研究会の発表スライドを準備しました。

昭和天皇崩御により“平成”に改元された1989年は、東西ドイツ統一、中国天安門事件勃発など世界情勢が激動した年であり、国内では初めての消費税が導入され、医療界では日本初の生体肝移植が行われています。

東京医科大学外科学教室は1957年に呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科の3講座制となりましたが、旧来より大講座制の外科学教室に所属されていた古川先生は、心臓血管外科講座主任教授でありながら消化管をはじめとした諸臓器の外科手術を遍く執刀されており、その正確かつ鮮やかな手術手技は万人の認めるところでした。日本血管外科学会HP掲載の“学会の沿革と歴史”には「血管外科手技を治療に取り入れている移植外科、脳神経外科、消化器外科、形成外科、interventional radiologyなどの領域をカバーする目的で血管外科が新たなスタートを切った」とあります。血管に係わる治療術式を応用する他領域との協調により血管外科の独自性を見出そうとしていた時期にあつて、古川先生は正にその方向性を具現化する存在

であり、三島好雄先生、田邊達三先生、阪口周吉先生、勝村達喜先生、草場 昭先生、神谷喜作先生をはじめとする血管外科第一世代として活躍されました。そして、「ASOに対する血行再建術の適応決定因子」を主題として取り上げた第17回研究会は、血管外科の主要課題が動脈硬化性血管疾患への取り組みへと変遷してゆく1990年代の幕開けを象徴しているようです。

第18回 会長



吉崎 聰 先生

(所属医局) 藤田学園保健衛生大学外科

第18回血管外科研究会 (血管外科フォーラム) の概要

〈会期〉1990年4月13日
 〈会場〉名古屋 ホテルキャッスルプラザ4F
 〈主題〉血行再建

〈プログラム〉

■特別講演

「血行再建術式を選択する上での諸問題」
 演者：草場昭 (琉球大)
 司会：吉崎聰 (藤田学園保健衛生大学)

■Young Investigator's Award

司会：三島好雄 (東京医歯大)

■ワークショップ

「血管外科におけるレーザーの応用とその問題点」
 座長：星野俊一 (福島医大)
 座長：岡田昌義 (神戸大)

■シンポジウム

「血行再建術式を選択する上での諸問題」
 座長：江里健輔 (山口大)
 座長：中島伸之 (国立循環器病センター)

■パネルディスカッション

「諸臓器血行障害の病態と治療 その1 (肝、脾)」
 座長：熊田馨 (京都大)
 座長：岡留健一郎 (九州大)

■パネルディスカッション

「諸臓器血行障害の病態と治療 その2 (腸管)」
 座長：久保良彦 (旭川医大)
 座長：安田慶秀 (北海道大)

「第18回血管外科研究会 (血管外科フォーラム)」について

医療法人一色診療所 坂野哲哉

このたびは日本血管外科学会学術総会が50回を迎えたこと心からお喜び申し上げます。1990年(平成2年)4月13日金曜日「第18回血管外科研究会(血管外科フォーラム)」が当時の校名である藤田学園保健衛生大学・外科吉崎聰教授を会長として開催されました。当時は研究会のため一日のみの会でしたが、しかし多くの当時の血管外科の重鎮の先生方と学園の人びとに支えられ実現した研究会でした。

吉崎聰先生は1989年10月5日新幹線で東京からの移動中、脳梗塞で倒れ、言葉の障害が強く残り休職、リハビリ中での研究会開催でした。従って会の企画・運営を任された医局員もまず何から始めたらよいかもわからない有様でした。会場として名古屋駅前のホテルキャッスルプラザを押さえました。会の企画・趣意書を製薬会社に送り、想像以上の協賛金が調達できました。

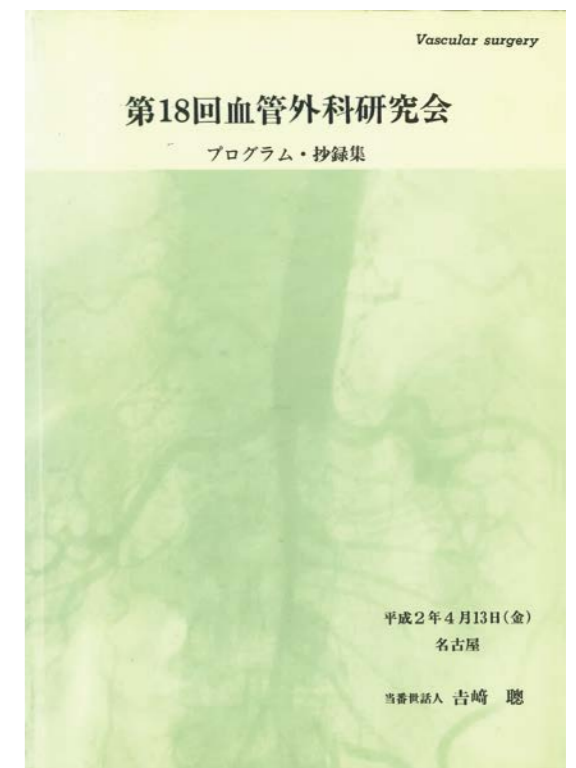
次に研究会として初めての一般演題公募も100演題近く集まり、シンポジウム、パネルディスカッション1・2、ワークショップ、特別講演も企画し、レーリッシュ症候群のレントゲンフィルムを反転した画像を表紙にしたプログラムができました。当時の血管外科の錚々たるメンバーから座長や特別講演を受けていただきました。特別講演には「血行再建を選択する上での諸問題」を特に吉崎と親交の深い琉球大・草場昭先生にお願いし、座長を吉崎が勤めました。無事、座長の締め口上を話し終えたとき、医局員一同目頭を熱くしました。引き続き「Young Investigator's Award」を東京医科歯科大の三島好雄先生にお願いしました。先生は療養中の吉崎にお手紙を下さり、そこには「人間万事塞翁が馬とやら、いろいろあると思いますが、おかれた立場で最善の努力をしてください。」と書かれており、焦燥感に苛まれる中、その言葉に救われたと

のちに吉崎が述べていました。

こうして行われた会では、会場運営、受付を医局員はもちろん、非番の病棟の看護師さんにも手伝ってもらいました。ワークショップの福島医大 星野俊一先生、神戸大 岡田昌義先生をはじめ、シンポジウムの江里先生、中島先生、パネルディスカッション1の熊田先生、岡留先生、そして会は進み久保先生、安田先生のパネルディスカッション2が無事17時に終了し、我々医局員の長い1日が終わりました。

吉崎聰先生は下肢の血行再建手術で血栓内膜摘除術(TAE)を多く手掛け、方法やそのワイヤーにも工夫をされており、自家静脈移植、人工血管グラフトでの成績を比較した論文をまとめており、もし万全の身体であったなら、特別講演を草場先生にかわって演者として講演をされていたと思います。

以上、「第18回血管外科研究会」について思いつくことを当時の医局員として記述させていただきました。



第19回 会長



久保良彦 先生

(所属医局) 旭川医科大学第一外科

第19回血管外科フォーラムの概要

〈会期〉1991年7月17日～18日

〈会場〉北海道 ニュー北海ホテル

〈主題〉細小動脈バイパス術

〈プログラム〉

特別企画

I: 招待講演 司会: 三島好雄
「Personal Experience with Limb Salvage procedures」
John B.Chang M.D.
(Director of Long Island Vascular Center, New York)

II: 教育講演 司会: 久保良彦
「血管外科と病理」 稲田潔 (岐阜大学名誉教授)

III: シンポジウム
「下肢多発性閉塞性動脈硬化症に対する外科治療方針」
司会: 山口大学第一外科 江里健輔
東京大学第二外科 多田祐輔
特別発言: 北海道大学第二外科 田邊達三
東京医科大学第二外科 古川欽一

IV: パネルディスカッション
「血行再建を伴う消化器癌手術の問題点」
司会: 京都大学第二外科 熊田馨
北海道大学第二外科 加藤紘之
特別発言: 東京女子医科大学消化器病センター
消化器外科 羽生富士夫
浜松医科大学 阪口周吉

V: ビデオディスカッション
「血管吻合: 私はこうしている」
司会: 福島県立医科大学心臓血管外科 星野俊一
北海道大学循環器外科 安田慶秀
特別発言: 【腹部大動脈～大腿動脈】
川崎医科大学胸部心臓血管外科 勝村達喜
【膝窩動脈以下】
琉球大学第二外科 草場昭

卒寿の妄言

日本血管外科学会名誉会員
旭川医科大学名誉教授
社会医療法人元生会森山病院名誉院長 久保良彦

令和4年(2022年)、日本血管外科学会は50周年を迎えます。その嚆矢は第1回血管外科研究会で、昭和48年(1973年)第73回日本外科学会総会(京都市)のサテライト集会として開かれました。

それ以来、この会にご縁をえた一人としてわたくしは感慨ひと汐で、このように目覚ましい発展を上げている本学会を会員のみならず共に祝いたい気持ちで一杯です。

当初、しばらくは日本外科学会総会のサテライト集会として続けられてきた血管外科研究会でしたが、次第に研究熱心な会員が増えると共に医学一科学の進歩も目覚ましく、加えてわが国の社会の発展というバックグラウンドの変化などが相俟って血管外科学会への独立の機運が高まりました。

申すまでもありませんが、血管外科一血管を操作する一はほとんどの外科系領域の基礎であります。血管外科学会の新しい出発に当たって、できるだけ多くの関連領域からの参加と支援が望まれます。そのような配慮から広く呼びかけをすすめながら、第18回血管外科研究会から学会仕様となって独立した日程で開催されることになりました。第19回は血管外科フォーラムと呼び変え、第20回からようやく名称も「日本血管外科学会」と改まったのです。

ところで、この研究会がスタートした昭和48年(1973年)は奇しくもわたくしが外科医人生のほぼ3分の2を過ごすことになる旭川医科大学が新設された年になります。その第1外科の助教授として、胸部・心臓・血管外科の担当を仰せつかりました。

零からのスタートで何とか手をつけることができたのは矢張りといえますか、親教室一北海道大学第2外科(奥田義正教授、杉江三郎教授)で習い覚

えた血管外科の研究でした。やがて附属病院ができ、臨床が始まりましたがなかなか思うように症例が集まらず心細く過ごした年月の長さが思い返されます。中でも忘れられないのは偶々か出席する国際学会で思い知らされる彼我の症例数の大きな差でした。そしてようやく物が言える一統計処理ができる一症例数になった時は停年が目の前になっていたのです。

それでも小口代用血管について、いわゆるバイオ・プロステーシュには抜きがたい問題があること、現在ほぼ理想的の小口径代用血管と目され末梢血行再建の第1選択となっている自家静脈にも、術直後から患者の天寿まで油断のならない問題の発生するリスクが少なからず見られ、グラフト/リム・サルページに工夫が求められていること、そのため高齢社会の進行に向け、即時利用性(イミディエイト・アベイラビリティ)の高いすぐれた小口径代用血管の開発が喫緊の問題であること、など身をもって知ることができたのでした。

わたくしは今では旧くなった医局制度のもとで育った外科医です。思えばその大半をわが国の医療制度に全く無関心に過ごしてきました。その医療制度がとて難しく、先進国の間で頭を悩ませている大問題であることを知ったときは、もはや停年を過ぎていました。

よく知られるように医学を含めバイオ・テクノロジーの進歩は指数関数的でとどまるところを知りません。また情報・通信技術の発達は地球を小さくし続けます。そしてそれらは人間のあり様まで根こそぎ変えてしまいかねない可能性まで示唆されています。

この様な時の流れの中にあってわが国の医療制度は、医学教育(卒前・卒後とくに専門医制度)から日常の臨床まで本質的にほとんど変わっていない様に見えます。このことは端なくもこの度のコロナ騒動でうかがわれました。そしてどうしてこのわ

が国の独特な医療の仕組みが存続できているのか不思議でなりませんでした。

「みんななかよくしましょうね」とは、わたくしが小さい頃から聞き慣れた言葉です。最近それは二千年来、日本人に染み付いているのではと考えられるフレーズであり、漠然とした意味での原初の神道の基本概念と「和」が習合した独特な秩序感覚に由来するもので、いわば文化と見做されることを知りました。

そういうことか、とわが国の医療制度やこれまで過ごしてきた学術社会のあり方に自分なりに合点がゆきました。

またそのようなことであれば、わが国の医療制度とりわけ医育制度（専門医制度）は和魂洋才ですっきりと旧来の医局制度に回帰するのも良いのではと考えるようになりました。

もちろん昔の医局制度の悪弊は除かなければならないことは言うまでもありません。

さきに申しましたわたくしたちのささやかな知見は、その医局制度が生んだ仲間の涙と汗の結晶だからです。わたくしが経験した医局制度が認知科学でいう「知識のコミュニティ」という概念に入ること最近知りました。認知科学では互いの専門知識を合わせることで高度な知能が発揮されるといわれます。

(2021.6.30)



世話人：久保良彦



川崎医科大学 胸部心臓血管外科 勝村達喜先生



名古屋大学第一外科 矢野孝先生



琉球大学第二外科 草場昭先生



旭川医科大学第一外科 笹嶋唯博先生



第20回 会長



田邊 達三 先生

〈所属医局〉北海道大学第二外科

第20回日本血管外科学会総会の概要

〈会期〉1992年7月1日～2日

〈会場〉札幌市教育文化会館

〈プログラム〉

■記念講演

「我が国の血管外科の歩み」
名誉会長 上野明教授

■特別講演

掛川暉夫：食道外科と血管吻合
小澤和恵：生体肝移植と血管吻合
草場昭：血管吻合の理論と実際

■招請講演

F Kazmier : Inflammatory Abdominal Aneurysm
RW Hobson : Ischemic Reperfusion Injury

■サテライトシンポジウム

「重症虚血肢をめぐる諸問題」

重症虚血肢をめぐる 田邊達三

I 四肢慢性動脈閉塞症

診断と治療の進め方

薬物療法

血行再建術

切断術

レーザー血管形成術

疼痛対策

II 重症虚血肢の病態と治療

日本の現状と診断基準

虚血肢の評価法

血液レオロジー、凝血学的検討

糖尿病性壊死

Buergerにおける考え方

血行再建の適応と限界

重症虚血の予後

安田慶秀

星野俊一

佐久間まこと

薄井正道

石丸新

江里健輔

重松宏

岩井武尚

松尾凡

矢野孝

土光荘六

佐久間まこと

岡留健一郎

■シンポジウムI

Reperfusion Injury I 「骨格筋」

司会：阪口周吉（浜松医科大学）

久保良彦（旭川医科大学）

■シンポジウムII

Reperfusion Injury II 「臓器」

司会：大石喜六（久留米大学）

古川欽一（東京医科大学）

■パネルディスカッションI

「血管処理からみた消化器外科」

司会：杉町圭蔵（九州大学）

熊田馨（昭和大学藤が丘病院）

■パネルディスカッションII

「血管処理からみた移植外科」

司会：土肥雪彦（広島大学）

草川實（三重大学）

■ビデオセッション

下肢血行再建の工夫

■サテライト講演会

「血管外科の新しい展開」

■ランチョン講演

「バスケテック ゼルシール人工血管セミナー」

■一般演題 243題

日本血管外科学会の発足時を回顧して

第20回総会会長 田邊達三（北海道大学名誉教授）

血管外科が基本手技とする血管置換術を動脈瘤に対して、また血栓摘除術や血管バイパス術を末梢血管閉塞に対して広く応用されるなど、血管外科が著しい進展を迎えるなかで、プロパーの学会として日本血管外科学会を設立したいとする機運は高まっていた。

当時の様子は既に別稿に述べたように、1970年に難病対策の厚生省研究会の集会の折にクロウズで行われていた血管外科合同研究会から始まり、さらに1973年には参加者を広げて血管外科研究会が設立された。この研究会は日本外科学会総会期間中の夜に若手と称した血管外科同好の研究者が集まり、セミクロウズの形で17回まで開かれた。会を重ねるなかで参加者も増え研究成果が上がり、1992年には要望に応える形で日本血管外科学会の設立が企画された。三島教授と相談して第20回研究会の折に会長として血管外科学会を開くことになった。

当初から血管外科学会のあり方として、血管外科固有の専門医の集会として「専門の独立」を目指す研究者と、血管外科を外科全体のなかで幅広く応用する「応用と普及」を目指す研究者がおり、学会として両者を取り込んだ学会運営が行われた。

初回の学会として血管外科のプロパーの主題では血管吻合の実際、重症虚血肢、下肢血行再建、reperfusion injury、などを取り上げ、また血管外科の応用主題として腹部血管再建、血管処理としての悪性腫瘍の拡大手術を図る消化器外科、ようやく開始された臓器移植外科における手技を論じていただくことにした。幸い多数の応募と参加があり、それぞれの分野の第一人者の司会の下に活発な発表が行われた。設立に加わった幹事の研究者と相談を重ねてスタートした学会が多くの会員の協力で成功裏に学会を終えることが出来て安堵したもの



だった。

それまで日本外科学会、日本心臓血管外科学会、日本脈管学会などを主宰したが、日本血管外科学会の発会に参画でき身に余る幸運であった。振り返って学会の発足を盛り上げ、更なる発展の為に真摯な活動を続けた多くの会員に感謝するとともに、共に学会の発展に尽くして切磋琢磨した研究者たちの多くが既に他界され、第50回を迎える学会の開催を共に祝うことが出来ないことを残念至極に思います。



懇話する加藤教授、杉町教授、掛川教授



懇話する安田教授、新井教授、松本教授

第21回 会長



古川 欽一 先生

(所属医局) 東京医科大学第二外科

第21回日本血管外科学会総会の概要

〈会期〉 1993年6月17日～18日
〈会場〉 東京都 ホテルセンチュリーハイアット
〈主題〉 臓器癌の郭清と血管外科
 Endovascular InterventionのControversy

〈プログラム〉

- **会長講演** 「閉塞性動脈硬化症の治療をめぐる」
 古川 欽一 (東京医科大学)
 司会: 高橋雅俊 (東京医科大学 名誉教授)
- **特別講演I** 「動脈硬化発症における内皮細胞機能」
 高野達哉 (帝京大学)
 司会: 草場昭 (琉球大学)
- **特別講演II** 「肝・胆道領域における血管外科」
 幕内雅敏 (信州大学)
 司会: 小澤和恵 (京都大学)
- **特別講演III** 「頭蓋外脳血行再建術」
 菊地晴彦 (京都大学)
 司会: 勝村達喜 (川崎医科大学)
- **招請講演I** 「Factors Affecting the Outcome of Femoropopliteal Bypass」
 演者: Roger M.Greenhalgh (University of London,UK)
 司会: 田邊達三
- **招請講演II** 「The Aneurysm Dilemma:Management of the Small Abdominal Aortic Aneurysm」
 演者: Samuel E.Wilson (University of California Irvine,USA)
 司会: 三島好雄 (東京医科歯科大学)
- **シンポジウムI**
 「臓器癌の郭清と血管外科」
 司会: 岡島邦雄 (大阪医科大学)
 木村幸三郎 (東京医科大学)
- **シンポジウムII**
 「合併病変を有する閉塞性動脈硬化症の外科治療」
 司会: 江里健輔 (山口大学)
 多田祐輔 (山梨医科大学)
- **パネルディスカッション**
 「Endovascular Intervention の Controversy」
 司会: 平松京一 (慶應義塾大学)
 星野俊一 (福島県立医科大学)

■ビデオセッションI

- 1) 動脈瘤 (上行・弓部)
 座長: 小松作蔵 (札幌医科大学)
- 2) 動脈瘤 (解離)
 座長: 平明 (鹿児島大学)
- 3) 動脈瘤 (胸部・腹部)
 座長: 宮内好正 (熊本大学)
- 4) 臓器血行再建
 座長: 大石喜六 (久留米大学)

■ビデオセッションII

- 1) 静脈外科 (大静脈)
 座長: 鯉江久昭 (弘前大学)
- 2) 静脈外科 (末梢静脈)
 座長: 熊田馨 (昭和大学)
- 3) 血行再建1
 座長: 加藤量平 (愛知医科大学)
- 4) 血行再建2
 座長: 久保良彦 (旭川医科大学)
- 5) 血行再建3
 座長: 岡田昌義 (神戸大学)

■ラウンドテーブルディスカッション

- 「医学専門化と血管外科」
 司会: 出月康夫 (東京大学)
 ディスカッサー: 阪口周吉 (町立浜岡総合病院)
 羽生富士夫 (東京女子医科大学)
 Roger M.Greenhalgh(UK)
 Samuel E.Wilson(USA)

■第21回日本血管外科学会総会記念 メディカルイラストレーションコンクール 作品展示 テーマ: 腹部大動脈 優秀作品表彰式

第21回日本血管外科学会総会の想い出

戸田中央総合病院 特任顧問 石丸新

日本血管外科学会創立2年目にあたる第21回日本血管外科学会は、同じく新築移転2年目の東京都庁ビルに隣接するセンチュリーハイアット(現ハイアットトリージェンシー東京)ホテルで開催されました。

学会企画のシンポジウムは「臓器癌の郭清と血管外科」で、血管に係わる他領域との協調により血管外科の専門性を見出そうとする方向性が示されています。また、パネルディスカッション「Endovascular InterventionのControversy」からはIVRを標榜する放射線科とPTAなど低侵襲血管内治療を導入した血管外科の黎明を感じます。

「ランチョンセミナー」は当時まだ目新しい先駆的な企画でした。会場が新宿副都心のビジネス街にあって昼食時は非常に混雑することから発案され、参加者全員が利用できる十分な席数を確保して好評を得たものです。

当時、本邦では「ネッター医学図譜(The CHIBA Collection of Medical Illustrations)」に代表される写実絵画のような立体イラストを作成する専門家は皆無と言ってよく、教科書や学術雑誌に掲載される図表は執筆者自身によって描かれたものが殆どでした。そこで、画像表現手法の発展に寄与する目的で「メディカルイラストレーションコンクール」



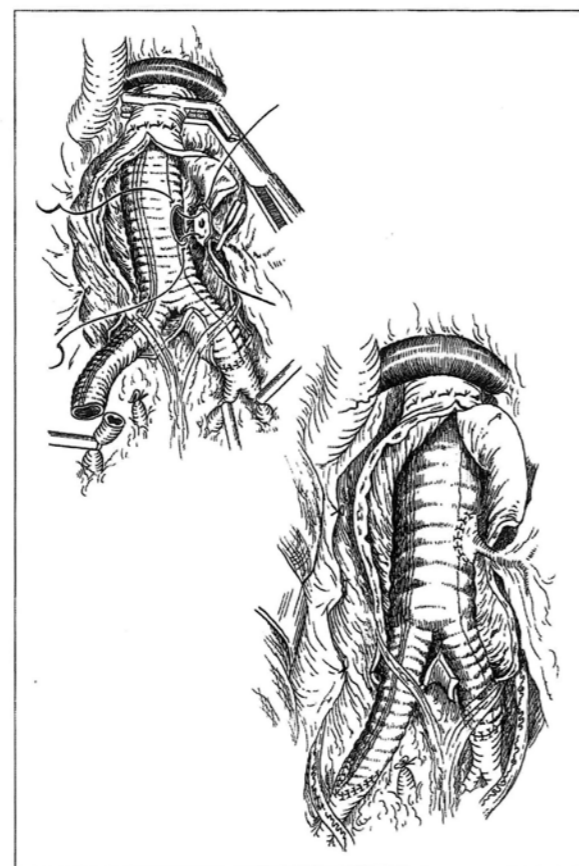
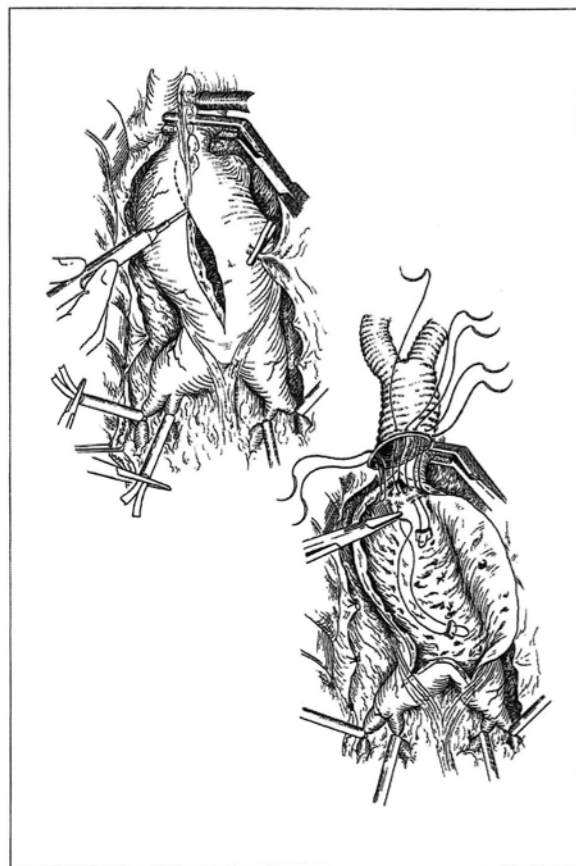
を企画しました。学会会員から多数の応募をいただき、当日展示会場を設けてご披露するとともに作品集を配布しました。ちなみに、草場昭先生（琉球大学第2外科教授）が最優秀賞を（図1）、松原純一先生（金沢医科大学胸部心臓血管外科教授）が優秀賞を受賞されました（図2）。

会場運営に関して、当時は会員の呼び出しメッセージなどをスライドに手書きして演壇のサイドスクリーンに投影するサービスが一般的でした。教室には名機SE30を肩掛けに登院するコンピュー

ターの“申し子”のような医局員がおり、総会本部のPC操作で各会場に情報をプロジェクター表示する中央コントロールシステムの開発を任せました。ホテルにネットワークケーブルはなくLANが普及していないため、本部と各会場の端末を電話線で繋ぐLocal Talk, PhoneNET™を導入しました。進行中のプログラムを表示しつつ、急な呼び出しメッセージ等に対応できるマルチタスク機能のソフトウェアはHyperCard™しかありませんでした。Apple社のMacintosh Centris 650™は当時の最新機種で

最優秀賞 図1

Intraluminal Abdominal Aortic Aneurysmectomy with Reconstruction of IMA

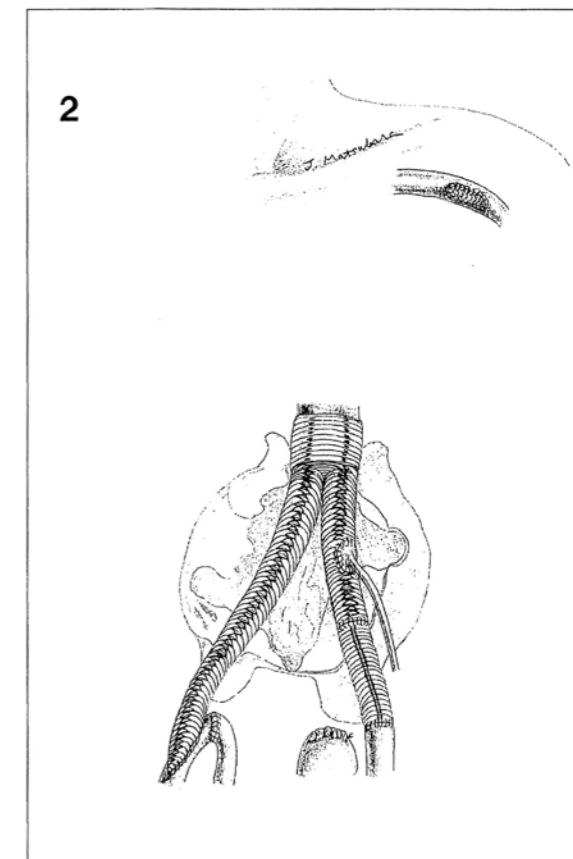
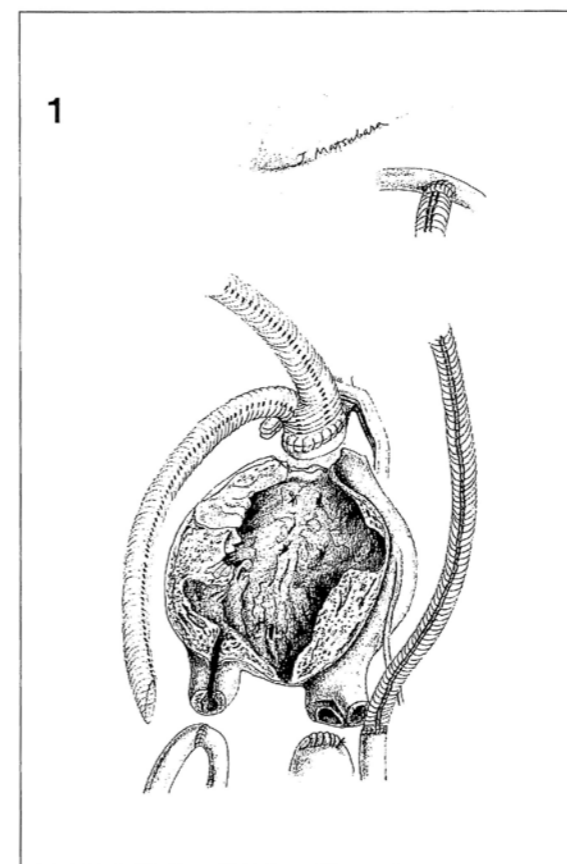


草場 昭
九州大学 S. 33 年卒
琉球大学医学部
第2外科教授

IMAの再建はそれほど困難ではないので、開存しているIMAは再建しておくのがよい。膀胱・直腸機能温存のため上下腹神経叢は極力損傷しないように努める。

優秀賞 図2

虚血性心疾患を伴う腹部大動脈瘤手術



松原 純一
名古屋大学 S. 41 年卒
金沢医科大学
胸部心臓血管外科助教授

本来ならばA-Cバイパスを先行させるべきであるが、IABP使用がきわめて困難な症例には、後負荷減少を狙って一時バイパスを作製し、AAAの手術を先行させる。

したが、テスト運用が間に合わず、PC連結はぶっつけ本番でした。使用した6台は総会終了後に希望者に譲渡され、その後の研究等に資したものです（図3）。こうしたシステムは後に多くの学会運営企業に導入されましたが、20年後の第40回総会（信州大学）で披露された、スマートフォンでプログラム閲覧できるアプリの軽快な動作に感慨を深くしたのは筆者だけだったでしょうか。



図3

第22回 会長



大石 喜六 先生

〈所属医局〉久留米大学第二外科

第22回日本血管外科学会総会の概要

〈会期〉1994年6月2日～3日

〈会場〉福岡県久留米市 石橋文化センター

〈プログラム〉

- 記念講演 「血管外科と私」
久留米大学名誉教授 古賀道弘
- 特別講演I 「静脈外科の現状と将来」
座長：古川欽一 演者：田邊達三
- 特別講演II 「炎症性血管疾患の病理」
座長：勝村達喜 演者：細田泰弘
- 特別講演III 「血管外科の消化器外科への応用」
座長：三島好雄 演者：羽生富士夫
- 招請講演
座長：草場昭
演者：Alexander W. Clowes
University of Washington School of
Medicine Seattle, USA
座長：中島伸之
演者：Calvin B. Ernst
Henry Ford Hospital, Detroit, USA
- シンポジウムI
静脈疾患の外科治療
座長：星野俊一/安田慶秀
- シンポジウムII
合併症を有する腹部大動脈瘤の外科治療
座長：宮内好正/久保良彦
- パネルディスカッションI
Interventional angioplastyの功罪
座長：幕内雅俊/杉町圭蔵
- パネルディスカッションII
消化器外科における血行遮断の諸問題
座長：岡田昌義/鯉江久昭
- ビデオセッション
解離性大動脈瘤の外科
癌拡大手術と血管外科
基礎的血管外科手術
人工血管による末梢血行再建術
- 会長要望演題
静脈外科およびリンパ管外科
Reperfusion injury
Interventional angioplasty
長期遠隔成績よりみた血管外科
移植外科

研究会から学会へ発展した 第22回日本血管外科学会総会を思い出す

第50回日本血管外科学会学術総会 会長
社会医療法人共愛会 戸畑共立病院 顧問
元久留米大学外科学講座 教授 明石英俊

今回、私が会長を務める第50回日本血管外科学会学術総会を開催するあたり、50周年記念特別企画と記念誌の発行を予定しました。その中で、私が、当時の私のボスでありました大石喜六教授が開催した第22回日本血管外科学会総会について、寄稿させていただきます。

私は大石喜六教授のお許しを得て、1991年春から1992秋迄ドイツのハノーバー医科大学のBorst教授の基へ留学させて頂いておりました。留学前は血管外科研究会の時代であったものが、帰国すると学会へと発展しておりました。さらに、2年後の会長に当科の大石喜六教授が推挙されており、帰国後まもなく学会開催のための準備が、浦口憲一郎（講師）先生を事務局長として始まったのを覚えております。そのころの血管外科学会総会では主題というものは決められておらず、会告では「血管外科および血管に関する消化器外科、移植外科、脳外科など広い領域」からの演題募集となっておりました。当時はまだ、悪性疾患に対する広範囲廓清や血行再建が盛んに行われている時期でもあり、研究会から学会へ発展する時期に他科手術での血行再建も範疇とした経緯があったのですが、私は今でも、他科手術での血行再建については、知っておくべき重要な分野と考えています。

学会場は久留米市の石橋美術館に隣接した石橋文化センターで開催されました。当時の久留米市で1000人以上の参加者が見込まれる大きな学会の開催は難しく、この血管外科学会の参加者が約700名程度であったと記憶しております。

主要演題として、記念講演は古賀道弘久留米大学名誉教授の「血管外科と私」、特別講演は(1)静

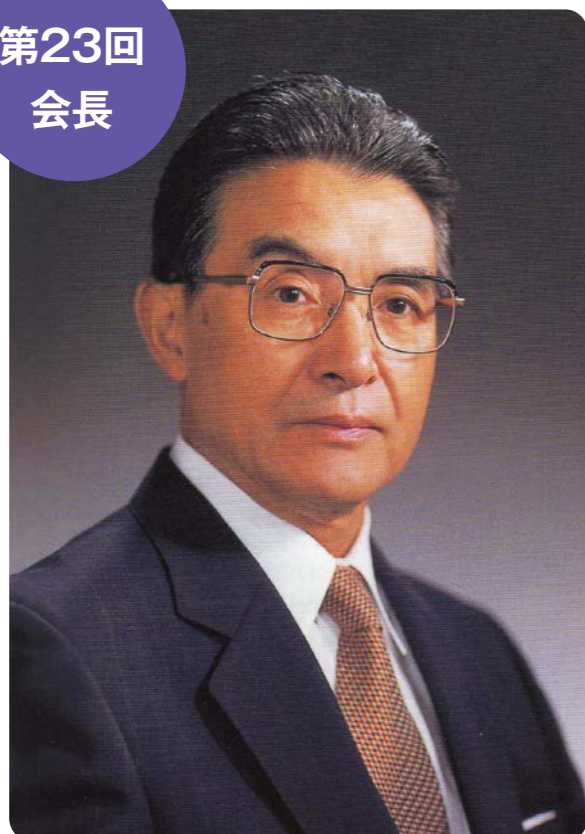
脈外科の現状と将来 田辺達三先生、(2)炎症性血管疾患の病理 細田泰弘先生、(3)血管外科の消化器外科への応用 羽生富士夫先生でした。シンポジウムやパネルディスカッションは静脈疾患、腹部大動脈瘤、angioplasty、消化器外科の血行再建などでした。やはり、他科手術を意識した内容になってました。

久留米市という比較的地方的小都市での開催であったため、地方色を反映させた学会であった記憶があります。大石喜六会長は久留米市の奥座敷の原鶴温泉を好んでおられ、お客様をこの温泉に招待され、屋形船に乗って、鶴飼いを見ながら、鮎をいただく招宴も開かれました。お客様方は大変喜ばれ、地方開催の良さを感じる一場面でもありました。

第22回から28年が過ぎ、過去の開催を思い出ししながら、今回の第50回の開催についても考えています。血管内治療の進歩という大きな変化はありますが、それ以外の分野では、過去の歴史は今の血管外科の治療にも生かされていることを再認識させられる寄稿となりました。

第22回会長大石喜六名誉教授は2005年10月20日に大腸癌の肝臓転移でお亡くなりになりました。これまでの血管外科への御貢献に敬意を表して、この寄稿を閉じさせていただきます。

第23回 会長



宮内 好正 先生

〈所属医局〉熊本大学医学部第一外科

第23回日本血管外科学会総会の概要

〈会期〉1995年5月11日～12日

〈会場〉熊本市 熊本市民会館

〈プログラム〉

■会長講演

「腹部大動脈瘤外科の諸問題」
座長：田邊達三（北海道大学 名誉教授）
演者：宮内好正（熊本大学 第一外科）

■特別講演1

「日本における大動脈外科の歴史」
座長：古賀道弘（久留米大学 名誉教授）
演者：井上正（慶應義塾大学 名誉教授）

■特別講演2

「大動脈瘤、大動脈解離の経年的形態変化と予後の関係」
座長：古川欽一（東京医科大学 名誉教授）
演者：増田善昭（千葉大学 第三内科）

■招請講演1

「Spinal cord protection during thoracoabdominal aortic aneurysm surgery」
座長：中島伸之（千葉大学）
演者：Larry H Holler (Glasgow,UK)

■招請講演2

「Use of transluminal placed endovascular grafts in abdominal aortic aneurysms and vascular trauma」
座長：三島好雄（東京医科歯科大学）
演者：Juan C Parodi (Buenos Aires,Argentina)

■血管外科の基礎講座

「腹部大動脈-腸骨動脈領域の再建」
座長：安田慶秀（北海道大学）
演者：笹嶋唯博（旭川医大 第一外科）

■シンポジウム1

「下肢慢性動脈閉塞症の血行再建 (below knee)」
座長：久保良彦（旭川医大）
草場昭（琉球大学）

■シンポジウム2

「急性消化管虚血の診断と治療」
座長：松本昭彦（横浜市立大学）
江里健輔（山口大学）

■パネルディスカッション1

「深部静脈血栓症：治療法の選択」
座長：星野俊一（福島県立医大）
熊田馨（昭和大学）

■パネルディスカッション2

「長期成績からみた代用血管の選択」
座長：多田祐輔（山梨医大）
岡田昌義（神戸大学）

■ビデオシンポジウム1

「胸腹部大動脈瘤外科における臓器保護」
座長：小松作蔵（札幌医大）
橋本明政（東京女子医大）

■ビデオシンポジウム2

「血管処理を伴う肝臓外科手術」
座長：幕内雅敏（東京大学）
田代征記（徳島大学）

第23回日本血管外科学会総会

熊本血管外科クリニック 院長
熊本大学心臓血管外科同門会 代表幹事 宇藤純一

第23回総会は熊本大学第一外科教授・宮内好正大会長のもと、平成7年5月に熊本市で開催された。会場は熊本城のお堀端に位置する熊本市民会館をメイン会場に、近隣の国際交流会館と産業文化会館を加えた3会場で催された。梅雨入り前の熊本市は、城内の楠の若葉が青空に映え一年の中でも最も美しい季節であり会期中は五月晴れの好天に恵まれた。

筆者は当時教室在籍の助手であり、学会事務局長を務められていた後藤平明講師の副官の一人として学会準備のスタッフに加えていただいた。前年に久留米大学の太石教授が開催された第22回総会には後藤先生と下見を兼ねてお邪魔し、当地において大会運営を指揮されていた久留米の小須賀先生、青柳先生、明石先生（第50回総会大会長）から学会準備のノウハウを細かく教えて頂いた記憶が

残っている。

宮内大会長は特別企画として海外からお二人のゲストを招請された。お一人はDr. Hollierで、長年Mayo Clinicで活躍されHaimovici編纂の成書「Vascular Surgery」の著者でもある。「胸腹部大動脈瘤手術後の脊髄虚血障害」について、その病態と対処法についてご自身の基礎研究を含めて講演された。もうお一人はアルゼンチンからのゲストDr. Parodiで、世界で初めて腹部大動脈瘤に対するステントグラフト挿入に成功した外科医で、現在ではすっかり一般の手技となった大動脈ステントグラフトのパイオニアのお一人であった。

宮内先生ご自身は会長講演として「腹部大動脈瘤」を取り上げられた。当時教室では無輸血手術への挑戦、冠動脈疾患合併の問題、炎症性大動脈瘤に対する治療、遠隔成績に与える因子などについて熱心に取り組んでおり、心血管グループを挙げて夜遅くまで会長講演のスライド作成のお手伝いをしたことが今でも懐かしく思い出される。

シンポジウムやパネルの企画は当時の最先端のテーマが選ばれ、演題応募総数は335題に及んだ。そうそうたる演者の名前がプログラムに残っているが、ビデオシンポにおいて若き日の明石先生が「胸腹部大動脈置換手術時の臓器保護」という演題を発表されている。4半世紀を超えて第一線で活躍をされており敬服する指導者のお一人である。

本学会は、まさにその名の通り我が国の血管外科の中心的存在として臨床と基礎の両面から闊達で意義深い集まりの場となって久しい。50年後の100回大会を筆者がこの目で見ることはないであろうが、今後も真摯でアカデミックな研鑽の場であり続けるよう益々の発展をお祈りするところである。

最後に今回の記念誌作成事業にあたり執筆の指名を頂いた熊本大学心臓血管外科教授・福井寿啓先生の御高配に感謝申し上げます。

第24回 会長



久保良彦 先生

〈所属医局〉旭川医科大学副学長

第24回日本血管外科学会総会の概要

〈会期〉1996年6月26日～27日
〈会場〉北海道旭川市 旭川グランドホテル

〈プログラム〉

■会長講演

「血行再建術とその材料」
司会：田邊達三（北海道大学 名誉教授）
久保良彦（旭川医科大学 副学長）

■招請講演 I

「Endovascular Stented Grafts for the Treatment of Aneurysmal, Occlusive and Traumatic Arterial Lesions」
司会：三島好雄（東京医科歯科大学 名誉教授）
Frank J.Veith
(Montefiore Medical Center, New York)

■招請講演 II

「Carotid Endarterectomy : A Safe Approach(How I Do It)」
司会：勝村達喜（川崎医科大学 学長）
John B.Chang
(Long Island Vascular Center, New York)

■招請講演 III

「Gene Therapy for Vascular Diseases —Does It Make Sense or Anti-Sense?」
司会：古川欽一（東京医科大学 名誉教授）
Bauer E.Sumpio(Yale University, New Haven)

■招請講演 IV

「Current Management of Critical Ischemia in the Lower Extremity, Including the Use of the Distal Arteriovenous Fistula」
司会：塩野谷恵彦（名古屋大学 名誉教授）
Herbert Dardik
(Englewood Hospital, Englewood)

■教育講演 I

「Interaction of Bloodflow and Arterial Wall」
司会：毛利平（東北大学 名誉教授）
Klaus Affeld (Humboldt University, Berrlin)

■教育講演 II

「下肢組織欠損の修復とマイクロサージャリー」
司会：森岡恭彦（東京大学 名誉教授）
波利井清紀（東京大学形成外科）

■シンポジウム I

「人工血管感染（胸部大動脈、末梢血管を含む）」
司会：熊田馨（昭和大学藤が丘病院 外科）
宮本巖（兵庫医科大学 胸部外科）

■シンポジウム II

「自家代用血管のBiologic Behavior : 移植後の運命からみたグラフト選択、調整法、移植法、長期成績（CABGを含む）」
司会：星野俊一（福島県立医科大学心臓血管外科）
北村惣一郎（奈良県立医科大学 第三外科）

■シンポジウム III

「足関節レベルのバイパス成績向上に向けて：代用血管、術式、手技上の問題点と工夫」
司会：草場昭（琉球大学 第二外科）
笹嶋唯博（旭川医科大学 第一外科）

■シンポジウム IV

「血管外科手技の応用による消化器系手術の進歩と発展」
司会：今村正之（京都大学 第一外科）
加藤紘之（北海道大学 第二外科）

■パネルディスカッション I

「我国におけるEndovascular Surgeryの現況」
司会：岡田昌義（神戸大学 第二外科）
打田日出夫（奈良県立医科大学 放射線科）

■パネルディスカッション II

「胸腹部大動脈瘤：対麻痺症例に学ぶ術式の変遷」
司会：安田慶秀（北海道大学 循環器外科）
田林暁一（東北大学 胸部外科）

■パネルディスカッション III

「被覆人工血管の有用性と問題点（胸部大動脈を含む）」
司会：松本昭彦（横浜市立大学 名誉教授）
伊藤翼（佐賀医科大学 胸部外科）

■鼎談

「血管外科の将来を占う」
上野明（山梨医科大学 名誉教授）
阪口周吉（浜松医科大学 名誉教授）
三島好雄（東京医科歯科大学 名誉教授）

■血管外科手技の基礎講座（第2回）

「大腿一膝窩動脈バイパス手術手技」
司会：宮内好正（深谷赤十字病院 院長）
江里健輔（山口大学 第一外科）
多田祐輔（山梨医科大学 第二外科）

寄稿文は第19回に載せましたので、
この会では巻頭言を掲載いたします。

第24回日本血管外科学会総会を迎えて

第24回会長 久保良彦

第24回日本血管外科学会総会を平成8年6月26日（水）、6月27日（木）の2日間、旭川市旭川グランドホテル内の6会場で開催いたします。

この学会は外科系の広い領域にわたって基礎となる要素を備える血管外科学の研究集会として誕生いたしました。その前段階の第19回血管外科フォーラムをお世話させていただき、学会として学術集会が開催されるようになってから丁度5回目、研究会から数えて24回目の総会を再び当地で開催させていただくことになります。あたくも立派に成長したわが子を迎えるようで誠に感慨深いものがあります。応募演題は400題を超え、5年前の実に3倍強となりました。この学術集会で活発な討議が展開され、さらなる飛躍のステップとなるよう期待いたします。

プログラムの特別企画では、鼎談「血管外科の将来を占う」で、上野明、阪口周吉、三島好雄の3名誉教授からとくに若い人達に血管外科の今後の方向を示していただきます。

招請講演はF.J.Veith教授（Montefiore Medical Center, NY）から血管内治療について、H.Dardik教授（Englewood病院, NJ）から重症虚血肢の治療について、B.E.Sumpio（Yale大学, New Haven）から血管疾患の遺伝子治療について、J.B.Chang教授（Long Island Vascular Center, NY）から頸動脈閉塞性疾患の治療について講演していただくことにいたしました。

教育講演は波利井清紀教授（東京大学形成外科）「下肢組織欠損の修復とマイクロサージャリー」とK.Affeld教授（Humboldt Univ. Berlin）「血流と

血管壁」の2題で、前者では血管外科の臨床上救肢に欠かせない手技が教えられ、後者から血行再建後にみられる早期血栓、晩期狭窄の機作の理解に役立つ示唆が与えられるものと期待いたします。

前会長の宮内教授が創められた血管外科手技の基礎講座は今回、江里健輔教授（山口大一外）と多田祐輔教授（山梨医大二外）をお願いいたし、最も症例数が多く、標準的手術となっている「大腿-膝窩動脈バイパス手術手技」をご教示いただきます。

シンポジウム4題とパネルディスカッション3題では、血管外科やその応用領域の先端のあるいは重要と思われる問題点を取り上げました。

セミナーでもそれぞれに特別企画をフォローする形で興味深いテーマが選ばれております。いささか欲張った企

画になっておりますが、会員の皆様の明日からの診療・研究・教育に少しでもお役に立てば幸いに存じます。

6月下旬の北海道は、梅雨の本州から来られる先生方には、からりとしたまことに爽やかな時候である筈です。美味しい空気を存分に吸い、広々した緑野を眺めていただけますよう祈念し、お待ち申し上げます。



第25回 会長



星野 俊一 先生

(所属医局) 福島県立医科大学心臓血管外科学講座

第25回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉 1997年5月8日～9日
〈会場〉 福島市 福島テルサ・サンパレス福島
〈主題〉 血管外科の新たな発展を求めて

〈プログラム〉

■**会長講演**
 「Endovascular Surgery」
 座長: 三島好雄 (東京医科歯科大学 名誉教授)
 演者: 星野俊一 (福島県立医科大学 心臓血管外科)

■**招請講演I**
 「Pathophysiology and Surgical Treatment of Chronic Venous Insufficiency」
 座長: 阪口周吉 (浜松医科大学 名誉教授)
 演者: John J Bergan (UCSD, USA)

■**招請講演II**
 「Transfemoral Endoluminal Repair of Aortic Aneurysms: State of the Art, including Comparison of Current Devices」
 座長: 古川欽一 (東京医科大学 名誉教授)
 Geoffrey H White (University of Sydney, Australia)

■**教育講演I**
 「Leukocyte and Endothelial Cell Activation in Vascular Disease」
 座長: 田邊達三 (北海道大学 名誉教授)
 演者: Geert W Schmid-Schönbein (UCSD, USA)

■**教育講演II**
 「整形外科よりみた間歇性跛行の病態と鑑別」
 座長: 塩野谷恵彦 (名古屋大学 名誉教授)
 演者: 菊地臣一 (福島県立医科大学 整形外科)

■**プレコンgres・イベント**
Part I
 International Vascular Symposium in Fukushima
 Session I Endovascular Surgery
 Session II Takayasu Arteritis
 Session III Venous Surgery

Part II
 野口英世生誕120年記念講演
 「ロックフェラー研究所における野口英世」
 座長: 上野明 (山梨医科大学 名誉教授)
 演者: 中井久夫 (神戸大学 精神神経科)

■**シンポジウムI PartI**
 「間歇性跛行の評価と治療のstrategy」
 治療前後における評価法—Fontaine III,IVを含めて—
 座長: 草場昭 (琉球大学 第二外科)
 重松宏 (東京大学 第一外科)

■**シンポジウムI PartII**
 「間歇性跛行の評価と治療のstrategy」
 治療法の適応と遠隔成績
 座長: 岡田昌義 (神戸大学 第二外科)
 安田慶秀 (北海道大学 循環器外科)

■**シンポジウムII**
 「頸部血管の脳血行不全に対するstrategy」
 座長: 菊池晴彦 (京都大学 脳神経外科)
 児玉南海雄 (福島県立医科大学 脳神経外科)

■**シンポジウムIII**
 「小口径人工血管の現況と問題点」
 座長: 久保良彦 (旭川医科大学 副学長)
 野一色泰晴 (横浜市立大学 第一外科)

■**シンポジウムIV**
 「血行再建を要する臓器切除と手術手技」
 一肺・食道・肝・胆・脾外科領域—
 座長: 加藤紘之 (北海道大学 第二外科)
 熊田馨 (昭和大学藤が丘病院 外科)

■**ビデオシンポジウムI**
 「血行再建」
 座長: 善甫宣哉 (山口大学 第一外科)
 笹嶋唯博 (旭川医科大学 第一外科)

■**ビデオシンポジウムII**
 「末梢血行再建」
 座長: 藤原巍 (川崎医科大学 心臓血管外科)
 岩井武尚 (東京医科歯科大学 第一外科)

■**ビデオシンポジウムIII**
 「腹部血行再建」
 座長: 山岡義生 (京都大学 第二外科)
 前田肇 (香川医科大学 外科)

■**ビデオシンポジウムIV**
 「血管吻合法」
 座長: 平明 (鹿児島大学 第二外科)
 葉玉哲生 (大分医科大学 心臓血管外科)

■**ビデオシンポジウムV**
 「胸部血行再建」
 座長: 高場利博 (昭和大学 外科)
 数井暉久 (浜松医科大学 第一外科)

第25回日本血管外科学会学術総会

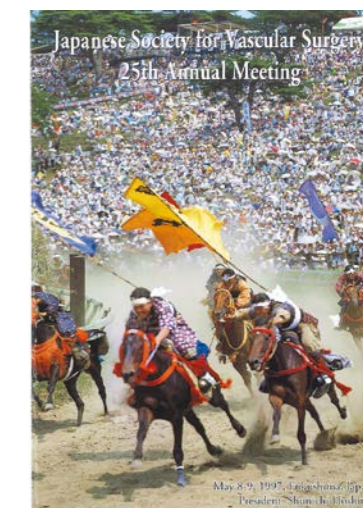
福島県立医科大学心臓血管外科同窓会会員 岩谷文夫

第25回日本血管外科学会学術総会は平成9年(1997年)5月8日、9日の2日間、福島県立医科大学心臓血管外科教授星野俊一先生が主催され、福島市の福島テルサ及びサンパレス福島にて開催されました。また特別企画としてプレコンgres・イベントが前日の7日に福島ビューホテルにて行われました。

星野俊一先生は平成30年(2018年)3月11日にお亡くなりになり、故人になられました。本学会は血管外科に並々ならぬ情熱を注がれた先生が全力で取り組まれた学会の一つでした。学会のプログラムに先生が書かれた「学会開催にあたって」の挨拶文をたどりながら学会を振り返ってみたいと思います。

『本学術総会のテーマは、血管外科における新たな臨床領域への広がり及びニューテクノロジーの開発をめざし

「血管外科の新たな発展を求めて」といたしました。かかるテーマに基づき本学術総会のポスターは躍動感あふれる当地野馬追いの武者の驀進をバックに作成しました。』



相馬野馬追 (絵葉書)

『本学術総会ではEndoluminal Graftingを含むEndovascular SurgeryおよびPathophysiology・Biology of the Veinにスポットを当て、血管外科学の新しい展開について今後の方向性を模索せんとしました。』

『招聘する海外よりの講師は Endovascular Surgeryでは Rodney A White(UCLA,USA)、Kenneth A Myers(Monash Univ. Australia)、Geoffrey H White(Univ. Sidney, Australia)を、Pathophysiology・Biology of the veinではJohn J Bergan(UCSD,USA)、Bo Eklof(Univ. Hawaii, USA)、Geert W Schmid-Schonbein(USCD)をお迎えし、そしてTakayasu Arteritis, Buerger's diseaseではYong Bok Koh(Catholic Univ. Korea)と盛沢山になりました。』

『学会総会に先立ち、プレコンgress・イベントとして内外講師によるInternational Vascular Symposium in Fukushima と記念講演「ロックフェラー研究所における野口英世」(中井久夫・神戸大)



Dr. Alexis Carrel and Dr. Noguchi
野口英世とカレル (絵葉書)



そして終了後ウェルカムパーティを企画しました。』

『シンポジウムは4つの主題をとりあげました。「間歇性跛行の評価と治療のstrategy」では応募演題が多く、評価法と治療法の2つのシンポジウムに分けて議論することとし、評価法ではFontaine IIのみでなく、III、IVも含めての内容とさせて戴きました。「頸部血管の脳血行不全に対するstrategy」と「血行再建を要する臓器切除と手術手技」では脳神経外科領域と一般外科領域での血管外科のstrategyの現況と問題点が議論され、また「小口径人工血管の現況と問題点」では、今後の臨床応用の展望が論じられることを期待しています。』

『会津猪苗代にある野口英世記念館の御厚意により野口英世に関する資料が本学会会場(福島テルサ展示室)に展示されることになりました。この資料の中には血管外科の創始者ともいべきアレキスカレルとのロックフェラー研究所時代の交流の資料なども含まれております。——カレルが奇跡を信ずる人であれば、野口英世は人間性を信ずる人と評され、血管外科医にとってこの2人の天才達をしのぶ機会となれば幸いに存じます。』と会長の挨拶を結ばれました。

会長講演は当時先生が最も力を入れていた「Endovascular Surgery」でした。

第25回日本血管外科学会学術総会は教室員総動員による手作りの学会でしたが大きなトラブルもなく無事終了することができました。

星野先生はこの年に、第5回日本血管外科学会東北地方会も郡山市において主催されましたが、開催にあたっての挨拶にて

『血管外科にはまず血管内科なるものが存在しない以上、内科的あるいは保存的療法をも行う必要があります。これはむしろ将来のすべての疾患治療

のあるべき姿とも評価すべきと考えられます。また血管外科の取り扱う領域においては脳、頸部、胸部、腹部、および四肢血管の広範囲にわたる動脈、静脈の診断と治療を行うものであります。建築物の老朽化はパイピング系統に始まると云われるごとく、高齢化社会においては血管系の保守管理、修復は、その重要性を益々増すものと考えられます。』

先生が血管外科に取り組みされた原点がここにあると思われました。

星野先生はもともと心臓外科医で、とくに心臓弁膜症治療はアメリカ留学時代からのライフワークで、帰国後は多くの人工弁手術を手がけられました。平成元年に福島医科大学心臓血管外科の初代教授になられてからは、静脈及び血管内治療にも興味を示され、教室の主力テーマに加えました。中

でも静脈弁の逆流に対する外科治療に関しては、心臓外科医としての血が騒いだのでしょうか？先生自ら、あの透き通るような静脈弁に針糸をかけ、逆流防止の外科手術に取り組みされました。教室のカンファランスなどで静脈弁が修復され、逆流がなくなった血管内視鏡の映像を説明する時の満足そうな先生の笑顔は今でも忘れることができません。

在りし日の星野俊一先生のお姿を懐かしく思い浮かべながらこの学会記を書かせていただきました。



第26回 会長



熊田 馨 先生

(所属医局) 昭和大学藤が丘病院外科

第26回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉1998年5月13日～14日

〈会場〉東京国際フォーラム

〈プログラム〉

■会長講演

「教室における最近の知見から」

座長：松本昭彦（横浜市立港湾病院）

演者：熊田馨（昭和大学藤が丘病院 外科）

■特別講演 「私説 血管外科小史」

座長：安田慶秀（北海道大学 循環器外科）

演者：田邊達三（NTT札幌病院）

■招請講演1

「Research Will Improve Your Clinical Practice—and Give You a Ticket to the World」

座長：江里健輔（山口大学 第一外科）

演者：Bo Eklof
(Straub Clinic and Hospital, USA)

■招請講演2

「Tricks of Vascular Reconstruction in Liver Transplantation」

座長：田中紘一（京都大学 移植外科）

演者：Karim Boudjema (Hospital Universitaire de Hautepierre, France)

■招請講演3

「Surgery of the Aorta—Historical Development and Own Experience」

座長：三島好雄（東京医科歯科大学）

演者：Hans-Jürgen Peiper
(Georg-August University, Germany)

■招請講演4

「Vascular Surgery in Korea」

座長：星野俊一（福島県立医科大学 心臓血管外科）

演者：Yong Bok Koh (Catholic University Medical College, Korea)

■招請講演5

「The Vascular Surgery in France」

座長：岩井武尚（東京医科歯科大学 第一外科）

演者：Claude Mercier (Hospital de la Timone, France)

■招請講演6

「Budd-Chiari Syndrome」

座長：古謝景春（琉球大学 第二外科）

演者：Zhong-Gao Wang
(General Post and Telecom Hospital, China)

■教育講演 「Microsurgeryをめぐる」

座長：北村惣一郎

(国立循環器病センター胸部心臓血管外科)

演者：菊池晴彦（国立循環器病センター）

■シンポジウム1

「Endovascular Intervention:胸腹部大動脈瘤」

座長：打田日出夫（奈良県立医科大学 放射線科）

石丸新（東京医科大学 第二外科）

特別発言：星野俊一

(福島県立医科大学 心臓血管外科)

演者：緑川博文、下野高嗣、川口聡、井元清隆

前田宗宏、吉川公彦、野田浩、西村元延、善甫宣哉

■シンポジウム2 「血管外科における感染の諸問題」

座長：松原純一（金沢医科大学 胸部心臓血管外科）

佐久間まこと（北海道大学 救急部）

特別発言：平田公一（札幌医科大学 第一外科）

演者：長谷川伸之、川嶋隆久、湊谷謙司、大保英文

松原純一、赤坂伸之、地引政利、山下裕也

■シンポジウム3 「頭蓋動脈病変の外科」

座長：永田泉（国立循環器病センター 脳神経外科）

佐々木久雄（国立金沢病院 臨床研究部）

榊壽右（奈良県立医科大学 脳神経外科）

演者：宇野昌明、浦西龍之介、波出石弘、井上芳徳

二階堂雄次、岡田芳和、秋山義典、北川哲也

郷一知、大西英之、上山武史、宮地茂

西田正博、宮本享

■シンポジウム4

「Endovascular Intervention:ASO」

座長：岡田昌義夫（神戸大学 第二外科）

重松宏（東京大学 外科・血管外科）

特別発言：多田祐輔（山梨医科大学 第二外科）

演者：安原洋、吉田正人、佐々木久雄、大木隆生

伊藤雅史、河野秀雄、内田恒

■シンポジウム5

「Endovascular Intervention:脳・心・その他」

座長：中村仁信（大阪大学 放射線科）

滝和郎（京都大学 脳神経外科）

演者：後藤勝彌、伊藤靖、坂井信幸、倉田彰

小林繁樹、榊原謙、江面正幸、滝和郎、山村明範

大國真一、岩崎武、渡辺俊一、高橋元一郎

■シンポジウム6

「下肢虚血の治療：遠隔成績とQOL」

座長：永田昌久（愛知医科大学 第二外科）

根岸七雄（日本大学 第二外科）

特別発言：江里健輔（山口大学 第一外科）

演者：大城秀巳、松本賢治、江口大彦、藤岡顕太郎

正木久男、森本典雄、村岡幸彦、太田敬

■ビデオシンポジウム1

「消化器領域における一つの試み」

座長：二村雄次（名古屋大学 第一外科）

門田守人（大阪大学 第二外科）

特別発言：平明（鹿児島大学 第二外科）

演者：鳥原康行、大関一、布施明、森康昭、向谷充宏

杉浦芳章、森本泰介、井垣啓、畑谷亮

甲利幸、山岸久一

■ビデオシンポジウム2

「他領域における血管の手術」

座長：波利井清紀（東京大学 形成外科）

山浦晶（千葉大学 脳神経外科）

演者：一宮康乗、井上要次郎、朝戸裕貴、丸山優

坪健司、上出延治、塩川芳昭、江面正幸

中富浩文、詠田真治

■ビデオシンポジウム3

「上大静脈、下大静脈の外科とその周辺」

座長：岡田昌義（神戸大学 第二外科）

山岡義生（京都大学 消化器外科）

特別発言：土肥雪彦（広島大学 第二外科）

演者：安藤太三、下川新二、岡田昌義、前場隆志

梶川真樹、小川哲央、佐々木洋、福田洋、諸久永

■ビデオシンポジウム4

「血管の手術：私のコツ」

座長：小柳仁（東京女子医科大学心研 循環器外科）

児玉南海雄（福島県立医科大学 脳神経外科）

笹嶋唯博（旭川医科大学 第一外科）

演者：石井良幸、落雅美、八杉巧、中村都英、森彬

遠藤俊郎、小笠原邦昭、稲葉雅史、河内寛治

青見茂之、山下長司郎

■ビデオシンポジウム5

「急性解離性大動脈瘤手術の工夫」

座長：中島伸之（千葉大学 第一外科）

高本真一（東京大学 胸部外科）

特別発言：藤原魏（川崎医科大学 胸部心臓血管外科）

演者：大北裕、貞弘光章、井元清隆、間瀬武則

加藤智栄、末田泰二郎、森義雄、向井恵一、石原浩

■ビデオシンポジウム6

「内視鏡外科における血管処理:工夫とpitfall」

座長:比企能樹(北里大学 外科)

松本純夫

(藤田保健衛生大学第二教育病院 外科)

演者:許俊鋭、松本純夫、杉和郎、金子弘真

大上正裕、池田忠明

■パネルディスカッション

「血管外科臨床論文作成のコツ」

座長:幕内雅敏(東京大学 第二外科)

岡留健一郎(済生会福岡総合病院 外科)

特別発言:兼松隆之(長崎大学 第二外科)

演者:古森公浩、高山忠利、猪股裕紀洋、澤芳樹

■ワークショップ1

「感染対策—私の提案」

座長:宮本巍(兵庫医科大学 胸部外科)

錦見尚道(名古屋大学 第一外科)

特別発言:廣瀬一(岐阜大学 第一外科)

演者:佐藤藤夫、田淵篤、国原孝、田中厚寿、神田裕史

久米誠人、川崎富夫、錦見尚道

■ワークショップ2

「Budd-Chiari症候群」

座長:山田龍作(大阪市立大学 放射線科)

伊藤翼(佐賀医科大学 胸部外科)

特別発言:中尾量保(大阪警察病院 外科)

演者:八木恵子、力武一久、島田晃治、春田直樹

安藤太三、古謝景春、神納敏夫

第26回学術総会担当に当たって

第26回会長 熊田馨

本学会の源流は1973年4月1日、京都で開催された第1回血管外科研究会に求められます。開会挨拶稲田潔先生、木本誠二先生、司会三島好雄先生、上野明先生、開会挨拶杉江三郎先生で、主題はangiodyplasia及び治療困難症例の検討でありました。この研究会は翌年より新鮮外傷(三島・東京)、動脈瘤(勝村、古元・岡山)、血栓・塞栓症(阪口・東京)、一次性静脈瘤(草場・福岡)、Leriche症候群(田邊・札幌)、腎血管性高血圧症(大内・仙台)、後天性動静脈瘻(多田・東京)、非解剖学的バイパス(宮内・千葉)、人工血管移植後合併症(大城・大阪)、医原性損傷(熊田・京都)、吻合部動脈瘤(星野・仙台)、消化器合併症(櫻井・東京)、吻合部合併症(川田・東京)、リンパ浮腫及び先天性動静脈瘻(江口・新潟)、ASO再建適応(古川・東京)、と回を重ね、“学会に”という声の昂まるなか、1990年血管外科フォーラム(吉崎・名古屋)、1991年同(久保・旭川)を経て第20回日本血管外科学会がスタートされました。これは田邊達三会長の広汎な人脈を総動員した、血管外科の総合学会の感があり、この姿勢は25回まで引き継がれまさに本学会の基調かと考えられました。

1998年に本会を担当してからもう4半世紀経ちました。本学会はいま途方もない高みを駆けていますが本学会を産み手塩にかけて育てて来られた故 三島好雄先生を忘れることは出来ません。また私に手術の手ほどきをして下さった Fontaine, Tingaud, Mercier, Dos Santos, 先生方と、後腹膜拡大郭清や腎移植を教えて下さった泌尿器科吉田修教授とその門下の岡田裕作、川村壽一、岡田謙一郎らの各先生は私を本学会に結び付けて下さった云わば恩人です。また不肖の私にmicro surgeryを熱心に吹き込んでくれた菊池晴彦先生も忘れられません。

企画への想いと反省

想いの第一は領域間の交流促進でありました。encounterで文化が進み、生き残っていけるように、血管病の外科から血管外科をめぐる各領域が一堂に相寄ることを願いました。消化器外科、脳神経外科、形成外科、腎血管外科、婦人科、整形外科、耳鼻科などの方々からの協力を強く乞い、ともかく120余題の参加をいただきました。

第二は、若い方にチャンスを与えることでした。そのためにシンポジウム、ワークショップなどを多く設け、それぞれ若い方の秘めたものを披露していただきたいと願いました。またひとつには嘗ての大家に親しく接してほしい。医学史に造詣の深い田邊達三先生に特別講演「私説 血管外科小史」をお願いしたのも、現役を退かれた大家や老練の名手に一般演題の座長を強いてお願いしたのもそのためでした。

また、パネルディスカッション「血管外科臨床論文作成のコツ」も同好ではありますが、「何だこりゃ?」と大家からのご叱責を覚悟しておりました。

企画を拡げた挙句、小会場が増え、参加者が分散し会場によっては参加者が20~30名を切る処が出てしまい、会場外で客引きや医局員動員をひそかにやった記憶があります。

それぞれの国で一流の招待演者が遥かな日本に来て、ガランとした会場を前に息を呑んでいた姿を想い出すと25年後の今も顔に汗が流れます。

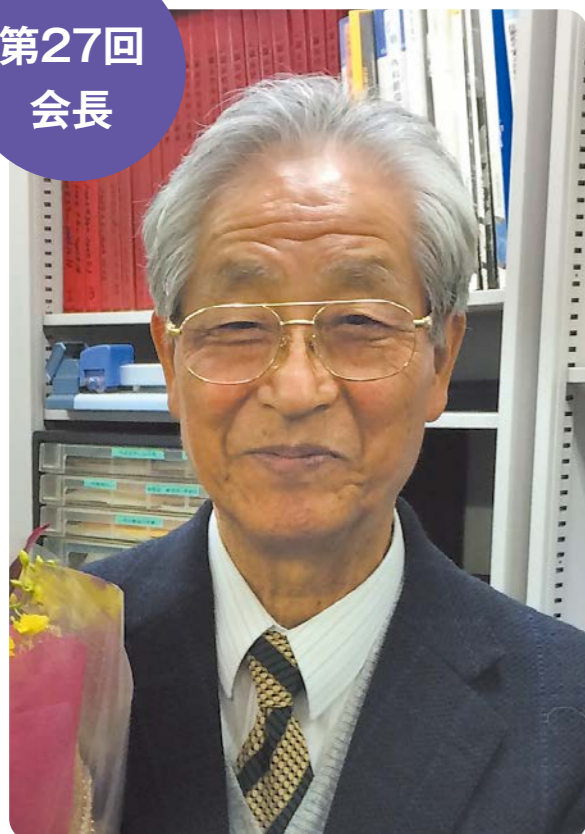
また自分としては手を打ったある演目をおもい付き、我が尊敬する某大家にご出演を願って何度か足を運びました処、一、二ヶ月ばかり二考三考された結果遂には辞退されてしまいました。その理由は今も理解できませんが、企画の身勝手に由るものにちがいないと空しく反省をくり返しております。

また、プログラムとくに演題の評価については、私どもの手を引いて下さった先生方には此処に氏名を挙げてお礼を申し上げます。

江里健輔、石丸新、岡田昌義、加藤逸夫、古謝景春、中島伸之、高本眞一、松原純一、重松宏、笹嶋唯博、永田昌久、根岸七雄、伊藤翼、二村雄次、門田守人、今村正之、出月康男、比企能樹、幕内雅敏、兼松隆之、永田泉、山浦晶、児玉南海雄、橋本信夫、波利井清紀、野崎幹弘、打田日出夫、中村仁信、山田龍作、東間紘、松本純夫、矢野孝、安藤太三、岡留健一郎、錦見尚道、藤哲、高橋元一郎、端和男、滝和郎、山岡義生、岩井武尚、田中紘一、川村壽一、杉町圭藏(敬称略)。

最後に準備運営の全てに手を尽くしてくれた根本洋先生には今も頭が上がりません。緑川武正、真田裕、長崎秀彰、故 門倉萩郎、故 松石正治、木根淵光夫、渡辺紘、成原健太郎、中山寿朗、坂本道男(敬称略)らの諸先生方にもお礼を申し上げます。

第27回
会長



田中 勸 先生

〈所属医局〉防衛医科大学校第二外科

第27回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉1999年5月20日～21日

〈会場〉大宮市 ソニックシティ

〈主題〉2000年代に吻合する血管外科

〈プログラム〉

■会長講演

「血管外科における臓器保護」
座長：井上正（慶應義塾大学名誉教授）
演者：田中勸（防衛医科大学校 第二外科）

■特別講演

「アルコールと血流一循環動態および代謝への影響」
座長：阪口周吉（浜松医科大学 名誉教授）
演者：石井裕正（慶應義塾大学医学部 内科教授）

■招請講演1

「Vascular trauma : Reflections and Projections」
座長：安田慶秀（北海道大学 循環器外科）
演者：Norman M Rich
(Uniformed Services University
of the Health Sciences, Bethesda, USA)

■招請講演2

「Can Surgeons Control the Destiny of a
Vascular Graft?」
座長：田中茂夫（日本医科大学 第二外科）
演者：Bauer E Sumpio
(Yale University, New Haven, USA)

■招請講演3

「Indication of a Stent Graft for
Abdominal Aneurysm」
座長：江里健輔（山口大学 第一外科）
演者：Luis M Ferreira (Instituto Cardiovascular
de Buenos Aires, Argentina)

■招請講演4

「Diagnosis and Management of the Unstable Aorta」
座長：星野俊一（福島県立医科大学 心臓血管外科）
演者：William R Flinn
(University of Maryland, Baltimore, USA)

■シンポジウム1

「破裂性大動脈瘤治療のストラテジー」
座長：田林暁一（東北大学 胸部外科）
森下靖雄（群馬大学 第二外科）
特別発言：田邊達三（北海道大学 名誉教授）

■シンポジウム2

「外傷性血管病変の治療」
座長：宮本巍（兵庫医科大学 胸部外科）
矢田公（三重大学 胸部外科）
特別発言：久保良彦（旭川医科大学学長）

■シンポジウム3

「急性動脈閉塞症の治療」
座長：多田祐輔（山梨医科大学 第二外科）
根岸七雄（日本大学 第二外科）
特別発言：古川欽一（東京医科大学 名誉教授）

■シンポジウム4

「心疾患併存の血管手術」
座長：松浦雄一郎（広島大学 第一外科）
笹嶋唯博（旭川医科大学 第一外科）
特別発言：宮内好正（深谷赤十字病院院長）

■シンポジウム5

「各分野における血管手術の現状と今後の課題」
座長：松田暉（大阪大学 第一外科）
横手祐二（埼玉医科大学 第一外科）
特別発言：瀬在幸安（日本大学 第二外科）

■パネルディスカッション

「外科医のEndovascular Interventionへの関与」
座長：中島伸之（千葉大学 第一外科）
打田日出夫（奈良県立医科大学 放射線科）
特別発言：三島好雄（東京医科歯科大学 名誉教授）

■ビデオシンポジウム1

「大動脈解離の手術手技」
座長：北村惣一郎（国立循環器病センター 副院長）
高本眞一（東京大学 心臓外科）
特別発言：尾本良三（埼玉医科大学 第一外科）

■ビデオシンポジウム2

「胸腹部大動脈瘤の手術」
座長：葉玉哲生（大分医科大学 心臓血管外科）
数井暉久（浜松医科大学 第一外科）
特別発言：江口昭治（新潟心臓血管医学財団）

■ビデオシンポジウム3

「肝移植外科における血管吻合の工夫」
座長：杉町圭蔵（九州大学 第二外科）

■ワークショップ1

「Burger病の治療方法」
座長：北村信夫（熊本大学 第一外科）
應儀成二（鳥取大学 第二外科）
特別発言：勝村達喜（川崎医科大学学長）

■ワークショップ2

「動脈瘤・狭窄に対するIntervention」
座長：平明（鹿児島大学 第二外科）
高場利博（昭和大学 第一外科）
特別発言：松本昭彦（横浜港湾病院院長）

■ワークショップ3

「下肢静脈瘤治療～硬化療法の限界と手術方法の選択」
座長：鈴木宗平（弘前大学 第一外科）
折井正博（東海大学 外科）
特別発言：星野俊一
(福島県立医科大学 心臓血管外科)

■ワークショップ4

「病理解剖から教わったこと」
座長：川田志明（慶應義塾大学 外科）
落雅美（日本医科大学 第二外科）
特別発言：掛川暉夫（国際親善総合病院）

■ワークショップ5

「血管疾患に対する低侵襲手術」
座長：上山武史（国立金沢病院 心臓血管外科）
広瀬一（岐阜大学 第一外科）
特別発言：毛利平（東北文化学園大学）

第27回日本血管外科学会総会の思い出

防衛医科大学校心臓血管外科 木村民蔵

1999年度は、定年を迎えられる田中勳教授の防衛医科大学校教授として最後の1年でした。教授としての集大成の学会主催が、第27回日本血管外科学会でした。キャッチフレーズは「2000年代に吻合する血管外科」。2000年代を迎えるにあたり、10年後はどうなるかを考えて、次世代へのメッセージを送っていただくという趣旨でした。1999年5月20日～21日の期間、大宮ソニックシティで開催されました。

田中勳教授の会長講演タイトルは「血管外科における臓器保護」です。現在でも課題である、胸部大動脈瘤手術における脳保護、脊髄保護についての当科での研究成果を述べられました。

今は改編されましたが、当時の防衛医科大学校第2外科は胸部外科：呼吸器、循環器、消化器の3グループ外科の特殊領域を扱う猛者達が集う賑やかでアクティブな医局でした。学会の事務局長は肝胆膵外科の権威である杉浦芳章助教授（当時）が行い、3グループの猛者達をまとめて、学会開催の数ヶ月前から第2外科医局を学会事務局として毎日、準備作業が行われました。学会の準備作業、運営はイベント会社に依頼することなく、すべて第2外科医局員及びOBで行いました。当時は、スライド投影も映写機で行っていたから、会場案内、会議進行のスライドなど全てのスライドを作成しなければなりません。全てのスライドを準備作成するのは膨大で大変な作業でした。私も学会の演台の前面に貼る日本血管外科学会のシンボルロゴ：JSVSのマークをスキャンして拡大カラーコピーして丸い形に切り抜くという作業を担当しました。まさに手作りの学会という感じでした。学会当日の運営も第2外科医局員、OBだけで行いました。防衛医大の卒業生は研修医、専門研修医、研究科学生以外

は、全国の自衛隊病院および基地に勤務しています。当日は全国からOBである防衛医大卒業生にかけつけていただきました。1期生から17期生まで第2外科OBの猛者達の勢揃い、まさに壮観でした。会場設営、学会受付け、スライド映写、外国人講師の空港での出迎え、会場への案内など、すべて医局員、OBで行いました。学会会場は大宮ソニックシティでしたが、ほとんどの医局員、OBが併設されているパレスホテル大宮に泊まり込みでした。会長招宴は華やかに自衛隊音楽隊の演奏をバックに行われました。準備、片付け作業の医局員はこの会長招宴では美酒はいただきませんでした。そのかわり、学会終了後、パレスホテル大宮の宴会場で医局員、OBで盛大な打ち上げを行いました。

その後、防衛医大第2外科で学会を主催することはありますが、このように呼吸器、循環器、消化器3グループ総出で運営するというのではなく、会議の進行もイベント会社に依頼して行っていますので、OBが集結するということもありません。今となつては、防衛医大第2外科草創期のよき思い出のイベントという感じです。学会長であられた田中勳教授は2015年に逝去されました。よき学会を主催された田中勳教授に感謝するとともに、慎んでご冥福をお祈りいたします。



学会を記念して作成されたテレホンカード
(田中勳教授、防衛医科大学校病院をバックに)



田中勳教授、会長招宴で。自衛隊音楽隊の演奏をバックに

第28回 会長



高場 利博 先生

(所属医局) 昭和大学医学部第一外科学教室

第28回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2000年5月18日～19日
 〈会場〉東京都 高輪プリンスホテル
 〈主題〉21世紀に向けての
 血管外科の目指すもの

〈プログラム〉

■会長講演

「血管外科 ミレニアムに思う」
 座長：三島好雄（東京医科歯科大学 名誉教授）
 演者：高場利博（昭和大学 第一外科）

■特別講演

「窠辺雑話 土を手にしながら想うこと」
 座長：高場利博（昭和大学 第一外科）
 演者：南雲龍（陶造形家 日展評議員）

■招請講演1

「The Optimal Surgical Approach for Elective Reconstruction of the Infra- and Juxta-Abdominal Aorta」
 座長：川田志明（慶應義塾大学 外科）
 演者：R.Suy (Leuven University,Belgium)

■招請講演2

「Reliable Eradication of Major Vascular Infection with Cryopreserved Arterial Allografts」
 座長：北村愨一郎
 (国立循環器病センター 心臓血管外科)
 演者：P.R.Vogt
 (University Hospital,Zurich,Switzerland)

■招請講演3

「Endovascular Surgery for Aneurysmal Lesion of the Abdominal Aorta:New Trend in European Countries」
 座長：岡田昌義（新日鐵広畑病院）
 演者：K.H.Orend
 (Ulm University,Germany)

■招請講演4

「Treatment of Atherosclerosis in the New Millennium: Genetics, Angiogenesis and Growth Factors」
 座長：田中勲（前防衛医科大学校 第二外科）
 演者：B.E.Sumpio (Yale University,USA)

■教育講演

「New and Future Trends in Antithrombotic Therapy for Patients with Obstructive Arterial Diseases, Small Caliber Vascular Prosthetic Graft and Venous Thrombosis」
 座長：星野俊一（福島県立医科大学 心臓血管外科）
 演者：H.I.Hassouna
 (Michigan State University,USA)

■シンポジウム1

「21世紀の血管外科を考える」
 座長：中島伸之（千葉大学 第一外科）
 杉町圭蔵（九州大学 第二外科）
 特別発言：田邊達三（NTT東日本札幌病院）

■シンポジウム2

「大血管に対するステントグラフト内挿術の中期成績」
 座長：矢田公（三重大学 胸部外科）
 石丸新（東京医科大学 第二外科）
 特別発言：打田日出夫
 (奈良県立医科大学 放射線科)

■シンポジウム3

「遠位弓部大動脈瘤の治療」
 座長：松田暉（大阪大学 第一外科）
 古謝景春（琉球大学 第二外科）
 特別発言：勝村達喜（川崎医科大学 学長）

■シンポジウム4

「複数血管病変を有する症例の治療」
 座長：江里健輔（山口大学 第一外科）
 葉玉哲生（大分医科大学 心臓血管外科）
 特別発言：久保良彦（旭川医科大学 学長）

■パネルディスカッション1

「急性B型大動脈解離は保存的治療で良いか」
 座長：安田慶秀（北海道大学 循環器外科）
 数井暉久（浜松医科大学 第一外科）

■パネルディスカッション2

「Extra-anatomical bypassの長期予後」
 座長：鈴木宗平（弘前大学 第一外科）
 重松宏（東京大学 血管外科）

■パネルディスカッション3

「主要血管へ浸潤した悪性腫瘍に対する治療」
 座長：岩井武尚（東京医科歯科大学 第一外科）
 宮本巍（兵庫医科大学 胸部外科）

■ビデオシンポジウム1

「胸部大動脈瘤手術における合併症回避の工夫」
 座長：高本真一（東京大学 心臓外科）
 伊藤翼（佐賀医科大学 胸部外科）

■ビデオシンポジウム2

「腹腔内血行再建術」
 座長：多田祐輔（山梨医科大学 第二外科）
 應儀成二（鳥取大学 第二外科）

■ワークショップ1

「救急医療と血管外科」
 座長：近藤治郎
 (横浜市立大学 市民総合医療センター)
 大北裕（神戸大学 第二外科）

■ワークショップ2

「間歇性跛行の客観的重症度判定法」
 座長：松原純一（金沢医科大学 胸部心臓血管外科）
 笹嶋唯博（旭川医科大学 第一外科）

■ワークショップ3

「慢性透析例におけるASO治療の問題点」
 座長：根岸七雄（日本大学 第二外科）
 森下靖雄（群馬大学 第二外科）

第28回日本血管外科学会学術総会

第28回会長 高場利博

第28回は2000年5月18日、19日の両日、品川の高輪プリンスホテルで開催しました。応募演題は400題を超え、参加会員も初めて1000人を超えました。外国からの招請講演は7名となり、Sumpio先生とLee先生以外は、日本は初めてか2度目という先生方（ベルギーから2名、アメリカから2名、ドイツから1名、スイスから1名、韓国から1名）をお願いしました。

特別講演は、陶造形家で日展審査員であり私の患者さんでもある南雲龍先生から「無の土から有形の美を作り上げる発想」を血管外科医として学びたいと思ったからでした。その南雲先生が横浜市立大学の松本昭彦先生と中学時代同級生で、何十年振りかの再会です、とお聞きして驚きました。

忘れられないエピソードは、懇親ゴルフのバスがゴルフ場を間違えたため、全体のスタートが遅れ、遠方から飛行機で来られた先生方は、最後までプレーできず帰らざるをえなかったことです。今でも申し訳なく思っております。

第29回 会長



杉町 圭蔵 先生

(所属医局) 九州大学大学院
消化器・総合外科(第二外科)

第29回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2001年5月24日～25日

〈会場〉福岡市 アクロス福岡

〈主題〉血管外科学
～新しい時代の幕開け～

〈プログラム〉

■会長講演 「血管外科学～新しい時代の幕開け～」
座長：三島好雄(東京医科歯科大学)
演者：杉町圭蔵(九州大学大学院 消化器・総合外科(第二外科))

■招請講演1
「Intimal Hyperplasia — Can It Be Prevented?」
座長：中島伸之(千葉大学 第一外科)
演者：K.Craig Kent
(New York Presbyterian Hospital/
Cornell Medical Center,USA)

■招請講演2
「Surgical Robotics :
Is It Ready For Vascular Surgery?」
座長：星野俊一(福島第一病院 心臓血管病センター)
演者：Randall K.Wolf
(Ohio State University Medical Center,USA)

■招請講演3
「Gene Therapy for Cardiovascular Disease」
座長：居石克夫(九州大学 病理病態学)
演者：Michael J.Mann
(Brigham and Women's Hospital/
Harvard Medical School,USA)

■招請講演4
「109 Living Donor Liver Transplants in Pediatric and
Adult Recipients」
座長：田中紘一(京都大学 移植外科)
演者：Charles M.Miller
(Mount Sinai Hospital,USA)

■シンポジウム1
「臓器移植後の吻合部血栓症に対する予防
—基礎と臨床—」
座長：松田暉(大阪大学 機能制御外科)
川崎誠治(信州大学 第一外科)

■シンポジウム2
「頸動脈(頭蓋外)病変に対する治療戦略
—手術適応と治療成績—」
座長：岩井武尚(東京医科歯科大学 第一外科)
児玉南海雄(福島県立医科大学 脳神経外科)

■シンポジウム3
「大動脈弓部置換術
—適応、補助手段と遠隔成績—」
座長：数井暉久(浜松医科大学 第一外科)
伊藤翼(佐賀医科大学 胸部外科)

■シンポジウム4
「消化器外科における血管処理のピットフォール
—血管合併症とその対策—」
座長：加藤紘之(北海道大学 腫瘍外科)
門田守人(大阪大学 病態制御外科)

■シンポジウム5
「胸腹部大動脈瘤手術の臓器保護と遠隔成績」
座長：古謝景春(琉球大学 第二外科)
田林暁一(東北大学 心臓血管外科)

■シンポジウム6
「動脈瘤に対する治療戦略
—従来手術かステントグラフト挿入術か?—」
座長：江里健輔(山口大学 第一外科)
須藤憲一(杏林大学 胸部外科)

■シンポジウム7
「慢性静脈不全に対する弁形成術の長期予後」
座長：佐久間まこと(日本赤十字北海道看護大学)
應儀成二(鳥取大学 第二外科)

■シンポジウム8
「深部静脈血栓症の成因、治療と長期成績」
座長：平井正文(愛知県立看護大学 外科)
小代正隆(鹿児島県立大島病院)

■パネルディスカッション1
「多発性動脈閉塞症に対する治療戦略
—完全血行再建術はquality of lifeを向上させるか—」
座長：多田祐輔(山梨医科大学 第二外科)
岡留健一郎(済生会福岡総合病院 外科)

■パネルディスカッション2
「消化器癌を合併した大動脈疾患の治療戦略」
座長：葉玉哲生(大分医科大学 心臓血管外科)
青柳成明(久留米大学 外科)

■パネルディスカッション3
「一次性下肢静脈瘤に対する治療方針の選択」
座長：折井正博(東海大学 心臓血管移植外科)
森彬(福岡記念病院)

■ビデオシンポジウム1
「急性A型大動脈瘤解離に対する手術の工夫と遠隔成績」
座長：安田慶秀(北海道大学 循環器外科)
高本真一(東京大学 心臓外科)

■ビデオシンポジウム2
「肝臓移植における血管吻合のコツ」
座長：幕内雅敏(東京大学 肝胆膵外科)
猪股裕紀洋(熊本大学 小児外科)

■ビデオシンポジウム3
「腎臓移植における血管吻合のコツ」
座長：高橋公太(新潟大学 泌尿器科)
里見進(東北大学 先進外科)

■ビデオシンポジウム4
「閉塞性動脈疾患におけるEndovascular Interventionの
成績と工夫」
座長：高場利博(昭和大学 第一外科)
打田日出夫(奈良県立医科大学 放射線科)

■ビデオシンポジウム5
「大血管浸潤を伴う胸部悪性腫瘍に対する外科治療の適応、
手技、術後成績」
座長：綾部公懿(長崎大学 第一外科)
土屋了介(国立がんセンター中央病院)

■ビデオシンポジウム6
「血行再建術を伴う消化器手術」
座長：山岡義生(京都大学 消化器外科)
兼松隆之(長崎大学 第二外科)

■ビデオシンポジウム7
「動脈瘤に対するステントグラフト挿入術の工夫」
座長：石丸新(東京医科大学 第二外科)
矢田公(三重大学 胸部外科)

■ビデオシンポジウム8
「形成外科手術におけるマイクロサージャリーの最近の進歩」
座長：波利井清紀(東京大学 形成外科)
野崎幹弘(東京女子医科大学 形成外科)

■ビデオシンポジウム9
「遊離空腸を用いた食道再建術における血管吻合」
座長：田井良明(久留米大学 形成外科)
塩崎均(大阪大学 病態制御外科)

■ビデオシンポジウム10
「透析シャント術における血管吻合のコツ」
座長：合屋忠信(済生会八幡総合病院)
石井良幸(日本大学 第二外科)

■ビデオシンポジウム11
「血行再建術後グラフト閉塞に対する再手術術式」
座長：松原純一(金沢医科大学 胸部心臓血管外科)
矢野孝(春日井市民病院)

■ワークショップ1
「血管内膜肥厚の成因とその制御—基礎と臨床—」
座長：笹嶋唯博(旭川医科大学 第一外科)
重松宏(東京大学 血管外科)

第29回日本血管外科学術総会の報告

平成13年（2001年）5月24・25日に九州大学大学院 消化器・総合外科（第二外科）杉町圭蔵教授の会頭のもと、福岡市で開催され約900名の参加と450題を超える演題の発表があり、活発な討論がくりひろげられた。

総会のテーマは新世紀を迎え、血管外科学の新たな発展を願って“血管外科学—新しい時代の幕開け”であった。日本血管外科学会発足時の理念である“全ての外科領域のなかの血管外科”という観点から、狭い意味での血管外科領域以外に、消化器外科、移植外科、脳神経外科、形成外科といった幅広い領域で、指定演題のテーマを設けた。

大動脈外科の進歩と今後の展望について、弓部大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、腹部大動脈瘤の外科に関する現状と将来への展望について議論した。

また閉塞性動脈疾患に対する治療の進歩と今後の展望について、血管外科領域における再生療法の現状と今後の展望：細胞移植療法と遺伝子治療について、新しい治療法についてのシンポジウムも企画された。

新しい世紀を迎え、今後の血管外科は、より低侵襲でより効果的な治療法の開発が期待される。ステントグラフトなど血管内治療の発達、また内視鏡下手術、ロボティックサージャリーの応用、遺伝子治療、再生療法など、血管外科領域におけるさらなる進歩を望んでやまない。

文責 名古屋大学大学院血管外科 古森公浩

第29回日本血管外科学会学術総会
九州大学大学院 消化器・総合外科（第二外科）

古森公浩, 杉町圭蔵



第30回 会長



古謝 景春 先生

(所属医局) 琉球大学医学部外科学第二講座

第30回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2002年5月16日~17日

〈会場〉沖縄コンベンションセンター

〈主題〉血管外科学・温故知新

〈プログラム〉

■会長講演 「Budd-Chiari症候群に対する外科治療」
座長:宮内好正((医)聖ルカ会パシフィックホスピタル)
演者:古謝景春(琉球大学医学部 外科学第二講座)

■第30回記念公演 「温故知新」—我が国の血管外科—
座長:中島伸之(千葉大学第一外科前教授)
演者:三島好雄(東京医科歯科大学 名誉教授)

■招請講演1
「Abdominal Aortic Aneurysm(AAA)」
座長:岡田昌義(新日鐵広畑病院)
演者:Herbert Imig
(General Hospital Hamburg-Harburg,Germany)

■招請講演2
「Lessons Learned from 20years Thoracoabdominal Aortic Aneurysm Surgery」
座長:川田志明(慶應義塾大学名誉教授 山中湖クリニック)
演者:Marc A.Schepens
(St.Antonius Hospital Nieuwegein,The Netherlands)

■招請講演3
「25Years Experience with in-situ Bypasses」
座長:多田祐輔(山梨医科大学 第二外科)
演者:Dhiraj M.Shah(Albany Medical college,USA)

■招請講演4
「Trends in the Management of Critical Limb Ischaemia」
座長:重松宏(東京大学医学部 血管外科)
演者:Michael Horrocks
(Royal United Hospital,Bath,United Kingdom)

■招請講演5
「Endovascular Rescue for Ruptured Aneurysms and Acute Symptomatic Dissections:Concept,Techniques and Results」
座長:高場利博(昭和大学医学部 第一外科学教室)
演者:Hardy Schumacher
(Ruprecht-Karls University Heidelberg,Germany)

■招請講演6
「The Evolution of Aortic Arch Reconstruction: The Mount Sinai Approach」
座長:北村惣一郎(国立循環器病センター)
演者:David Spielvogel
(Cardiothoracic Surgery/
The Mount Sinai Medical Center,USA)

■教育講演
「大動脈解離ならびに大動脈瘤の病理」
座長:江里健輔(山口県立中央病院)
演者:中島豊(九州大学大学院医学研究院 病理病態学)

■シンポジウム1
「冠動脈疾患を有する腹部大動脈瘤(AAA)の治療戦略」
座長:北村信夫(京都府立医科大学 心臓血管外科)
松田暉(大阪大学大学院医学系研究科 臓器制御外科(第一外科))

■シンポジウム2
「大動脈全置換または亜全置換術における分割手術と手術成績」
座長:安田慶秀
(北海道大学大学院医学研究科 高次診断治療学専攻 循環病態学講座 循環器外科学分野)
数井暉久(浜松医科大学 第一外科)

■シンポジウム3
「胸腹部大動脈瘤手術における対麻痺予防策と手術成績」
座長:田林暁一(東北大学大学院医学系研究科 心臓血管外科)
大北裕(神戸大学大学院医学系研究科 循環動態医学講座 呼吸循環器外科部)

■シンポジウム4
「腹部大動脈瘤に対するステントグラフトの問題点と治療成績」
座長:石丸新(東京医科大学 第二外科)
矢田公(三重大学医学部 胸部外科)

■シンポジウム5
「糖尿病または透析患者の重症虚血肢に対する血行再建術」
座長:岩井武尚(東京医科歯科大学 外科・血管外科)
永田昌久(愛知医科大学 心臓・血管外科)

■パネルディスカッション1
「臓器虚血(下肢虚血を含む)を伴う急性大動脈解離の治療戦略」
座長:葉玉哲生(大分医科大学 心臓血管外科)
川副浩平(岩手医科大学附属循環器医療センター)

■パネルディスカッション2
「脳血管障害の治療~内科的治療、外科的治療、血管内治療、それぞれの立場から~」
座長:滝和郎(三重大学 脳神経外科)
兵頭明夫(琉球大学 脳神経外科)

■パネルディスカッション3
「Axillo-Femoral bypassの適応と遠隔成績」
座長:前田肇(香川医科大学医学部 外科学講座第一外科)
荻野均(国立循環器病センター 心臓血管外科)

■パネルディスカッション4
「下肢静脈瘤手術手技の変遷と遠隔成績」
座長:應儀成二(鳥取大学医学部 第二外科)
平井正文(愛知県立看護大学 外科)

■パネルディスカッション5
「大血管浸潤を伴う悪性腫瘍に対する外科治療」
座長:白日高歩(福岡大学医学部 第二外科)
林純一(新潟大学医学部 第二外科)

■ビデオシンポジウム1
「大動脈基部再建術(弁温存、弁置換)」
座長:伊藤翼(佐賀医科大学医学部 外科学)
上田裕一(名古屋大学大学院医学研究科 機能構築医学専攻 病態外科学講座 胸部機能外科学)

■ビデオシンポジウム2
「胸腹部大動脈置換術」
座長:高本真一(東京大学医学部 心臓外科)
安藤太三(藤田保健衛生大学 胸部外科)

■ビデオシンポジウム3
「腹部大動脈高位閉塞症に対する血行再建術」
座長:松原純一(金沢医科大学 胸部心臓血管外科)
末田泰二郎(広島大学大学院医歯薬総合研究科 器官病態外科学(第一外科))

■ビデオシンポジウム4
「膝下血行再建術」
座長:笹嶋唯博(旭川医科大学 第一外科)
根岸七雄(日本大学医学部 外科学講座外科二部門)

■ビデオシンポジウム5
「低侵襲血管手術」
座長:安倍十三夫(札幌医科大学医学部 外科学第二講座)
青柳成明(久留米大学 外科)

■ビデオシンポジウム6
「下肢静脈弁形成術」
座長:星野俊一(福島第一病院 心臓血管病センター)
野崎幹弘(東京女子医科大学 形成外科)

■ワークショップ1
「血管新生療法の基礎と臨床」
座長:古森公浩(九州大学大学院 消化器・総合外科(第二外科))
宮田哲郎(東京大学医学部 血管外科)

■ワークショップ2
「抗凝固(抗血小板、抗血栓)療法薬の選択と問題点」
座長:横山斉(福島県立医科大学医学部 心臓血管外科学講座)
小代正隆(鹿児島県立大島病院)

第30回大会の記憶

第30回日本血管外科学会学術総会 事務局長
社会医療法人浦添総合病院心臓血管外科顧問
琉球大学名誉教授 國吉幸男

第30回学術総会は琉球大学医学部第二外科講座教授の古謝景春会長のもとに開催されました。会期は2002年5月16日と17日の2日間、那覇の北にある宜野湾市にある沖縄コンベンションセンターを会場として行われました。テーマは「血管外科学・温故知新」として、本学会の創始者に敬意を表し、それを基盤として今後の大いなる飛躍を期する学会との思いから命名されました。第一日目にはその創始者のひとりである三島好雄先生による「温故知新—我が国の血管外科」と題して第30回を記念したメモリアルな講演がなされました。

その時代はステント全盛前夜であり、「拡大……」「根治的……」等が多くの演題名に踊ってしま

た。それぞれの施設でどこまでの手術が可能かを競っており、象徴的にシンポジウム2のテーマが「大動脈全置換または亜全大動脈置換術における分割手術と手術成績」であり、全国の6つの施設からの報告がなされました。その座長をつとめたのが、北大の安田慶秀教授と浜松医科大学の数井輝久教授であり、当時当該分野では飛ぶ鳥を落とす勢いの両雄でありました。

演題数は547題を数え、5つのシンポジウム、6つのビデオシンポジウム、5つのパネルディスカッション、ワークショップが2つで構成されており、2日間で活発なるDiscussionが行われました。会長講演は「Budd-Chiari症候群に対する外科治療」と題して、我が国で発展してきた直視下修復術を古謝会長自身が発展、完結した術式と、その長期遠隔成績を含めて講演されました。



第31回 会長



松原 純一 先生

(所属医局) 金沢医科大学胸部心臓血管外科

第31回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉 2003年7月10日~11日

〈会場〉 金沢市観光会館ほか

〈主題〉 創造と応用

〈プログラム〉

■会長講演

「我が半生、名古屋と金沢」
座長：塩沢谷恵彦（名古屋大学名誉教授）
演者：松原純一（金沢医科大学 胸部心臓血管外科）

■特別講演

「日本の医療行政の行方と予測される結果」
座長：三島好雄（東京医科歯科大学 名誉教授）
演者：小林秀資（国立保健医療科学院院長）

■招請講演1

「Abdominal Aortic Aneurysm -An Example of Complex Medical Decision-Making」
座長：江里健輔（山口県立中央病院）
演者：Wayne K.Johnston
(Editor Emeritus of Journal of Vascular Surgery,University of Toronto,Canada)

■招請講演2

「Epidemiology and Pathology of Pulmonary Thrombembolism」
座長：星野俊一（福島第一病院）
演者：Klaus Kayser(Department of Pathology, Thoraxklinik,Heidelberg,Germany)

■招請講演3

「Vascular Surgery and Transplantation in Korea」
座長：岩井武尚（東京医科歯科大学 血管外科）
演者：Sang Joon Kim
(Seoul National University College of Medicine,Korea)

■招請講演4

「Endovascular Repair of Abdominal Aortic Aneurysms」
座長：重松宏（東京大学大学院 血管外科）
演者：Thomas S.Riles（アメリカ血管外科学会会長、Ney York University ,USA）

■招請講演5

「Interventional Treatment of Superficial Femoral Artery Disease:Are We Making Any Progerss?」
座長：中島伸之（前千葉大学 第一外科）
演者：Andre Nevelsteen
(ヨーロッパ血管外科学会会長、Universitaire Ziekenhuizen,Leuven,Belgium)

■招請講演6

「Aortic Endografts:The Good,the Bad and the Ugly」
座長：高場利博（昭和大学 第一外科）
演者：Michel S.Makaroun
(Presbyterian University Hospital,USA)

■招請講演7

「New Paradigms and Improved Results for the Surgical Treatment of Acute Type A Dissection」
座長：数井暉久（浜松医科大学 第一外科）
演者：Joseph E.Bavaria(University of Pennsylvania Medical Center,USA)

■特別シンポジウム

「Training and Certification of Vascular Surgeon」
座長：Nobuyuki Nakajima
(Chairman of Board of Directors, Japanese Society for Vascular Surgery)

■シンポジウム1

「組織・器官の再生医学—現状と将来へのチャレンジ—」
座長：古森公浩（名古屋大学大学院 血管外科）
森下竜一（大阪大学大学院 遺伝子治療）

■シンポジウム2

「手術かendovascular surgeryか大動脈（胸部・腹部）—瘤（含む破裂）と解離、末梢動脈」
座長：安田慶秀（北海道大学 循環器外科）
石丸新（東京医科大学 第二外科）

■シンポジウム3

「胸部大動脈手術のpitfall（瘤と縮窄症）」
座長：矢田公（三重大学 胸部外科）
伊藤翼（佐賀医科大学 胸部外科）

■シンポジウム4

「各種血行再建手術の長期成績（10年以上）」
座長：應儀成二（鳥取大学 器官再生外科）
松本興治（国立療養所豊橋東病院 心臓血管外科）
特別発言：勝村達喜（川崎学園）

■パネルディスカッション1

「動脈瘤手術に動脈造影は必要か」
座長：隈崎達夫（日本医科大学 放射線医学）
川田忠典（昭和大学 第一外科）

■パネルディスカッション2

「Suprarenal,Pararenal aortic aneurysmの手術」
座長：青柳成明（久留米大学 外科）
矢野孝（春日井市民病院）

■パネルディスカッション3

「手術かendovascular surgeryか（中、長期成績をもとに）
頭蓋外、頭蓋内動脈」
座長：遠藤俊郎（富山医科薬科大学 脳神経外科）
滝和郎（三重大学 脳神経外科）
特別発言：廣瀬源二郎（金沢医科大学 神経内科）

■ビデオシンポジウム1

「弓部大動脈に対する手術（脳保護）」
座長：古謝景春（琉球大学 第二外科）
数井暉久（浜松医科大学 第一外科）

■ビデオシンポジウム2

「腹腔内動脈再建」
座長：安倍十三夫（札幌医科大学 第二外科）
小出司郎策（東海大学 心臓血管外科）

■ビデオシンポジウム3

「消化器外科における血管外科」
座長：二村雄次（名古屋大学大学院 器官調節外科）
中村達（浜松医科大学 第二外科）
特別発言：熊田馨（昭和大学 保健医療学部）

■ビデオシンポジウム4

「重症虚血肢—infringuinalの血行再建の工夫」
座長：笹嶋唯博（旭川医科大学 第一外科）
重松宏（東京大学大学院 血管外科）

■ビデオシンポジウム5

「内視鏡補助下の血管手術（動脈、静脈、神経）」
座長：前田肇（香川医科大学 第一外科）
根岸七雄（日本大学 外科二部門）

■ビデオシンポジウム6

「マイクロサージャリーによる血管およびリンパ管吻合の臨床」
座長：波利井清紀（杏林大学 形成外科）
野崎幹弘（東京女子医科大学 形成外科）
特別発言：佐々木健司（日本大学 形成外科）

■ビデオシンポジウム7

「大動脈の外科」
座長：森下靖雄（群馬大学大学院 病態循環再生学）
末田泰二郎（広島大学大学院 医歯薬学総合研究科外科学）
特別発言：上山武史（金沢循環器病院）

雑感：日本血管外科学会学術総会 50周年記念によせて

特定医療法人 博愛会病院名誉院長 松原純一

今を去る事19年前の2003年7月に、金沢において第31回日本血管外科学会学術総会を開催させて頂き、それから4年後の3月（2007年3月）に金沢医科大学を定年退任してから15年経ちました。当該学会時には同時に第3回日韓合同血管外科会議（岩井武尚東京医科歯科大学教授、当時）と第2回日本血管外科学会教育セミナー（古謝景春琉球大学教授、当時）も行われました。

さて私こと、大学を退任後は岐阜県の一地域病院で、たまに閉塞性動脈硬化症の患者さんや下肢静脈瘤患者さんをも診療しておりますが、ほとんどは脳梗塞・脳出血・くも膜下出血など脳血管疾患患者に対するリハビリを中心一般疾患患者さんの診療に毎日を送っており、血管関係の学会や研究会からはすっかり御無沙汰してしまっております。このたびこのような機会をいただき、非常に光栄に思い、早速当時の資料は、と探してみました。やっと一般臨床や医師会関係の書籍の詰まっている本棚の中にしわひとつない当時の学会のプログラム号を一冊だけ見つけました。

その貴重な一冊を紐解いた時にすぐに感じた第一印象は：当時あるいは現在もそれぞれの領域でそうそうたる先生方にお忙しい中をよほど御出席いただけたと、さらに御司会頂いたあるいは御講演・御発表をいただいた非常に多くの先生方の御名前のなんと懐かしいことか、でした。学会から遠ざかっている自分には、一段と感慨深く思い出されました。

さて当時の学会の学術や臨床テーマは既に解決されたもの、当時最盛期にあったもの、あるいはいまだに解決途上のものなど様々でした。現在研究の第一線を退いてしまっている私が言えることでは

ないのですが、かつてそして今現在も未だ完全には解決されていないテーマに、移植後決して閉塞しない細口径の代用血管の開発、やバイパスあるいはIVRでは治癒させられない虚血性潰瘍に対する血管再生療法・新生療法、そして高度のリンパ浮腫に対する治療、などがあるのではないのでしょうか。更に別の印象として、田舎の一般病院に勤めているからかもしれませんが、最近ではactiveな外科的治療を要するASOがかつて予測されていたほどには増えていないのではないのでしょうか、内科の先生方を中心に各種抗血小板剤や抗凝固薬をはじめ降圧剤、抗糖尿病薬、抗高脂血症薬など種々薬物が広く投与されるようになって。さらに、環境衛生の進歩と禁煙指向からかバージャー病は日本では見られなくなるのではと思っております。

一般的にすべての領域において、一つ一つは小さな些細なことでも多くの人々のたゆまぬ努力・研鑽の積み重ねによりある日大きな成果が表れるものです。血管疾患領域も同様です。今後、一層進歩していくAI、コンピュータ、放射線関係、超音波などにより、大血管領域、末梢血管領域ともに、診断と治療を中心に低侵襲化あるいは無侵襲化は益々の発展の一途をたどるでしょう。薬剤を中心とする予防も一段と進むでしょう。若き先生方やパラメディカルの方々のこれからの更なる発奮を期待し、もって日本血管外科学会の今後ますますの御発展を祈念しつつ筆をおかせて頂きます。



第32回 会長



岩井 武尚 先生

〈所属局局〉東京医科歯科大学 外科・血管外科

第32回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2004年5月12日～14日

〈会場〉京王プラザホテル

〈主題〉継続と調和

〈プログラム〉

■会長講演 工夫・発明そして発見の血管外科
岩井武尚
座長：三島好雄（東京医科歯科大学名誉教授）

■重症虚血肢国際シンポジウム
International Symposium for Critical Limb Ischemia
座長：宮田哲郎（東京大学医学部 血管外科）
岡留健一郎（済生会福岡総合病院 外科）
特別発言：野崎幹弘（東京女子医科大学 形成外科）
笹嶋唯博（旭川医科大学 第一外科）
特別口演：Mauri Lepäntalo
(Department of Vascular and Plastic Surgery, Helsinki University Central Hospital, Finland)
David Bergqvist
(Department of Surgery, Uppsala University Hospital, Sweden)

■シンポジウム1
血管外科指導医へ：求めるもの求められるもの
座長：重松宏（東京大学血管外科）
中島伸之（鹿島労災病院）

■シンポジウム2
血管外科合併症根絶への道
座長：古森公浩
(名古屋大学大学院医学系研究科血管外科)
高場利博（昭和大学外科）

■シンポジウム3
頸動脈疾患、冠動脈疾患、ASO合併症の治療戦略
座長：松原純一（金沢医科大学胸部心臓血管外科）
古謝景春（琉球大学第二外科）

■パネルディスカッション徹底討論1
大動脈-腸骨動脈-大腿動脈閉塞性疾患の治療
：あらゆる治療法を検証する徹底討論
座長：笹嶋唯博（旭川医科大学第一外科）
矢野孝（春日井市民病院院長）
特別発言：大内博（介護老人保健施設ハート五橋）

■パネルディスカッション徹底討論2
血管外科と他科の連携：どこまでやるか
座長：松本賢治（慶應義塾大学外科）
末田泰二郎（広島大学医学部 第一外科）
特別発言：野崎幹弘（東京女子医科大学形成外科）

■パネルディスカッション徹底討論3
再生医療・遺伝子治療の適応と再評価：どこまで有効か
座長：安田慶秀（北海道大学 循環器外科）
川崎富夫（大阪大学 心臓血管外科）
特別発言：森下竜一
(大阪大学大学院 臨床遺伝子治療学)

■パネルディスカッション徹底討論4
腹部大動脈瘤：手術適応に関する徹底討論
座長：石丸新（東京医科大学 第二外科）
池澤輝男（愛知県立尾張病院 外科）
特別発言：宮内好正（深谷赤十字病院院長）
特別口演：Stephen W. K. Cheng
(Department of Surgery, The University of Hong Kong, Queen Mary Hospital, Hong Kong, China)

■パネルディスカッション徹底討論5
深部静脈血栓症：診断と治療の徹底討論
座長：折井正博（東海大学医学部 心臓血管外科）
應儀成二（鳥取大学医学部 器官再生外科学）
特別発言：中野起（三重大学 第一内科）

■ビデオ討論 1-1
弓部および胸部大動脈手術に対する新しい工夫
座長：数井暉久（浜松医科大学 第一外科）
田林暁一
(東北大学医学部附属病院 心臓血管外科)

■ビデオ討論 1-2
弓部および胸部大動脈手術に対する新しい工夫
座長：落雅美（日本医科大学 第二外科）
天野純（信州大学 心臓血管外科）

■ビデオ討論 2
胸腹部大動脈手術に対する新しい工夫
座長：荻野均（国立循環器病センター 心臓血管外科）
前原正明（防衛医科大学校 第二外科）

■ビデオ討論 3
新しい静脈瘤および静脈の外科
座長：平井正文（愛知県立看護大学 外科）
小代正隆（鹿児島県立大島病院 外科）

■ビデオ討論 4
上肢動脈再建・胸郭出口症候群
座長：太田敬（愛知医科大学 血管外科）
佐藤紀（埼玉医科大学総合医療センター 外科）

■ビデオ討論 5
自律神経外科の再手術（多汗症など）
座長：八杉巧（愛媛大学医学部 第一外科）
塩谷正弘
(NTT東日本関東病院 ペインクリニック科)

■ビデオ討論 6
血管外科医のための各種脈管露出手技：基礎編
座長：安達秀雄（自治医科大学附属大宮医療センター 心臓血管外科）
市来正隆（JR仙台病院 外科）

■ビデオ討論 7
各種ステントグラフトの問題点
座長：緑川博文（福島第一病院 心臓血管病センター）
善甫宣哉（山口県立中央病院 外科）

第32回学術総会「継続と調和」を主催して

東京医科歯科大学名誉教授
慶友会つくば血管センター 岩井武尚

2004年春5月の開催である。ステントなど血管内治療がこれからはじまるといった時期で、血管外科医がまだメスを片手に一団となっていたと思います。シンポ3つ、パネル5つ、ビデオは基礎から臨床まで多種多様でした。海外から15人が参加されました。発表のマンネリ化を防ごうといろいろ工夫しました。一つはプレナリーセッションを設けて16題が採用になりました。ポスターはポスターパネルという方式で会場を三日月型にして議論を深められるようにしました。演題総数500題超でした。CVTの人たちの会も用意しました。

会場は新宿でおなじみの京王プラザ、懇親会もホテル内でやってくれというホテル側の強い要請でした。発表会場は10会場でした。前年が金沢でしたので、また東京かということもなく「花の新宿」を楽しんでいただけたと思っています。ちなみに翌年は旭川でした。まあ、日本は狭いとはいえ、全国各地でそれぞれの特徴、歴史、味などと酒の違いなどを学ぶのもいいことだと思っています。

会長講演では30年以上血管外科一筋であったことから、いろいろな発明、発見、新説、術式、工夫をのべることができました。18個の発見、発明などを述べさせてもらいました。それから17年たってもすたれずに今も残っているものは2つの発見、一つの理論でしょうか。

発見の一つは、バージャー病の病因に関する研究でこの頃スタートしました。歯周病菌を追いかけぬいてラットの実験を行い、コッホの3原則を満たすところまで到達しました(2019、2020)。分かったことは、歯周病菌血症の末路がバージャー病病変であるが、それは歯周病「感染」でないということです。感染の定義、すなわち菌の定着+繁殖は起こりかけるが、菌は数時間で死亡、まさに「カミカゼ



感染」という形式で歯周病菌の内毒素(LPS)が血栓を造り炎症をおこしていくことが分かったのです。ですから菌は血管病変から培養できません。PCRのみです。この原理は故田中健三教授の粥状硬化発症でも同じですので「日本人の8割が歯周病」というフレーズに現状が合うのです。もうひとつは膝窩静脈捕捉症候群です。痛みまたは血栓を起こすのですが、まだ多くの症例を吟味中です。もう一つの理論といったのは「ピストル理論」です。詰まった血栓が側副路の流れ方によっては末梢にピストルの弾のように飛んでいき微小血栓を起こす事実です。

最後にスピーチに工夫した話をします。皆さん英語の挨拶にどのような印象を持っているでしょうか？会長挨拶には英語挨拶が付きものですし、国際礼儀でしょう。しかし、日本語をしゃべっていて突然英語になると違和感があります。突然「good

evening」とか始めるわけです。この急転換についていけなかった人を何度か見えています。そこで、私は今ではスマホでも可能になっていますが、当時はあらかじめ英語の同時通訳文をスライドで流しながら話しました(写真)。これだと日本語をしゃべっているときでも内容を外人が理解できるのです。

そんなわけで、この50周年企画は、若い頃を思い出させてくれました。有難うございました。



第33回
会長



笹嶋 唯博 先生

(所属医局) 旭川医科大学第一外科

第33回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉 2005年6月23日~24日

〈会場〉 旭川市 旭川グランドホテル

〈主題〉 エビデンスの検証と
イノベーション

〈プログラム〉

■会長講演

小口径代用血管開発の困難
笹嶋唯博(旭川医科大学)
司会:久保良彦(旭川医科大学名誉教授)

■特別講演 I

Long-term Results of Infrainguinal Vein Bypass
R.Clement Darling III(The Institute for
Vascular Health and Disease, Albany,USA)
司会:多田祐輔(山梨大学名誉教授)

■特別講演 II

Endovascular AAA Repair(EVAR);
Past,Present and Future
Samuel R.Money
(Ochsner Clinic Foundation, New Orleans,USA)
司会:大北裕(神戸大学)

■特別講演 III

Vascular Training in the United States
~Current Status
Gregorio A.Sicard(Washington University School
of medicine,St.Louis,USA)
司会:笹嶋唯博

■特別講演 IV

Subintimal Angioplasty
A.Ross Naylor
(Leicester Royal Infirmary,Leicester,UK)
司会:末田泰二郎

■特別講演 V

Spinal Cord Protection in
Thoraco-abdominal Aortic Surgery
Michael J.Jacobs(University Hospital Maastricht,
Maastricht,Netherlands)
司会:数井暉久

■特別講演 VI

Laparoscopic Aorto-iliac Surgery:Current Status
and Prospective
Jean-Pierre Becquemin(H.Mondor
Hospital,University ParisXII,Paris,France)
司会:古森公浩(名古屋大学)

■The 2nd. International Session

Invited Lecture:Management of Ruptured
Abdominal Aortic Aneurysms(AAA)
演者:Yew Pung Leong
(Sunway Medica Center,Sunway,Malaysia)
Chair:Nobuyuki Nakajima(Chiba,Japan)

Session I: Critical Limb Ischemia

Chair:Takehisa Iwai(Tokyo,Japan)
Yew Pung Leong(Sunway,Malaysia)
演者:Soon Khai Lee(Kuala Lumpur Hospital,
Kuala Lumpur,Malaysia)
Young Wook Kim
(Samsung Medical Center,Seoul,Korea)
Takashi Nakamura
(Tanaka Kitanoda Hospital,Osaka,Japan)
Takashi Ohta
(Aichi Medical University,Aichi,Japan)

Session II: Foot Salvage

Chair:Stephen W.K.Cheng(Hong Kong,China)
Motohiro Nozaki(Tokyo,Japan)
演者:Jeong-Hwan Chang(Chosun University
Hospital,Dong-Gu,Korea)
Hideya Mitsui
(Okayama University, Okayama,Japan)
Nobuyoshi Azuma(Asahikawa Medical
University,Asahikawa,Japan)
Atsushi Ishida(Chiba University,Chiba,Japan)

Session III: Graft Materials of Bypass Surgery

Chair:Jan Brunkwall(Cologne,Germany)
Geun Eun Kim(Seoul,Korea)
演者:Zouheir Chaoui
(Helios Klinikum Berlin,Berlin,Germany)
Hiroshi Mitsuoka
(Hamamatsu University,Hamamatsu,Japan)
Klas Österberg(Sahlgrenska University
Hospital,Gothenburg,Sweden)
Mustafa Cikirikcioglu
(University Hospital,Geneva,Switzerland)

Session IV: Clinical Research for Vascular Surgery

Chair:Itsuo Katoh(Imabari,Japan)
Shunichi Hoshino(Fukushima,Japan)
演者:Ravul Jindal(Imperial College School of
Medicine and Regional Vascular Unit,
St Mary's Hospital,London,UK)
W.R.W.Wilson(University of Leicester,London,UK)
Wijnand Bert van Gent(Sint Franciscus
Hospital, Rotterdam,Netherlands)
Tae-Won Kwon(University of Ulsan College of
Medicine and Asan Medical Center,Seoul,Korea)

■シンポジウム 1

各種代用血管によるバイパス 5 年累積開存率
司会:古謝景春(琉球大学)
重松宏(東京大学)

■シンポジウム 2

グラフト内膜肥厚:対策と成績
司会:善甫宣哉(山口県立総合医療センター)
稲葉雅史(旭川医科大学)
Keynote lecture:江里健輔(山口県立総合医療センター)

■シンポジウム 3

胸部大動脈瘤に対するステントグラフト留置術の
絶対適応と問題点
司会:大北裕(神戸大学)
伊藤翼(佐賀大学)
Keynote lecture:矢田公(鈴鹿医療科学技術大学)

■シンポジウム 4 冠動脈再建を要する動脈疾患の治療

司会:末田泰二郎(広島大学)
坂田隆造(鹿児島大学)

■パネルディスカッション I

血管疾患に対する再生療法の長期成績
:その治療は本当に有効か?
司会:松田暉(兵庫医科大学)
古森公浩(名古屋大学)
Keynote lecture:浅原孝之(先端医療センター)

■パネルディスカッション II

人工血管感染の外科治療:この症例をどうするか?
司会:高本眞一(東京大学)
岩井武尚(東京医科歯科大学)
特別発言:江口昭治(新潟大学名誉教授)

■パネルディスカッション III

血行再建再手術:この症例をどうするか?
司会:葉玉哲生(大分大学)
松原純一(金沢医科大学)
特別発言:松本昭彦(横浜市立大学名誉教授)

■ビデオセッション 1 胸部大動脈

司会:田林暁一(東北大学)
上田裕一(名古屋大学)

■ビデオセッション 2 腹部大血管

司会:安藤太三(藤田保健衛生大学)
安達秀雄(自治医科大学附属大宮医療センター)

■ビデオセッション 3 腹部・末梢血管

司会:榊原謙(筑波大学)
荻野均(国立循環器病センター)

■ビデオセッション 4 下肢末梢血管

司会:星野俊一(福島県立医科大学名誉教授)
平井正文(愛知県立看護大学)

■プレナリーセッション 血管外科の話題

司会:太田敬(愛知医科大学)
宮田哲郎(東京大学)

■Keynote Lecture 人工血管開発のセンディビティ

司会:三島好雄(東京医科歯科大学名誉教授)
演者:田邊達三(北海道大学名誉教授)

第33回日本血管外科学会学術総会を主催して

江戸川病院血管病センター 笹嶋唯博

第33回日本血管外科学会学術総会は2005年6月23・24日の2日間、旭川市で開催されました。学会のテーマは「エビデンスの検証とイノベーション」としました。当時は心臓血管外科専門医制度の黎明期にあったため、現在のように大勢の参加者を見込むことはできませんでしたが、およそ1000人の参加を得ました。学会開催は年々厳しい運営を強いられる傾向が顕著になってきた時期でしたが、日本製薬業協会から800万円の支援、および器械展示、ランチョンセミナーなどの企画収入などのみで、特別な寄付を募ることなく全てを賄うことができました。

一般演題はすべてポスターとし、口演は60%、シンポジウム50%の採択率でした。学会終了後、要望演題とポスター演題はプログラム委員と司会者の評価点を合計して最高点を得た演題を優秀演題に選定し、記念品と賞状を贈らせて頂きました。

特別企画では学会2日目午前8時から1時間、New York, Montefiore病院に在籍されていた大木隆生教授(現慈恵医大教授)に依頼し頸動脈ステント治療のライブサージェリーを行い、大変好評を得ました。経費は大木教授のご高配により半額で納めることができ改めて感謝申し上げます。アジア諸国血管外科学会と欧州血管外科学会の協力を得て、第2回血管外科国際シンポジウムを企画しました。約90題の申し込みがありましたが、参加は指定としヨーロッパおよびアジア諸国からの9題を含む15題の発表をお願いしました。外国特別講演者はNaylor教授(Leicester大学)、Brunkwall教授(Köln大学)、Becquemin教授(Paris XII大学)、Jacobs教授(Maastricht大学)、SVS会長Sicard教授(Washington大学, St.Louis)、Darling教授(血管病センターAlbany, NY)、Dr. Money(Ochsner Clinic, New Orleans)、合計7名の先生にテーマに



沿った講演をいただきました。またアジア血管外科学会からはCheng SWK教授(Hong-Kong大学)、Kim YW教授(Samsung Medical Center)、Leong YP教授(Sunway Medical Center, Malaysia)などの先生に講演をお願いしました。各先生はその後もESVS、SVS、ASVSで目覚ましいご活躍をされたことはご存じの通りです。

学会前日は旭川市の丘にあるユーカラ会館の庭をお借りし評議員・招待者懇親会を執り行いました。月並みなホテル懇親会をやめ心地よい“旭川の6月”の夕暮れを満喫していただく志向でした。凶らずも30度を超えたとんでもない猛暑にみまわれ、閉口しましたが、それでも多くの参加者に好評を得ました。

本会を主催するに際してご協力いただきました血管外科学会各位および稲葉助教授をはじめ当時の教室員各位に深謝申し上げます。



第34回 会長



重松 宏 先生

(所属医局) 東京医科大学外科学第二講座

第34回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2006年5月11日～12日
〈会場〉東京都 都市センターホテル

〈プログラム〉

■会長講演

腹部大動脈瘤手術 -Open and EVAR-
座長: 安田慶秀 (NTT東日本札幌病院)
演者: 重松宏 (東京医科大学)

■特別講演1

座長: 大内博 (医療法人財団あおば会)
演者: Shoei-Shen Wang
(National Taiwan University, Taiwan)

■特別講演2

New Treatment of Ilio-femoral DVT
座長: 高場利博 (山梨赤十字病院)
演者: Bo Yang Suh (Yeungnam University, Korea)

■招請講演 1

Carotid Endarterectomy Versus Stenting: Role for a
Randomized Clinical Trial
座長: 中島伸之 (鹿島労災病院)
演者: Robert W. Hobson II
(UMDNJ-New Jersey Medical School, USA)

■招請講演 2

Duplex-Guided Balloon Angioplasties from the
Carotid to the Plantar Arteries: An Effective
Technique to Avoid Contrast Material and
Radiation Exposure
座長: 岩井武尚 (東京医科大学)
演者: Enrico Ascher (President of the SVS, USA)

■The 3rd International Session

Chair: Nobuyuki Nakajima, Japan
Henrik Sillesen, Denmark
Ronald L. Dalman, U.S.A.
Kimihiro Komori, Japan
Enrico Ascher, U.S.A.
Yu-Qi Wang, China
Sopon Jirasiritham, Thailand
Tadahiro Sasajima, Japan

■シンポジウム 1

胸部、腹部大動脈瘤に対する血管内治療の適応と成績
座長: 田林暁一 (東北大学)
太田敬 (愛知医科大学)
Keynote lecture: Robert S. Mitchell
(Stanford University, U.S.A.)

■シンポジウム 2

血管外科教育・専門医制度の将来展望と提言
座長: 安田慶秀 (NTT東日本札幌病院)
岩井武尚 (東京医科大学)

■シンポジウム 3

遠隔成績からみた大動脈弓部置換術の術式選択
座長: 数井暉久 (浜松医科大学)
大北裕 (神戸大学)

■シンポジウム 4

多臓器血管病変を伴う腹部大動脈瘤の外科治療
座長: 末田泰二郎 (広島大学)
渡邊剛 (金沢大学)

■シンポジウム 5

長期生命予後からみた各種血管外科手術の適応と成績
座長: 笹嶋唯博 (旭川医科大学)
岡留健一郎 (済生会福岡総合病院)
トビックス: 池田康夫 (慶應義塾大学)

■シンポジウム6

血管内治療の外科的血管再建への応用
座長: 安藤太三 (藤田保健衛生大学)
古森公浩 (名古屋大学)

■パネルディスカッション 1

腹部大動脈瘤術後合併症の予防と対策
座長: 小山信彌 (東邦大学)
福田幾夫 (弘前大学)

■パネルディスカッション 2

感染性大動脈瘤の治療方針と成績
座長: 前田肇 (香川大学)
荻野均 (国立循環器病センター)
Keynote lecture: Sopon Jirasiritham
(Mahidol University, Thailand)

■パネルディスカッション 3

浅大腿動脈病変に対する治療方針: バイパス vs IVR
座長: 榊原謙 (筑波大学)
宮田哲郎 (東京大学)

■パネルディスカッション 4

大動脈瘤破裂に対する治療戦略
座長: 高本真一 (東京大学)
安達秀雄 (自治医科大学附属大宮医療センター)

■パネルディスカッション5

透析患者にみられる重症虚血肢の治療戦略
座長: 根岸七雄 (日本大学)
東仲宣 (東葛クリニック病院)

■パネルディスカッション 6

急性B型解離の治療戦略
座長: 伊藤翼 (佐賀大学)
前原正明 (防衛医科大学校)

■パネルディスカッション 7

外傷性血管損傷の診断と治療
座長: 鬼塚敏男 (宮崎大学)
川田忠典 (昭和大学)

■ビデオセッション 1

血管内治療・他
座長: 青柳成明 (久留米大学)
天野純 (信州大学)

■ビデオセッション 2

胸腹部大動脈瘤に対する標準手術
座長: 木村壮介 (国立国際医療センター)
國吉幸男 (琉球大学)

■ビデオセッション 3

炎症性血管疾患における血管再建の工夫
座長: 宮澤幸久 (帝京大学)
小櫃由樹生 (東京医科大学)

■ビデオセッション 4

末梢血管手術成績向上のための工夫
座長: 佐藤紀 (埼玉医科大学総合医療センター)
松本興治 (国立豊橋医療センター)

■ビデオセッション 5

一次性下肢静脈瘤に対する種々の治療と新しい治療機器
座長: 折井正博 (東海大学)
郷一知 (旭川医科大学)

第34回日本血管外科学会学術総会を開催して

国際医療福祉大学三田病院血管外科 小櫃由樹生

第34回日本血管外科学術総会を東京医科大学外科学第二講座の重松宏主任教授が主催しました。この総会に事務局幹事として運営に携わったことを誇らしく思っています。第34回総会は2006年5月11～12日に東京の都市センターホテルを会場として開催しました。

前日に各種会議、静脈疾患をテーマにした教育セミナーを行いました。余談ですが、当時の教育セミナーは4回を1クールとして「標準血管外科」を製本していました。学術委員として5巻の「標準血管外科」の発刊に参画できたことを名誉に感じています。閑話休題、第2、3日目には450題にも及ぶ応募演題よりシンポジウム6、パネルディスカッション7、要望演題14、一般演題、ビデオセッション、この年より始まった専門医のための医療安全講習会を設けて、活発な討議がなされました。海外からの招請講演としてAAVSの会長も務められたNew Jersey 医科歯科大学(故)Hobson教授、Stanford大学のMitchell教授、韓国血管外科学会会長のSuh教授、台湾大学心臓血管外科のWang教授、タイ血管外科学会会長のJirasiritham教授をお招きしました。

インターナショナルセッションではヨーロッパ血管外科学会(ESVS)、アジア血管外科学会(ASVS)、米国血管外科学会(SVS)、そして日本血管外科学会(JSVS)が一堂に会して議論する場を設けました。演者は40歳未満の若い血管外科医という制限を設けて、各学会からの推薦者を募りました。座長をSVS会長のAscher教授、ESVS secretary generalのSillesen教授、ASVS時期会長のWang教授



(上海)、Stanford大学血管外科のDalman教授、タイ血管外科学会会長のJirasiritham教授、我が国からは(故)中島伸之先生、笹島唯博教授、古森公浩教授などの錚々たるメンバーに務めていただきました。国際的な血管外科の連携を深めるとともに、若手血管外科医の育成をも心がけたプログラムで、重松会長の血管外科に対する矜持と愛情が伺われます。

会期の翌日に当たる5月13日には、東京医科大学の手術室と会場をライブで結ぶTOWSES 2006 (Tokyo Working Symposium on Endovascular Surgery)、血管内手術教育セミナー(ハンズオンセミナー)、CVT講習会を併設しました。タイトなスケジュールでしたが、血管外科を満喫する有意義な4日間であったと自負しています。また、海外からの招請者を見ますと、例年よりアジアからの先生が多く参加されていました。ASVSの設立やASVSのジャーナルとしてのAVD(Annals of Vascular Disease)の発刊に尽力された、(故)中島先生と重松会長の含蓄あるメッセージが込められている総会だと思っています。

*文中では当時の諸先生の施設、役職などを記載しています。



重松宏先生の血管診療におけるチーム医療への貢献

誠潤会水戸病院院長
東京医科大学心臓血管外科客員准教授 土田博光

本記念誌発行に際し、第34回学術総会(2006年)会長である重松宏先生について、「学会開催時の様子や先生のひととなりについての原稿を」と明石先生からご依頼いただいたこと、光栄に存じます。ただ、学会開催時、私は既に大学から離れており、学会についての原稿は小櫃由樹生先生にお任せすることとし、20年ほど一緒にお仕事させていただいた、非医師医療専門職の育成について、書かせていただきます。

約20年前、若手の理事であった岩井武尚先生、石丸新先生らと、さらに若手の私たちは、血管診療に関わる非医師医療専門職に対し、ふさわしい資格を作りたいと話し合っており、幹事であった私から中島伸之理事長にお話しさせていただいたところ、大いに賛同していただき、「重松先生も加えて話しあい、学会認定資格を作りなさい」とご指示いただきました。そこで、医科歯科大学の岩井教授室で、岩井武尚先生、重松宏先生を中心に、6名の医師が集まり、準備委員会を行いました。これが「血管診療技

師」(CVT)の始まりです。私はここで資格誕生!と思ったのですが、その場で重松先生は「1学会の認定資格ではなく多学会で機構をつくり機構認定資格とすること」を提案されました。機構設立は結構大変で、中島先生から安田慶秀先生に理事長交代後までかかり、正直、膨大な事務作業に私はかなり疲弊したのですが、本学会に脈管学会、静脈学会を加え3学会構成認定機構(後に動脈硬化学会も参加)の認定資格となって、2006年、くしくも重松先生の学術総会開催時に誕生したCVTは広く受け入れられ、2020年現在全国で1425名になり、私たち血管外科医の頼もしいパートナーとなっています。

ついで重松先生は、脈管学会理事長時にCVTのカウンターパートとしての専門医資格創設に尽力され、2010年「脈管専門医」が誕生しました。さらにリンパ浮腫療法士認定機構を創設され2013年には「リンパ浮腫療法士」が誕生、脈管診療に関わる医療職の資格システムが完成しました。重松先生は、まさに血管診療における「チーム」を確立されたかただと言っても過言ではないと思います。

東大におられたときからCVT創設に関しては一緒に働かせていただき、その後私の母校である東京医大に主任教授として赴任されたのですが、その前に医局を離れていた私に客員の肩書をくださり、水戸からたまに東京医大霞ヶ浦病院(現東京医大茨城医療センター)に手術の手伝いに行きました。ただ、先生と手術をご一緒させていただいたのは新宿の大学病院で一度だけで、腹腔動脈瘤の手術を見事な手際で行われたのをよく覚えております。

ある日、なにかにイライラしていた私の様子を見て、「自分に優しくなさい。自分に厳しくしすぎると人にも厳しくなる。」と行う言葉をくださいました。現在、小病院の院長をしています。部下を叱責したくなるたびに、この言葉を思い出します。同じ職場には殆どいませんでしたが、多くのことを教えていただきました。一血管外科医として、重松先生の本邦の血管外科への貢献に、心より敬意を表します。

第35回 会長



安藤 太三 先生

(所属医局) 藤田保健衛生大学心臓血管外科

第35回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2007年5月23日~25日

〈会場〉ウエスティンナゴヤキャッスル

〈主題〉低侵襲とQOLの向上を目指して

〈プログラム〉

■会長講演

大動脈外科医としての血管外科手術
—低侵襲とQOLの向上を目指して—
安藤太三 (藤田保健衛生大学)
座長: 中島伸之 (鹿島労災病院)

■特別講演 1

米国とドイツにおける血管外科の診療と教育の現状
座長: 重松宏 (東京医科大学)

1. Training of Vascular and Endovascular Surgery in the United States
K. Craig Kent (New York Presbyterian Hospital, New York, U.S.A.)

2. Training of Vascular and Endovascular Surgery in Germany
Svante Horsch (Hospital Porz am Rhein, Cologne, Germany)

■特別講演 2 医療安全についての提言

河野龍太郎 (東京電力株式会社技術開発研究所)
座長: 上田裕一 (名古屋大学)

■教育講演 1: 病理医から見た血管外科手術

由谷親夫 (岡山理科大学)
座長: 小原邦義 (北里大学)

■教育講演 2: 血管再建のバイオマテリアル

松田武久 (金沢工業大学ゲノム生物学研究所)
座長: 許俊鋭 (埼玉医科大学)

■教育講演 3: 血管疾患に対する画像診断の進歩

— MDCTの臨床応用と新しい展開—
栗林幸夫 (慶應義塾大学)
座長: 松居喜郎 (北海道大学)

■教育講演 4: 血管再生療法の実状と今後の展望

室原豊明 (名古屋大学)
座長: 古謝景春 (大平会嶺井第一病院)

■教育講演 5: リンパ浮腫治療の実状

—とくに圧迫療法について—
平井正文 (愛知県立看護大学)
座長: 加藤逸夫 (真泉会第一病院)

■教育講演 6: 胸部大動脈瘤手術時の脳および脊髄保護法の変遷

数井暉久 (浜松医科大学)
座長: 広瀬一 (岐阜県赤十字血液センター)

■教育講演 7: ヒラメ筋静脈血栓症の診断と治療

應儀成二 (日立記念病院)
座長: 上山武史 (金沢循環器病院)

■招請講演 1

Milestones in Surgery of the Thoracic Aorta
Stephen Westaby (John Radcliffe Hospital, Oxford, U.K.)
座長: 北村愨一郎 (国立循環器病センター)

■招請講演 2

Surgery for Acute Type A Aortic Dissection: Is There an Ideal Surgical Technique?
Jean Bachel (Institut Mutualiste Montsouris, Paris, France)
座長: 川島康生 (国立循環器病センター)

■招請講演 3

Surgical Treatment for Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension
H.-J. Schäfers (University Hospital of Saarland, Homburg/Saar, Germany)
座長: 高本眞一 (東京大学)

■招請講演 4

Advanced Endovascular Stent Grafting for the Treatment of Aortic Aneurysm
Roy K. Greenberg (The Cleveland Clinic Foundation, Cleveland, U.S.A.)
座長: 岩井武尚 (東京医科大学)

■招請講演 5

Is Unilateral Cerebral Perfusion under Moderate Hypothermia an Efficient Method of Brain Protection?
Paul Urbanski (Cardiovascular Clinic Bad Neustadt, Bad Neustadt, Germany)
座長: 安倍十三夫 (北海道循環器病院)

■招請講演 6

Trends in Peripheral Vascular Surgery in the U.S.
K. Craig Kent (New York Presbyterian Hospital, New York, U.S.A.)
座長: 笹嶋唯博 (旭川医科大学)

■シンポジウム 1:

自己弁温存術式による大動脈基部再建術の中期遠隔成績 (再手術例の検討を含めて)
座長: 川副浩平 (草津総合病院)
大北裕 (神戸大学)

■シンポジウム 2: 高齢者 (70歳以上) 弓部大動脈瘤手術の工夫と術後QOLの検討

座長: 安達秀雄 (自治医科大学附属大宮医療センター)
富永隆治 (九州大学)

■シンポジウム 3: 胸腹部大動脈瘤手術における合併症予防を考慮した術式の工夫と成績

座長: 田林暁一 (東北大学)
國吉幸男 (琉球大学)

■シンポジウム 4: 下肢閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療の早期及び遠隔期成績

座長: 井上芳徳 (東京医科歯科大学)
松原純一 (金沢医科大学)

■ビデオシンポジウム 1: 急性A型大動脈解離における術式の工夫

座長: 宮本裕治 (兵庫医科大学)
島本光臣 (静岡市立静岡病院)

■ビデオシンポジウム 2: 広範囲胸部大動脈瘤に対する弓部再建術

座長: 大庭治 (広島市民病院)
勝間田敬弘 (大阪医科大学)

■ビデオシンポジウム 3: B型大動脈解離に対する外科治療 (ステントグラフトを含む)

座長: 種本和雄 (川崎医科大学)
葉玉哲生 (大分大学)

■ビデオシンポジウム 4: 複雑な腹部大動脈瘤の外科治療 (炎症性, 感染性, 仮性, 破裂性, 再手術例など)

座長: 田中國義 (福井大学)
末田泰二郎 (広島大学)

■パネルディスカッション 1: A型大動脈解離における遠隔成績と追加手術の問題点

座長: 向原伸彦 (兵庫県立姫路循環器病センター)
前原正明 (防衛医科大学校)

■パネルディスカッション 2: マルファン症候群に対する複数回手術の戦略

座長: 荻野均 (国立循環器病センター)
青見茂之 (東京女子医科大学)

■パネルディスカッション 3: 大動脈瘤に対するステントグラフト治療の遠隔成績と問題点

座長: 善甫宣哉 (山口県立総合医療センター)
大木隆生 (東京慈恵会医科大学)

■パネルディスカッション 4: 肺血栓塞栓症予防を考慮した深部静脈血栓症の管理と治療法

座長: 折井正博 (東海大学)
宮田哲郎 (東京大学)

■The 4th International Session

Session 1

Chair: Alan Dardik
(Yale University, New Haven, U.S.A.)
Yasuyuki Hosoda (Kawasaki Saiwai Hospital,
Kawasaki, Japan)

Session 2

Chair: Young-Wook Kim (Sungkyunkwan
University, Seoul, Korea)
Hitoshi Koyanagi (St.Lukes International
Hospital, Tokyo, Japan)

Session 3

Chair: Masayoshi Okada (Kakogawa Synthetic
Public Health Center, Kakogawa, Japan)
Junichi Kambayashi (Otsuka Maryland
Medicinal Laboratories, Rockville, U.S.A.)

第35回日本血管外科学会総会開催について

大阪健康管理センター 安藤太三

私が藤田保健衛生大学(現藤田医科大学)心臓血管外科に在任中の平成19年(2007年)5月に、第35回日本血管外科学会総会を名古屋で開催させて頂きました。名古屋には日循総会も開催可能な国際会議場がありますが、本総会には広すぎることでホテルが併設されていないので、名古屋城を目前にした市中ホテルで合計4日間にわたって行いました。

総会のテーマは「低侵襲とQOLの向上を目指して」としました。近年高齢化社会となり、血管疾患が非常に増加していますし、生活習慣病からくる様々な合併症を持った患者さんが多くなっています。私たちはこれらの患者さんに対して種々の外科治療を行うわけですから、より低侵襲で術後の良好なQOLが得られる治療法をしてあげることが重要ですが、それだけではなく如何に質の高い社会生活に復帰出来るかを議論してもらいました。

総会の内容ですが、特別講演として医療安全講習会「医療安全についての提言」と、米国血管外科会長のK.Craig Kent先生とドイツのSvante Horsch先生による「米国とドイツにおける血管外科の診療と教育の現状」の講演を行いました。外国から招請した先生はこの他5人の外科医で、招請講演や共催セミナーで得意な分野を講演してもらいました。総会前日に「腹部外科としての血管外科部分を考える」というテーマの血管外科教育セミナーを施行、7つの教育講演のほか共催セミナーとしてモーニングセミナー(Meet the expert)4、イブニングセミナー4、ランチョンセミナー12を組みました。積極的に参加を呼びかけたおかげで、650題を超える演題の応募を頂きました。これは最近血管疾患が増加していることに加え、本学会が心臓血管外科専門医の指定学会となっているためと考えられます。また今回のシンポやパネルのテーマは、私が大血管

疾患の手術が専門ですので、胸部大動脈瘤関係の内容を多めに選択しました。このため司会者には心臓専門の先生にも多数参加してもらいました。応募演題はシンポ・パネル・一般演題やポスターセッションなどに分かれて、出来るだけ発表してもらおうにしたため日本からは合計608題の演題数となりましたので、発表が少しタイトとなりました。胸部外科学会や心臓血管外科学会ではこれほど血管外科分野に限ったテーマを選択できないと思います。

2日目にはインターナショナルセッションを行いました。米国4人、欧州3人、アジア11人の若手の血管外科医に、日本3人を加えた21名の方々から口

演をしていただきました。そして第5回日韓合同血管外科学会を広島大学の末田泰二郎教授が会長で開催しました。そのほか前日に生活習慣病から生じる血管疾患をテーマにした市民公開講座、総会翌日に血管無侵襲診断診療セミナー、血管内手術教育セミナー、弾性ストッキングコンダクター講習会を行いました。そして学会の翌日の土曜日には岐阜県多治見市のゴルフ場で懇親ゴルフコンペを行いました。外国からの先生を含めて10組40人という多くの参加者があり、好天のもと絶好の健康増進の会となりました。



学会案内のポスター



ウェルカムパーティーにて
(Westaby, 安藤太三、北村惣一郎、中島伸之先生)



会員懇親のゴルフコンペ

第36回
会長



根岸 七雄 先生

〈所属医局〉日本大学医学部外科学系
心臓血管外科学分野

第36回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2008年4月16日～18日

〈会場〉アルカディア市ヶ谷

〈主題〉新たな展開をする血管外科学
—血管外科医の真骨頂—

〈プログラム〉

■会長講演

PADとAAAの病態と治療戦略 —当科における真骨頂—
座長：瀬在幸安（日本大学前総長）
演者：根岸七雄（日本大学医学部外科学系
心臓血管外科学分野）

■特別講演1

Where are New Techniques and New Technology
Taking the Field of Endovascular Aneurysm Repair?
座長：石丸新（戸田中央総合病院）
演者：Timothy A.M.Chuter(Professor of Surgery,
University of California at San Francisco,USA)

■特別講演2 血管外科と保険診療

—血管外科医として保険医療制度を理解するために—
座長：重松宏（東京医科大学）
演者：宮澤幸久（帝京大学医学部臨床病理学・外科）

■特別講演3

EVAR:日本の現状と将来:特に一胸腹部大動脈瘤に対する
枝付きステントグラフト術—
座長：岩井武尚（つくば血管センター）
演者：大木隆生（東京慈恵会医科大学外科学講座
血管外科学分野）

■特別講演4 血管外科とリスクマネジメント —安全と安楽—

座長：田林暁一（東北大学）
演者：押田茂貴（日本大学医学部社会医学系法医学分野）

■招請講演1

Current Indication for Branched and Fenestrated
Stent-Graft-Technique of EVAR in Europe
座長：中島伸之（千葉大学）
演者：Giovanni Torsello(Director of the
Department of Vascular and Endovascular
Surgery,St.Franziskus-Hospital,Germany)

■招請講演2

With the Merge of New Interventional Techniques Is
There Still a Place for Vein Bypasses in the
Treatment of Critical Limb Ischemia?
座長：多田祐輔（愛里病院）
演者：Zouheir Chaoui(Head of the Department for
Vascular Surgery, Helios Klinikum Buch,Germany)

■教育講演1

Arterial Aneurysms:A Historical Review (1757-2004)
座長：数井暉久（心臓血管センター北海道大野病院）
演者：Raphaël M.E.Suy(Professor Emeritus,Previ-
ous Chief of Vascular Surgery Department,
Catholic University of Leuven,Belgium)

■教育講演2

血管外科に役立つ抗凝固療法,抗血小板療法の考え方
座長：星野俊一（福島第一病院）
演者：宮田茂樹（国立循環器病センター輸血管理室）

■教育講演3 Carotid Surgery Update

座長：岡田昌義（大阪府済生会中津病院）
演者：Dieter Ruehland(Singen,Germany)

■教育講演4 より良い医学論文への道

座長：笹嶋唯博（旭川医科大学）
演者：ゲーリング・リュウベン
（日本大学医学部医学教育企画・推進室）

■教育講演5 末梢動脈再建:到達法と吻合手技

座長：安田慶秀（美唄労災病院）
演者：笹嶋唯博（旭川医科大学第一外科）

■教育講演6

マルチスライスCTを用いた循環器疾患の
低侵襲的診断:現状と希望
座長：隈崎達夫（日本医科大学）
演者：林宏光（日本医科大学放射線医学）

■教育講演7 血管内皮細胞は性格を変える

座長：古森公浩（名古屋大学）
演者：三俣昌子（日本大学医学部病態病理学系病理学分野）

■特別発言

REACHレジストリーにおける2年時追跡調査成績
—PAD患者を中心に—
座長：根岸七雄（日本大学）
演者：重松宏（東京医科大学外科学第二講座、
REACH Registry国内学術委員会）

■シンポジウム1

腹部大動脈瘤に対する外科手術と
ステントグラフト治療の適応と限界
座長：古森公浩（名古屋大学）
宮田哲郎（東京大学）

■シンポジウム2

胸部大動脈瘤に対する外科手術と
ステントグラフト治療の適応と限界
座長：大北裕（神戸大学）
善甫宣哉（山口県立総合医療センター）

■シンポジウム3 肺血栓塞栓症に対する治療法の選択

—血栓塞栓除去術、血管内治療—
座長：安藤太三（藤田保健衛生大学）
福田幾夫（弘前大学）

■シンポジウム4

重症虚血肢に対する血管内治療の役割
座長：遠藤将光（国立病院機構金沢医療センター）
井上芳徳（東京医科大学）

■シンポジウム5

再生医療・遺伝子治療の成績と問題点
座長：小山信彌（東邦大学）
川崎富夫（大阪大学）

■パネルディスカッション1

感染性腹部大動脈瘤に対する術式選択
—in situか非解剖学的バイパスか?—
座長：安達秀雄（自治医科大学）
太田敬（愛知医科大学）

■パネルディスカッション2

頸動脈疾患合併症例における血管疾患の治療戦略
座長：南和友（日本大学）
大木隆生（東京慈恵医科大学）

■パネルディスカッション3

腹部大動脈瘤の手術適応と非適応
座長：松田均（国立循環器病センター）
浦山博（黒部市民病院）

■パネルディスカッション4

頸動脈狭窄に対する治療選択 —CASかCEAか?—
座長：大木隆生（東京慈恵医科大学）
滝和郎（三重大学）

■パネルディスカッション5

胸、腹部大動脈瘤に対する治療戦略
—外科手術かステントグラフトか?—
座長：種本和雄（川崎医科大学）
渡邊剛（金沢大学）

■パネルディスカッション6

超高齢者（80歳以上）に対する胸、腹部大動脈瘤の
手術適応と非適応
座長：末田泰二郎（広島大学）
前原正明（防衛医科大学校）

■パネルディスカッション7

鼠径靭帯以下の閉塞性動脈硬化症
TASC C/Dに対する遠隔成績
座長：正木久男（川崎医科大学）
吉田正人（兵庫県立姫路循環器病センター）

■パネルディスカッション8

下大静脈フィルターは生命予後に有用か?
座長：應儀成二（日立記念病院）
折井正博（東海大学）

■The 5th International Session

Session 1
Chair: Hideo Adachi (Saitama Medical Center,
Jichi Medical University,Saitama, Japan)
Jade S. Hiramoto(University of California at
San Francisco, California, U.S.A.)

Session 2
Chair: Tetsuro Miyata(The University of Tokyo,
Tokyo, Japan)
B.Biermaier (Hochrhein-Bodensee-Klinikum
Singen, Germany)

Session 3
Chair: Makoto Mo(Yokohama Minami Kyousai
Hospital, Yokohama, Japan)
Peng Liu(China-Japan Friendship Hospital,
Beijing, China)

第36回日本血管外科学会学術総会 開催記録と思い出

武蔵野総合病院名誉院長
日本大学名誉教授 根岸七雄

節目の記念すべき「第50回日本血管外科学会学術総会」の開催おめでとうございます。

過日、「第50回日本血管外科学会学術総会」会長の明石先生から「第36回日本血管外科学会学術総会」の会長担当とのことで記念誌への資料の提出とエピソードの寄稿を依頼され大変光栄に存じます。とは言うものの10数年前の出来事、記憶も薄れ、資料も散逸、不正確をお許しいただき当時の記録やメモを頼りに投稿する。

1、開催決定までのエピソード

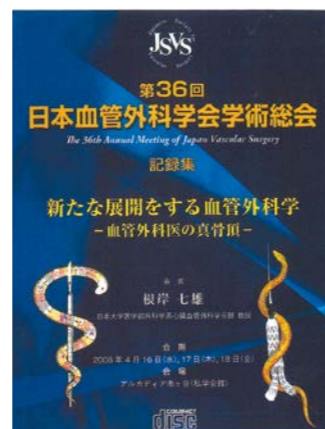
まず開催が決まった経緯は2006年5月10日第34回日本血管外科学会学術総会開催担当であり当理事長であった重松宏先生から都市センターの懇親会場で「第36回開催予定担当者からの辞退があったので、緊急理事会を開き2年後だけど先生の教室で受けてくれないか?」との打診があった。しかも開催日は諸学会との兼ね合いから2008年4月中旬とのこと。小生は2008年3月定年退職を迎えることになっていたのに躊躇していたが医局員に背中を押され引き受けることとなった。

会場は当教室前教授、当時日本大学総長の瀬在幸安教授にお願いしアルカディア市ヶ谷（私学会館）に便宜を図って頂き2008年4月16～18日開催した。

2、血管外科を取り巻く状況

現在では多くの施設で行われている血管内治療がまだそれほど一般的ではなかった頃だった。PADに関しては血管疾患治療のバイブル的なTASCもTASCIIに改訂となり、動脈瘤の治療に関しては慈恵科医科大学の大木隆生教授がアメリカから戻られ、盛んにステントグラフトの最新情報の講演をし、しかも本邦でも市販のステントグラフト（COO社Zenith AAA Endovascular Graft）の薬事承認が2006年、保険償還は2007年4月

に認められ、血管内治療の機運が高まってきた時期でもあった。当時、PADに関しては診断が主だった放射線科、循環器内科の先生も血管内治療に参入し何かとトラブルの多い時代だった。当学会ではPAD、動脈瘤の病態、治療に経験のある血管外科医の技術をアピールする意味もあり、テーマを「新たな展開をする血管外科学—血管外科の真骨頂」とした。プログラムの表紙も医神アスクレピオスの杖に巻きつく蛇をメスとステントグラフトに絡ませ、血管外科医の真骨頂とその技術向上を願ってデザインした。



プログラム表紙

3、学術総会記録のCD-R作成

学術総会では、特別講演をA.M.Chuter、押田茂實教授、宮澤幸久教授、大木隆生教授らにお願いし、大盛況だった。また、外国からの招請者としてProf.G. Torsello、Prof.D. Ruehland、Prof.Z. Chaui、Prof.N.Bischoffを招きそれぞれの得意分野を講演して頂いた。教育講演は4題、シンポジウム5題、パネルディスカッション7題、その他一般講演、ポスターセッションとヨーロッパ、アメリカ、アジアより若い血管外科医を招きinternal sessionを開催した。



学術総会終了後、多くの先生からお褒めの言葉を頂き、「何とか学会の記録を残せないか」との要望もあり、重松宏理事長や当医局とも相談したところ快諾が得られたので今回の記念CDを出版することができた。

この記念号には会長講演

「PADとAAAの病態と治療戦略—当科における真骨頂—」と学会の特徴を出すべく特別講演者4人から原稿を頂いた。またシンポジウムは司会をして頂いた先生にもう一度お骨折りを頂きCD作成にいった。学会の特徴がひと目でわかる記録を残せたことは望外の喜びである。ご協力いただいた諸先生に改めて御礼を申し上げる。(CD作成時の挨拶より抜粋)



会長招宴根岸挨拶

4、学術総会開催事業費

総会開催事業費に関し医薬業界の支援も厳しくなりつつあった時期であり、総会寄付金のお願いに奔走したことが思い出される。しかも開催時には血管外科学会が「特定非営利活動法人(NPO法人)」となり総会開催は日本血管外科学会(NPO法人)の一部とされ税務管理が必要となった。小生が退職してからのことだが、学術総会事務局長(前田英明准教授)は税理士を雇い、総会運営も大変だったが慣れない税金対策も大変苦慮したと聞いている。

5、学術総会写真

当学術総会開催は10年以上の歳月が経過し、残念ながら医局再編や医局占有面積縮小などのため、当時のアルバムが散逸し十分な記念写真提出困難となった。幸い立て看板など11枚の会場風景が残っていたので提出する。

6、血管外科懇親ゴルフ大会

総会終了の翌日4月19日血管外科学会学術総会恒例の血管外科懇親ゴルフ大会(於:久能カントリークラブ4組)を開催した。参加者は安藤太三、岩井武尚、梅澤久輝、梅津莊一、大木隆生、小代正隆、折目由紀彦、

数井暉久、重松宏、高場利博、多田祐輔、野崎幹雄、星野俊一、安野憲一(敬称略)の諸先生と根岸七雄の15名であった。残念ながら成績記録や記念写真はないが楽しかったことだけは憶えている。

7、まとめ

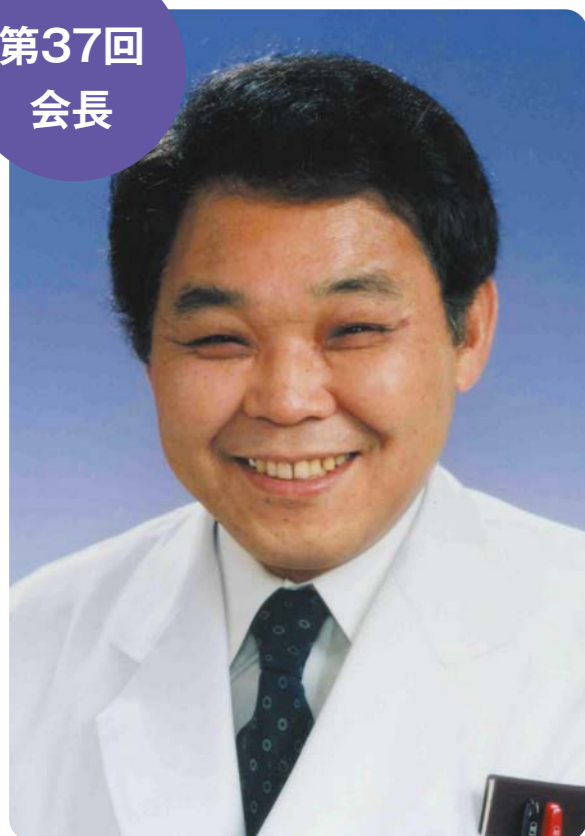
第36回日本血管外科学会学術総会開催とエピソードについて述べた。学術総会の特徴もCDに記録を残せたことは好評だった。

総会参加者は一般入場者(1,125名)、パラメディカル(32名)、学生(12名)、International(発表者18名、その他8名)、招待(28名)合計1,223名、発表演題480題、internal session 18題を数え盛会裡に終了することができた。

末筆で失礼ながら、学術総会の機会を与えて下さり、ご指導、ご協力頂いた重松宏理事長をはじめ血管外科学会関係各位に御礼、感謝を申し上げます。

また、学会会長の退職間近の開催準備や退職後の開催であったにも拘わらず、準備から運営管理、終了後の税金対策の後始末など真摯に務めてくれた前田英明准教授、医局員のご協力に改めて心から御礼を申し上げます。 2021.5.24

第37回 会長



太田 敬 先生

(所属医局) 愛知医科大学血管外科

第37回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2009年5月13日～15日

〈会場〉名古屋国際会議場

〈主題〉Plus Ultra:
血管外科の創造する未来へ

〈プログラム〉

■会長講演 転帰から学ぶ維持透析患者の重症下肢虚血
太田敬(愛知医科大学血管外科)
座長:塩野谷恵彦(名古屋大学名誉教授)

■特別講演 1 血管内治療が切り開く血管外科医の将来
大木隆生(東京慈恵会医科大学血管外科)
座長:古森公浩(名古屋大学血管外科)

■特別講演 2 (三学会構成安全講習会)
安全で質の高い医療を実現するために
加藤良夫(南山大学法学部)
座長:松原昌樹(愛知医科大学名誉教授)

■招請講演 1
Fenestrated and Branched Aortic Endografts
-Ten years Experience in three Hospitals
Thomas Umscheid
(HELIOS William Harvey Klinik, Germany)
座長:古謝景春(嶺井第一病院心臓血管外科)

■招請講演 2
TEVAR: Emerging Multicenter Data
Jon S. Matsumura
(Northwestern University, U.S.A.)
座長:澤芳樹(大阪大学心臓血管・呼吸器外科学)

■招請講演 3
Biobanks and the Search for
Predictive Biomarkers of Local and
Systemic Outcome in Atherosclerotic Disease.
Frans L. Moll (Department of Vascluar Surgery,
St. Antonius Hospital, The Netherlands)
座長:重松宏(東京医科大学血管外科)

■招請講演 4
Management of Patients with Critical Limb Ischemia
Karthikeshwar Kasirajan
(Emory University, U.S.A.)
座長:多田祐輔(山梨大学第二外科)

■招請講演 5
Carotid Surgery in 2009
Dieter Raithe
(Klinikum Nurnberg Sud, Germany)
座長:岡田昌義(大阪府済生会中津病院)

■招請講演 6
Congenital Vascular Malformation; it is no Longer
Curse to the Vascular Surgeons!
Byung-Boong Lee
(Georgetown University U.S.A.)
座長:大内博(あおば会ハート五橋)

■教育講演 1
動脈硬化症と血管新生:血管新生の病態学的多面性
居石克夫(福岡東医療センター)
座長:末田泰二郎(広島大学第一外科)

■教育講演 2
血管外科領域における抗血栓療法
池田康夫(慶應義塾大学内科)
座長:前原正明(防衛医科大学校第二外科)

■教育講演 3-1
Current Issue in Chronic Lymphedema; Can We
Continue to ignore?
Byung-Boong Lee
(Georgetown University, U.S.A.)
座長:加藤逸夫(真泉会第一病院)

■教育講演 3-2
血管外科医のためのリンパ浮腫の保存的治療
平井正文
(東海病院下肢静脈瘤・リンパ浮腫・血管センター)
座長:加藤逸夫(真泉会第一病院)

■教育講演 4
血管外科とリハビリテーションの連携
鈴木恒彦(大阪府立急性期・総合医療センター
リハビリテーション科)
座長:種本和雄(川崎医科大学胸部心臓血管外科)

■シンポジウム 1 機能的診断から見た血管外科治療
座長:岩井武尚(つくば血管センター/パーチャー病研究所)
松尾汎(松尾循環器科クリニック)

■シンポジウム 2 重症虚血肢に対する治療法
座長:笹嶋唯博(旭川医科大学第一外科)
安達秀雄(自治医科大学
大宮医療センター心臓血管外科)

■シンポジウム 3 高齢者胸部大動脈瘤手術と術後QOL
座長:安藤太三(藤田保健衛生大学心臓血管外科)
上田裕一(名古屋大学胸部機能外科)

■シンポジウム 4 下肢静脈瘤治療の最前線
座長:小代正隆(鹿児島県立大島病院外科)
折井正博(東海大学第一外科)

■パネルディスカッション 1
医療コストからみた血管外科治療
座長:國吉幸男(琉球大学第二外科)
荻野均(国立循環器病センター心臓血管外科)

■パネルディスカッション 2 血管奇形の治療戦略
座長:横尾和久(愛知医科大学形成外科)
佐々木了(KKR札幌医療センター
斗南病院形成外科)

■パネルディスカッション 3
TASC分類からみた下肢血行再建
座長:宮田哲郎(東京大学血管外科)
福田幾夫(弘前大学第一外科)

■パネルディスカッション 4
腹部大動脈瘤ステントグラフト手術の適応と限界
座長:大北裕(神戸大学呼吸循環器外科)
吉川公彦(奈良県立医科大学放射線科)

■International Symposium
Session 1 Endovascular Aneurysm Repair
(大動脈瘤ステントグラフト手術)

Chair: Shin Ishimaru
(Toda Chuo General Hospital)
Takao Ohki (Jikei University)

演者: Hitoshi Matsuda (National Cardiovascular Center)
Jon S. Matsumura (Northwestern University, U.S.A)
Atsushi Kitagawa (Kobe University)
Frans L. Moll (St. Antonius Hospital, the Netherlands)
Katsuyuki Hoshina (Morinomiya Hospital)
Hiroyuki Ishibashi (Aichi Medical University)
Thomas Umscheid
(HELIOS William Harvey Klinik, Germany)
Kiyofumi Morishita (Hakodate Municipal Hospital)
Dieter Raithe (Klinikum Nuernberg sud, Germany)
Karthikeshwar Kasirajan (Emory University, U.S.A)
Takao Ohki (Jikei University)

Session 2 Current Treatment for PAD in Asian
(アジアにおける末梢血管疾患治療の現況)

Organizer: Hiroshi Shigematsu
(Tokyo Medical University)

Chair: Keishu Yasuda
(Hokkaido Chuo Rosai Hospital)
Yu-Qi Wang (Shanghai Medical University, China)
演者: Zeki Talas (Istanbul University, Turkey)

Vivekanand (Bhagawan Mavaveer Jain Hospital, India)
Nobuyoshi Azuma (Asahikawa Medical College)
Seung-Kee Min (Seoul National University, Korea)
Kunihiro Shigematsu (University of Tokyo)
Young Wook Kim (Samsung Medical Center, Korea)
Paresh R. Pai (The Vascular Clinic, India)
I-Hui Wu (National Taiwan University Hospital, Taiwan)
Kiyohito Yamamoto (Nagoya University)
Guo Daqiao (Fudan University, China)
Ikuo Sugimoto (Aichi Medical University)
Enamul Hakim (National Institute of
Cardiovascular Disease, Bangladesh)
Wai-Ki Yiu (Queen Mary Hospital, Hong Kong)

第37回日本血管外科学会総会を振り返って

愛知医科大学名誉教授
大雄会第一病院顧問 太田敬

第37回総会は2009年5月13日(水)～5月15日(金)の3日間、名古屋国際会議場で開催させていただきましたが、早いもので12年も経ちました。



2021年には再び愛知医科大学血管外科教室で、私の後任の石橋宏之教授が同じ会場で第49回総会を開催させていただきましたが、2009年はアメリカのサブプライムローン

破綻に端を発した世界的な経済不況下、2021年は中国湖北省武漢市を中心に発生し短期間で全世界に波及したCOVID蔓延下での開催となりましたが、いずれも無事に開催できたことは会員をはじめ支援して下さった皆様のおかげと感謝しています。

私は、名古屋大学分院血管外科入局後、分院廃止に伴い名古屋大学血管外科に移り「客観的な病態の評価に基づく血管治療について」を塩野谷恵彦先生、松原純一先生、平井正文先生から学びました。愛知医科大学に移ってからは、医局の杉本郁夫先生らとともに「間歇性跛行の病態から見た治療法の選択—特に運動療法の適応の研究」や「重症虚血肢の客観的評価—特に皮膚還流圧は日本での第1号機購入しての研究」を報告してきましたが、この意味から、機能的診断の重要性に関するセッションとして、「教育セミナー：閉塞性動脈硬化症の

すべて」「シンポジウム1:機能的診断から見た血管外科治療」、「モーニングセミナー2:CVTをいかに育てるか」、「血管無侵襲診断診療セミナー」と数多く設けさせていただきました。

動脈、静脈、リンパの病態と治療を、を生涯追求し続けられた兄弟子である平井正文先生には「血管外科医のためのリンパ浮腫の保存的治療」の教育講演をしていただきましたが、2013年1月にご逝去されました。また、恩師塩野谷先生には会長講演「転帰から学ぶ維持透析患者の重症虚血肢」の座長をしていただきましたが、2020年6月ご逝去されました。思い出の写真をみながら月日の流れの速さに驚いています。

今後の血管外科学会の益々の発展を祈念し、筆を擱かせていただきます。



平井正文先生



塩野谷恵彦先生



Dieter Raithel 先生、重松宏先生と私。Raithel 先生もお元気でした。



宮内好正先生、安田慶秀先生、吉川公彦先生。宮内、安田両先生もお元気でした。



石田厚先生、大木隆生先生、宮内好正先生。大木隆生先生も若かった。



愛知医科大学血管外科医局員、学生、ボランティア一同 お疲れ様でした

第37回日本血管外科学会総会を振り返って

愛知医科大学血管外科医局長 折本有貴

愛知医科大学血管外科初代教授 太田敬先生を会長に「Plus Ultra:血管外科の創造する未来へ」というテーマで、2009年5月13日(水)～5月15日(金)に、名古屋国際会議場で開催されました。リーマンショックの影響で世界的な経済不況の中での学会開催でした。しかし、そのような状況下にもかかわらず486題の演題申し込み、約30名の海外参加者を含む1300人以上の方が参加され盛大な会となりました。新しい教室でしたので医局員だけではスタッフが不足、メーカーさん、学生さん、ボランティアの方にもお願いして学会を乗り切ったことを思い出されます。主要演題として特別講演2、招待講演6、教育講演4、国際シンポジウム2、シンポジウム4、パネルディスカッション4が企画されました。EVAR、TEVAR、PADでは腸骨動脈や浅大腿動脈病変のEVTは各施設から治療成績が報告されましたが、腹部大動脈瘤破裂、急性B型大動脈解離の多くは人工血管置換術の報告でした。パネルディスカッション「ステントグラフトの適応と限界」からも分かるように、当時は血管内治療にこれから挑戦してゆく時代であったと思われまます。また教室の3つの基本理念である「客観的評価に基づく治療方針を決定」、「血管病変の形態的修復だけではなく、機能的に回復させる」、「血管外科学の進歩は各科との緊密な連携の上になりつつ」に基づき、「機能的診断から見た血管外科治療」、「血管奇形の治療戦略」「高齢者胸部大動脈瘤手術とQOL」「医療コストからみた血管外科治療」といったシンポジウムが企画されました。世界各国の第一人者のほか、アメリカ、ヨーロッパ、アジア各国から招待した若い先生方の発表もありました。懇親会はそのまま名古屋国際会議場で行われ、「名古屋めし」を食べながら広く交流が深められました。当時、私は血管外科に入

局して1年足らずで、血管外科学とは何かということも分からず、身振り手振りで世界各国の先生方と交流したことを懐かしく思い出されます。この学会のおかげで、当時ヨーロッパ血管外科学会会長Frans L.Moll教授が主宰するオランダUtrecht大学血管外科に2010年1月から1年間 Research Fellowとして留学する機会に恵まれました。血管外科医としてスタートしたばかりの私にとって、「世界を知り、世界から学ぶ」きっかけが得られたとともに、その後の自分の人生にも大きな影響を及ぼした思い出の深い学会でした。



「ひつまぶし」で有名な名古屋 熱田「蓬萊軒」で Moll教授と学会を抜けての2人だけのランチ

第38回 会長



安達 秀雄 先生

〈所属医局〉自治医科大学附属さいたま医療センター
心臓血管外科

第38回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2010年5月20日～22日

〈会場〉大宮ソニックシティホール
パレスホテル大宮

〈主題〉血管外科の新しい展開
—進歩とコラボレーション—

〈プログラム〉

■会長講演

血管外科の新しい展開 —進歩とコラボレーション—
演者：安達秀雄（自治医科大学附属
さいたま医療センター心臓血管外科）
座長：井野隆史（さいたま市民医療センター）

■招請講演1

Aortic Aneurysms in the Young
演者：Duke E. Cameron
（Johns Hopkins Hospital, Baltimore, U.S.A.）
座長：上田敏彦（東海大学医学部心臓血管外科）

■招請講演2

New Frontiers in Aortic Valve Surgery: Training
the Next Generation
演者：Michael P. Fischbein
（Stanford University CA, U.S.A.）
座長：伊藤翼（福岡和白病院）

■招請講演3

Open Surgery for Thoracoabdominal Aortic
Aneurysms in Europe
演者：Marc A. A. M. Schepens (Cardio-thoracic
Surgery AZ St. Jan Brugge Belgium)
座長：國吉幸男（琉球大学医学部機能制御外科）

■招請講演4

Open Surgery for Thoracoabdominal Aortic
Aneurysms in North America
演者：Anthony L. Estrera (University of
Texas at Houston Medical School)
座長：天野純（信州大学医学部附属病院心臓血管外科）

■招請講演5

Current State of Vascular Surgery in Europe
演者：Giovanni Torsello (St. Franziskus-Hospital)
座長：根岸七雄（武蔵野総合病院）

■医療安全講習会

診療関連死調査分析モデル事業の現状と展望
演者：矢作直樹（東京大学大学院医学系研究科救急医学講座）
演者：梅村聡（参議員議員）
座長：高本真一（三井記念病院）

■教育講演1

マルチスライスCT による血管外科領域の画像診断
演者：林宏光（日本医科大学放射線医学）
座長：笹嶋唯博（旭川医科大学第一外科）

■教育講演2

腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術における合併症を
考慮したデバイス選択
演者：島崎太郎（東京医科大学血管外科
心臓血管病低侵襲治療センター）
座長：重松宏（東京医科大学血管外科）

■International Symposium

Open vs Endovascular Surgery for Aortic Diseases
Chair:Shin Ishimaru (Toda Chuo General Hospital)
Duke E. Cameron (Johns Hopkins Hospital,
Baltimore, U.S.A.)

Keynote lecture

Roy K. Greenberg (Cleveland Clinic)
Norihiro Shiiya (First Department of Surgery,
Hamamatsu University School of Medicine)
Toru Kuratani (Department of Cardiovascular
Surgery, Osaka University Graduate School
of Medicine)
Takao Ohki (Department of Surgery,
Division of Vascular Surgery, Jikei University
School of Medicine)
Giovanni Torsello (St. Franziskus-Hospital)
Roy K. Greenberg (Cleveland Clinic)
Marc A. A. M. Schepens (Cardio-thoracic Surgery
AZ St. Jan Brugge Belgium)
Anthony L. Estrera (Department of Cardiothoracic
& Vascular Surgery, University of Texas at
Houston Medical School)

■シンポジウム1 大動脈基部再建術の遠隔成績

座長：高本真一（三井記念病院）
岡林均（岩手医科大学附属病院循環器医療センター）

■シンポジウム2 複合血管病変を伴う血管外科治療

座長：荻野均（国立循環器病センター心臓血管外科）
山口敦司（自治医科大学附属
さいたま医療センター心臓血管外科）

■シンポジウム3 胸腹部大動脈瘤手術の治療戦略

—いかに合併症を予防するか—
座長：田林暁一（東北大学医学部附属病院心臓血管外科）
向原伸彦（兵庫県立姫路循環器病センター）

■シンポジウム4 血管新生療法の現状と課題

座長：池田宇一（信州大学大学院
医学系研究科循環器病態学）
古森公浩（名古屋大学大学院血管外科）

■シンポジウム5 重症虚血肢に対する集学的治療

座長：佐藤紀（埼玉医科大学総合医療センター血管外科）
遠藤将光（独立行政法人国立病院機構
金沢医療センター心臓血管外科）

■パネルディスカッション1

頸動脈狭窄病変に対する治療戦略
座長：伊苅裕二（東海大学医学部付属病院循環器内科）
岩井武尚（慶友会つくば血管センター）

■パネルディスカッション2

腹部大動脈瘤に対する治療戦略
—中・長期成績を踏まえて—
座長：宮本裕治（兵庫医科大学心臓血管外科）
川崎富夫（大阪大学医学部大学院心臓血管外科）

■パネルディスカッション3

これからの専門医資格と修練プログラム
座長：幕内晴朗（聖マリアンナ医科大学心臓血管外科）
宮田哲郎（東京大学血管外科）

■パネルディスカッション4

Vascular Lab 確立のための条件
座長：井上芳徳（東京医科歯科大学大学院血管応用外科）
三井信介（社会保険小倉記念病院血管外科）

■パネルディスカッション5

急性肺血栓症の治療戦略
座長：増田政久（千葉医療センター）
落雅美（日本医科大学附属病院心臓血管外科）

■パネルディスカッション6

胸部大動脈瘤に対する治療戦略
—中・長期成績を踏まえて—
座長：明石英俊（久留米大学医学部附属病院外科）
椎谷紀彦（浜松医科大学第一外科）

■ビデオシンポジウム1

下腿3分枝以下の動脈再建術成績向上の工夫
座長：稲葉雅史（旭川医科大学第一外科）
進藤俊哉（東京医科大学八王子医療センター
心臓血管外科）

■ビデオシンポジウム2

移植手術、形成外科領域の血管外科手技
座長：小山勇（埼玉医科大学国際医療センター
消化器病センター）
金澤丈治（自治医科大学附属さいたま医療センター
耳鼻咽喉科）

■ビデオシンポジウム3

腹部大動脈瘤ステントグラフト後の
エンドリークに対する追加治療
座長：大木隆生（東京慈恵会医科大学外科学講座）
石橋宏之（愛知医科大学血管外科）
特別発言：David J. Minion (University of Kentucky)

さいたま市で第38回学術総会を開催

第38回日本血管外科学会学術総会会長
自治医科大学名誉教授 安達秀雄

第38回日本血管外科学会学術総会を、さいたま市内のソニックシティホールと、隣接するパレスホテル大宮で開催させていただいた。さいたま市は人口130万人と大きな政令都市ではあるが、東京都のベッドタウンとして発展してきた経緯があり、都内との交通の便がよく、全国規模のコンベンションは都内や横浜の会場で行われることが多かった。さいたま市は宿泊施設が少なかったため、どこで開催するか迷ったが、せつかくさいたま市にある自治医科大学附属さいたま医療センター心臓血管外科が主宰するので、さいたま市で開催させていただくことにした。

開催に当たっては、最先端の医学、医療を討論していただくことを目的として、外国からも10名近いゲストを招待して、国際シンポジウムを実施した。血管外科の発展には、他分野との交流、協働作業が重要だと考え、学術総会のメインテーマを「血管外科の新しい展開—進歩とコラボレーション—」とした。国

際シンポジウムをはじめ、それ以外に5つのシンポジウム、6つのパネルディスカッション、要望演題、一般演題など、計612演題が発表された。参加者も1400名を超し、盛大な学術総会が実現できたことは、学会役員並びに会員の皆様、協力企業の皆様のおかげと感謝している。

学術総会では学問の発展に寄与するとともに、会員相互の親睦を図ることも大きな目的と考え、会長主催の晩餐会、および会員懇親会には工夫を凝らした。晩餐会には、たまたま知り合いであった歌手の岩崎宏美さんをお招きし、「マドンナたちのララバイ」をはじめ、40代、50代の会員の方々にはお馴染みの6曲を熱唱していただいた。岩崎さんは、途中でステージから降りて各テーブルの間を回って歌い、参加者と親しく握手もしていただき、大変好評であった。

会員懇親会は、会場近くのJR東日本鉄道博物館を借り切り、都内のホテルからスタッフが出張して博物館内で料理を提供してもらい、食事をしながら各種の展示列車にも乗って、楽しむことができた。鉄道博物館にとって、今回のような企画は初めての経験であり、当初は前例が無いと交渉窓口で断られてしまった。しかし、あきらめず

に館長と直談判を行い、学術総会の意義と鉄道博物館の役割について話し、最終的には館長に快諾してもらい、開催に至ることができた。会員懇親会には館長も出席して挨拶し、その後は大きな学会の懇親会場として、鉄道博物館を使うことが可能になったとうかがっている。

第50回の学術総会からすると、12年前の総会であったが、つい先日行ったかのように鮮明に当時のことが思い出される。総会が成功裡に開催できたことは、学会役員、会員、協賛企業の皆様方のおかげで

あったことはもちろんだが、それと同時に、教室の医局員、秘書の方々の献身的な協力なくしてはできなかったことであり、あらためて関係各位に謝意を表したい。



会員懇親会



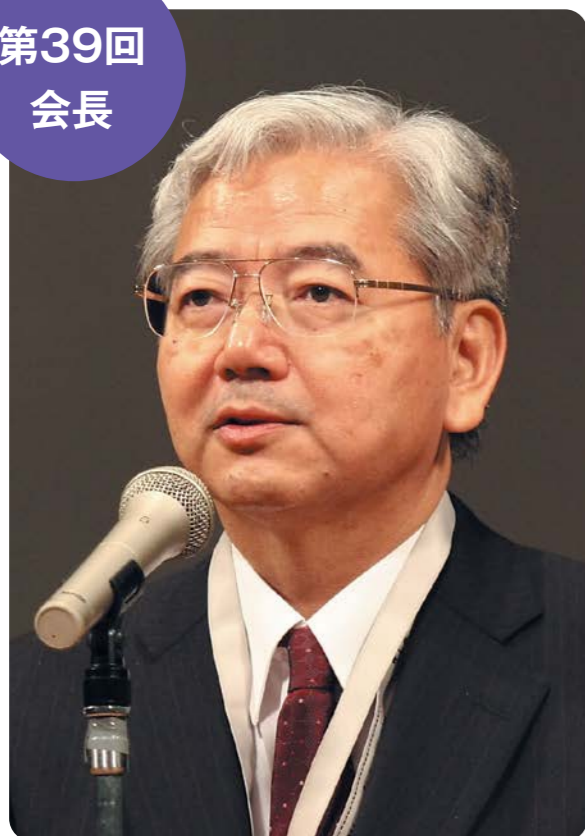
会長講演



国際シンポジウム



第39回
会長



國吉 幸男 先生

(所属医局) 琉球大学大学院 胸部心臓血管外科学講座

第39回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2011年4月20日～22日

〈会場〉沖縄コンベンションセンター

〈主題〉Experience-Based Evidence
(その一つの症例から)

〈プログラム〉

■会長講演

大血管の外科治療戦略
—Experience based Evidence(その一つの症例から)—
演者: 國吉幸男(琉球大学大学院胸部心臓血管外科学講座)
座長: 古謝景春(嶺井第一病院名誉院長)

■特別講演 夢・実現のために

演者: 宮里優(有限会社大北ゴルフ練習場ティーテングプロ)
座長: 小須賀健一(宗像水光会総合病院)

■招請講演1

TAAA: open, hybrid or endovascular repair?
演者: Michael Jacobs (European Vascular Center, Aachen-Maastricht, Germany-the Netherlands)
座長: 安藤太三(藤田保健衛生大学心臓血管外科)

■招請講演2

Using TEVAR for Aortic Disease: Aneurysm, Dissection, and Trauma
演者: William D. Jordan (Section of Vascular Surgery and Endovascular Therapy, University of Alabama, Birmingham, USA)
座長: 前原正明(防衛医科大学校心臓血管外科)

■招請講演3

The Albany Vascular Experience of EVAR/TEVAR for Ruptured Aortic Aneurysms
演者: Manish Mehta (The Vascular Group PLLC, USA)
座長: 石丸新(戸田中央総合病院血管内治療センター)

■招請講演4

Perioperative Spinal Cord Protection During Thoracoabdominal Aortic Aneurysm Repair
演者: Anthony L. Estrera (Department of Cardiothoracic & Vascular Surgery University of Texas Medical School Houston, USA)
座長: 天野純(信州大学医学部附属病院・心臓血管外科)

■招請講演5

Fenestrated and Branched Experience
演者: Eric L.G. Verhoeven (Department of Vascular and Endovascular Surgery, Klinikum Nürnberg, Germany)
座長: 佐藤紀(埼玉医科大学総合医療センター血管外科)

■招請講演6 TAVI の現状と将来

演者: 澤芳樹(大阪大学大学院医学系研究科 外科学講座心臓血管外科)
座長: 森田茂樹(佐賀大学医学部胸部・心臓血管外科)

■教育講演1 コホート研究の実践: 久山町研究

演者: 清原裕(九州大学大学院医学研究院環境医学分野)
座長: 根岸七雄(武蔵野総合病院名誉院長)

■教育講演2 マイクロサージャリー(微小外科)の実践

演者: 金谷文則(琉球大学大学院医学研究科整形外科学講座)
座長: 岩井武尚(慶友会つくば血管センター)

■教育講演3・4

Collateral Network Concept による脊髄保護
Survival and maturation of spinally grafted human stem cells in spinal ischemia-induced spastic rats or naïve immunosuppressed minipig
演者: 垣花学(University of California, San Diego, Neuroregeneration Laboratory, Department of Anesthesiology)
座長: 高本真一(社会福祉法人三井記念病院) 椎谷紀彦(浜松医科大学第一外科)

■International Symposium

Chair: Takao Ohki (Department of Surgery, Division of Vascular Surgery, Jikei University School of Medicine, Tokyo, Japan)
Anthony L. Estrera (Department of Cardiothoracic & Vascular Surgery, University of Texas Medical School Houston, USA)

■シンポジウム1

弓部大動脈瘤手術時の脳保護法
(高度粥状硬化症例についての工夫を中心として)
座長: 福田幾夫(弘前大学大学院医学研究科 胸部心臓血管外科学講座)
大北裕(神戸大学大学院医学研究科外科学講座 心臓血管外科学研究分野)

■シンポジウム2

大腿動脈以下末梢動脈に対する治療戦略
(血管内治療 vs Open.)
座長: 太田敬(愛知医科大学外科学講座血管外科) 古森公浩(名古屋大学血管外科)

■シンポジウム3

重症虚血肢に対する治療戦略(遠隔成績からみた治療方針)
座長: 佐藤紀(埼玉医科大学総合医療センター血管外科) 笹嶋唯博(旭川医科大学第一外科)

■シンポジウム4

弓部および胸腹部のStent 治療の現状と将来
(術後神経学的合併症からみた展望)
座長: 上田裕一(名古屋大学大学院医学系研究科心臓外科) 石丸新(戸田中央総合病院血管内治療センター)

■シンポジウム5

遠位弓部大動脈瘤に対する手術治療戦略
(アプローチ法, Open or Stent or Hybrid)
座長: 宮本裕治(兵庫医科大学心臓血管外科) 川口聡(東京医科大学病院血管外科・心臓血管病低侵襲治療センター)

■パネルディスカッション1

Axillo-femoral bypass の適応と遠隔成績
座長: 折井正博(東海大学心臓血管外科) 三井信介(小倉記念病院)

■パネルディスカッション2

急性A型解離症例の早期・遠隔期成績
(偽腔開存有無も踏まえて)
座長: 島本光臣(静岡市立静岡病院) 末廣茂文(大阪市立大学大学院循環器外科学)

■パネルディスカッション3

CAS vs CEA(中長期成績を踏まえて)
座長: 榎原謙(筑波大学人間総合科学研究科心臓血管外科) 井上芳徳(東京医科歯科大学医学部付属病院 血管外科)

■パネルディスカッション4

大動脈瘤治療時の脊髄虚血(Open vs Stent)
座長: 種本和雄(川崎医科大学) 荻野均(国立循環器病センター心臓血管外科)

■パネルディスカッション5

急性大動脈解離に対するStent治療
座長: 高原善治(船橋市立医療センター) 明石英俊(久留米大学医学部外科学)

■パネルディスカッション6

高度粥状硬化病変大動脈瘤に対する治療方針
座長: 岡村吉隆(和歌山県立医科大学第一外科) 松居喜郎(北海道大学大学院医学研究科循環器外科)

■ビデオシンポジウム1

胸部下行・胸腹部大動脈瘤手術時の術中脊髄虚血予防法
座長: 上田敏彦(東海大学心臓血管外科) 岡林均(岩手医科大学心臓血管外科)

■ビデオシンポジウム2

大動脈基部再建時の基部再建法および弁形成法の工夫
座長: 小野稔(東京大学心臓外科) 坂田隆造(京都大学大学院医学研究科 器官外科学講座 心臓血管外科学)

■ビデオシンポジウム3

腎動脈遮断を要するAAA手術(腎保護法を含めて)
座長: 向原伸彦(兵庫県立姫路循環器病センター) 稲葉雅史(旭川医大第一外科)

■ビデオシンポジウム4

A型急性解離術後遠隔期追加・再手術
座長: 浅井徹(滋賀医科大学外科学講座心臓血管外科) 横山斉(福島県立医科大学医学部心臓血管外科学講座)

■ビデオシンポジウム5

下腿・足関節バイパス術の術式の工夫
(長期開存を目指した工夫)
座長: 石橋宏之(愛知医科大学血管外科) 市来正隆(JR 仙台病院)

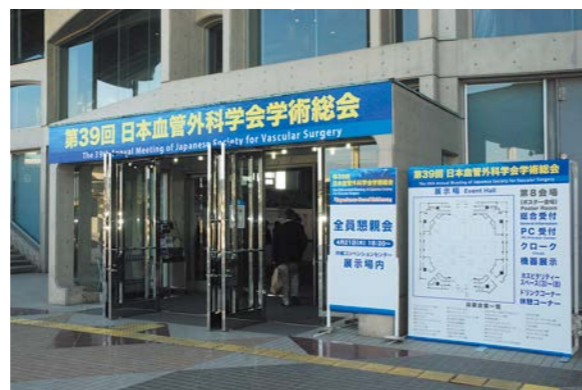
■ビデオシンポジウム6

下肢静脈瘤手術の標準および先進治療
座長: 應儀成二(医療法人社団日立記念病院血管外科)

第39回日本血管外科学会学術総会

第39回日本血管外科学会学術総会 会長
社会医療法人浦添総合病院心臓血管外科顧問
琉球大学名誉教授 國吉幸男

第39回総会は琉球大学大学院胸部心臓血管外科学講座教授の國吉幸男会長のもとに、会場を沖縄コンベンションセンターとして2011年4月20日～22日までの3日間で開催されました。これは、前教授の古謝景春の第30回大会総会から9年目であり、同一教室において10年間で2回も総会主催を担当したことは大変光栄に感じていました。同時に第7回日韓血管外科学会も開催いたしました。当時の重松学会理事長から指名をうけ、数年にわたり教室員全員を挙げて準備を行ってきました。2011年の年が明け、いよいよ主催者側としての緊張が最高潮に達した3月11日、東日本大震災が発生しました。私自身は関連病院で手術のお手伝いに出かけている日であり、手術が一段落し、寛ぐためにラウ



第39回日本血管外科学会学術総会初日の
主会場である、劇場棟の様子。

ンジでテレビ観覧してその事実を知りました。津波で破壊される街並みがまるで映画の一場面のようにあり衝撃を受けました。日が経つにつれ、情報が寄せられてくるにつれその被害が甚大であることが判明してきました。このような時期での学会開催については様々な意見があり、判断に大いに悩みました。自らも被災された重松理事長へ相談したところ「このような時期だからこそ開催するんだ。学術集会は戦争の時でもやるべきだ。」との返事を頂いて開催の運びとなりました。通常、学会の前日催される会長招宴を、急遽「復興支援・復興祈念」としました。そして被災した方々へのお悔やみの黙とうを



総会前日の会長招宴は
急遽復興支援・復興祈念会としました。
参加者全員による黙とうを捧げました。



オランダからの招請講演Michael Jacobs先生が、また次期会長の
天野純先生がそれぞれお悔やみを述べられました。



捧げ、東北6県からの参加者には参加費を無料としました。会員懇親会では、西原高校のブラスバンドチームの世界一のマーチングバンド演奏を披露していただき、若い力の演技で被災地への復興のエールを送りました。懇親会で使うお酒、くだものなどは、できるだけ被災地から取り寄せました。そして学会期間中に予定していた華美な部分を廃し、

また関係業者から支援金を募り400万円ほどを集めて、日本赤十字沖縄支部へお渡し致しました。外科学会総会をはじめ他の多くが開催延期ないし中止とされるなかでの開催でしたが、ある関東の会員から「久しぶりに余震のない穏やかな夜で熟睡できました。開催してくれてありがとう。」との発言には主催者としてすこし安堵しました。



全員懇親会では、
世界一にも輝いた
西原高等学校の
マーチングバンドで、
被災地へ復興の
エールを送りました。

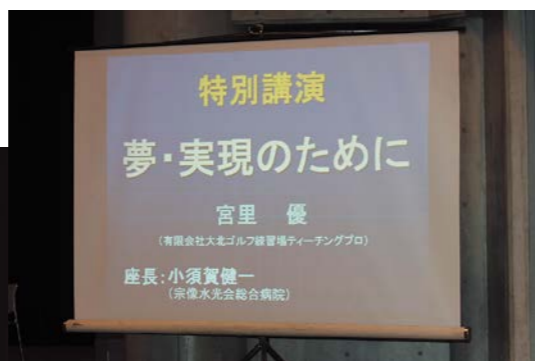
学会のテーマは「Experience-Based Evidence(その一つの症例から)」としました。当時、大規模統計を基にEBMが強調されており、それに対抗する標語として創作しました。外科治療におけるEvidenceは、臨床症例を一つ一つ積み重ねた手術症例およびその手術技量のみがなり得るとの強い思いからでした。演題数は880余を数え、6つの招請講演、4つの教育講演、5つのシンポジウム、6つのビデオシンポジウム、パネルディスカッション6題、要望演題、一般演題で構成しました。外国からの招請演者は9名中数名が震災の影響で来日を断られました。そのピンチヒッターとして指名した代わりの演者が全てカバーしていただきました。特別講演としては、プロゴルファー宮里兄弟を育てた、宮里優

んにお願いしました。「夢・実現のために」と題して語られた、宮里藍さんがプロゴルファーになるまでの幼少期時代の苦労した逸話などを話して頂きました。会場は満席で立錫の余地がなかったのは言うまでもありません。

第39回総会は、いわゆる「記憶に刻まれる」学術集会であったと感じています。3日間を通して多くの会員が真摯に血管外科に向き合ってくださいました。あの震災後の浮足立つような状況で開催できたのは、多くの関係者のご努力、ご協力の賜物以外何物でもない。今更ながら感謝の念に堪えません。



会長講演の様子。座長は恩師の古謝名譽教授にお願いしました。



初日の特別講演では、プロゴルファー宮里兄弟を育てた宮里優さんに「夢・実現のために」と題して子供の教育について話して頂きました。座長は長く親交のある、小須賀先生にお願いしました。



第39回日本血管外科学会学術総会は関係者のご努力、ご協力にて無事終了出来ました。

第40回
会長



天野 純 先生

(所属医局) 信州大学医学部外科学講座 心臓血管外科

第40回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2012年5月23日～25日

〈会場〉長野ビッグハットほか

〈主題〉"ALL FOR ONE"
—血管外科の新時代—

〈プログラム〉

■会長講演

"ALL FOR ONE" — 血管外科の新時代 —
天野純(信州大学医学部外科学講座心臓血管外科)
座長: 岩井武尚(慶友会つくば血管センター)

■特別講演

生きているってすばらしい — 命, 血管, 絆が大切 —
鎌田實(諏訪中央病院)
座長: 田林暁一(東北厚生年金病院)

■招請講演1

A Meta-Analysis of Abdominal Aortic Aneurysm Repair in the Endovascular Era: What Does the Current Data Tell Us About the Available Endografts?
Dennis R. Gable(Baylor Plano Heart Hospital, Plano, Texas, USA)
座長: 大木隆生(東京慈恵会医科大学 外科学講座血管外科)

■招請講演2

Albany Medical Center's Vascular Surgery Group & Practice
Manish Mehta(Albany Medical Center, USA)
座長: 安達秀雄(自治医科大学附属 さいたま医療センター心臓血管外科)

■招請講演3

・招請講演3-1
Endovascular Repair of Abdominal Aortic Aneurysm: Trends in UK
・招請講演3-2
LSA Revascularisation in TEVAR: Only of Benefit in Aneurysms?
Matt Thompson(St. Georges Vascular Institute, London, UK)
座長: 荻野均(東京医科大学外科学第二講座(心臓血管外科))

■招請講演4

The ADSORB Trial and TEVAR for Thoracic Dissections
Jan Brunkwall (Department of Vascular Surgery, University Clinic of Cologne, Germany)
座長: 笹嶋唯博(旭川医科大学第一外科)

■招請講演5

Epidemiology, Global Risk and Medical Treatment of Peripheral Arterial Disease (PAD)
Curt Diehm(Department of Internal Medicine /Vascular Medicine,Karlsbad Clinic, Academic Hospital University of Heidelberg, Germany)
座長: 福田幾夫(弘前大学大学院胸部心臓血管外科)

■招請講演6

Spinal Cord Ischemia Associated with Aortic Endografting: Can We Improve Outcomes?
Matthew J. Eagleton(Department of Vascular Surgery, Cleveland Clinic Lerner College of Medicine, USA)
座長: 前原正明(防衛医科大学校外科二(心臓血管外科))

■招請講演7

Thoracic and Thoraco-abdominal Aortic Disease: An Overview
Germano Melissano
(San Raffaele Hospital, Milan, Italy)
座長: 種本和雄(川崎医科大学附属病院胸部心臓血管外科)

■教育講演1

ヒトの大動脈, 頸動脈, 鎖骨下動脈, 腎動脈の動脈硬化
上田真喜子(大阪市立大学大学院 医学研究科病理病態学)
座長: 古森公浩(名古屋大学大学院医学系研究科血管外科)

■教育講演2

患者管理に役立つ! 血管外科医が知っておきたい必須知識
透析シャント過剰血流による全身への影響と対処法
〜心不全から脳虚血まで〜
神應裕(神應透析クリニック)
座長: 太田敬(愛知医科大学血管外科)

■教育講演3

血管再生療法の動向
池田宇一(信州大学医学部循環器内科学講座)
座長: 松田暉(兵庫医療大学)

■International Symposium

Current State of Education and Training for Vascular Surgeons in Various Countries—To Acquire Surgical and Endovascular Procedures—
Chair: Yoshiki Sawa(Department of Surgery, Division of Cardiovascular Surgery, Osaka University, Japan)
Takao Ohki (Department of Surgery, Division of Vascular Surgery, Jikei University School of Medicine, Japan)

■シンポジウム1

大動脈解離(急性・慢性を含む)に対する治療戦略 (Open・TEVAR/EVAR・Hybrid)
座長: 大北裕(神戸大学大学院医学系研究科 外科学講座心臓血管外科学研究分野)
國吉幸男(琉球大学大学院胸部心臓血管外科学)

■シンポジウム2

弓部・遠位弓部大動脈瘤に対する治療戦略 (Open・debranching TEVAR)
座長: 塩野元美(日本大学医学部外科学系 心臓血管・呼吸器・総合外科学分野)
椎谷紀彦(浜松医科大学第一外科)

■シンポジウム3

内臓動脈瘤の治療戦略
座長: 明石英俊(久留米大学外科)
石橋宏之(愛知医科大学血管外科)

■シンポジウム4

大動脈瘤破裂に対する緊急大動脈ステントグラフト治療 —その工夫と問題点—
座長: 善甫宣哉(山口県立総合医療センター外科)
倉谷徹(大阪大学大学院医学系研究科 低侵襲循環器医療学)

■シンポジウム5

PAD 治療のトレンド —血管外科に必要なパラダイムシフト(PTA first と Surgery first)—
座長: 宮田哲郎(東京大学血管外科)
小櫃由樹生(国際医療福祉大学三田病院血管外科)

■パネルディスカッション1

Beyond IFU — IFU境界例及びIFU外ステントグラフト治療の考え方とその検証—
座長: 石丸新(戸田中央総合病院)
福田宏嗣(獨協医科大学心臓・血管外科)

■パネルディスカッション2

透析・糖尿病を合併したASO 重症虚血肢に対する治療戦略
座長: 笹嶋唯博(旭川医科大学第一外科)
進藤俊哉(東京医科大学八王子医療センター 心臓血管外科)

■パネルディスカッション3

Beyond TASC II
—ASOのさらに詳細な分類の必要性と考え方—
座長: 正木久男(川崎医科大学心臓血管外科)
井上芳徳(東京医科歯科大学)

■パネルディスカッション4

血管外科医のEVT手技 —どういう手技が必要か・ハイレベルな手技を身に付けるために何が必要か—
座長: 遠藤将光(金沢医療センター心臓血管外科)
金岡祐司(東京慈恵会医科大学血管外科)

■パネルディスカッション5

長期的視野に立った透析シャント造設及び
再造設の考え方と手技

座長:大平整爾(札幌北クリニック)
武藤庸一(国立病院機構別府医療センター)

■パネルディスカッション6

血管外科疾患患者の高齢化と救命・QOLを考慮した手術適応

座長:岩井武尚(慶友会つくば血管センター)
松宮護郎(千葉大学大学院医学研究院
心臓血管外科)

■パネルディスカッション7

リンパ浮腫の診断と治療のup to date

座長:應儀成二(日立記念病院血管外科)
岩田博英(愛知医科大学血管外科)

■ビデオシンポジウム1

胸部広範囲大動脈瘤に対する外科治療

座長:宮本裕治(兵庫医科大学心臓血管外科)
田中啓之(久留米大学外科学)

■ビデオシンポジウム2

胸腹部大動脈瘤に対する手術治療

(Open or debranchingTEVAR/EVAR)

座長:安藤太三(藤田保健衛生大学医学部心臓血管外科)
中野清治(東京女子医科大学
東医療センター心臓血管外科)

■ビデオシンポジウム3

ステントグラフト治療のトラブルシューティング

座長:蜂谷貴(埼玉県立循環器・呼吸器病センター
心臓血管外科)

川口聡(慶應義塾大学医学部心臓血管外科)

■ビデオシンポジウム4

下腿3分枝以下の動脈再建術の工夫

座長:三井信介(製鉄記念八幡病院血管外科)
重松邦広(東京大学血管外科)

第40回日本血管外科学会学術総会を振り返って

信州大学医学部附属病院 心臓血管外科 和田有子

第40回日本血管外科学会学術総会は、前年に発生した東日本大震災からの復興の兆しが僅かに見え始めたかどうかという平成24年5月、「ALL FOR ONE—血管外科の新時代—」をメインテーマに長野県で開催されました。

「ALL FOR ONE (, ONE FOR ALL)」は、総会会長を務められた故天野純教授の、診療・教育・研究すべてを貫く一本の柱であり、折しも復興に向けた歩みを始めたばかりのこの国の有り様を示しているようで、この時期にこのテーマを掲げた学会を開催できることを強く誇りに感じていたことを昨日のこのように思い出します。

総会運営には、天野教授の柔軟になんでも楽しんでしまう姿勢が色濃く反映されました。

会場に選ばれたビックハットは1998年の長野冬季オリンピックでアイスホッケーのメイン会場として使われた大型多目的アリーナで、内部には床面積4000㎡にもなる大きなアリーナがひとつ、あとは小さめの会議室が7つのみという造りでした。この使いづらい構造を逆手にとって考え出されたのが「血管を愛する人たちが集まってわいわいがやがやおしゃべりをしあうような会」のコンセプトでした。事務局を統括した福井大祐先生のアイデアで、大きなアリーナを二つに区切り片方をメイン会場に、もう片方を企業展示の空間にしたのです。

ただっ広い空間にお祭りの出店がならぶような企業展示、メイン会場の声はこちらに筒抜けです。聞こえてくる議論に耳を傾けながら、出店の間を散策するような気持ちでそぞろ歩けば角毎に大型のTVモニターが設置され、この会の目玉企画のひとつである連続ビデオ上映セッションが会期中エンドレスで流されています。これは手術のテクニックや工夫を5分のビデオにまとめて頂き、会期中繰り返し流し続けるという、ポスターセッションのビデオ

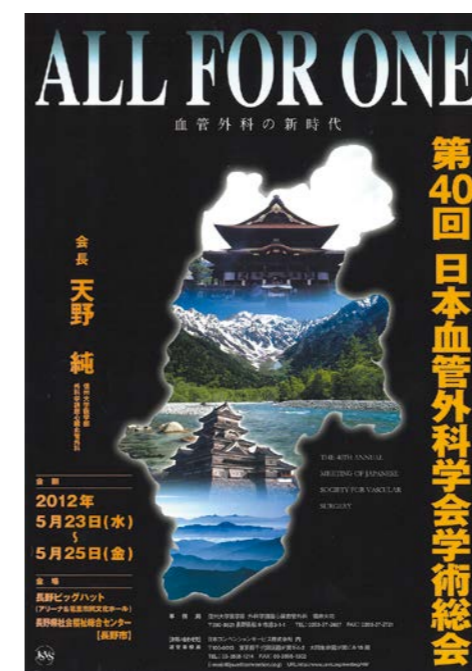
版ともいえる企画で、2日間という限られた時間で少しでも多くの情報交換をしあいたい、という願いが込められたものでした。

もう一つの目玉企画はOpinion & Comments & News。発表の形式にはこだわらず血管外科に対する思いを自由に語って頂くというセッションで、発表時間はたったの3分。大きなアリーナの真ん中で、この短い時間にありったけの思いを込めて、血管外科の技の伝承法、血管吻合へのこだわり、周術期管理のピットホールから新規血管外科立ち上

げのご経験をふまえた思いなどなど、多くの演者に熱く語って頂きました。

シンポジウムや教育セッションでは、時代を反映して、ステントグラフト治療をはじめとしたIVRのさらなる可能性に期待を込めた議題が多く、その一方で明らかになりつつあったピットホールや、技術の修得、後進の育成、他科との連携などが多くの関心を集めておりました。

当時議論されていたいくつかの問題については解決の方向性が定まりつつあり、その一方で当時は考えてもいなかった新たな議論点が生まれていることに、改めて10年という歳月を実感いたします。しかし「血管を愛するひとたちの集まり」といった意味での本会の位置づけは何も変わっておらず、いえ、ますます重要性を増してきていると思います。時代を経て形を変えつつも「わいわいがやがやおしゃべりをしあう」ような愛すべきこの会がいつまでもいつまでも続いていきますように、祈念いたします。



第41回 会長



宮本 裕治 先生

(所属医局) 兵庫医科大学 心臓血管外科

第41回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2013年5月29日～31日

〈会場〉大阪国際会議場

〈主題〉急速な進化を続ける血管外科
—低侵襲と根治性の追求—

〈プログラム〉

■会長講演

血管外科と出会い、その進化に参加して思う
座長: 松田暉(神戸国際医療交流財団理事長)
演者: 宮本裕治(兵庫医科大学心臓血管外科)

■理事長講演

血管外科のアイデンティティをより確実なものにするために
座長: 重松宏(国際医療福祉大学臨床医学研究センター)
演者: 宮田哲郎(東京大学血管外科)

■特別講演 福祉は我家から

座長: 宮本裕治(兵庫医科大学) 演者: 西川きよし

■招請講演(1)

Endovascular Repaires of the Ascending Aorta and Arch: The Next Frontier
座長: 齋木佳克(東北大学)
演者: Eric Roselli(Thoracic and Cardiovascular Surgery, Cleveland Clinic, USA)

■招請講演(2)

A new mechanism by which an acute type B aortic dissection is primary complicated, becomes complicated, or remains uncomplicated
座長: 上田裕一(天理よろづ相談所病院)
演者: Martin Czerny(Inselspital, University Hospital Berne, Switzerland)

■招請講演(3)

Thoracic aorta - from maximal surgery to minimal surgery. All for the good?
座長: 井元清隆(横浜市立大学附属市民総合医療センター)
演者: Jan S. Brunkwall(Vascular and Endovascular Surgery, University of Cologne, Germany)

■招請講演(4)

The Role of Infringuinal Bypass Surgery in the Endovascular Era
座長: 古森公浩(名古屋大学)
演者: Raffaele Pulli(Department of Vascular Surgery, University of Florence, Italy)

■招請講演(5)

Physician Modified Endovascular Grafts for the Management of Asymptomatic, Symptomatic and Ruptured Juxtarenal Aortic Aneurysms
座長: 宮田哲郎(東京大学)
演者: Benjamin W. Starnes(Division of Vascular Surgery, University of Washington Harborview Medical Center, USA)

■招請講演(6)

Natural History of Descending Aortic Syndromes.
座長: 大北裕(神戸大学)
演者: Jean Bachet(Department of Cardiovascular Surgery, Zayed Military Hospital, UAE)

■教育講演(1) 国際的な指針をふまえた医学論文の書き方

座長: 前原正明(防衛医科大学校)
演者: 林健一(アラメディック株式会社, 東京大学大学院非常勤講師, 日本メディカルライター協会評議員)

■教育講演(2) 大動脈瘤および大動脈解離の病理

座長: 濱野公一(山口大学)
演者: 羽尾裕之(兵庫医科大学病院病理部)

■教育講演(3) 高齢化社会における医療を考える

座長: 坂田隆造(京都大学)
演者: 井上肇(厚生労働省大臣官房企画官(保険局医療課任))

■教育講演(4) Cell therapy for heart failure; Role of cardiovascular surgeons

座長: 天野純(信州大学)
演者: 鈴木憲(Translational Medicine and Therapeutics, William Harvey Research Institute, Queen Marry, University of London, UK)

■医療安全講習会 医療訴訟から見た医療安全

司会: 椎谷紀彦(浜松医科大学)
講師: 桑原博道(仁邦法律事務所 弁護士)

■国際シンポジウム(International Symposium)(1)

My Best Case or Worst Case (Vascular Surgery)
Chairpersons: Michael Horrocks(Royal United Hospital, UK)
Takao Ohki(Jikei University School of Medicine, Japan)
Speakers: 1. Raffaele Pulli 2. Kimihiro Komori
3. Benjamin W. Starnes

■国際シンポジウム(International Symposium)(2)

My Best Case or Worst Case (Aortic Surgery)
Chairpersons: Jean Bachet (Zayed Military Hospital, UAE)
Hitoshi Ogino(Tokyo Medical University, Japan)
Speakers: 1. Eric Roselli 2. Jan Brunkwall
3. Martin Czerny

■シンポジウム(1)

急性・慢性B型解離における治療戦略の進歩
—TEVARの位置づけ—
座長: 福田幾夫(弘前大学)
國吉幸男(琉球大学)

■シンポジウム(2)

EVARにおけるIFUの意義
—中期・遠隔期成績に何が影響するか—
座長: 下野高嗣(三重大学)
松田均(国立循環器病研究センター)

■シンポジウム(3)

重症虚血肢における治療戦略の進歩
—バイパス手術と血管内治療の使い分け、合併症へのアプローチ—
座長: 正木久男(川崎医科大学)
駒井宏好(関西医科大学滝井病院)

■シンポジウム(4)

ハイリスク症例における大動脈瘤手術
—ステントグラフト治療における適応の拡大と限界—
座長: 安達秀雄(自治医科大学附属さいたま医療センター)
倉谷徹(大阪大学)

■シンポジウム(5)

腸骨・大腿動脈領域におけるPAD治療の進歩
—TASCIIからTASCIIIへ—
座長: 宮田哲郎(東京大学)
小櫃由樹生(国際医療福祉大学三田病院)

■パネルディスカッション(1)

PADに対する集学的治療 —フットケアチームの意義—
座長: 太田敬(愛知医科大学)
半田宣弘(長良医療センター)

■パネルディスカッション(2)

EVARにおけるtypeIIエンドリークをどうするか
—術前・術後の対応法—
座長: 布川雅雄(杏林大学)
石橋宏之(愛知医科大学)

■パネルディスカッション(3)

下肢静脈瘤手術の最新線 —レーザー治療の位置づけ—
座長: 大木隆生(東京慈恵会医科大学)
孟真(横浜南共済病院)

■パネルディスカッション(4)

弓部・遠位弓部大動脈瘤に対する術式の選択
—TAR or TAR with ET(+TEVAR) or debranching TEVAR—
座長: 澤芳樹(大阪大学)
椎谷紀彦(浜松医科大学)

■ビデオシンポジウム(1)

胸腹部大動脈瘤手術における対麻痺予防対策
座長: 末田泰二郎(広島大学)
勝間田敬弘(大阪医科大学)

■ビデオシンポジウム(2)

下腿3分枝以下への動脈再建の工夫
座長: 東信良(旭川医科大学)
渋谷卓(関西医科大学附属枚方病院)

■ビデオシンポジウム(3)

shaggy aorta 症例の弓部手術における脳合併症予防対策
座長: 宮本伸二(大分大学)
志水秀行(慶應義塾大学)

■ビデオシンポジウム(4)

急性A型大動脈解離における断端形成および大動脈基部再建法
座長: 種本和雄(川崎医科大学)
湊谷謙司(国立循環器病研究センター)

第41回学術総会の思い出

第41回会長 宮本裕治 (大手前病院 病院長)

第41回が大阪国際会議場で開催された平成25年頃は、低侵襲治療(血管内治療)が急速に普及しているときでした。具体的には弓部大動脈瘤に対するゴールドスタンダードの治療が、全弓部大動脈人工血管置換術からステントグラフトを使用する治療へ変化していく途中でした。末梢血管外科においても血管内治療が多くなっており、それに相応しいテーマとして「急速な進化を続ける血管外科—低侵襲と根治性の追求—」としました。会長講演においても、主要な4つの英文雑誌の過去15年分の全ての論文を医局員で手分けして調べ、血管内治療に関する論文数の増加傾向を発表しました。プログラムでの特徴としては、7人の海外から招待した外科医を含めた2つの国際シンポジウムにおいて、大

きなテーマに関して発表する形式ではなく、興味ある症例発表として症例に関する討論を行ったことです。厳密にいうとシンポジウムではありませんが、この方がおもしろいと考えました。

せっかく主宰させていただいたので、「記憶に残る学会」にすることを目標にしていました。そこで学術集会の内容ではないのですが、学会後、何年経っても多くの先生方の記憶に残り褒めていただくことが二つあります。一つは、特別講演を大阪らしい漫才師の”西川きよし”氏にお願いしたことで、もう一つは、懇親会の余興で宝塚歌劇団のレビューとアイドルグループのショーを行ったことです。特に、宝塚歌劇を退団した多くの女性たちによる華やかなレビューは好評でした。記録として学会プログラムには残りませんが、皆様の記憶には残っています。現在、コロナ禍でWEB開催が中心となり、記憶に残る学会の開催が難しくなってしまう寂しく思っています。



第41回日本血管外科学会学術総会 学会裏話

兵庫医科大学心臓血管外科
日本血管外科学会評議員・国際委員会委員
第41回日本血管外科学会総会中2階の会幹事 山村光弘

兵庫医科大学宮本裕治教授は、2013年(平成25年)5月29日(水)から31日(金)に第41回日本血管外科学会学術総会を大阪中之島で開催されました。兵庫医科大学旧胸部外科開設以来、日本血管外科学会総会開催は初めてのことでとても名誉なことでした。今回日本血管外科学会50周年記念事業記念誌発行によせて、会長の宮本裕治教授がご寄稿されているので、下記学会裏話は今後の運営参考にしてもらえば幸いです。

1) 3年後先生のところの宮本教授、会長されるからよろしくね!

2010年(平成22年)10月第51回日本脈管学会(旭川)評議員会で自治医科大学安達秀雄教授から、宮本教授よりも先にこう教えてもらいました。日本脈管学会総会で毎秋日本血管外科学会臨時理事会あり、日本血管外科学会次々期会長が内定されるからです。その年2010年(平成22年)5月に安達秀雄教授は第38回日本血管外科学会総会を大宮で主催されたので、早速学会裏話を教えてもらっていました。

評議員懇親会や会員懇親会は欧米では博物館が最高レベルだそうだが、どこかな?兵庫県と言えば甲子園、貸し切るかな?岩崎宏美さんのようなサプライズ、心当たりないな…いや宮本教授早速相談しなくては!でもご本人より先に山村から聞いたらまずいかな?

ご存知の通り、大阪中之島リーガルホテル横の大阪国際会議場開催で西川きよし氏に特別講演していただき、宝塚歌劇団OGの方に花添えてもらいました。



2) 第41回は41thではなく41stです…

最初にすることはポスター作成でした。テーマ・開催日程・場所決定するのは会長専権事項です。第41回日本血管外科学会学術総会 The 41st Annual Meeting of Japanese Society for Vascular SurgeryのところがThe 41th Annual Meeting of Japanese Society for Vascular Surgeryで判明したので、やりなおしがききました。でも日程は米国血管外科学会総会と時差の関係で一部重なることが判明したけれど、もうやり直せず…2016年(平成28年)米国血管外科学会日本支部設立なので、(当時日本在住の米国血管外科学会会員は7人未満だったので)参加人数は少ないだろうとはいえ、名古屋大学古森教授をはじめ参加予定されていた先生に

は大変ご迷惑かけました。山村こればかりは頭上がりません…。

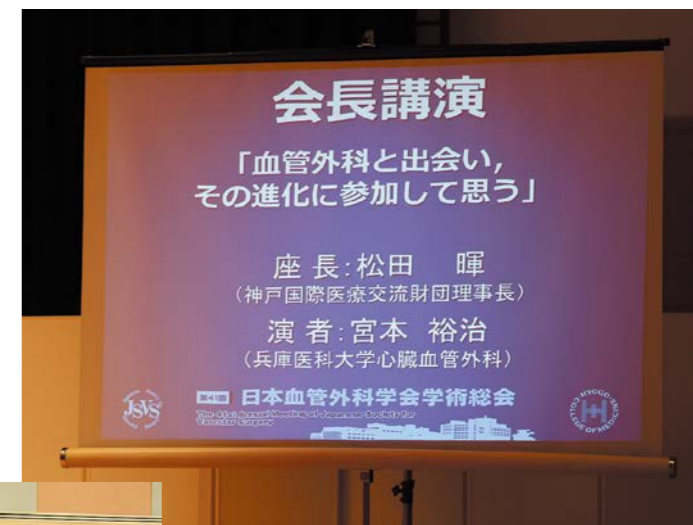
現在学会運営上、日本血管外科学会中のInternational Symposiumが米国血管外科学会の日本支部総会に相当するようになり、米国血管外科学会会長が特別講演に招待されるようになっております。

3) もう背広前ボタン止まりません…

学会準備プログラム作成には当科光野准教授が総会幹事となって、ご尽力されました。学会は一旦はじまればあとは時間通り粛々とすすむのみ。昭和卒業の中堅血管外科医が評議員懇親会終了後2次会で集まる中2階の会で、歴代総会幹事の先生からこう教えてもらいました。学会理事長に就任され

た東京大学宮田哲郎教授から、今回学会ポスターdistal bypassの写真なかったのかな?と阪急インターナショナル最上階での2013年(平成25年)中2階の会でお叱り受けましたが、神戸ワインで許してもらいました。

でも中2階の会幹事でわかるように、そろそろお腹が出てきて山村もう背広前ボタン止まりません。学会中宮本教授からあまりにもリラックスしすぎとお叱り受けたので、以後学会中背広は前ボタン止めなくていいしお腹もベストで隠れる中3つぞろえを着るよう決めております。



第42回 会長



福田 幾夫 先生

〈所属局〉弘前大学大学院医学研究科
胸部心臓血管外科学講座

第42回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2014年5月21日～23日

〈会場〉リンクステーションホール青森
ホテル青森

〈主題〉ともに歩む血管外科
(Partnership in vascular surgery)
—情熱、経験、エビデンス—

〈プログラム〉

■会長講演

アテローム塞栓症をめぐる諸問題
脳合併症減少にかけた情熱、経験、出会いそしてエビデンス
座長：前田肇(高松医療センター)
演者：福田幾夫(弘前大学胸部心臓血管外科学)

■理事長講演

血管外科の更なる飛躍に向けて
座長：重松宏
(国際医療福祉大学/山王メディカルセンター)
演者：宮田哲郎
(国際医療福祉大学/山王メディカルセンター)

■教育講演1

EVARエンドリークに対する血管内治療(総説とテクニック)
座長：布川雅雄(杏林大学医学部付属病院)
演者：本郷哲夫(大分大学医学部 放射線医学講座)

■教育講演2

血管外科における腸管虚血の診断と対策
座長：貞弘光章(山形大学)
演者：1)近藤慎浩(弘前大学 胸部心臓血管外科)
2)井上芳徳(東京医科歯科大学 外科・血管外科)

■教育講演3

バイオエンジニアと血管外科医の
真のコラボレーションの進め方
座長：山本文雄(秋田大学)
演者：梅津光生(早稲田大学先端生命医学センター
(TWIns:ツイズ))

■教育講演4

「心臓血管外科医のための血管超音波検査」～コツと実際～
座長：松尾汎(医療法人松尾クリニック)
演者：三木俊(東北大学病院生理検査センター
診療技術部生理検査部門)

■国際シンポジウム

TEVAR in the world, TEVAR in Japan
Chairpersons: Shin Ishimaru
(Toda Central General Hospital)
Ikuro Fukuda (Hiroshima University)

Speakers:

- 1) Karl-Heinz Orend (Department of Vascular Surgery, Ulm University, Germany)
- 2) Benjamin M. Jackson (Division of Vascular Surgery, Hospital of the University of Pennsylvania, USA)
- 3) Chun-Che Shih (Chief, Division of Cardiovascular Surgery, Taipei Veterans General Hospital, Taipei, Taiwan)
- 4) Yoshihiko Kurimoto (Cardiovascular Surgery, Teine Keijinkai Hospital, Japan)
- 5) Takao Ohki (Department of Surgery, Jikei University School of Medicine, Japan)

■シンポジウム1

急性大動脈解離における臓器灌流障害：
発生機序と病態から対策を考える
座長：齋木佳克(東北大学)
坂田隆造(京都大学)
基調講演：渡橋和政(高知大学心臓血管外科)

■シンポジウム2

重症虚血肢に対する治療選択：バイパス手術, EVT, hybrid
基調講演座長：太田敬(大雄会第一病院)
座長：東信良(旭川医科大学)
正木久男(川崎医科大学)
基調講演：Werner Lang (Department of Vascular Surgery, University Hospital Erlangen, Germany)

■シンポジウム3

弓部大動脈を含む広範囲胸部大動脈瘤の手術戦略
座長：大北裕(神戸大学)
國吉幸男(琉球大学)

■シンポジウム4

急性・慢性肺塞栓症に対する治療(血栓除去、
カテーテル治療、PCPS、内膜摘除、PTA、薬物療法)
基調講演座長：種本和雄(川崎医科大学)
座長：安藤太三(総合大雄会病院)
松宮護郎(千葉大学)
基調講演：Michael M. Madani (Division of Cardiothoracic Surgery, University of California, San Diego Medical Center, USA)

■パネルディスカッション1

血管内治療時代の血管外科医養成プログラム
基調講演座長：安達秀雄
(自治医科大学附属さいたま医療センター)
座長：宮田哲郎
(国際医療福祉大学/山王メディカルセンター)
天野純(信州大学)
基調講演：Karl-Heinz Orend (Department of Vascular Surgery, Ulm University, Germany)

■パネルディスカッション2

傍腎動脈腹部大動脈瘤の治療：open surgery vs EVAR
座長：井上芳徳(東京医科歯科大学)
小櫃由樹生(国際医療福祉大学三田病院)

■パネルディスカッション3

末梢解離腔の運命から見た急性DeBakey I型解離の
手術術式：弓部置換同時施行の是非
座長：井元清隆(横浜市立大学附属
市民総合医療センター)
末田泰二郎(広島大学)

■パネルディスカッション4

自己弁温存大動脈基部再建術の適応と遠隔成績
座長：荻野均(東京医科大学)
小野聡(東京大学)
特別発言：川副浩平(関西医科大学附属
滝井病院心臓血管病センター)

■パネルディスカッション5

虚血性心疾患を合併した重症虚血肢の治療戦略：血管外科医、
麻酔科医、心臓外科医、循環器内科医の立場から
座長：古森公浩(名古屋大学)
横井宏佳(福岡山王病院)

■ビデオシンポジウム1

鎖骨下動脈起始異常、椎骨動脈起始異常、頸動脈病変を
合併する弓部大動脈瘤の手術
座長：明石英俊(久留米大学)
佐賀俊彦(近畿大学)

■ビデオシンポジウム2

足関節レベルへのバイパス術のこつと落とし穴
座長：三井信介(製鉄記念八幡病院)
佐藤紀(埼玉医科大学総合医療センター)
特別発言：笹嶋唯博(江戸川病院血管病センター)

■ビデオシンポジウム3

EVAR, TEVARのトラブルシューティングと遠隔期再手術
座長：宮本裕治(兵庫医科大学)
横山幸(福島県立医科大学)

第42回日本血管外科学会学術総会

第42回会長 福田幾夫

第42回日本血管外科学会学術総会は、弘前大学大学院医学研究科 胸部心臓血管外科学講座福田幾夫教授を会長として、平成26(2014)年5月21日(水)から23日(金)の3日間、会場を青森市のリンクステーションホール青森(青森市文化会館)と隣接するホテル青森を会場として行われた。

学術集会初日の5月21日には「血管外科におけるcontroversy」として、弓部大動脈瘤に対するopen stent graftや破裂腹部大動脈瘤に対するEVARなど話題となっている新しい技術・術式に対するdebateが行われ、大変好評であった。学術集会では、848題の公募演題数と教育講演4題、セミナー25、シンポジウム6セッション、パネルディスカッション5セッションの発表、討議が行われ、1488名と多数の方に参加していただいた。海外からは10名の著名な血管外科医をお招きし、国際シンポジウムを行ったほか、シンポジウム、パネルディスカッションでの基調講演を担当していただくとともに、討議に参加していただいた。これにより充実した討議を行うことができた。

本学術総会では、テーマを「ともに歩む血管外科 (Partnership in vascular surgery); 情熱、経験、エビデンス」として、高齢化社会を迎えて、患者さんを中心に様々な診療科、医療職が協力して侵襲の少ない治療を提供する必要性をともに考えたいとの思いでプログラムを工夫した。勃興する血管内治療に血管外科医が目を向けてその技術を取り入れてゆくよう、循環器内科医、放射線科医にも講演をお願いした。さらに低侵襲検査として血管超音波検査についても検査技師に講演をお願いした。また、血管外科において医工連携を進めることも重要で、早稲田大学先端生命医学センターの梅津光生に教育講演をお願いし、大変好評であった。学会を盛

り上げるために協賛していただいた企業は98社であった。

学術総会中に、日本血管外科学会として禁煙宣言を採択し、禁煙推進活動を開始し、24日には禁煙に関する市民公開講座を行なった。

学会中は天候にも恵まれ、全員懇親会は青森港のA-factoryと青函連絡船八甲田号記念館で行い、青森名産の八甲田牛の丸焼き、大間のマグロ、釣りたてホタテなど地元の美味しい食事を味わっていただくとともに、スコップ三味線、ねぶたなどを楽しんでいただけた。ちょうど5月の新緑の輝く季節で、時間の余裕があるみなさまには奥入瀬、残雪の八甲田などにも足を伸ばして青森を堪能していただけたようであった。



第42回 日本血管外科学会学術総会

■ 第3会場

第1日 平成26年5月22日(木)

国際シンポジウム
(international symposium)

TEVAR in the world, TEVAR in japan

2

Benjamin M. Jackson

(Division of Vascular Surgery, Hospital of the University of Pennsylvania, USA)



第42回 日本血管外科学会学術総会

■ 第2会場

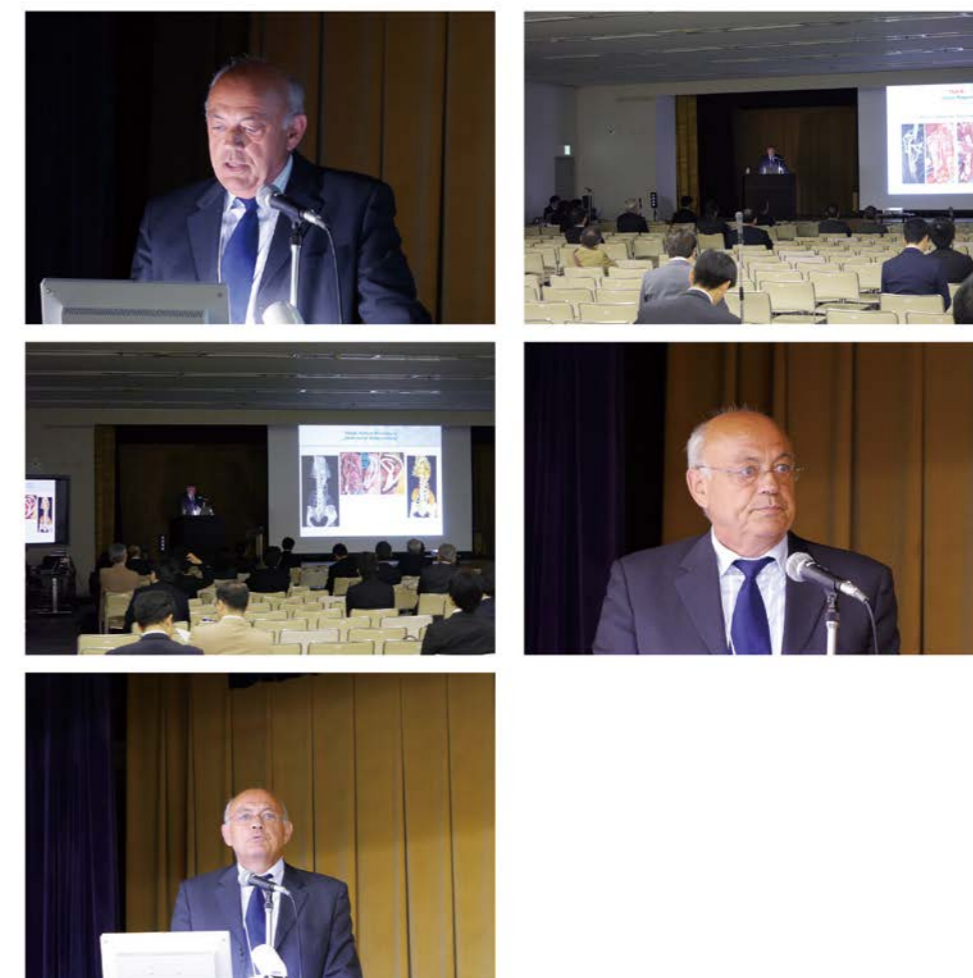
第1日 平成26年5月22日(木)

パネルディスカッション(1)
基調講演

What is the Role for Open Aortic Repair
in the Endovascular Era?

Karl-Heinz Orend

(Department of Vascular Surgery, Ulm University, Germany)



第42回 日本血管外科学会学術総会

■ 第2会場

第1日 平成26年5月22日(木)

シンポジウム(2)
基調講演

Strangy of treatment for critical limb ischemia:
bypass operation, endovascular therapy or hybrid therapy?

Werner Lang

(Department of Vascular Surgery, University Hospital Erlangen, Germany)



第43回 会長



井元 清隆 先生

(所属医局) 横浜市立大学附属
市民総合医療センター・心臓血管センター

第43回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2015年6月3日～5日

〈会場〉パシフィコ横浜

〈主題〉血管外科と血管外科医の未来
The future of vascular surgery
and vasucular surgeons

〈プログラム〉

■会長講演

グレートジャーニー「大動脈解離治療の旅」
座長:近藤治郎(横浜市立大学附属市民総合医療センター)
演者:井元清隆(横浜市立大学附属市民総合医療センター・心臓血管センター)

■理事長講演

座長:重松宏(国際医療福祉大学 臨床医学研究センター
/山王メディカルセンター)
演者:宮田哲郎(山王メディカルセンター 血管病センター)

■SVS会長講演

Learning Open Vascular Surgery- Does Practice
Make Perfect?
座長:宮田哲郎(山王メディカルセンター 血管病センター)
演者:Peter F. Lawrence(President of Society of
Vascular Surgery (SVS), Division
of Vascular and Endovascular
Surgery, UCLA Gonda Vascular Center)

■ASVS会長講演

Complex Arterial Bypass In Diabetic Patients
with PAOD
座長:益田宗孝(横浜市立大学 外科治療学)
演者:Pramook Mutirangura(Vascular Surgery
Division, Department of Surgery,
Faculty of Medicine Siriraj Hospital
Mahidol University, Bangkok, Thailand.)

■特別講演

グレートジャーニー「地球を歩いてみたこと、考えたこと」
座長:益田宗孝(横浜市立大学 外科治療学)
演者:関野吉晴(武蔵野美術大学 文化人類学)

■招請講演

Part1: Overview of the Society for Vascular Surgery
practice guidelines for atherosclerotic
occlusive disease of the lower extremities:
Management of asymptomatic disease and
claudication

Part2: Review of Novel Uses for Bare Metal, Drug
Eluting and Covered Stents in the Treatment
of PAD: therapeutic approaches extending
beyond the guidelines
座長:古森公浩(名古屋大学大学院医学系研究科
血管外科学)
演者: Joseph L. Mills (Division of Vascular Surgery
and Endovascular Surgery, Baylor
STEP Limb Salvage Alliance,
Baylor College of Medicine)

■教育講演(1)

血管外科医のための臨床統計学
座長:貞弘光章(山形大学医学部 外科学第二講座)
演者:森田智視(京都大学大学院医学研究科
医学統計生物情報学)

■教育講演(2)

iPS細胞研究の展開
座長:上田裕一(奈良県総合医療センター)
演者:青井貴之(神戸大学大学院医学研究科
内科系講座 iPS細胞応用医学分野)

■教育講演(3)

iPS細胞による血管病治療の現況と未来
座長:安達秀雄(自治医科大学附属
さいたま医療センター 心臓血管外科)
演者:山下潤(京都大学iPS細胞研究所
増殖分化機構研究部門)

■国際シンポジウム

これからのB型急性大動脈解離の治療
-INSTEAD trial 5年の結果をふまえて-
Future therapy for acute type B aortic dissection
- New directions based on the 5-year long-
term results of the INSTEAD trial
座長: Christoph A. Nienaber (Department of
Cardiology, Royal Brompton and
Harefield NHS Foundation Trust, UK)
倉谷徹(大阪大学大学院医学系研究科
低侵襲循環器医療学)

■シンポジウム(1)

A型急性大動脈解離救命率向上のための戦略
座長:上田敏彦(東海大学 心臓血管外科)
明石英俊(久留米大学 外科)

■シンポジウム(2)

EVARにより腹部大動脈瘤全体の治療成績は向上したか
座長:吉川公彦(奈良県立医科大学 放射線医学教室)
大木隆生(東京慈恵会医科大学 外科学講座)

■シンポジウム(3)

静脈血栓塞栓症治療の新展開
座長:荻野均(東京医科大学病院 心臓血管外科)
福田幾夫(弘前大学 胸部心臓血管外科学)

■シンポジウム(4)

重症下肢虚血の評価法と治療適応 -Wifi分類を含めて-
座長:寺師浩人(神戸大学 形成外科)
東信良(旭川医科大学 外科学講座 血管外科学分野)

■シンポジウム(5)

閉塞性動脈硬化症に対する遠位バイパス手術の中・長期成績
座長:三井信介(済生会八幡総合病院)
佐藤紀(埼玉医科大学総合医療センター 血管外科)

■シンポジウム(6)

一次性下肢静脈瘤の治療法と血管内焼灼術の位置づけ
座長:小川智弘(福島第一病院 心臓血管病センター)
岩井武尚(慶友会つくば血管センター)

■パネルディスカッション(1)

弓部大動脈に対するTEVAR
座長:宮本裕治(兵庫医科大学 心臓血管外科)
石丸新(戸田中央総合病院 血管内治療センター)

■パネルディスカッション(2)

破裂性腹部大動脈瘤治療の未来
座長:西巻博(聖マリアンナ医科大学 心臓血管外科)
種本和雄(川崎医科大学 心臓血管外科)

■ビデオシンポジウム(1)

ここまでできるPAD治療 -Open surgery・EVT-
座長:笹嶋唯博(社仁生社江戸川病院 血管病センター)
井上芳徳(東京医科歯科大学 血管外科)

■ビデオシンポジウム(2)

Open stentの適応と問題点
座長:加藤雅明(森之宮病院 心臓血管外科)
末田泰二郎(広島大学大学院
医歯薬保健学研究院・外科学)

■ビデオシンポジウム(3)

胸腹部大動脈瘤に対する治療
座長:椎谷紀彦(浜松医科大学 外科学第一講座)
國吉幸男(琉球大学大学院
胸部心臓血管外科学講座)

■ビデオシンポジウム(4)

ReimplantationとRemodeling
座長:高本真一(三井記念病院)
大北裕(神戸大学大学院
医学研究科外科学講座心臓血管外科学)

■ビデオシンポジウム(5)

Vascular access困難症例での血管外科技術
 座長:笹川成 (医療法人社団善仁会 横浜第一病院
 バスキュラーアクセスセンター)
 正木久男 (川崎医科大学 心臓血管外科)

■教育セッション(1)

外科医のためのEVTテクニック EVTの基礎
 座長:山岡輝年 (松山赤十字病院 血管外科)
 孟真 (横浜南共済病院 心臓血管外科)

■教育セッション(2)

外科医のためのEVTテクニック EVTの応用と実践
 座長:岡村高雄 (岡村病院 心臓血管外科)
 小櫃由樹生 (国際医療福祉大学三田病院 血管外科)

■教育セッション(3)

外科医のためのEVTテクニック 血管外科医によるEVTの実際
 座長:布川雅雄 (杏林大学 心臓血管外科)
 小櫃由樹生 (国際医療福祉大学三田病院 血管外科)

■教育セッション(4)

すぐに役立つ静脈・リンパ疾患の基礎
 一圧治療法、抗凝固療法から血管内焼灼術まで
 座長:富永隆治 (社会医療法人財団池友会 福岡和白病院)

第43回日本血管外科学会学術総会 をふりかえって

第43回会長 井元清隆

2015年6月3日より5日までパシフィコ横浜で第43回日本血管外科学会学術総会を開催させていただきました。開催の目的を

①急速に進歩しつつある血管内治療の治療適応が治療成績を検討することによりが薬物治療、観血的手術と適切に組み合わせられ進歩していく方向性を示す。

②治療法が大きく変化する中において血管外科医のすすむべき方向を示す。

③大血管外科等の本邦の治療成績は世界のトップレベルであり、世界のリーダーとして、この分野の未来への方向性を示す。

として学術集会のテーマを“血管外科と血管外科医の未来”とさせていただきます。米国血管外科会長、アジア血管外科学会会長をはじめ米国、ヨーロッパ、アジアから合計14人の世界の血管外科のリーダーと会員をはじめ2400人の方々にご参加いただき、質の高いディスカッションが行われ、ある程度これらの目的が達成されたのではと思っております。

特別講演では横浜市立大学医学部出身で外科医でもあり、著名な探検家の関野吉晴先生に「グレートジャーニー、地球を歩いてみたこと、考えたこと」のご講演をいただきました。学生時代からアマゾンの奥地で原住民と生活されたお話などを伺い、あらためて自身が地球上の人類のうちの一人であることを認識させられました。ちなみに横浜市立大学での寄生虫学実習時のマラリアの標本は関野先生からのものだそうです。

実はもうひとつ特別講演を企画しておりました。学会開催が決まった後、高野山に行く機会があり金剛峯寺で偶然ダライラマ法王に遭遇しました。高野山は世界遺産に指定されたこともありたくさんの外国人が訪れていましたが、法王がにこやかに手を振ると感激のあまり泣き出す女性もいました。私もそ



の慈悲にあふれたオーラに少なからず衝撃を受けました。帰浜後ただちに西新宿のダライラマ法王日本事務所を訪れました。ダライラマ法王は過去に科

学者との対談を何度か行っていました。医療者との対談、講演はなく、講演依頼すると直接インドのダラムサラに手紙を書くようにとのことでした。しばらくして返事があり、学会の2か月前の4月なら来日可能とでした。学会期日の変更は無理なので同窓会を通じて日本医師会横倉会長にお話ししたところ、講演会、対談を主催していただけることとなり、私も対談に参加させていただくことになりました。この対談でのダライラマ法王から日本の医療者へのメッセージの抜粋を会長講演で紹介させていただきました。

学会では横浜らしさを感じていただこうと思い、休憩時間に柳原良平先生の港のイラストをコマ送りでさせていただきました。柳原良平先生は古くはサントリーの“アंकルトリス”のイラストで有名ですが、船が大好きで横浜の港の絵を描き続けていたそうです。横浜の“みなとみらい”という地名も柳原先生の強い推薦で決まったそうです。



梅雨の時期でしたが幸いさほど雨にも降られず多くの方々に横浜を堪能していただけたのではと安堵いたしました。

第43回日本血管外科学会学術総会

横浜市立大学附属市民総合医療センター
心臓血管センター外科 内田敬二

2015年6月、第43回日本血管外科学会学術総会を「血管外科と血管外科医の未来」というテーマのもと、井元清隆会長がパシフィコ横浜で開催されました。シンポジウム、パネルディスカッションにおいて、海外招請演者14名に各分野での基調講演をお願いし、討論にも加わっていただくスタイルを導入し、好評でした。第9回日韓血管外科合同会議の同時開催、SVS Japan chapter発足にともなうPeter F. Lawrence SVS会長の記念講演もあり、国際色豊かな学会となりました。特別講演は武蔵野美術大学文化人類学の関野吉晴先生「グレートジャーニー地球を歩いてみたこと、考えたこと」、会長講演は「グレートジャーニー大動脈解離治療の旅」でした。井元会長はライフワークである急性大動脈解離治療の進歩について語り、ダライラマ法王の言葉「外科医は精密マシンのようにひたすら病気を治療しているだけではだめ 常に患者さんを思いやる心をもって臨むことで患者さんの回復も早くなる」が印象的でした。全員懇親会では多くの先生にサンバの踊りに参加していただき、横浜みなどみらいの夜は熱く盛り上がりしました。



第44回 会長



佐藤 紀 先生

〈所属医局〉 埼玉医科大学総合医療センター
血管外科

第44回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉 2016年5月25日～27日

〈会場〉 ホテルグランパシフィック
LE DAIBA

〈主題〉 変容する病態、進歩する治療

〈プログラム〉

■会長講演

糖尿病の時代における閉塞性動脈硬化症治療
—変化する病態と新たな治療法の模索—
座長: 多田祐輔 (山梨大学名誉教授)
演者: 佐藤紀 (埼玉医科大学総合医療センター 血管外科)

■理事長講演

血管外科学会の更なる発展に向けて
座長: 重松宏 (国際医療福祉大学 臨床医学研究センター
山王メディカルセンター 血管外科)
演者: 宮田哲郎 (日本血管外科学会 理事長
山王メディカルセンター 血管病センター)

■特別講演1

地域にスポーツがあること 豊かなスポーツ文化を目指して
座長: 出口順夫
(埼玉医科大学総合医療センター血管外科)
演者: 村井満
(公益社団法人日本プロサッカーリーグ チェアマン
公益財団法人日本サッカー協会 副会長
公益財団法人日本プロスポーツ協会 理事)

■特別講演2

医の倫理とその実践 ～何が問題なのでしょう—
座長: 大内博 (医療法人財団あおば会 前理事長
東日本旅客鉄道株式会社 元仙台病院長)
演者: 森岡恭彦 (東京大学名誉教授
日本赤十字社医療センター名誉院長
日本医師会参与)

■The Lecture by the President of the Society for Vascular Surgery

Low frequency Vascular Diseases: They are more frequent and important than you thought!
座長: 佐藤紀 (埼玉医科大学総合医療センター 血管外科)
演者: Peter F. Lawrence
(Division of Vascular Surgery,
University of California, Los Angeles)

■教育講演1

Treatment of Chronic Limb-Threatening Ischemia:
Current State, Future Directions
座長: 宮田哲郎 (山王病院・山王メディカルセンター)
演者: Michael S. Conte (University of California,
San Francisco)

■教育講演2

血管外科医が知っておくべき医療統計学の基礎と応用
座長: 小野稔 (東京大学大学院医学系研究科 心臓外科)
演者: 赤澤宏平 (新潟大学医歯学総合病院 医療情報部)

■シンポジウム1

血行再建非適応症例からみたPAD
座長: 正木久男 (川崎医科大学 心臓血管外科)
井上芳徳 (東京医科歯科大学
総合外科学分野 (血管外科))

■シンポジウム2

費用対効果からみた治療法選択の指標
—TEVAR vs OS, EVAR vs OS, EVT vs distal Bypass—
座長: 前田英明 (日本大学 心臓血管外科)
末田泰二郎 (広島大学 心臓血管外科)

■シンポジウム3

血管外科とfrailty—胸部・腹部・末梢動脈
座長: 種本和雄 (川崎医科大学 心臓血管外科学)
齋木佳克 (東北大学 心臓血管外科)

■シンポジウム4

Complicated B型大動脈解離に対する治療戦略
—治療の標準化にむけて—
座長: 福田幾夫 (弘前大学大学院医学研究科
胸部心臓血管外科)
横山斉 (福島県立医科大学 心臓血管外科学講座)

■シンポジウム5

長期成績からみた適正な腹部大動脈瘤治療
—EVAR vs OS, 遠隔期合併症や追加治療を中心に—
座長: 宮本伸二 (大分大学 心臓血管外科)
福井大祐 (信州大学 心臓血管外科)

■シンポジウム6

下肢静脈瘤に対する各種治療法の変遷と現在の適応
座長: 孟真 (横浜南共済病院 心臓血管外科)
小川智弘 (福島第一病院 心臓血管外科)

■パネルディスカッション1

破裂性腹部大動脈瘤に対する治療
座長: 古森公浩 (名古屋大学大学院 血管外科)
島袋勝也 (岐阜大学附属病院 高度先進外科)

■パネルディスカッション2

弓部大動脈瘤に対する手術適応と分枝再建
座長: 宮本裕二 (兵庫医科大学 心臓血管外科)
國吉幸男 (琉球大学大学院 胸部心臓血管外科)

■パネルディスカッション3

糖尿病性透析患者に対する下肢動脈血行再建の基本戦略
座長: 東信良 (旭川医科大学外科学講座 血管外科学分野)
三井信介 (済生会八幡総合病院)

■パネルディスカッション4

急性A型大動脈解離における基部再建法
—大動脈弁逆流の予後・遠隔成績との関係について—
座長: 椎谷紀彦 (浜松医科大学 第一外科)
井元清隆 (横浜市立大学附属市民総合医療センター
心臓血管センター)

■パネルディスカッション5

バスキュラーナースの現況と今後の展望
座長: 駒井宏好 (関西医科大学総合医療センター
血管外科)
溝部昌子 (国際医療福祉大学 福岡看護学部)

■ビデオセッション1

Open stent (frozen elephant trunk) のコツと手術成績
—いかにして合併症を防ぐか—
座長: 貞弘光章 (山形大学医学部外科学第二講座)
小櫃由樹生 (国際医療福祉大学三田病院血管外科)

■ビデオセッション2

EVT治療のTechnical remarks
座長: 大木隆生 (東京慈恵会医科大学外科学講座血管外科)
布川雅雄 (杏林大学心臓血管外科)

■ビデオセッション3

ステントグラフト術後、
瘤拡大例 (破裂例を含む) に対する治療戦略
座長: 宮入剛 (聖マリアンナ医科大学心臓血管外科)
石橋宏之 (愛知医科大学血管外科)

■ビデオセッション4

胸腹部大動脈瘤 —TEVAR, OS, Hybrid治療—
座長: 安達秀雄 (自治医科大学附属
さいたま医療センター心臓血管外科)
大北裕 (神戸大学大学院医学研究科
外科学講座心臓血管外科学)

■ビデオセッション5

合併症を回避するために 一私の秘策
座長: 志水秀行 (慶應義塾大学医学部心臓血管外科)
明石英俊 (久留米大学外科学講座心臓血管外科)

■International Session by Japan Chapter of the Society for Vascular Surgery

•Session 1 Oral Presentation
座長: 進藤俊哉 (東京医科大学八王子医療センター
心臓血管外科)
勝間田敬弘 (大阪医科大学 胸部外科)
•Session 2 Special Lecture
座長: 孟真 (横浜南共済病院 心臓血管外科)
Peter F. Lawrence (Division of Vascular
Surgery, University of
California, Los Angeles)

第44回日本血管外科学会学術総会

第44回会長 佐藤紀

私どもの教室は、「変容する病態、進歩する治療」をテーマとし、2016年5月25日から3日間、第44回日本血管外科学会学術総会をお世話させていただきました。私どもの病院の近隣には予定会場数を収容する事のできる施設がございませんでしたので、東京都港区台場のホテルグランパシフィック LE DAIBAを会場に選びました。このホテルは同年の7月にグランドニッコー東京と名称が替わり、一方、ゆりかもめを挟んで対面に立っていたホテル日航東京はヒルトン東京お台場と名称変更になっているので、紛らわしいことです。会場はいかにも都会風で、普段は田圃に囲まれた病院に勤務していた私などは少々気おくれいたしました。

この学術集会では二つほど、当時としては新しい試みを行ってみました。まず、学会誌の電子化に伴い、従来の様な冊子体による抄録集の発行を取りやめ、ネット経由の電子抄録集としたことであります。これに伴い、タブレットやスマートフォン向けの抄録検索アプリを開発し、会場内には無料のWi-Fi環境を構築いたしました。もう一つの試みは、一会場のみではありましたが、ツイッターの導入です。学会場のディスカッションでは時間の制約のため、一題の演題につき二、三人のご質問を頂くのが精一杯ですが、同年のシカゴのSVSでも導入されていたツイッターにより、講演の途中でもお聞きになっている先生方が考えたことをすぐに投稿していただき、これらの中から座長の先生に適当なものを取捨し取り上げてもらえるのではないかと考えました。

関連集会として、CVIT合同セッション、International session、第1回血管看護研究会が開催されました。また、特別講演は今をときめくJリーグチェアマンの村井満氏にお願いし、興味深いお話が聞けたと思

います。

会場が都心からやや離れていることもあり、多少懸念をしておりましたが、参加者数も2000人を超え、企画も概ね好評をいただいたことは、私どもの喜びであります。血管外科のアイデンティティが更に広く知られるようになり、本学会が一層発展していくことを願うとともに、コロナ禍が去り、皆様と又顔を合わせて語り合うことが1日も早く訪れることを祈っております。また末筆ながら、企画構成にご協力いただいた先生方、学術集会にご参加いただいた皆様にお礼を申し上げます。



第45回 会長



末田 泰二郎 先生

(所属医局) 広島大学大学院医系科学研究科外科学

第45回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2017年4月19日～21日

〈会場〉広島国際会議場
ANAクラウンプラザホテル広島

〈主題〉進化するデバイス、深化する技術

〈プログラム〉

■会長講演

私の血管外科史
(My personal history as a vascular surgeon)
演者: 末田泰二郎 (広島大学大学院
医系科学研究科外科学)
座長: 松浦雄一郎 (公立みつき総合病院)

■理事長講演

日本の血管外科の進化と深化
演者: 宮田哲郎 (山王病院・
山王メディカルセンター 血管病センター)
座長: 重松宏 (国際医療福祉大学 臨床医学研究センター
/山王メディカルセンター 血管外科)

■特別講演

進化するプロ野球
演者: 山本浩二 (一般社団法人日本プロ野球名球会理事長
/野球解説者)
座長: 末田泰二郎 (広島大学大学院
医系科学研究科外科学)

■International Symposium

Future of PAD therapy
座長: Ali AbuRahma (Vascular & Endovascular
Surgery, West Virginia University)
Tetsuro Miyata (Sanno Hospital and Sanno
Medical Center, Vascular Center)
Shenming Wang (Professor of Surgery,
Sun Yat-sen University)

■シンポジウム1

慢性B型大動脈解離に対する治療戦略
座長: 國吉幸男 (琉球大学大学院 胸部心臓血管外科学)
湊谷謙司 (京都大学 心臓血管外科)

■シンポジウム2

バスキュラーアクセス困難症例の工夫
座長: 佐藤紀 (埼玉医科大学総合医療センター 血管外科)
重松邦広 (国際医療福祉大学三田病院 血管外科)

■シンポジウム3

EVAR後の遠隔期諸問題
座長: 古森公浩 (名古屋大学大学院 血管外科)
石橋宏之 (愛知医科大学 血管外科)

■シンポジウム4

超高齢化社会におけるPADの治療戦略
座長: 東信良 (旭川医科大学 外科学講座血管外科学分野)
大木隆生 (東京慈恵会医科大学 血管外科)

■シンポジウム5

下肢静脈瘤治療法の総てとその適応
座長: 春田直樹 (たかの橋中央病院 血管外科)
広川雅之 (お茶の水血管外科クリニック)

■シンポジウム6

MalperfusionをとまなうA型解離の手術戦略
座長: 荻野均 (東京医科大学 心臓血管外科)
椎谷紀彦 (浜松医科大学 第一外科)

■シンポジウム7

Complicated Type Bの治療戦略
座長: 明石英俊 (久留米大学医学部附属病院 外科)
宮本伸二 (大分大学 心臓血管外科)

■ビデオシンポジウム1

重症虚血肢に対するハイブリッド治療
座長: 福田幾夫 (弘前大学大学院医学研究科
胸部心臓血管外科学講座)
駒井宏好 (関西医科大学総合医療センター 血管外科)

■ビデオシンポジウム2

胸腹部大動脈瘤に対する臓器不全防止戦略
座長: 志水秀行 (慶應義塾大学 心臓血管外科)
齋木佳克 (東北大学大学院医学系研究科
外科病態学講座心臓血管外科学分野)

■ビデオシンポジウム3

傍腎動脈腹部大動脈瘤に対する治療戦略
座長: 金岡祐司 (東京慈恵会医科大学 血管外科)
福井大祐 (信州大学医学部 心臓血管外科)

■ビデオシンポジウム4

破裂性腹部大動脈瘤に対する治療戦略～open v.s. EVAR～
座長: 安達秀雄 (自治医科大学附属さいたま医療センター
心臓血管外科)
善甫宣哉 (関西医科大学附属病院 血管外科)

■ビデオシンポジウム5

大動脈基部再建術のピットフォール
座長: 大北裕 (神戸大学大学院医学研究科 心臓血管外科)
貞弘光章 (山形大学医学部 外科学第二講座)

■ビデオシンポジウム6

Open stent graftのpitfall
座長: 宮本裕治 (兵庫医科大学 心臓血管外科)
種本和雄 (川崎医科大学 心臓血管外科学)

■ビデオシンポジウム7

腸骨大腿動脈病変の治療戦略
座長: 小櫃由樹生 (国際医療福祉大学三田病院 血管外科)
工藤敏文 (東京医科歯科大学 血管外科)

■ビデオセッション1

Zone 0.1 TEVARの工夫
座長: 川原田修義 (札幌医科大学 心臓血管外科)
青木淳 (昭和大学 心臓血管外科)

■ビデオセッション2

Kommerell憩室を合併した胸部大動脈瘤の治療
座長: 谷川和好 (長崎大学病院 心臓血管外科)
竹村博文 (金沢大学先進総合外科)

■ビデオセッション3

感染性腹部大動脈瘤の治療 ～open v.s. EVAR～
座長: 新保秀人 (三重大学大学院医学系研究科
胸部心臓血管外科)
井本浩 (鹿児島大学大学院
心臓血管・消化器外科学)

■ビデオセッション4

Type II エンドリークに対する治療戦略
座長: 吉鷹秀範 (心臓病センター榊原病院 心臓血管外科)
戸谷直樹 (東京慈恵会医科大学附属柏病院
外科・血管外科)

■ビデオセッション5

弓部大動脈瘤遠位側吻合の工夫
座長: 碓水章彦 (名古屋大学大学院医学系研究科
心臓外科学)
浅井徹 (滋賀医科大学外科学講座 心臓血管外科)

■ビデオセッション6

感染性胸部動脈瘤の気管支・食道瘻治療
座長: 松居喜郎 (北海道大学大学院医学研究科
循環器・呼吸器外科)
荒井裕国 (東京医科歯科大学心臓血管外科)

第45回日本血管外科学会学術総会の思い出

広島大学名誉教授、安芸市民病院院長 末田泰二郎

明石先生、第50回日本血管外科学会記念学術総会会長おめでとうございます。私は広島大学在任中に第45回日本血管外科学会学術総会会長を開催させて頂きました。平成29年4月19日(水)～21日(金)に「進化するデバイス、深化する技術」と題した上記学会を広島国際会議場にて行いました。ステントグラフトや末梢血管ステントの進歩と外科医のハイブリッド治療技術の深化に因みテーマを上記としました。学術総会は7つのシンポジウム、7つのビデオシンポジウムの他、CVITとの合同シンポジウム、ビデオセッション、要望演題、一般口演、ポスターセッションからなり19日の午後から開始して21日午前で終了しました。839題の演題を頂戴し、シンポジウムやビデオシンポジウムに多数応募下さりましたが時間の都合上一部演題を一般口演やポスターに振り替えさせて頂きましたことをお詫び申し上げます。学会第1日目日の平成29年4月19日(水)夜は評議員、特別会員、名誉会員懇親会をANAグランドプリンスホテルで行いました。海外からの招請演者はドイツ2名、米国2名、フランス1名、韓国1名、香港1名の7名でした。



評議員懇親会にて

学会2日目の特別講演は元広島カープ監督、元WBC監督、名球会理事長のミスター赤ヘルこと山



講演中の山本浩二氏

本浩二さんに「進化するプロ野球」と題してプロ野球の面白さをお話頂きました。どんなスポーツも進化しますが、プロ野球はその最たるものです。投手の投げる変化球は昔のようにストレート、カーブ、シュート、フォークだけでなくスライダー、ツーシーム、カットボール、スプリット、チェンジアップと多彩になり野球通の私でも今のボールはフォークかチェンジアップか分からないことがあります。山本浩二氏は広島カープが強かった1970年代に衣笠祥雄選手と共にカープ打線を牽引して毎年のようにセリーグ優勝に導きました。在任17年間に首位打者1回、本塁打王4



山本浩二氏と、でかい!

回、打点王3回取り、通算本塁打536本は大学出身者では最多です。プロ野球で勝っていくには野球技術のみならずその日の体調に合わせて五感を駆使して最高のパフォーマンスを発揮することが大事だという話を往年の名選手達の振る舞いを披露して話されました。外科医の手術に対する態度と通じる

ところがあると感じました。

学会2日目の夜は半兵衛庭園という日本庭園が素晴らしい庭園料亭で会長招宴を行いました。4月でまだ肌寒い中、招請講演者やすべての理事が参加して下さい、庭園の散策を楽しまれた後で、半兵衛庭園の名物和食料理と広島酒を堪能して頂きました。

学会2日目の午後に行った会長講演は「私の血管外科史～My personal history as a vascular surgeon～」と題して私の血管外科における基礎研究、臨床研究について発表しました。基礎研究はPTFE人工血管の抗血栓性を高めて開存率のさらに優れたPTFE人工血管の開発研究を行いました。最も抗血栓性があるとされていた3種類のポリウレタン(バイオマー、ペレセン、アブコセン)をPTFE人工血管の内外に塗り成犬の腹部大動脈に移植して術後1, 2, 3カ月目の人工血管の開存性、内膜形成について走査電顕で観察しました。結果はPTFE



会長講演、時間が押しており急ぎ足で講演

人工血管の内面を抗血栓性にするという結果で、PTFEのmicrofibril構造が内面に薄い血栓層を作ることによって抗血栓性を維持しているという結果でした。人工血管が閉塞しない程度に内面に血栓膜ができるのが人工血管長期開存の鍵でした。臨床研究で最も力を入れたのは胸腹部大動脈瘤手術時の対麻痺予防の研究です。日本初のMEP、SEPの同時測定、分節遮断した大動脈瘤内に冷却血液を注入してMEPの低下の有無でAdamkiewicz動脈が瘤内にあるかを調べるcold blood spinoplegia法の考案と臨床応用を行いました。12例の胸腹部大動脈瘤置換術に臨床応用して完全対麻痺は1例もありませんでした。

Yong investigator awardのセッションでは優秀演題4題を学会2日目の理事長講演後に第1会場で表彰しました。いずれも新進気鋭の少壮血管外科医でした。

今回の学術集会では指導医講習会、医療安全講習は初日の学術プログラム前後に行い、最終日の

午後に教育セミナー、CVT講習会、第1回ステントグラフトワークショップ、第2回血管看護研究会、禁煙セミナーを行い、3日間で理事会、評議員懇親会、各種委員会を含みすべて終了する構成にしました。一般口演会場数を減らし、ホスピタリティールームやポスター会場にして、多くの皆様が発表して寛げる学会にしました。多くの皆様に良い学会だったとお褒めの言葉を頂きました。

学会最終日には宮田哲郎理事長から感謝状を頂



感謝状



若手優秀演題表彰

き恐縮しました。学会本体を2日間にして、初日午前、最終日午後に様々なセミナーや講習を設けて参加者の日程を極力短くし病院を留守にする期間が短縮できました。閉会式に参加された方はまばらでしたがこれも学会会期を短くした工夫賜物と勝手に思っています。ご参加頂いた皆様に改めて御礼申し上げて学術総会報告とします。



第45回日本血管外科学会学術総会

広島大学大学院医系科学研究科外科学 高橋信也

2017年4月19日から21日の平日3日間で、第45回日本血管外科学会学術総会が広島国際会議場で行われました。広島大学大学院医系科学研究科外科学の末田泰二郎教授は多くの学会を主催されましたが、これが最後の全国学会となりました。テーマは「進化するデバイス、深化する技術」。大動脈ステントグラフトや末梢血管ステント/ステントグラフトの進化と、末田教授が得意とされたハイブリッド手術（オープンステントやデブランチTEVAR、ハイブリッド末梢血管治療）の技術の深化について、多くのディスカッションが持たれました。会長講演は「私の血管外科史」のタイトルで、末田教授の手術と発明、創作がいかに優れていて、今日の診療の基礎となっているかを再認識する機会となりました。特別講演は、広島カープを代表す

る選手だった、ミスター赤ヘル、山本浩二さん。「進化するプロ野球」のタイトルで講演をいただきました。山本さんが会場に来られて、「ボールはありませんか」と言われるので、急遽スポーツ用品店へボールを買いに行きました。折角のチャンスとサインボール用も購入し、サインしていただきました。講演では、最近のカープについての話や、ボールの握り方の話など、大変楽しいお話をしていただきました。ランチョンセミナーでは、弁当に対するこだわりがあり、どこのセミナーに行っても広島ゆかりのお弁当屋さんの穴子弁当を選択できるようにさせていただきました。細かいことは書けませんが、随所に末田先生の細やかな配慮が感じられる学会であったと思います。

第46回
会長



貞弘 光章 先生

(所属医局) 山形大学医学部外科学第二講座
(心臓血管外科・呼吸器外科・小児外科)

第46回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2018年5月9日～11日

〈会場〉山形テルサ、山形国際ホテル

〈主題〉Evidence-based Vascular Surgery
～山形の地で熱く語ろう、
血管外科の検証と新時代を～

〈プログラム〉

■会長講演

エビデンスベースのその先を見据えた血管外科学へ

座長: 田林 暁一 (仙台青葉学院短期大学)

指定演者: 貞弘光章 (山形大学医学部外科学第二講座
心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科)

■理事長講演 血管外科のアイデンティティ

座長: 重松宏 (山王メディカルセンター 血管外科)

指定演者: 宮田哲郎 (山王病院・山王メディカルセンター
血管病センター/国際医療福祉大学医学部/
日本血管外科学会 理事長)

■SVS会長講演

Present and Future of Vascular Surgery in the US

座長: 宮田哲郎 (山王病院・山王メディカルセンター)

血管病センター/国際医療福祉大学医学部/
日本血管外科学会 理事長)

指定演者: R.Clement Darling, III (SVS2018 president)

■特別講演 日本の医療産業と産官学

座長: 小山信彌 (東邦大学医学部)

医療政策・渉外担当特任部門)

指定演者: 嘉山孝正 (山形大学名誉教授・参与 (特任教授:
先進医学講座)/国立がん研究センター・
名誉総長/日本医師会会長・特別顧問)

■海外招請講演1

Surgical treatment for acute type A aortic dissection

座長: 井元清隆 (笠間クリニック)

指定演者: Michael Peter Fischbein (Cardiothoracic
Surgery (Adult Cardiac Surgery) at the
Stanford University Medical Center)

■海外招請講演2

3-D Printing to Simplify Fenestrated EVAR

座長: 大木隆生 (東京慈恵会医科大学)

指定演者: Benjamin Starnes (Division of Vascular
Surgery, University of Washington,
School of Medicine)

■海外招請講演3

Modern management of blunt traumatic aortic injury

座長: 高本眞一 (三井記念病院)

指定演者: Ali Azzizadeh (Division of Vascular Surgery
Department of Surgery for Programmatic
Development Heart Institute for Vascular
Therapeutics Cedars-Sinai Medical Center)

■海外招請講演4

The role of elephant trunk (Thoraflex) as an option of Hybrid Total Arch Replacement and options of second stage endovascular treatment

座長: 内田徹郎 (山形大学医学部外科学第二講座)

心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科)

指定演者: Randolph Wong (Cardiothoracic Division of
the Department of Surgery, Prince of
Wales Hospital The Chinese University
of Hong Kong)

■海外招請講演5

Open versus Endovascular TAAA repair:
what should we do ?

座長: 齋木佳克 (東北大学医学部医学研究科心臓血管外科)

指定演者: Anthony Estrera (University of Texas, (UT
Health) McGovern Medical School,
Memorial Hermann Heart and Vascular
Institute, Cardiovascular ICU and
Cardiovascular IMU at Memorial Hermann
Heart & Vascular Institute)

■教育講演1

血管外科医に知って欲しい循環器疾患の最新情報

HFpEFとは何か

座長: 澤芳樹 (大阪大学大学院医学系研究科

外科学講座心臓血管外科)

指定演者: 坂田泰史 (大阪大学大学院医学系研究科
循環器内科)

■教育講演2 禁煙セミナー

「患者さんが禁煙に前向きになれる指導法とは?」

<楽に効果的に禁煙をサポートする方法をお教えます>

座長: 福田幾夫 (弘前大学大学院医学研究科心臓血管外科)

指定演者: 川合厚子 (社会医療法人公徳会
トータルヘルスクリニック内科)

■教育講演3

血管外科に伝えたい肢切断の要点

座長: 佐藤紀 (埼玉医科大学総合医療センター血管外科)

指定演者: 寺師浩人 (神戸大学大学院医学研究科形成外科)

■教育講演4

超音波による深部静脈血栓症・下肢静脈瘤の標準的評価法

座長: 市来正隆 (JR仙台病院 血管診療センター)

指定演者: 松尾汎 (松尾クリニック)

■SVS Japan Chapter International Symposium

Present & Future of Vascular Surgery

座長: 萩野均 (東京医科大学心臓血管外科学分野)

R. Clement Darling, III (SVS2018 president)

Xiao Qin (Department of Vascular Surgery,
the First Affiliated Hospital of

Guangxi Medical University)

演者: Werner Lang 奥田紘子 Yaoguo Yang

三宅啓介 Martin Storck 藤川拓也

Guangqi Chang 新垣正美

Michael Peter Fischbein

■特別企画1

PMDA合同セッション

医療機器レジストリは薬事申請に利用可能か?

～将来の展望と課題～

座長: 宮田哲郎 (山王病院・山王メディカルセンター)

血管病センター/国際医療福祉大学医学部

/日本血管外科学会 理事長)

座長: 石井健介 (独立行政法人医薬品医療機器総合機構
(PMDA))

■特別企画2

CVTの資格を再認識する

～臨床検査技師だけの資格ではない～

座長: 駒井宏好 (関西医科大学総合医療センター

血管外科)

座長: 小谷敦志 (近畿大学医学部奈良病院 臨床検査部)

■特別企画3

血管外科女性医師の会ー血管外科医として現状と夢

座長: 宮本伸二 (大分大学 心臓血管外科)

座長: 平松祐司 (筑波大学臨床医学系)

■特別企画(究める)1

Type 2 endoleakを究める

座長: 栗本義彦 (手稲溪人会病院

大動脈血管内治療センター)

座長: 墨誠 (埼玉県立呼吸器・循環器病センター

心臓血管外科(血管外科))

■特別企画(究める)2

内腸骨動脈を究める

座長: 重松邦広 (国際医療福祉大学三田病院 血管外科)

座長: 谷口哲 (弘前中央病院 外科)

■特別企画(究める)3

脳保護法を究める

座長: 上田裕一 (奈良県総合医療センター)

座長: 齋木佳克 (東北大学医学部医学研究科

心臓血管外科)

■特別企画(究める)4

脊髄保護法を究める

座長: 碓氷章彦 (名古屋大学 心臓外科学)

座長: 川本俊輔 (東北医科薬科大学医学部

心臓血管外科学)

■特別企画(究める)5

バスキュラーアクセスを究める

(長期開存をめざしたバスキュラーアクセスの作製と管理)

座長: 春口洋昭 (飯田橋春口クリニック)

座長: 野口智永 (吉祥寺アサヒ病院

バスキュラーアクセスセンター)

■シンポジウム1

TEVAR時代の弓部大動脈瘤の治療戦略とエビデンス

座長: 湊谷謙司 (京都大学 心臓血管外科)

岡田健次 (信州大学医学部・外科学教室・

心臓血管外科)

- シンポジウム2
腹部大動脈瘤に対する治療戦略とエビデンス
—EVARの遠隔成績と今後の課題—
座長:古森公浩(名古屋大学 血管外科)
川口聡(横浜総合病院 心臓血管外科/
血管内治療センター)
- シンポジウム3
静脈血栓症に対する治療戦略とエビデンス
座長:福田幾夫(弘前大学大学院医学研究科
胸部心臓血管外科)
佐戸川弘之(福島県立医科大学 心臓血管外科)
- シンポジウム4
浅大腿動脈病変に対する治療戦略とエビデンス
座長:山岡輝年(松山赤十字病院 血管外科)
岡崎仁(小倉記念病院 血管外科)
- シンポジウム5
下腿単独病変による重症虚血肢に対する
血行再建の治療戦略とエビデンス
座長:笹嶋唯博(江戸川病院 血管病センター)
隈宗晴(福岡東医療センター 血管外科)
- シンポジウム6
胸腹部大動脈瘤の治療戦略とエビデンス
—Open surgery vs TEVAR—
座長:宮本伸二(大分大学 心臓血管外科)
勝間田敬弘(大阪医科大学外科学講座 胸部外科学教室)
- シンポジウム7
Uncomplicated Type B
急性解離の治療戦略とエビデンス
座長:宮本裕治(KKR 大手前病院)
明石英俊(久留米大学 外科学講座)
- パネルディスカッション1
IFU外の腹部大動脈瘤に対するEVAR
—高難易度症例の遠隔成績はどうか?—
座長:進藤俊哉(東京医科大学八王子医療センター
心臓血管外科)
金岡祐司(川崎医科大学 心臓血管外科)
- パネルディスカッション2
TEVAR後の逆行性大動脈瘤解離に対する治療戦略
座長:緑川博文(総合南東北病院 心臓血管外科)
吉鷹秀範(心臓病センター榊原病院 心臓血管外科)
- パネルディスカッション3
大血管浸潤癌に対する血管外科的治療戦略
座長:中村都英(宮崎大学医学部外科学講座
心臓血管外科学分野)
種本和雄(川崎医科大学 血管外科)
- パネルディスカッション4
CLI治療後の機能予後
—血行再建は歩行機能、QOLにどれだけ寄与しているか—
座長:東信良(旭川医科大学 外科学講座
血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野)
駒井宏好(関西医科大学総合医療センター血管外科)

- ビデオセッション1
複雑な腹部大動脈瘤に対するopen surgery
座長:三岡博(静岡市立静岡病院心臓血管外科)
後藤均(東北大学大学院医学系研究科
移植・再建・内視鏡外科)
- ビデオセッション2
私の静脈瘤治療 —エキスパートに学ぶ—
座長:孟真(横浜共済病院 心臓血管外科)
小川智弘(福島第一病院 心臓血管病センター)
- ビデオセッション3
大動脈弁輪拡張症に対する手術手技の工夫
座長:大北裕(神戸大学大学院医学研究科 心臓血管外科)
荻野均(東京医科大学 心臓血管外科学分野)
- ビデオセッション4
基部進展を伴う急性A型解離に対する手術手技の工夫
座長:青見茂之(東京女子医科大学心臓病センター
循環器外科)
内田徹郎(山形大学医学部外科学第二講座)
- ビデオセッション5
私のPAD治療 —エキスパートに学ぶ—
座長:三井信介(済生会八幡総合病院 血管外科)
赤松大二郎(東北大学 移植・再建・内視鏡外科)
- ビデオセッション6
傍腎動脈AAAに対するEVARの工夫
座長:小櫃由樹生(国際医療福祉大学三田病院 血管外科)
坂野比呂志(名古屋大学大学院 血管外科)
- ビデオセッション7
EVAR後のステントグラフト感染に対する手術手技
座長:戸谷直樹(東京慈恵会医科大学附属柏病院
血管外科)
尾原秀明(慶應義塾大学医学部 外科)

第46回日本血管外科学会学術総会を終えて

会長 山形大学医学部外科学第二講座 貞弘光章

第46回日本血管外科学会学術総会を2018年5月9日(水)から11日(金)までの3日間、「Evidence-based vascular surgery」をメインテーマとして山形テルサと山形国際ホテルの2会場で開催させていただきました。時折小雨がちらつく曇天のスタートとなりましたが、次第に天候は回復し3日目には晴天を迎え、新緑が目眩しい爽やかな絶好のコンディションとなりました。約1,900名の参加を頂き、各会場は満席で熱気に溢れていました。総演題数は920題ですが、口演の採択率は50%となり、残りはポスターセッションとさせていただきます。

今回の工夫は、①シンポジウムテーマは「～の治療戦略とそのエビデンス」で統一し、指定演者によるkeynote lectureをセッションの初めに配置しました。また、「～を究める」4シリーズ、PAD徹底討論3番勝負、PMDA合同セッション、血管外科女性医師の会、CVTの資格を再認識する、などの特別企画を多く配し、学会会長の意図が前面にできるようなプログラム構成としました。②プログラム日程表とポスター標識をカテゴリー別に色分けで表示しました。③2会場に分かれての運営でご不便をお掛けしましたが、逆に展示やホスピタルルーム、休憩スペースなど広いスペースを確保できました。2会場の間は歩ける距離でした

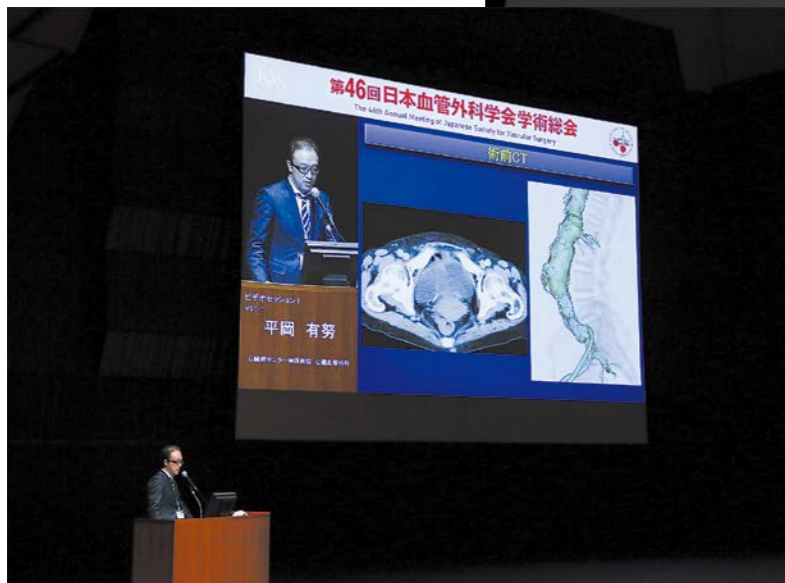
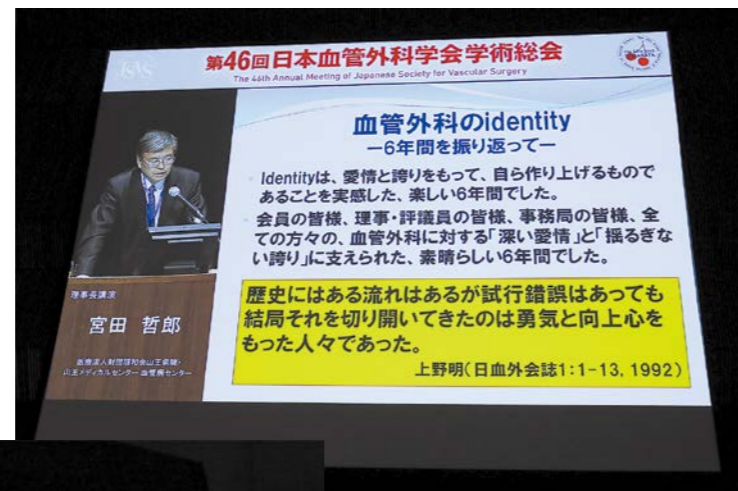
が連絡バスを10分毎に運行させ、待合所には名物「たまこん」で舌鼓を打って貰いました。④朝は8時からの開始のためモーニングブレッドとコーヒー、紅茶を準備し、周辺飲食店のマップ(教室員が選んだ不親切マップ)は好評で、市内の飲食店は繁盛したようです。

SVS2018会長のDr.Darling Clementが6月のSVS開催にも関わらず来山いただき、JSVS-SVSの将来的な関係強化に繋がれば幸いです。海外招請者は13名でしたが、その内5名の方が同伴者を連れられ18名となり国際色豊かな印象となりました。学会の終了後に会員にアンケートを実施しましたが、地方都市開催にかかわらず高評価で、山形へのリピーター希望者が多数でした。

学会を開催して改めて日本血管外科学会の発展が著しいことを再認識しました。演題公募数、学会参加者数、など年々増えていく気配です。

学会の成功とその運営に尽力いただいた会員ならびに血管外科学会事務局の皆様にご挨拶を申し上げます。





第47回 会長



古森 公浩 先生

(所属医局) 名古屋大学大学院医学系研究科 血管外科

第47回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2019年5月22日～24日

〈会場〉ホテルナゴヤキャッスル

〈主題〉血管外科フロンティア
～世界への発信～

〈プログラム〉

■会長講演 血管外科フロンティア ～世界への発信～

座長: 岡留健一郎(福岡県済生会福岡総合病院 外科)

演者: 古森公浩(名古屋大学大学院医学系研究科 血管外科)

■理事長講演

座長: 重松宏(山王メディカルセンター 血管外科)

演者: 古森公浩(名古屋大学大学院医学系研究科 血管外科)

■SVS会長講演・ESVS会長講演

SVS: Evolution of Endovascular Repair of Abdominal Aortic Aneurysms

ESVS: Development of Vascular Surgery in Europe – from Referral Patterns to Treatments and Who Does What!

座長: 貞弘光章(山形大学 第二外科)

古森公浩(名古屋大学大学院医学系研究科 血管外科)

演者: Michel S. Makaroun (President, Society for Vascular Surgery)

Henrik Sillesen (President, European Society for Vascular Surgery)

■招請講演 1

Evaluation of the Bare Metal Stent (PETTICOAT) during TEVAR for Acute Dissections, and Benefit of Advanced Imaging Applications when Performing Complex Aortic Repairs and Type 2 Endoleaks Embolization

座長: 志水秀行(慶應義塾大学医学部附属病院 心臓血管外科)

演者: Stephan Haulon (Aortic Centre, Hopital Marie Lannelongue, Le Plessis-Robinson, Lille University Hospital, France)

■招請講演 2

Bioengineered Human Blood Vessels for Dialysis Access and Vascular Surgery

座長: 佐藤紀(埼玉医科大学総合医療センター 血管外科)

演者: Jeffrey H. Lawson (Humacyte, Inc., USA)

■招請講演 3

Current State and Evolution of Branched Stent Grafts for the Aortic Aneurysm

座長: 安藤太三(大阪健康管理センター)

演者: Jon S. Matsumura (University of Wisconsin School of Medicine and Public Health, USA)

■招請講演 4

Hybrid Treatment of Thoracoabdominal Aortic Diseases (Dissection and Aneurysms) in China: A Single Center Retrospective Study

座長: 安達秀雄(練馬光が丘病院)

演者: Jichun Zhao (West China Hospital, China)

■招請講演 5

BEST-CLI and the future of evidence-based revascularization for limb threatening ischemia

座長: 進藤俊哉(東京医科大学王子医療センター 心臓血管外科)

演者: Michael S. Conte (Division of Vascular & Endovascular Surgery, Edwin J. Wylie, UCSF Heart and Vascular Center, UCSF Center for Limb Preservation, USA)

■教育講演 1 血管炎の診断と治療

座長: 布川雅雄(杏林大学医学部附属病院 心臓血管外科)

演者: 藤尾圭志(東京大学大学院医学系研究科 内科専攻 アレルギー・リウマチ科)

■教育講演 2 Thoracic Outlet Syndrome

座長: 太田敬(大雄会第一病院 血管外科)

演者: 平田仁(名古屋大学大学院医学系研究科 手の外科学)

■SVS Japan Chapter International Symposium -Clinical Research for CLTI-

座長: 笹嶋唯博(江戸川病院血管病センター)

宮田哲郎(国際医療福祉大学 医学部、山王病院・山王メディカルセンター)

演者: Andrew W. Bradbury/東信良

■World Federation of Vascular Societies (WFVS) Symposium

座長: Michel S. Makaroun (President, Society for Vascular Surgery)

Tetsuro Miyata (International University of Health and Welfare, Sanno Medical Center)

Kimihiro Komori (President of WFVS, President of JSVS)

■Global Vascular Guideline

座長: 東信良(旭川医科大学 血管外科学分野)

駒井宏好(関西医科大学総合医療センター 心臓血管外科)

演者: Michael S. Conte (Division of Vascular & Endovascular Surgery, Edwin J. Wylie, UCSF Heart and Vascular Center, UCSF Center for Limb Preservation)

Andrew W. Bradbury (BSc MB ChB (Hons) MBA MD FEBVS FRCSEd FRCSEng., Sampson Gamgee Professor of Vascular Surgery, University of Birmingham, Consultant Vascular Surgeon, Heart of England NHS Foundation Trust, Birmingham)

■特別企画 1 下肢切断法の実態と術後管理

座長: 寺師浩人(神戸大学医学部 形成外科学教室)

河辺信秀(城西国際大学 福祉総合学部 理学療法学科)

■特別企画 2 (ビデオ)

バスキュラーアクセス-シャントトラブル-

座長: 相川潔(名古屋血管外科クリニック)

室谷典義(JCHO 千葉病院)

■特別企画 3 IBEによる内腸骨動脈温存の最前線

座長: 大木隆生(東京慈恵会医科大学 血管外科)

■特別企画 4 論文作成方法

座長: 澤芳樹(大阪大学大学院医学系研究科 心臓血管外科)

坂東興(東京慈恵会医科大学 心臓外科学講座)

■特別企画 5 血管病の基礎研究

座長: 濱野公一(山口大学大学院 器官病態外科学)

米満吉和(九州大学大学院 薬学研究科)

■特別企画 6 緊急討論「バクリタキセルは安全か？」

座長: 大木隆生(東京慈恵会医科大学 外科学)

半田宣弘(医薬品医療機器総合機構 医療機器審査第1部)

■特別企画 7 血管外科の働き方改革

座長: 高本眞一(賛育会病院)

田林暁一(仙台青葉学院短期大学)

■特別企画 8 チーム医療に関わるCVTの役割

座長: 小谷敦志(近畿大学医学部奈良病院 臨床検査部)

林久恵(星城大学 リハビリテーション部)

■特別企画 9

薬事に利用できる血管外科レジストリとは?

—その有用性と限界を議論する—

座長: 宮田哲郎(国際医療福祉大学 医学部、

山王病院・山王メディカルセンター)

半田宣弘(医薬品医療機器総合機構 医療機器審査第1部)

■特別企画 10 バスキュラーアクセスにおけるチーム医療

座長: 春口洋昭(飯田橋春口クリニック)

中村隆(大阪労災病院 末梢血管外科)

■特別企画 11 (CVIT合同セッション)

PAD徹底ディベート3 本勝負:

血管外科医と循環器内科医によるEVT教育ディベート

座長: 石橋宏之(愛知医科大学 血管外科)

横井宏佳(福岡山王病院 循環器センター)

■特別企画 12 Off the Job トレーニング

座長: 大木隆生(東京慈恵会医科大学 外科)

尾原秀明(慶應義塾大学 外科)

■シンポジウム 1 TEVARの長期予後と合併症について

座長: 大木隆生(東京慈恵会医科大学 外科学)

宮本伸二(大分大学医学部 心臓血管外科)

- シンポジウム 2(ビデオ) TEVAR後の再手術
座長:大北裕(社会医療法人愛仁会高槻病院 心臓・大血管センター)
湊谷謙司(京都大学 心臓血管外科)
- シンポジウム 3
創傷・全身状態からみた重症虚血肢患者の治療戦略
座長:東信良(旭川医科大学 血管外科学分野)
平野敬典(済生会横浜市東部病院)
- シンポジウム 4
静脈瘤に対する血管内治療の中長期成績
座長:孟真(横浜南共済病院 心臓血管外科)
小川智弘(福島第一病院 心臓血管外科)
- シンポジウム 5
B型大動脈解離治療の最前線(A型術後・残存解離を含む)
座長:碓氷章彦(名古屋大学大学院医学系研究科 心臓外科)
川原田修義(札幌医科大学 心臓血管外科)
- シンポジウム 6
弓部大動脈瘤治療の中長期成績
座長:荻野均(東京医科大学 心臓血管外科)
志水秀行(慶應義塾大学病院 心臓血管外科)
- シンポジウム 7
胸腹部大動脈瘤治療の最前線
座長:椎谷紀彦(浜松医科大学 外科学第一講座)
齋木佳克(東北大学 心臓血管外科)
- シンポジウム 8
傍腎動脈腹部大動脈瘤に対する最善の治療
座長:明石英俊(社会医療法人共愛会 戸畑共立病院)
勝間田敬弘(大阪医科大学 外科学講座 胸部外科学教室)
- シンポジウム 9
EVAR長期予後改善のために
座長:吉川公彦(奈良県立医科大学 放射線医学教室・IVR センター)
善甫宣哉(関西医科大学附属病院 心臓血管外科)
- シンポジウム 10
大腿膝窩動脈病変をもつ跛行肢の長期治療成績
座長:岡崎仁(小倉記念総合病院 血管外科)
横井宏佳(福岡山王病院 循環器センター)
- シンポジウム 11
破裂性腹部大動脈瘤に対する最善の治療
座長:西巻博(聖マリアンナ医科大学 心臓血管外科)
石橋宏之(愛知医科大学 血管外科)
- シンポジウム12
腸骨大腿静脈閉塞に対する最善の治療
座長:山田典一(桑名市総合医療センター 循環器内科)
佐戸川弘之(福島県立医科大学 心臓外科)
- シンポジウム 13 女性医師の会
座長:宮本伸二(大分大学医学部 心臓血管外科)
福田宏嗣(獨協医科大学 心臓・血管外科)

第47回日本血管外科学会学術総会

第47回会長 古森公浩

第47回日本血管外科学会学術総会を2019年、令和元年5月22日—24日、名古屋の地で名古屋大学大学院血管外科学教室が主宰させて頂きましたこと大変光栄に存じております。皆様のご協力のおかげで活発かつ有意義な意見交換が行われ、成功裏に終わりましたこと心より御礼申し上げます。平成が終わり新しい元号令和の始まりの月に開催することとなり、令和元年にふさわしい皆様に残る総会になったのではないかと考えております。

学会のテーマは“血管外科フロンティア～世界への発信～”とさせて頂きました。今後、益々“世界への発信”できるような業績、研究を目指して日本血管外科学会が努力して行こうという意気込みと期待を込めて、このテーマにさせて頂きました。海外招請講演はアメリカ血管外科学会(SVS)会長Michel S. Makaroun先生、ヨーロッパ血管外科学会(ESVS)会長Henrik Sillesen先生をお招きし、お二人に招請講演をお願いしました。学会が行なわれた2019年はSVS、ESVSそして我々日本血管外科学会からも参加して作成された全世界的な重症虚血肢に対するガイドライン“Global Vascular Guideline”が発表された年で、その作成に中心に関わったAndrew W Bradbury先生、Michael S. Conte先生 お二人に特別企画“Global Vascular Guideline”でOverviewをして頂きました。またステントグラフトで有名なStephan Haulon先生、Jon S Matsumura先生に教育講演をお願いしました。

そのほかに、多数のシンポジウム、特別企画、会長要望演題などを企画致しました。今回は、新しい試みとしてシンポジウム、特別企画などと一般口演が重ならないようにプログラムを作成しました。そのため一般講演が54演題と少なく、ポスターセッション481題とさせて頂きました。また優秀演題を設定し大動脈(胸部)、大動脈(腹部)、末梢血管、

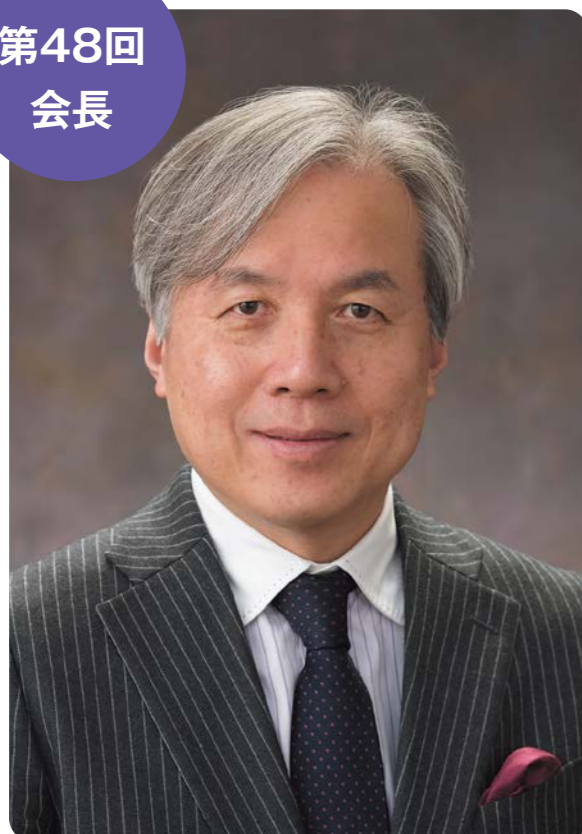
静脈、基礎研究の分野で募集いたしました。残念ながら静脈部門で適切な応募抄録がなく他の4部門のみの演題が選ばれ、その4題は全員懇親会で表彰されました。

また学会会期中、並列で第11回日韓血管外科学会並びにWorld Federation of Vascular Societiesのシンポジウムも同時に開催されました。2,100名余りの方々にご参加いただき、皆様のおかげをもちまして成功裏に終わることができました。令和元年

にふさわしい皆様の心に残る総会となったのではないかと、ひとえに学会に参加して頂いた皆様のおかげだと心より感謝申し上げます。



第48回
会長



荻野均 先生

(所属医局) 東京医科大学心臓血管外科学

第48回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2020年11月27日~29日

〈会場〉WEB開催

〈主題〉Vascular Surgery Olympiad

〈プログラム〉

■会長講演

私と血管外科、大動脈、そして挑戦
座長: 立道清
演者: 荻野均(東京医科大学 心臓血管外科)

■理事長講演

座長: 宮田哲郎(山王病院・山王メディカルセンター)
演者: 古森公浩(名古屋大学大学院血管外科)

■特別講演

The Glory and Threat of Science and Medicine
座長: 荻野均(東京医科大学 心臓血管外科)
演者: Magdi H. Yacoub(Imperial College)

■教育講演 1

Progress of the Asian PAD Workshop
座長: 宮田哲郎(山王病院・山王メディカルセンター)
演者: 重松宏(山王メディカルセンター 血管外科)

■教育講演 2

Stepping into a new strategy of aortic aneurysm repair
座長: 岩井武尚(慶友会 つくば血管センター)
演者: 石丸新(戸田中央総合病院 心臓血管センター外科)

■教育講演 3

Aortic Surgery in Japan: Current Status and Future Recommendation
座長: 伊藤翼(社会医療法人財団地友会 福岡和白病院)
演者: 高本眞一(社会福祉法人賛育会 賛育会病院)

■教育講演 4

Surgical treatment for intractable inflammatory diseases of the great vessels -Takayasu arteritis and Vechet disease-
座長: 荻野均(東京医科大学 心臓血管外科)
演者: 安藤太三(船員保険 大阪健康管理センター)

■教育講演 5

Open Aortic Surgery in Endovascular Stent Era
座長: 荻野均(東京医科大学 心臓血管外科)
演者: 大北裕(高槻病院 心臓・大血管センター)

■Tokyo Colosseum: Debate session

座長: Thoralf M. Sundt, III (Department of Cardiac Surgery, Massachusetts General Hospital)
荻野均(東京医科大学 心臓血管外科)

■Live video conference from Europe

How to repair aortic valve and root
座長: 荻野均(東京医科大学 心臓血管外科)
演者: Magdi H. Yacoub (Imperial College)

■特別企画 1

血管外科医に迫られる働き方改革
座長: 荻野均(東京医科大学 心臓血管外科)
演者: 上家子(日本医師会総合政策研究機構)

■特別企画 2 PMDA合同セッション

New products and clinical trials for commercial availability
座長: 倉谷徹(大阪大学低侵襲循環器医療学)
半田宣弘(医薬品医療機器総合機構)

■特別企画 3 女性医師の会シンポジウム

女性医師から見た働き方改革-無風、追い風、向かい風?
座長: 塩瀬明(九州大学心臓血管外科)
近藤ゆか(藤田保健衛生大学版種病院外科)

■特別企画 4 CVIT合同セッション

パクリタクセル塗布ステント・バルーン的安全性と効果
Safety and efficacy of paclitaxel-coated stents and balloons: criteria for the use of paclitaxel devices
座長: 横井 宏佳(福岡山王病院 循環器センター)
重松邦広(国際医療福祉大学 三田病院 血管外科)

■シンポジウム 1

最新の大動脈弓部置換:
手術、ハイブリッド治療、ステントグラフト治療
State-of-the-art aortic arch repair: open, hybrid, or total endografting
座長: Himanshu Patel (Department of Cardiac Surgery Michigan Medicine)
Suk Jung Choo (Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Asan Medical Center, University of Ulsan College of Medicine)
志水秀行(慶應義塾大学外科(心臓血管))

■シンポジウム 2

最新の急性・亜急性・慢性B型解離治療
State-of-the-art treatment for acute, subacute, and chronic type B dissection
座長: Eric E. Roselli (Aortic Center, Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Cleveland Clinic)
松田均(国立循環器病研究センター 心臓血管外科)
大木隆生(東京慈恵会医科大学 血管外科学講座)

■シンポジウム 3

最新の急性A型解離治療 1
State-of-the-art treatment for acute type A dissection 1
座長: Roberto Di Bartolomeo (Department of Cardiac Surgery, University of Bologna)
湊谷謙司(京都大学大学院医学研究科 器官外科学講座 心臓血管外科)

■シンポジウム 4

EVAR時代のAAA手術
(EVAR後のopen conversionを含む)
Open AAA repair in the EVAR era: technical expertise including open conversion after EVAR
座長: Gustavo Oderich (University of Texas Physicians)
古森公浩(名古屋大学大学院 血管外科)
澁谷卓(大阪大学 心臓血管外科)

■シンポジウム 5

静脈疾患に対する血管内治療 (Varicose veinを除く)
Endovascular therapies for venous diseases (excluding varicose veins)
座長: 小泉淳(千葉大学医学部附属病院 画像診断センター)
孟真(横浜南共済病院)

■シンポジウム 6

複雑な解剖を有するAAA・CIAA治療: 腎上部AAA、短・屈曲ネックAAA、高度狭窄アクセルルート、両側CIAA
Management of abdominal aortic and iliac artery aneurysms (AAA and IAA) with complex anatomy: suprarenal, AAA, short/angulated neck AAA, access route stenosis, or bilateral IAAs
座長: Tilo Kölbel (German Aortic Center, Department of Vascular Medicine, University Heart & Vascular Center, University Hospital Hamburg-Eppendorf)
石橋宏之(愛知医科大学 血管外科)
赤坂純逸(東京医科大学八王子医療センター)

■シンポジウム 7

最新の大動脈基部・大動脈弁修復 1
State-of-the-art aortic root/valve repair 1
座長: Joseph E. Bavaria (Department of Cardiovascular Surgery, Penn Medicine)
Kay-Hyun Park (Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Seoul University, Bundan Hospital)
高梨秀一郎(川崎病院)

■シンポジウム 8

最新の急性A型解離治療 2
State-of-the-art treatment for acute type A dissection 2
座長: Anthony L. Estrera (Cardiothoracic & Vascular Surgery, University of Texas Health Science Center Houston, McGovern Medical Center)
齋木佳克 (東北大学)

■シンポジウム 9

最新の大動脈基部・大動脈弁修復 2
State-of-the-art aortic root/valve repair 2
座長: Davide Pacini (Cardiac Surgery Unit, Cardio-Thoraco-Vascular Department, S. Orsola Hospital, University of Bologna)
大北裕 (高槻病院)

■シンポジウム 10

破裂性AAAに対する外科治療: 手術かEVARか?
Open or endovascular repair for ruptured AAA
座長: Ross Milner (Department of Vascular Surgery, University of Chicago)
和田秀一 (福岡大学)
荻野秀光 (成田富里徳洲会病院)

■シンポジウム 11

EVAR後のエンドリークに対する積極的治療:
血管内治療か、手術か?
Aggressive endovascular or surgical treatment for endoleaks after EVAR
座長: Ali Azizzadeh (Department of Vascular Surgery, Cedars Sinai Medical Center, USA)
金岡祐司 (川崎医科大学)
志村信一郎 (東海大学医学部)

■シンポジウム 12

最新の胸部下行・胸腹部大動脈置換:
手術、ハイブリッド治療、ステントグラフト治療/大動脈食道
State-of-art descending aortic /thoracoabdominal aortic repair: open, hybrid, or total endografting/
aorto-esophageal fistulae
座長: Joseph S. Coselli (Department of Surgery, Cardiothoracic Division, Baylor College of Medicine)
Anthony L. Estrera (Cardiothoracic & Vascular Surgery, University of Texas Health Science Center Houston, McGovern Medical Center)
湊谷謙司 (京都大学大学院医学研究科)

■シンポジウム 13

重症下肢虚血に対する治療選択: 手術、血管内治療、再生治療
Therapeutic options for chronic limb-threatening ischemia: open surgery, EVT, or regenerative therapy?
座長: Alan Dardik (Department of Surgery, Yale University, USA)
進藤俊哉 (東京医科大学八王子医療センター)
福田尚司 (東京医科大学 心臓血管外科)

■シンポジウム 14

EVAR後のAAA sac縮小のミステリー:
AAA sacが縮小しないメカニズムは?
The mystery of aneurysm sac shrinkage: why sac shrinkage does not always occur following EVAR?
座長: Alan Dardik (Department of Surgery, Yale University, USA)
善甫宣哉 (関西医科大学附属病院 血管外科)
西部俊哉 (東京医科大学 心臓血管外科)

■SVS Japan Chapter International Symposium 1

座長: Kim J. Hodgson (Department of Vascular Surgery, Southern Illinois University)
細井温 (杏林大学)
松山克彦 (愛知医科大学)
西部俊哉 (東京医科大学)
イントロダクション
東信良 (旭川医科大学 外科学講座)
血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野)

■SVS Japan Chapter International Symposium 2

座長: Kim J. Hodgson (Department of Vascular Surgery, Southern Illinois University)
布川雅雄 (杏林大学)
東信良 (旭川医科大学 外科学講座)
進藤俊哉 (東京医科大学八王子医療センター)

第48回日本血管外科学会学術総会 (Vascular Surgery Olympiad)を担当して

東京医科大学心臓血管外科主任教授 荻野均

第48回日本血管外科学会学術総会を、2020年11月27日～29日まで、当初5月に現地開催予定であった京王プラザホテルを配信センターとし、完全WEB方式で開催した。コロナ禍の折、開催日程・様式も変更につぐ変更にも関わらず、予想を上回る1699名の参加があり、皆様のご支援に深く感謝します。

本学術総会は、Olympic year、しかも開催都市での学術総会に相応しく、「Vascular Surgery Olympiad」のテーマのもと、International、Diversity、Generation、Training・Educationなどをキーワードとし、海外から25名を超えるエキスパートを招聘し、特に大血管部門においては大動脈シンポジウム(AOSEW: Aortic Symposium with East and West)形式とし、国際基準のプレゼンテーションおよびディスカッションの場とした。WEB上ではあったが、各登壇者と座長が英語で発表、議論されている姿を拝聴し、元国際委員長として「国際化への第一歩」を踏み出せた達成感が胸が熱くなった。また、WEB開催ならではのメリットを生かし、北米からは午前、ヨーロッパからは午後のプログラムを設定すれば、多元中継の国際シンポジウムの開催が可能なのも実証でき、通常開催に優るとも劣らないインパクトを残すことができたことと自負する。しかしながら一方で、垣根を越えたダイバーシティ討論、ベテランから次世代への技術・知識の伝承、新しいデバイスを用いた最新の外科治療など「映像で訴える」を主眼に置いた手技の習得、若手の発表・議論の場の提供、壇上と会場の距離感をなくしたIT技術によるディスカッションの場の提供など、当初予定した企画が実現できなかったことは心残りでもある。

振り返ると、本学会と本学の関係は古く、外科学第2講座(現 心臓血管外科分野)第三代主任教授古川欽一先生および第四代主任教授石丸 新先生が本学会前身の「日本血管外科研究会」の発足に尽力され、研究会事務局が当講座にあった。その後、1992年に同研究会が本学会に発展し、第五代主任教授の重松 宏先生が本学会会長、同理事長を務められた。従って、私にとり、本学術総会の開催は身に余る光栄で、大変大きな意味合いを持つ。幸い本学の特殊性を生かし、八王子医療センターの進藤俊哉教授、本学の西部俊哉教授の二人の副会長の支援のもと、血管外科の全領域をカバーする充実したプログラムを提示することができた。また、会長講演(私と血管外科、大動脈、そして挑戦)では、Michael DeBakeyの弟子としてTexas legacyを実体験され、その情熱を私に惜しみなく注いでいただいた元神戸中央市民病院副院長の立道 清先生の座長のもと、多くの師、同僚、メディカルスタッフに巡り会い、患者さん、そして家族に支えられた私の心臓血管外科医としての人生を紹介した。正に、I am a part of all I have met (by Alfred Tennyson)である。

最後に、where there's a will, there's a way. 志があれば、道は開ける。努力すれば、誰にでもチャンスは巡ってくる。それも、突然に。これまでの先達と同様、Next Generationに大いに期待する。そして、日本血管外科学会の更なる発展を希望する。

The 48th Annual Meeting of Japanese Society for Vascular Surgery
VASCULAR SURGERY OLYMPIAD
 May 27^(Wed) - 29^(Fri) 2020
 Keio Plaza Hotel Tokyo, Japan
 2-2-1 Nishi-Shinjuku Shinjuku-Ku Tokyo 160-8330 Japan

President
Hitoshi Ogino
 Professor and Chairman of Cardiovascular Surgery
 Tokyo Medical University

Vice President
Shunya Shindo
 Tokyo Medical University Hachioji Medical Center

Toshiya Nishibe
 Tokyo Medical University

Head of the Secretariat
Shoji Fukuda
 Tokyo Medical University

<http://www2.convention.co.jp/48jvs/>
 Secretariat: Department of Cardiovascular Surgery Tokyo Medical University
 8-7-1 Nishishinjuku Shinjuku-ku Tokyo 160-0023 Japan
 Congress Secretariat: c/o Japan Convention Services, Inc.
 14F Daido Seimei Kasumigaseki Bldg. 1-4-2 Kasumigaseki Chiyodaku Tokyo 100-0013 Japan
 TEL: +81-3-3508-1214 FAX: +81-3-3508-1302 E-mail: 48jvs@convention.co.jp



WEB方式での開催の様子

第49回 会長



石橋 宏之 先生

(所属医局) 愛知医科大学血管外科

第49回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2021年5月19日～21日

〈会場〉WEB開催

〈主題〉次のステージへ、次の世代と
～To the next stage,
with the next generation～

〈プログラム〉

■会長講演

天命に任せて人事を尽くす

座長: 太田敬(大雄会第一病院 創傷・血管センター)
演者: 石橋宏之(愛知医科大学 血管外科)

■理事長講演

座長: 宮田哲郎(国際医療福祉大学
医学教育統括センター)

演者: 古森公浩(名古屋大学大学院医学系研究科
血管外科学)

■特別講演

師匠が語る藤井聡太という才能

座長: 石橋宏之(愛知医科大学 血管外科)
演者: 杉本昌隆(公益社団法人日本将棋連盟 棋士・八段)

■招請講演1

There is still a place for open surgery in patients with CLTI. Why we should not forget surgery and how can we train surgical skills?

座長: 福田幾夫(吹田徳洲会病院 心臓血管センター)
演者: Werner Lang(Department of Vascular Surgery, University Hospital Erlangen, Germany)

■招請講演2

Top ten clinical trials in aortic disease

座長: 古森公浩(名古屋大学大学院医学系研究科 血管外科)

演者: Ronald L. Dalman(SVS president, Stanford University, USA)

■招請講演3

Evolution in the treatment of Paravisceral and Thoracoabdominal Aneurysms: Past, Present and Future

座長: 保科克行(東京大学医学部附属病院 血管外科(第一外科))

演者: John S. Lane(UC San Diego Health, California, USA)

■教育講演1

腹部動脈塞栓術の勘どころ -基本から応用まで-

座長: 松山克彦(愛知医科大学 心臓外科)
演者: 鈴木耕次郎(愛知医科大学 放射線科)

■教育講演2

脈管奇形に対するIVR

座長: 高木靖(藤田医科大学医学部 心臓血管外科講座)
演者: 北川晃(愛知医科大学 放射線科)

■シンポジウム1

血管外科医として生きる(50歳未満限定)

座長: 海野直樹(浜松医療センター 血管外科)
貞弘光章(山形市立病院済生館 館長)

■シンポジウム2

ビデオ:ステントグラフト合併症に対する二次手術

座長: 川原田修義(札幌医科大学 心臓血管外科)
荻野均(東京医科大学病院 心臓血管外科)

■シンポジウム3

Malperfusionを伴う急性A型大動脈解離に対する治療戦略

座長: 志水秀行(慶應義塾大学 外科(心臓血管))
椎谷紀彦(浜松医科大学 外科学第一講座)

■シンポジウム4

Shaggy aortaを呈する大動脈疾患に対する治療戦略

座長: 岡田健次(神戸大学 心臓血管外科)
齋木佳克(東北大学 心臓血管外科)

■シンポジウム5

Uncomplicated B型大動脈解離に対する治療戦略

座長: 朝倉利久(埼玉医科大学国際医療センター 心臓血管外科)
勝間田敬弘(大阪医科大学 外科学講座 胸部外科学教室)

■シンポジウム6

ステントによる内膜損傷をめぐる問題(RTADとd-SINE)

座長: 松田均(国立循環器病研究センター 心臓血管外科)
明石英俊(社会医療法人共愛会戸畑共立病院 顧問・血管外科)
Keynote Lecture: Chun-Che Shih (Taipei Medical University, Taiwan)

■シンポジウム7

若年者AAAの治療戦略(EVAR vs OS)

座長: 尾原秀明(慶應義塾大学 外科)
進藤俊哉(東京医科大学八王子医療センター 心臓血管外科、山梨厚生病院予防医学センター)

■シンポジウム8

Short neck AAAに対する治療戦略

(EVAR vs OS、中期成績を含めて)
座長: 小櫃由樹生(国際医療福祉大学三田病院 血管外科)
前田英明(日本大学 心臓血管外科)

■シンポジウム9

EVAR長期予後改善のための工夫

座長: 大木隆生(東京慈恵会医科大学 血管外科)
善甫宣哉(関西医科大学附属病院 血管外科)

■シンポジウム10

血管外科医が行う大腿動脈病変の治療

座長: 工藤敏文(東京医科歯科大学 血管外科)
西部俊哉(東京医科大学 心臓血管外科)

■シンポジウム11

透析患者の包括的高度慢性下肢虚血(CLTI)

に対する治療戦略
座長: 東信良(旭川医科大学 血管外科学講座)
三井信介(済生会八幡総合病院 血管外科)

■シンポジウム12

内臓動脈疾患に対する治療戦略

座長: 重松邦広(国際医療福祉大学三田病院 血管外科)
坂野比呂志(名古屋大学大学院 血管外科)

■シンポジウム13

下肢静脈瘤に対する新しい治療デバイス登場と治療戦略

座長: 佐戸川弘之(福島県立医科大学附属病院 心臓血管外科)
広川雅之(お茶の水血管外科クリニック)

■シンポジウム14

バスキュラーアクセス合併症への対応

座長: 布川雅雄(杏林大学医学部附属病院 心臓血管外科)
澁谷卓(大阪大学大学院 医学系研究科 心臓血管外科)

■シンポジウム15(指導医講習会)

若手血管外科医のためのトレーニング

座長: 種本和雄(川崎医科大学附属病院 心臓血管外科)
出口順夫(埼玉医大総合医療センター 血管外科)

■シンポジウム16

女性医師の会シンポジウム

「二人のキャリアアップを目指す
—これまでとCOVID-19を経験して—」
座長: 宮本伸二(大分大学 心臓血管外科)
福田宏嗣(獨協医科大学 心臓・血管外科)

■シンポジウム17

血管外科チーム医療に望むもの

座長: 井上芳徳(てとあしの血管クリニック東京 血管外科)
駒井宏好(関西医科大学総合医療センター 血管外科)

第49回学術総会を終えて

第49回日本血管外科学会学術総会会長
愛知医科大学 血管外科 石橋宏之

第49回血管外科学会学術総会を2021年5月19日から21日まで、名古屋国際会議場で開催しました。COVID-19蔓延の中、無事開催できたことを会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

テーマを「次のステージへ、次の世代と: To the next stage, with the next generation」と定め、当初、通常開催、悪くてもハイブリッド形式として準備してきました。しかし、COVID-19収束どころか、第4波ピークと重なり、愛知県内に緊急事態宣言が発出された直後の開催となりました。困難の中、573題の演題応募をいただき、採用557題、特別セッションを含めて全625演題に発表していただきました。完全web開催の利点を生かし、全国津々浦々の方に参加していただき、有料参加者数1,637名、総参加者数1,969名でした。

「天命に任せて人事を尽くす」と題して会長講演を行いました。準備において、COVID-19蔓延で思うように企画が進まず、資金調達に苦労しましたが、この時期に会長を引き受けたことを天命と考え、皆様

のお力添えで成功裏に終えることができました。会長講演が視聴者数トップでした。深謝申し上げます。

特別講演は、将棋藤井聡太二冠の師匠である杉本昌隆八段に、天才棋士の育て方についてお願いしました。講演の中に「指した手が最善手」という言葉がありました。今後の人生に役立つ心強い言葉でした。学術総会后、藤井二冠は初防衛に成功し、師匠を抜いて九段に昇段しました。

若手血管外科医向けシンポジウム「血管外科医としての夢を実現」では、9名の若手中堅血管外科医に今までの歩みや生きる姿勢などを述べていただきました。血管外科の明るい未来を実感することができました。

海外招請演者は、SVS 会長Dalman先生、ドイツLang先生など11名にお願いしました。臨場感が出るように、米国西海岸の演者は午後に、欧州の演者は午前中に講演をお願いしました。ライブでの紹介と合わせて臨場感が出たと思います。

シンポジウム以外はアーカイブ発表で、2名の座長体制で少なくとも2名から質疑があるようにしました。活発な議論をしていただけたと思います。

医療安全講習会や教育セミナーなどのクレジット付きセミナーは完全オンデマンド視聴としましたので、会員の皆様に好評でした。

4回線で放映しましたが、1回線を共催セミナー専用としました。そして、視聴者にランチ補助としてQUOカードを提供しました。お陰様で、各セミナーに視聴者が満遍なく集まり、共催メーカーからも好評価をいただきました。

Web開催で、皆様の顔を直接拝見できなかったこと、名古屋の美味しい料理でおもてなしできなかったことが残念でした。来年の明石会長には、名古屋記念として「金の鯨銚」の置物をプレゼントしました。会場に飾っていただけたとのこと。来年は「金の鯨銚」を見ながら、皆様と直接議論を交わし、北九州の美味しい料理と酒を堪能したいと願っています。
(2021年7月14日記)



第50回
日本血管外科学会
学術総会

第50回
会長



明石 英俊 先生

(所属医局) 社会医療法人共愛会 戸畑共立病院
顧問・血管外科部長

第50回日本血管外科学会学術総会の概要

〈会期〉2022年5月25日～27日

〈会場〉リーガロイヤルホテル小倉、AIM

〈主題〉血管外科の醍醐味

〈プログラム〉

■会長講演

「血管外科の醍醐味
—飛躍的な進歩を遂げた40年間の血管外科を経験して—」
座長: 青柳成明(聖マリア病院 心臓血管外科)
演者: 明石英俊(社会医療法人共愛会 戸畑共立病院)

■特別講演1

「夢持ち続け日々精進」
座長: 明石英俊(社会医療法人共愛会 戸畑共立病院)
演者: 高田明(株式会社AandLive代表取締役・
ジャバネットたかた創業者)

■特別講演2

「コロナ禍と地域医療」
座長: 小須賀健一(福岡諏訪クリニック)
演者: 横倉義武(元 世界医師会会長/日本医師会名誉会長/
社会医療法人弘恵会理事長)

■理事長講演

座長: 宮田哲郎(国際医療福祉大学
医学教育統括センター)
演者: 古森公浩(特定非営利活動法人 日本血管外科学会
理事長/名古屋大学大学院医学系研究科
血管外科)

■SVS会長講演

「Society for Vascular Surgery Clinical Practice
Guidelines for Management of Extracranial
Cerebrovascular Disease」
座長: 古森公浩(名古屋大学大学院医学系研究科
血管外科)
演者: Ali Fawzi AbuRahma (President, Society for
Vascular Surgery/Professor of Surgery/
Chief, Vascular&Endovascular Surgery/
Director, Vascular Surgery
Fellowship&Residency Programs/Medical
Director, Vascular Laboratory/Co Director,
Vascular Center of Excellence/
West Virginia University)

■SVS Japan Chapter

「Ruptured abdominal aortic aneurysm」
座長: Ali Fawzi AbuRahma (SVS President/
Charleston Area Medical Center)
東信良(旭川医科大学
外科学講座血管外科学分野)

演者: Gustavo S.Oderich (John P.and Kathrine
G.McGovern Professor of Surgery
and Distinguished/Chair of Vascular
and Endovascular Surgery/
Director of Aortic Center/Director
of Advanced Endovascular Aortic
Program/McGovern Medical School
at The University of Texas Health
Science Center at Houston)
東信良(旭川医科大学
外科学講座血管外科学分野)
竹内由利子(山口大学器官病態外科学 血管外科)

■ESVS会長講演

「AORTIC ANEURYSM CARE: The ongoing shift from
open- to endovascular repair creates training and
quality issues. How can we improve?」
座長: 宮田哲郎(国際医療福祉大学
医学教育統括センター)
駒井宏好(関西医科大学総合医療センター
血管外科)

演者: Henc Verhagen (ESVS Past President
(2020-2021)/Erasmus University
Medical Center Rotterdam,
The Netherlands)

■ESVS Joint Session

「Current situation of CLTI」
座長: Henc Verhagen (ESVS Past President
(2020-2021)/Erasmus
MC,Rotterdam,the Netherlands)
駒井宏好(関西医科大学総合医療センター
血管外科)
演者: Mauro Gargiulo (ESVS Past President/
Professor of Vascular Surgery,
University of Bologna,Italy/
Chair of Metropolitan Unit of
Vascular Surgery/IRCCS S.Orsola
Hospital,Bologna)
菊地信介(旭川医科大学 外科学講座
血管外科学分野)
深山紀之(関西医科大学総合医療センター
血管外科)
高山利夫(東京大学 血管外科)

■特別企画1

「血管外科の醍醐味(胸部)」
座長: 種本和雄(川崎医科大学 心臓血管外科学)
川原田修義(札幌医科大学 心臓血管外科)
演者: 椎谷紀彦(浜松医科大学 外科学第一講座)
宮本伸二(大分大学 心臓血管外科)

■特別企画2

「他科手術と血管外科」
座長: 明石英俊(社会医療法人共愛会 戸畑共立病院)
志水秀行(慶應義塾大学医学部外科学
(心臓血管))

演者: 上坂克彦(静岡県立静岡がんセンター
肝胆膵外科)
白石武史(福岡大学 臓器移植医療センター)
亀井譲(名古屋大学 形成外科学講座)

■特別企画3

「血管外科の醍醐味(腹部・末梢)」
座長: 石橋宏之(愛知医科大学 血管外科)
駒井宏好(関西医科大学総合医療センター
血管外科)
演者: 岡崎悌之(宗像水光会総合病院
心臓血管センター 心臓血管外科)
松田均(国立循環器病研究センター 心臓血管外科)
東信良(旭川医科大学 外科学講座血管外科学)
山岡輝年(松山赤十字病院 血管外科)

■特別企画4

「日本血管外科学会50周年企画
～これまでの血管外科そして、これからの血管外科～」
座長: 古森公浩(名古屋大学大学院医学系研究科
血管外科)
大北裕(高槻病院 心臓・大血管センター)
1)これまでの血管外科
田林暁一(仙台青葉学院短期大学 学長)
重松宏(都庁前血管外科・循環器内科)

The Attractive Aspect of Vascular Surgery

第50回 The 50th Annual Meeting of Japanese Society for Vascular Surgery

日本血管外科学会学術総会

2022年5月25日(水)～27日(金)

会場 リーガロイヤルホテル小倉、AIM

会長 明石 英俊

http://www.jsvs50.jp

- 2) これからの血管外科
齋木佳克(東北大学大学院医学系研究科 心臓血管外科)
尾原秀明(慶應義塾大学 外科)
- 3) 対談
岩井武尚(慶友会つくば血管センター センター長)
伊藤翼(福岡和白病院 会長)
安藤太三(大阪健康管理センター)

- 特別企画5 「血管外科と医療経済」
座長:小櫃由樹生(国際医療福祉大学三田病院 血管外科)
田山慶一郎(宗像水光会総合病院 心臓血管センター外科)
演者:伊藤宗洋(厚生労働省 保険局医療課 医療技術評価推進室 先進・再生医療迅速評価専門官)
田倉智之(東京大学大学院医学系研究科 医療経済政策学)

- 教育講演1 「凝固系からみた静脈血栓症診療の考え方と標準的診療手順のすすめ」
座長:福本義弘(久留米大学 心臓・血管内科)
演者:日浅謙一(九州大学大学院医学研究院 循環器内科学)
- 教育講演2 「循環器内科での血管内治療の現状」
座長:尾原秀明(慶應義塾大学 外科)
演者:横井宏佳(福岡山王病院 循環器センター)
曾我芳光(小倉記念病院 循環器内科)
- 教育講演3 「再生医療の進歩」
座長:古川浩二郎(琉球大学胸部心臓血管外科 心臓外科)
演者:中山功一(佐賀大学医学部附属 再生医学研究センター)
伊藤学(佐賀大学医学部 胸部心臓血管外科)

- 教育講演4 「整形外科からみた間欠性跛行のとらえ方—血管外科との違い—」
座長:三井信介(済生会八幡総合病院 血管外科)
演者:松山幸弘(浜松医科大学 整形外科)
- 教育講演5 「センダイウイルスベクターを用いた虚血肢治療用バイオ製剤の開発」
座長:田山栄基(久留米大学 外科学講座)
演者:米満吉和(九州大学大学院薬学研究院 バイオ医薬創成学)

- 教育講演6 「創傷治癒の基本と局所陰圧閉鎖療法(NPWT)の有用性」
座長:塩瀬明(九州大学大学院医学研究院 循環器外科)
演者:清川兼輔(久留米大学医学部 形成外科・顎顔面外科学講座)

- 教育講演7 「ガイドライン改定で何が変わったか?」
座長:齋木佳克(東北大学 心臓血管外科)
演者:荻野均(東京医科大学 心臓血管外科学分野)
重松邦広(国際医療福祉大学三田病院 血管外科)

- シンポジウム1【ビデオ】 「【腹部】感染を伴った腹部大動脈・腹部動脈の手術」
座長:布川雅雄(杏林大学医学部付属病院 心臓血管外科)
三井信介(済生会八幡総合病院 血管外科)

- シンポジウム2 「【胸部】TEVARの遠隔成績」
座長:大木隆生(東京慈恵会医科大学 外科学講座血管外科)
松田均(国立循環器病研究センター 心臓血管外科(血管外科))

- シンポジウム3【ビデオ】 「【胸部】TEVAR後のRedo strategy」
座長:荻野均(東京医科大学 心臓血管外科学分野)
宮本伸二(大分大学 心臓血管外科)

- シンポジウム4 「【胸部】急性A型大動脈解離のMalperfusionに対する治療戦略(脳、腸管、冠動脈など)」
座長:湊谷謙司(京都大学大学院医学研究科 心臓血管外科)
鈴木伸一(横浜市立大学附属病院外科治療学 心臓血管外科)

- シンポジウム5 「【腹部】ステントグラフト治療後の縮小に 影響を及ぼすものは?」
座長:善甫宣哉(関西医科大学附属病院 血管外科)
保科克行(東京大学 血管外科)

- シンポジウム6 「【胸部】Young Surgeonに契めるArch Strategy」
座長:齋木佳克(東北大学 心臓血管外科)
田山栄基(久留米大学 外科学講座)

- シンポジウム7 「【静脈】下肢静脈瘤に対する適切な治療適応とは」
座長:八杉巧(愛媛大学医学部 基礎実践看護学/心臓血管外科)
佐戸川弘之(福島赤十字病院 心臓血管外科)

- シンポジウム8【女性医師の会】 「サステナブルなキャリア形成—私がずっとここにいるために」
座長:高木靖(藤田医科大学 心臓血管外科)
和田有子(信州大学 心臓血管外科)

- シンポジウム9 「【静脈】大静脈・静脈の狭窄・閉塞性病変に対する治療」
座長:孟真(横浜南共済病院 心臓血管外科)
澤田健太郎(福岡県済生会二日市病院 血管外科)

- シンポジウム10 「【腹部】腹部大動脈瘤に対するEVARの長期成績と今後の改善点」
座長:井上芳徳(てとあしの血管クリニック東京 血管外科)
森景則保(山口大学器官病態外科学 血管外科)

- シンポジウム11 「【末梢動脈】包括的高度慢性下肢虚血(CLTI)の血行再建と包括的治療(創傷治癒を含む)」
座長:重松邦広(国際医療福祉大学三田病院 血管外科)
澁谷卓(大阪大学 心臓血管外科)

- シンポジウム12 「【末梢動脈】SFA治療の最新線(DCB、ステント、ステントグラフト、バイパス手術など)」
座長:駒井宏好(関西医科大学総合医療センター 血管外科)
尾原秀明(慶應義塾大学 外科)

- 特別シンポジウム 「血管疾患領域における再生医療」
座長:室原豊明(名古屋大学大学院医学系研究科 循環器内科学)
基調講演:浅原孝之(湘南先端医学研究所、湘南鎌倉総合病院)

- パネルディスカッション1 「【胸部】急性B型大動脈解離に対する初回および追加治療の適応と時期」
座長:竹村博文(金沢大学 心臓血管外科)
加藤雅明(森之宮病院 心臓血管外科)

- パネルディスカッション2 「【胸部】広範囲胸腹部大動脈瘤に対する私たちの戦略(一期手術、二期手術、ハイブリッドなど)」
座長:椎谷紀彦(浜松医科大学 外科学第一講座)
志水秀行(慶應義塾大学医学部 外科学(心臓血管))

- パネルディスカッション3 「【末梢動脈】Real Worldにおける膝下血行再建方法(ビデオ併用可)」
座長:工藤敏文(東京医科歯科大学 血管外科)
出口順夫(埼玉大医科大学総合医療センター 血管外科)

- パネルディスカッション4 「【胸部】AEFに対する治療戦略の確立に向けて」
座長:大北裕(高槻病院 心臓・大血管センター)
和田秀一(福岡大学 心臓血管外科)

- パネルディスカッション5 「【腹部】破裂性腹部大動脈瘤に対するEVARとOpenの治療成績とそれぞれの問題点」
座長:東信良(旭川医科大学 外科学講座血管外科学分野)
工藤敏文(東京医科歯科大学血管外科)

- Late Breaking Session1
座長:益田宗孝(福岡和白病院)

- Late Breaking Session2
座長:國吉幸男(浦添総合病院 心臓血管外科)
正木久男(川崎医療福祉大学 臨床工学科)

- 血外・CVIT ディベート2022春の陣
座長:横井宏佳(福岡山王病院 循環器内科)
石橋宏之(愛知医科大学 血管外科)
- テーマ1: CFA病変の治療: EVT vs 外科手術
【CVIT】岩田曜(船橋市立医療センター 循環器内科)
【血外】赤木大輔(川崎医科大学 心臓血管外科)
- テーマ2: 長区域FP病変(25cm超)に対する治療: EVT vs 外科手術
【CVIT】堀江和紀(仙台厚生病院 循環器内科)
【血外】児玉章朗(愛知医科大学 血管外科)

- テーマ3: 足部poor run-off CLIの治療: EVT vs 外科手術
【CVIT】畑陽介(関西労災病院 循環器内科)
【血外】小久保拓也(江戸川病院 血管外科)

- 医療安全講習会 「安全文化を醸成する」
座長:椎谷紀彦(浜松医科大学 外科学第一講座)
演者:種田憲一郎(国立保健医療科学院)

- 指導医講習会 「働き方改革」
座長:勝間田敬弘(大阪医科薬科大学 医学部胸部外科学教室)
演者:澤芳樹(大阪警察病院 病院長)
岡留健一郎(福岡済生会病院 名誉院長)

- 専門医制度
座長:大木隆生(東京慈恵会医科大学外科学講座 血管外科)
演者:種本和雄(川崎医科大学 心臓血管外科)

- 第6回禁煙推進セミナー
座長:川原田修義(札幌医科大学 心臓血管外科)
演者:室原豊明(名古屋大学 循環器内科)

- 招請講演
座長:松宮護郎(千葉大学 心臓血管外科)
演者:Wei Guo(Division of Vascular Surgery Chinese PLA General Hospital)
Xinwu Lu(Department of Vascular Surgery, Shanghai Ninth People's Hospital Affiliated to Shanghai Jiao Tong University, School of Medicine)

- 招請外人
・Ali F.AbuRahma(President, Society for Vascular Surgery Professor of Surgery/Director, Vascular Surgery Fellowship & Residency Programs Medical Doctor, Vascular Laboratory Co-Director, Vascular Center of Excellence West Virginia University, USA): SVS Japan Chapter
・Guang-Qi Chang(Department of Vascular Surgery, the First Affiliated Hospital of Sun Yat-sen University, Guangzhou, China): シンポジウム2
・Anthony Estrera(Professor and Chair, Department of Cardiothoracic and Vascular McGovern Medical School at The University of Texas Health Science at Houston, USA): シンポジウム3, パネルディスカッション4
・Christian D.Etz(Department of cardiac Surgery at Heart Center Leipzig/Director of the Saxonian Incubator for Clinical Translation at University Leipzig, Germany): パネルディスカッション2
・Mauro Gargiulo(Professor of Vascular Surgery, University of Bologna, Italy/Chair of Metropolitan Unit of Vascular Surgery IRCCS S.Orsol Hospital, Bologna, Italy): JSVS, ESVS Joint Session
・Kathleen D.Gibson(Medical Director, Lake Washington Vascular Surgeons Bellevue, Washington, USA): シンポジウム7
・SeiAxel HARVERICH(Division of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Surgical Center, Hannover Medical School, Hannover, Germany): シンポジウム6

- ・Jörg Kempfert(Department of Cardiothoracic and Vascular Surgery, German Heart Center Berlin):シンポジウム4
- ・Joseph L. Mills(Professor and Chief Division of Vascular Surgery and Endovascular Therapy Michael E. DeBakey Department of Surgery Baylor College of Medicine Houston, Texas):シンポジウム11
- ・Gustavo S. Oderich(Department Of Cardiothoracic And Vascular Surgery At McGovern Medical School at The University of Texas Health Science Center at Houston, Texas, USA):SVS Japan Chapter
- ・Gale L. Tang(VA Puget Sound Health Care System/University of Washington Division of Vascular Surgery, USA):パネルディスカッション3
- ・Santi Trimarchi(Fondazione IRCCS Cà Granda Ospedale Maggiore Policlinico Milan University of Milan, Italy):パネルディスカッション1
- ・Hence Verhagen(ESVS Past President (2020-2021)/Erasmus MC, Rotterdam, the Netherlands):JSVS, ESVS Joint Session

第一人者の先生に、open surgeryと血管内治療の醍醐味を講演していただきました。難しいテーマでの講演でご苦勞をおかけしたと思いますが、どうぞお許しください。また50周年記念企画として、「これまでの血管外科、そしてこれからの血管外科」も取り上げました。50周年企画展示、50周年記念のビデオ供覧も行い、50周年記念誌の発刊も軌道に乗せました。やるべきことが多く、苦勞しましたが、やりがいのある50回記念大会になりました。

会長講演は「飛躍的に進歩を遂げた40年間の血管外科を経験して—血管外科の魅力と成すべきこと—そして」という題目で私が研修医時代から現在までに経験した大動脈外科の流れを講演させていただきました。研修医時代、殆どの急性A型大動脈解離の患者さんが手術後亡くなる状況から、現在の手術成績のすばらしさまでをお話しました。

特別講演にはジャパネットたかたの創業者、高田明様と前日本医師会会長の横倉義武様にご講演をいただきました。高田明様は人生論を、横倉義武様はコロナで学んだ日本の医療を話していただきました。

招請演者は残念ながらon line登壇となりましたが、ドイツ・ハノーバーのAxcel Harverich先生、Anthony Estrale先生を初めとして16人の先生にご講演をいただきました。

また、ESVSとのJoint session、SVS Japan chapterにはそれぞれの会長もon lineで出席してくださいました。

今回の50回開催はコロナ禍での障害を打破し、新しい時代へ向かっての第50回記念大会になったのではないかと、思います。多くの参加者が現地開催の喜びと、直接討論の魅力を味わったのではないかと、思う次第です。今後の学術総会のあり方を考える上でも、今回の開催を参考にさせていただきたいと思い、また今後の血管外科学会の発展を願いながら、会員の皆様や企業の方々のご協力に感謝して、開催報告を書かせていただきました。

3年ぶりの現地開催の学術総会を終えて

第50回日本血管外科学会学術総会 会長 明石 英俊
社会医療法人共愛会 戸畑共立病院

第50回日本血管外科学会学術総会・血管外科学会50周年記念大会をまだコロナ禍ではありますが、3年ぶりに現地開催が無事に終了することができました。会員の皆様に厚く御礼申し上げます。演題公募時には迷いましたが、演者へのon line登壇の選択肢を無くして公募を開始しました。On line登壇の選択肢があるとほぼ、hybridとなり、現地への参加者は激減するものと判断し、コロナが怖い状況ではありましたが、座長・演者の現地登壇を原則として、押し通しました。会員の皆様には不安もあったものと思いますが、どうかお許しください。最終的には、参加登録をされた有料参加者は1696名、その内現地参加者は1265名でした。まだ、アーカイブ配信が御座いますので、参加登録者数は2000人前後まで増加すると思われます。会場でお会いした方々は皆様が現地開催を喜んでおられました。

今回の学術総会のテーマは「血管外科の醍醐味」とさせていただき、特別企画として各分野の日本の



50周年記念展示



理事会準備委員会 挨拶



理事会準備委員会にて



会長講演 座長



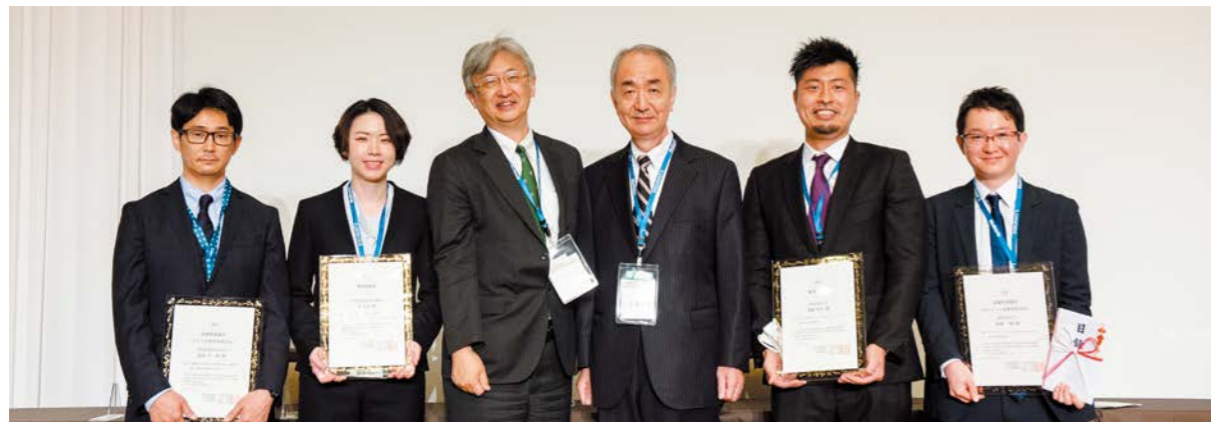
感謝状贈呈



特別講演:日本医師会名誉会長 横倉義武先生



特別講演:株式会社 A and Live (ジャパネットたかた創業者) 高田明氏



優秀演題受賞者



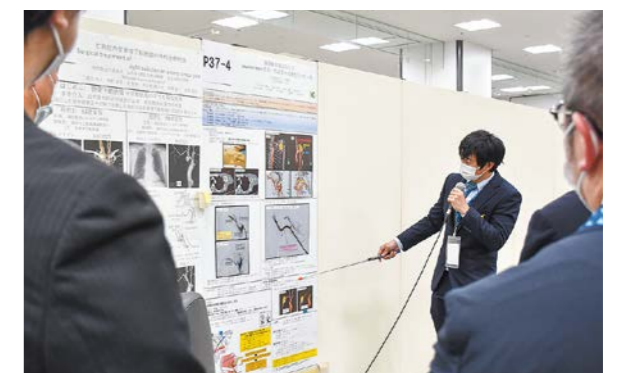
特別企画:これまでの血管外科そして、これからの血管外科



パネルディスカッション:破裂性腹部大動脈瘤に対するEVARとOpenの治療成績とそれぞれの問題点



血外・CVITディベート2022春の陣



久々のポスターセッション



ステントグラフトワークショップ



拡大プログラム委員会にて 第49回会長と第50回会長



拡大プログラム委員会にて



血管外科 重鎮の先生方



旧理事会 集合写真



新理事会メンバー

編集後記

Editor's Note



今回、第50回日本血管外科学会学術総会を開催するにあたり、50年の節目の年として、血管外科学会の歴史を掘り起こすことを仰せつかりました。私が医師になって40年が経ちますが、初めてこの学会に参加したのは第15回でした。初期のことは昔の資料を探し出し、整理することに致しました。これまでにこの学会の歴史が編集されたことはなく、初期のことを調べるのに苦労致しましたが、調べる内に、「今、調べておかないと、今後、詳細を記述して残すことは不可能になるのではないかと、考えるようになり、力を注ぐことができた結果、記念誌を発行できるところまで到達いたしました。学会員の皆様にも日本血管外科学会の歴史・沿革、これからの発展を支えるための参考にして頂きたく、編集に臨みました。その成り立ちからの経過を知るうちに感じたことなどを、少し書かせて頂きます。

一点目は、今では教授職に就かれていたり、すでに教授職や部長職を退陣された、これまでの日本の血管外科をリードしてきた先生方の多くが、この学会・研究会において、若い時に多くの発表をされていることです。自分一人で勉強し続けるだけでは、つらいものがあります。そういった中で、先輩からの指示による場合もあったかもしれませんが、学会・研究会に演題を出し、討論するために知識を増やすということを繰り返しながら、自己研鑽を積んでいったのでしょう。やはり、人前で発表し、討論することの重要性を感じます。

二点目は、現在では、ほぼ定説となっている臨床

的な手術手技や適応などについて、それらに関する細かい分析が行われた結果として、現在の定説に到達していることです。当時、血管外科の手術症例は多くなかったと思います。そのなかで、1例1例を大事にして、正解を見つけ出していった経過が想像できます。1例の症例の重要性を感じるどころです。

他にも多くのことを感じますが、特に強く感じたことを書かせて頂きました。

今回、日本血管外科学会50周年記念誌を発行するにあたり、多くの日本血管外科学会関係の先生にご協力を頂きました。特に、古森理事長を初めとする現日本血管外科学会理事の先生方、名誉会員の田邊達三先生、久保良彦先生、特別会員の石丸新先生、東大OBの高木淳彦先生、慶應OBの松本賢治先生、福島県立医大OBの岩谷文夫先生、藤田学園大学OBの坂野哲哉先生、他にも多数のOBの先生にご協力を頂きましたが、紙面の都合により割愛させて頂きます。これらのご協力を頂いた先生方に、心よりお礼を申し上げたいと思います。また、中心となって記念誌の編集に当たって頂いた、主催事務局の吉本寛子氏に感謝申し上げます。

日本血管外科学会50周年記念誌が皆様に活用して頂けるものとなり、そして、60周年、70周年と、さらに積み重ねられていくことを願って、この記念誌の後書きとさせて頂きます。

第50回日本血管外科学会学術総会

会長 明石 英俊

日本血管外科学会50周年記念誌

発行日 2022年0月00日

発行 日本血管外科学会
〒112-0004 東京都文京区後楽2-3-27 テラル後楽ビル1階
TEL.03-6801-6220

編集 第50回日本血管外科学会学術総会主催事務局
明石英俊・吉本寛子
〒804-0093 福岡県北九州市戸畑区沢見2-5-1 戸畑共立病院内

監修 50周年記念事業計画委員会 委員長 明石英俊

制作 株式会社 朝日エージェンシー西部